阿南市総合計画基礎調査

報告書

阿 南 市

令和２年３月

目　次

第１章　調査の概要 1

Ⅰ．調査の目的

Ⅱ．調査の方法

Ⅲ．調査期間

第２章　市の現状分析 2

Ⅰ．市の特性

1. 地理的特性

2. 自然的特性

3. 歴史的特性

Ⅱ．人口と世帯数の状況 5

１．人口と世帯数の動向

⑴ 長期的な人口の推移

⑵ 性別・年齢別人口動向

2. 自然動態・社会動態の状況 10

⑴ 自然動態

⑵ 社会動態

⑶ 自然動態・社会動態の推移

3. 出生・死亡の状況 12

⑴ 出生の状況

⑵ 結婚の状況

⑶ 死亡の状況

4. 移動の状況 14

⑴ 性別・年齢別の移動の状況

⑵ 地域間移動の状況

Ⅲ．産業の状況 16

1. 就業人口

⑴ 産業大分類別就業者人口

⑵ 男女別産業大分類別就業者人口

⑶ 市内常住の就業者の就職先

2. 工業 19

製造品出荷額

3. 商業 19

年間商品販売額

4. 農業 20

⑴ 農業経営体

⑵ 農業産出額

5. 漁業 21

⑴ 海面漁業

⑵ 内水面漁業

Ⅳ. 通勤・通学の状況 …… 22
Ⅴ. 行政の状況 …… 23
1. 財政
⑴ 歳入の推移
⑵ 歳出の推移
⑶ 財政力指数の推移
⑷ 一般会計当初予算の推移
⑸ 市税収入額の推移
⑹ 性質別決算額の推移
⑺ 市債発行額と市債現在高の推移
⑻ 積立金現在高の推移と県内他市との比較
2. 公共施設等 …… 30
⑴ 建物系公共施設の現状と更新時期
⑵ 土木インフラ等工作物の現状と更新時期
3. 公安・防災 …… 32
⑴ 消防・救急
⑵ 防災
4. 交通 …… 34
⑴ 公共交通
⑵ 高速交通ネットワーク
5. 子育て …… 36
⑴ 保育の状況
⑵ こどもの医療費の推移
6. 環境 …… 37
⑴ ごみ収集・処理の状況
⑵ 公害苦情
7. 健康・医療 …… 38
⑴ 医療施設・医師等の推移
⑵ 乳幼児健診・がん検診の受診者数の推移
8. 福祉 …… 39
⑴ 児童手当・児童扶養手当支給額等の推移
⑵ 後期高齢者医療費と高齢化率の推移
⑶ 介護保険の状況
⑷ 生活保護の状況
⑸ 障がい者等医療の状況
9. 教育・生涯学習 …… 42
⑴ 小学校の状況
⑵ 中学校の状況
⑶ 図書館、公民館、文化・体育施設の状況

10. 移住者 …… 45
⑴ 県外からの移住者数
⑵ 移住者の内訳
⑶ 移住相談と移住実績の推移
Ⅵ. 都市比較 …… 47
1. 人口・世帯数
⑴ 総人口
⑵ 年齢3区分別人口
⑶ 未就学人口
⑷ 従属人口
⑸ 昼間人口
⑹ 人口密度
⑺ 一般世帯
⑻ 核家族・単独世帯
⑼ 高齢者のいる世帯
2. 行財政運営 …… 62
⑴ 歳入
⑵ 税収
⑶ 歳出
⑷ 財政指数
3. 医療・福祉 …… 66
⑴ 病院数
⑵ 医師数
⑶ 要介護認定者数
4. 地域経済の指標 …… 70
⑴ 従業者数
⑵ 産業さん分類別就業者数
⑶ 労働人口
⑷ 稼ぐ力
⑸ 雇用力
⑹ 事業所数（公務を除く）
⑺ 従業者数（公務を除く）
5. 安全・安心 …… 81
⑴ 交通事故
⑵ 避難施設
⑶ 空き家
⑷ 歩道の設置
6. 都市インフラ …… 85
⑴ 道路
⑵ 都市公園等
⑶ 下水道

第３章　人口・世帯数等の将来推計 88
Ⅰ.総人口の将来推計
１.推計方法
２.推計結果
⑴ 社人研推計準拠による将来人口
⑵ 社人研推計準拠による将来人口の補正
⑶ 趨勢人口の推計
⑷ 年齢3区分別人口（比率）と高齢化率の将来動向
⑸ 人口ピラミッドで見る将来推計人口構造の変化
Ⅱ.地区別人口の将来推計 93
１.推計方法
２.推計結果
⑴ 地区別将来人口
⑵ 人口変化指数でみた地区別人口の将来動向
⑶ 年齢3区分別人口（比率）の将来動向
⑷ 将来の人口シェア
Ⅲ.世帯数の将来推計 110
１.推計方法
２.推計結果
⑴ 将来世帯数
⑵ 世帯主の年齢区分別構造
⑶ 高齢者の人口と単独世帯等
第４章　社会経済状況の動向 113
Ⅰ.社会経済動向と今後の見込み
１.環境問題
⑴ 環境問題の顕在化
⑵ 持続可能な開発目標（SDGs）
２.南海トラフ地震対策
３.情報通信技術の発展
４.市民の価値観の多様化
５.地方分権の進展
Ⅱ.社会経済動向と今後の見込み 117
１.総合計画における法的位置付け
２.その他関連する法令
第５章　現行の総合計画と総合戦略の整理 118
Ⅰ.総合計画の基本目標・施策体系等
１.第５次阿南市総合計画の施策評価
２.施策の柱（章）単位の評価
３.主な施策単位の評価

Ⅱ.総合戦略の基本目標・施策体系等 125
1.総合戦略の目的と構成を踏まえた検証のポイント
2.「戦略人口」「基本目標の数値目標」の検証
⑴ 2020 年の「将来の目標人口」の検証
⑵ 総合戦略の KPI の達成状況
⑶ 基本目標ごとの KPI の検証
第６章　市民意識調査 133
Ⅰ.市民・学生アンケート調査
1.調査の目的
2.実施概要
3.調査結果の見方
4.市民アンケート調査結果の概要
5.学生アンケート調査結果の概要
Ⅱ.市民ワークショップ 162
1.実施の目的
2.実施概要
3.参加者からの意見（要約）
4.グループ発表（要約）

【参考】 187
○ 各分野の行政計画
○ 阿南市のできごと（昭和33年度～令和元年度）

第１章　調査の概要

Ⅰ．調査の目的

本調査は、（仮称）第6次阿南市総合計画の策定に先立って、本市を取り巻く諸情勢や本市の施策展開の現況、課題等を適切に把握し、長期的な視点から、望ましいまちづくりの方向性について調査・分析を行うことを目的としています。

調査をまとめるにあたり、市民意識調査や市民ワークショップも基礎資料とし、今後の行政施策の立案や推進に活用を図ることとしています。

Ⅱ．調査方法

本調査では、各種統計資料や将来推計、社会的潮流などから行政課題等を抽出し、これからのまちづくりの方向性を検討しています。

調査は、人口・世帯数の将来推計をはじめ、各種統計資料や現行の総合計画の施策評価、市民意識調査、県内他市等との比較など、幅広い分野において指標を収集しています。

また、課題の抽出では、市の現状や市民意識調査からみた課題、将来を展望したときに浮かび上がる新たに取り組むべき課題などをまとめ、今後のまちづくりの方向性を整理しています。

Ⅲ．調査期間

本調査は、令和元年8月から令和2年3月にかけて実施しました。

第２章　市の現状分析

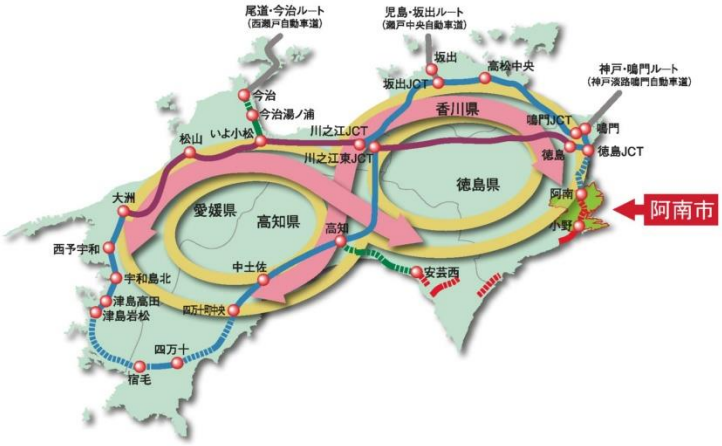
Ⅰ．市の特性

1. 地理的特性

阿南市は、徳島県の海岸線のほぼ中央にあり、四国の最東端に位置しています。西は勝浦郡勝浦町と那賀郡那賀町に、南は海部郡美波町に、北は小松島市に接しており、好天の日には紀伊半島や淡路島を望むことができます。

市内には、一般国道55号と JR 牟岐線が南北の交通を、一般国道195号が東西の交通の骨格を形成し、答島港と離島・伊島港との間は連絡船が運航しており、高速バスの利用により、東京方面や京阪神方面とのアクセスが確保されています。

また、四国8の字ネットワークの骨格をなし、地域発展の核となる高速交通ネットワークの形成に向け、四国横断自動車（阿南 IC から徳島東 IC）や地域高規格道路（桑野道路・福井道路）の整備が進められています。



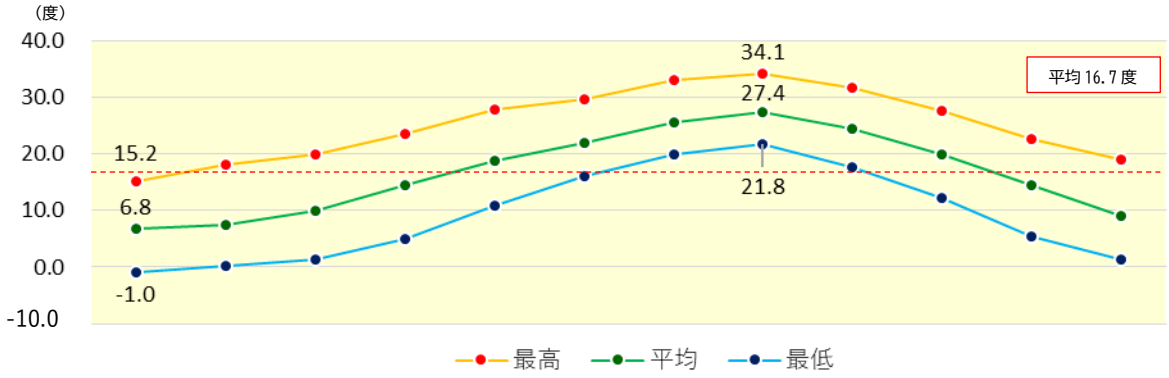
2. 自然的特性

本市は、那賀川水系により形成された沖積平野と、リアス式海岸をもつ臨海部、また四国山系の東端に連なった山地からなる豊かな自然あふれるまちです。

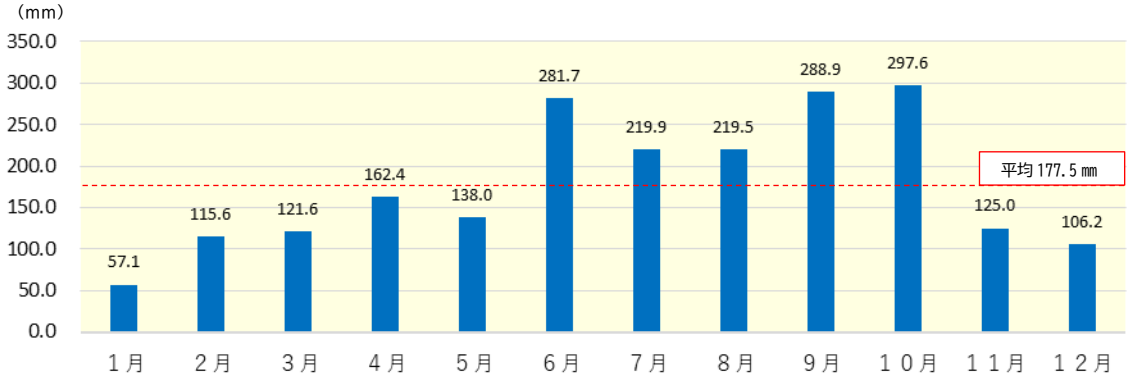
日本には四季があり、本市は四季の変化がはっきりしている北緯 25 度から 45 度のほぼ中間(北緯 34 度)に位置しているため、四季の変化が明瞭であるだけでなく、それぞれの季節の長さがほぼ等分に現れるのが特徴です。

一年の平均気温は 16.8 度(蒲生田における過去23年間の平均)と比較的温暖な気候で、四季折々の山海の幸に恵まれているほか、貴重な動植物が生息する自然の宝庫です。

月別の平均気温・日最高気温・日最低気温の平均値（平成 21 年～平成 30 年）



月別降水量（総量）の平均値（平成 21 年～平成 30 年）



3. 歴史的特性

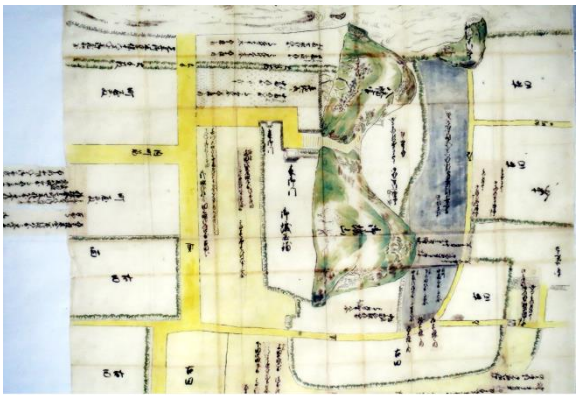
私たちの暮らしに豊かな恵みをもたらしてきた清流「那賀川」が歴史に登場したのは、『日本書紀』の中です。西暦 450 年頃、この地は「長」の国と呼ばれ、そこを流れる「長川」がその語源といわれています。

室町時代後期、初代・阿波公方となった足利義冬の子義栄が、1568 年に室町幕府14代将軍となり、この国に最も影響を与えました。

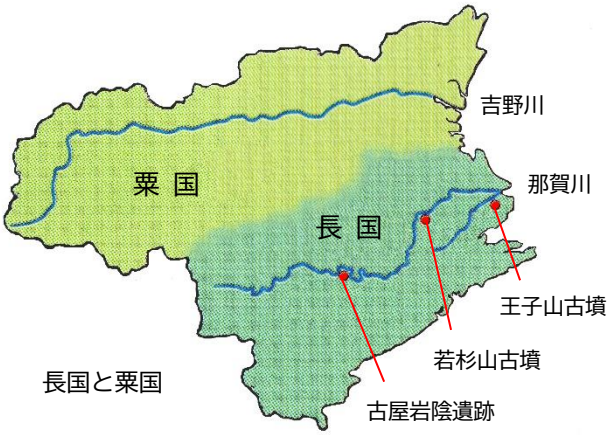
また、牛岐（富岡）の地では、阿波国守護細川氏の家臣、新開実綱が治め、その後、蜂須賀家政の甥、細川政慶が城代となり、「牛岐」の地名は縁起の良い「富岡」に改められ、明治維新まで城下町が形成されました。

阿南市は、昭和 33 年5月1日に富岡町と橘町が合併して市制を施行し、臨海部を中心とする企業誘致を成長政策に掲げ、「豊かな自然と調和した産業都市」として成長・発展を遂げてきました。

その後、平成の合併により、平成18年3月20日に旧那賀川町、旧羽ノ浦町を編入し、現在に至っています。



富岡・牛岐城絵図



橘湾～津峯山の風景

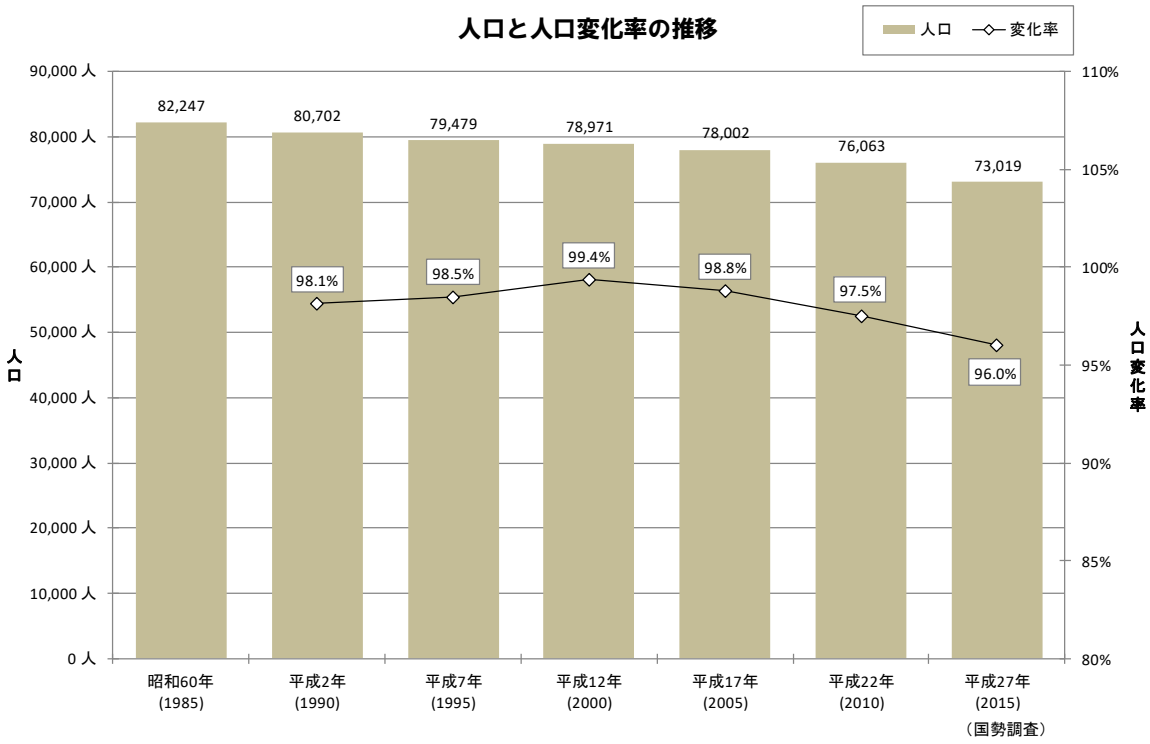
Ⅱ．人口と世帯数の状況

１．人口と世帯数の動向

（１）長期的な人口の推移

○阿南市の総人口は、昭和 60 年頃以降、一貫して緩やかに減少しており、平成 27 年では 73,019 人となっています。

○5年前の人口に対する変化率で見てみると、平成 27 年は 96.0％で、過去30年間で最も人口減少が進みました。



※人口変化率は各年の5年前の人口に対する変化率

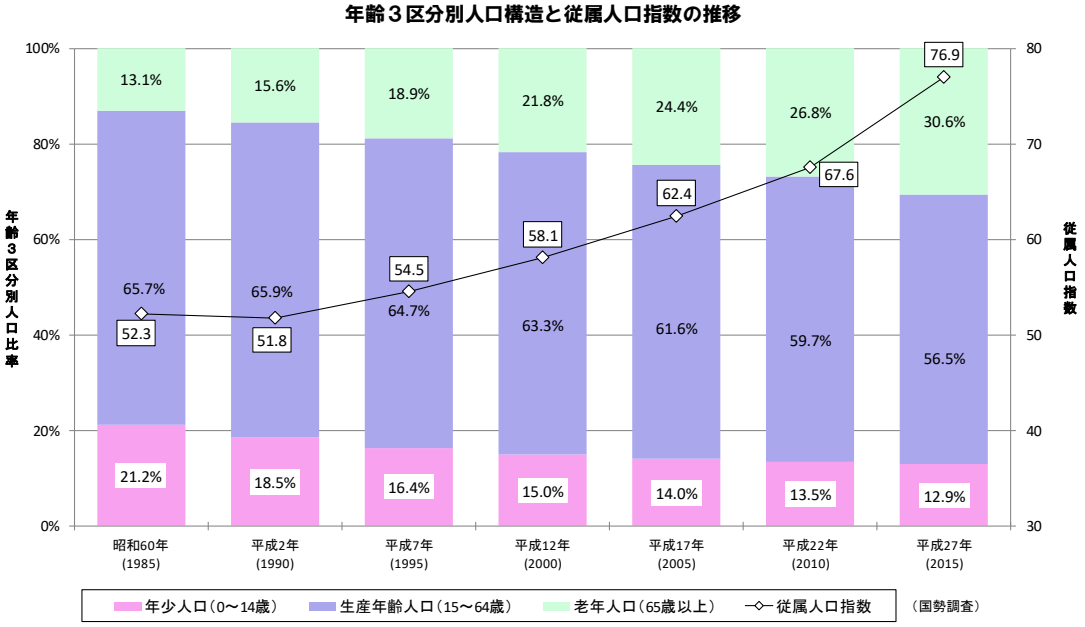
※平成 17 年以前は、旧那賀川町、旧羽ノ浦町の人口を含んでいます。

（2）性別・年齢別人口動向

① 年齢３区分別人口

○年齢3区分別の人口構造の推移について見てみると、老年人口が昭和 60 年の 13.1%から平成 27 年には 30.6%と 30 年間で 17.5 ポイント増加している一方で、年少人口は 21.2%から 12.9%と 8.3 ポイント減少しています。老年人口の割合は、特に平成 17 年から 6.2 ポイント増加しており、10 年間で急速な少子高齢化が進行していることがわかります。

○生産年齢人口 100 人が、年少人口と老年人口を何人支えているかを示す比率である「従属人口指数」は、昭和 60 年の 52.3 から平成 27 年には 76.9 まで増加しています。



（人）

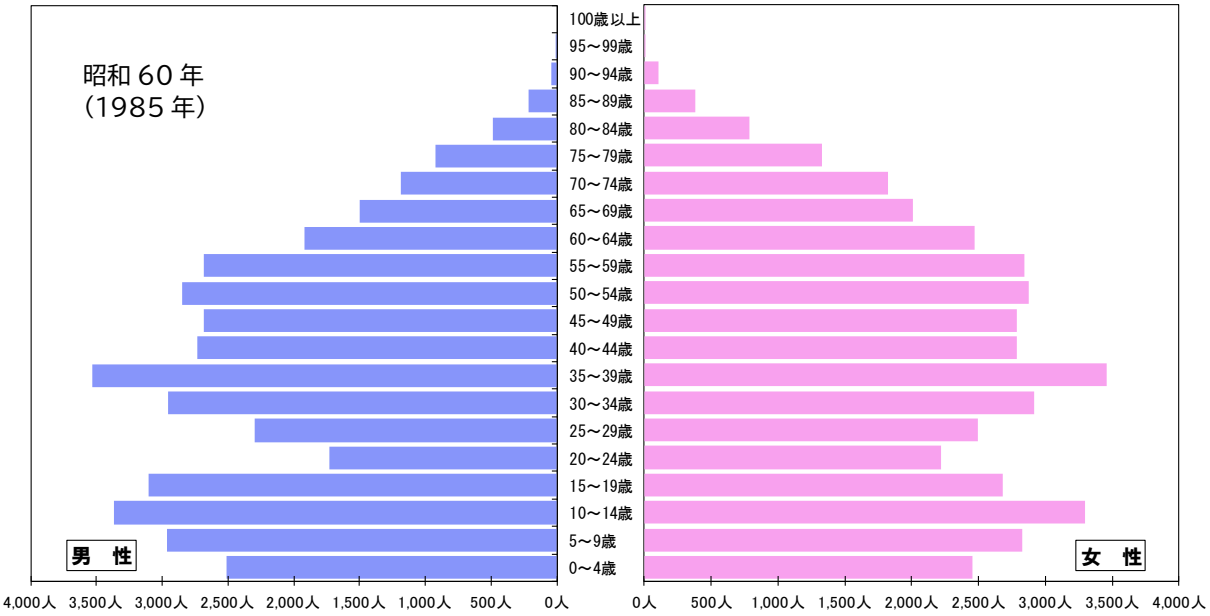
			昭和60年 (1985)	平成2年 (1990)	平成7年 (1995)	平成12年 (2000)	平成17年 (2005)	平成22年 (2010)	平成27年 (2015)
人口	年少人口	0～4歳	4,968	4,107	3,667	3,586	3,365	3,101	2,764
		5～9歳	5,791	5,045	4,273	3,924	3,717	3,425	3,181
		10～14歳	6,669	5,777	5,053	4,318	3,866	3,718	3,420
		計	17,428	14,929	12,993	11,828	10,948	10,244	9,365
	生産年齢人口	15～19歳	5,786	6,266	5,502	4,840	4,125	3,836	3,752
		20～24歳	3,951	3,659	4,247	3,801	3,456	2,873	2,693
		25～29歳	4,795	4,150	4,036	4,970	4,517	3,728	3,118
		30～34歳	5,874	4,703	4,257	4,239	5,100	4,392	3,733
		35～39歳	6,985	5,823	4,797	4,436	4,258	4,998	4,372
		40～44歳	5,516	6,943	5,845	4,831	4,347	4,223	4,997
		45～49歳	5,471	5,380	6,883	5,763	4,716	4,320	4,191
		50～64歳	15,641	16,216	15,855	17,072	17,498	16,819	14,234
		計	54,019	53,140	51,422	49,952	48,017	45,189	41,090
	老年人口	65～74歳	6,511	7,351	8,904	9,763	9,621	9,475	10,880
		75歳以上	4,289	5,238	6,137	7,428	9,412	10,808	11,370
		計	10,800	12,589	15,041	17,191	19,033	20,283	22,250
	年齢不詳		0	44	23	0	4	347	314
	総人口		82,247	80,702	79,479	78,971	78,002	76,063	73,019
構成比	年少人口	0～14歳	21.2%	18.5%	16.4%	15.0%	14.0%	13.5%	12.9%
	生産年齢人口	15～64歳	65.7%	65.9%	64.7%	63.3%	61.6%	59.7%	56.5%
	老年人口	65歳以上	13.1%	15.6%	18.9%	21.8%	24.4%	26.8%	30.6%

（国勢調査）

② 性別の人口の変化

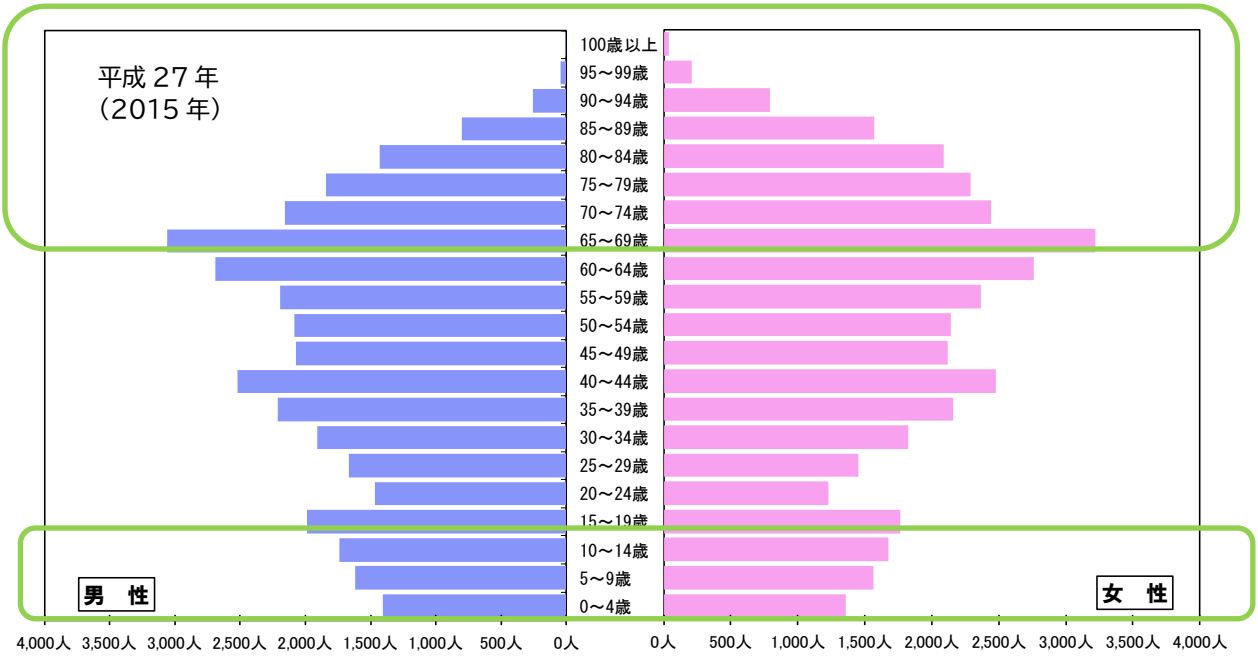
○昭和 60 年と平成 27 年の5歳階級別の人口構造を比較すると、昭和 60 年では若い世代を中心に膨らみをもつ「星型」であったのに対し、平成 27 年では団塊の世代が 65 歳以上となったことにより老年人口が増加し、また、年少人口は減少した「つぼ型」に変化していることがわかります。

阿南市の５歳階級別人口構造



（昭和60年国勢調査）
※年齢不詳人口を除く

年少人口は減少、老年人口が増加



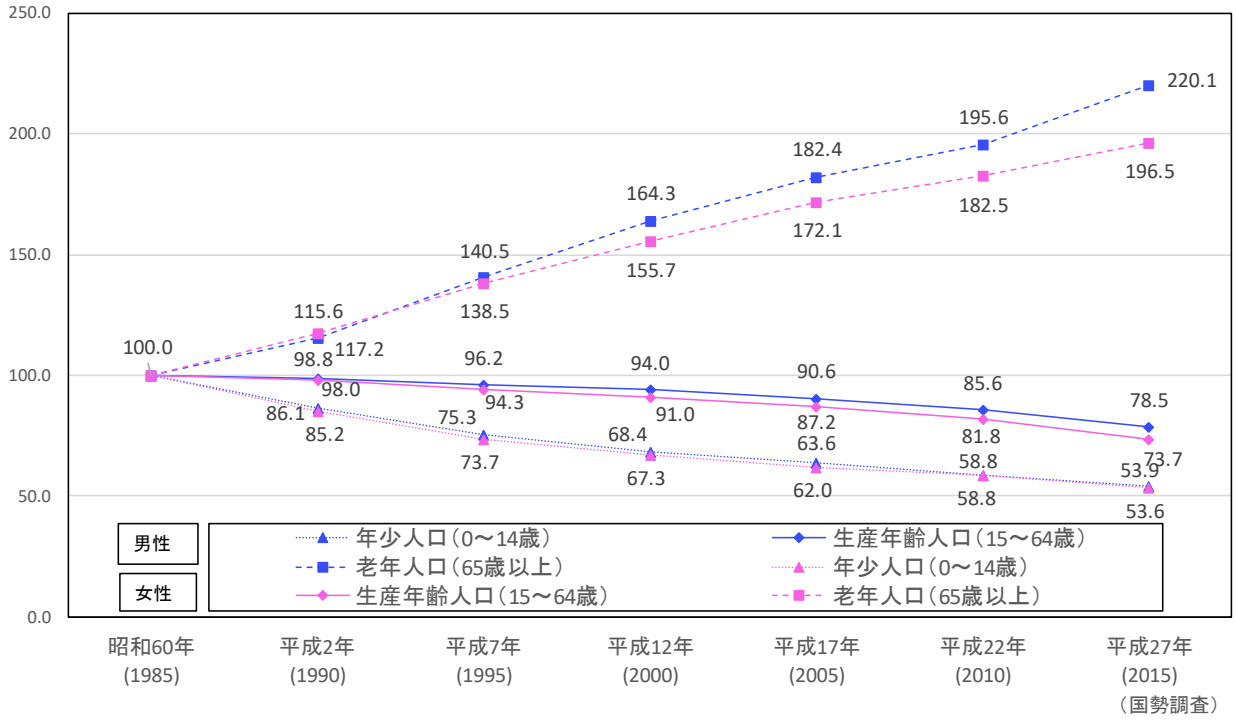
（平成27年国勢調査）
※年齢不詳人口を除く

○昭和 60 年の人口を 100 とした場合の人口変化指数を年齢3区分別・男女別にみると、年少人口については、男女ともに大きく減少し、平成 27 年には男性 53.9、女性 53.6 となっています。

○生産年齢人口については、男女ともに緩やかに減少し、平成 27 年には男性が 78.5、女性が 73.7 となっています。

○老年人口については男女ともに大きく増加し、平成 27 年には男性が 220.1、女性が 196.5 となっています。

男女別人口変化指数の推移



（単位：人）

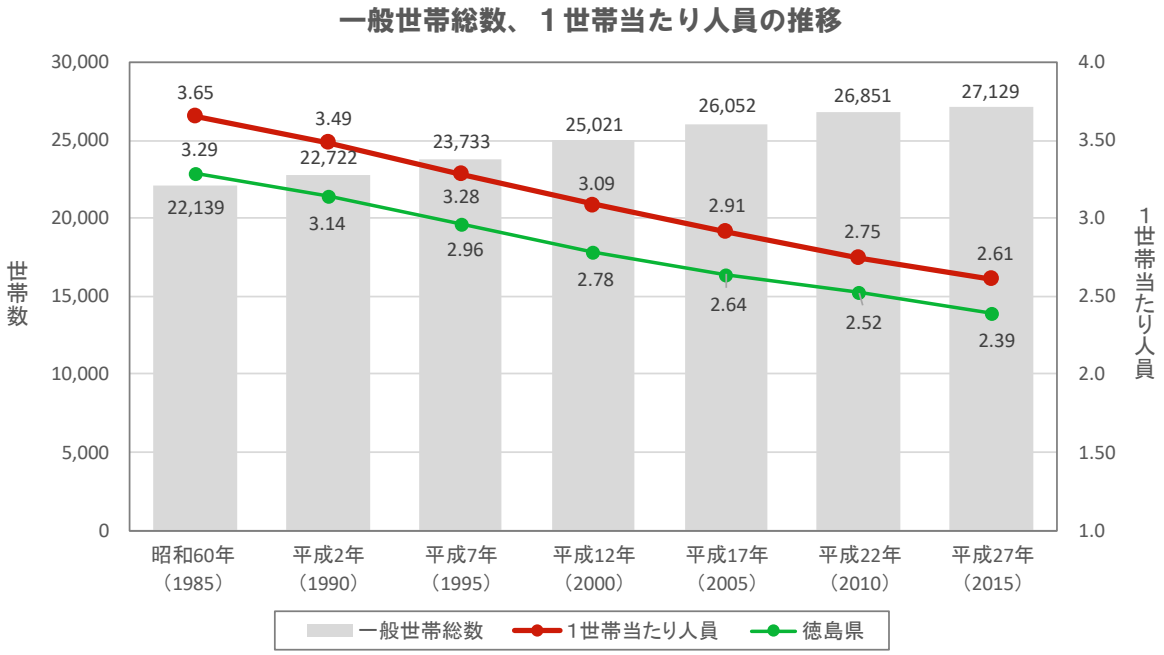
			昭和60年 (1985)	平成2年 (1990)	平成7年 (1995)	平成12年 (2000)	平成17年 (2005)	平成22年 (2010)	平成27年 (2015)
男性	人口	総　数	39,693	38,816	38,258	38,102	37,582	36,406	35,156
		0～14歳	8,846	7,619	6,665	6,054	5,629	5,201	4,767
		15～64歳	26,489	26,160	25,472	24,887	24,006	22,679	20,796
		65歳以上	4,358	5,037	6,121	7,161	7,947	8,526	9,593
	変化指数	総　数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
		0～14歳	100.0	86.1	75.3	68.4	63.6	58.8	53.9
		15～64歳	100.0	98.8	96.2	94.0	90.6	85.6	78.5
		65歳以上	100.0	115.6	140.5	164.3	182.4	195.6	220.1
女性	人口	総　数	42,554	41,842	41,198	40,869	40,416	39,310	37,549
		0～14歳	8,582	7,310	6,328	5,774	5,319	5,043	4,598
		15～64歳	27,530	26,980	25,950	25,065	24,011	22,510	20,294
		65歳以上	6,442	7,552	8,920	10,030	11,086	11,757	12,657
	変化指数	総　数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
		0～14歳	100.0	85.2	73.7	67.3	62.0	58.8	53.6
		15～64歳	100.0	98.0	94.3	91.0	87.2	81.8	73.7
		65歳以上	100.0	117.2	138.5	155.7	172.1	182.5	196.5

（国勢調査）

③ 世帯の動向

○阿南市の世帯数は、昭和 60 年以降増加しており、平成 27 年では 27,129 世帯となっています。

○一方、1世帯当たり人員は減少傾向にあり、昭和 60 年の 3.65 人から平成 27 年には 2.61 人と 1.04 人減少しています。



（国勢調査）

○昭和 60 年から平成 27 年の家族類型別の世帯数については、核家族世帯が 53.0%から 5.2%増加し 58.2%、単独世帯が 11.5%から 14.4%増加し 25.9%となっている一方、核家族以外の世帯が 19.5%減少し 15.9%となっています。

（単位：世帯）

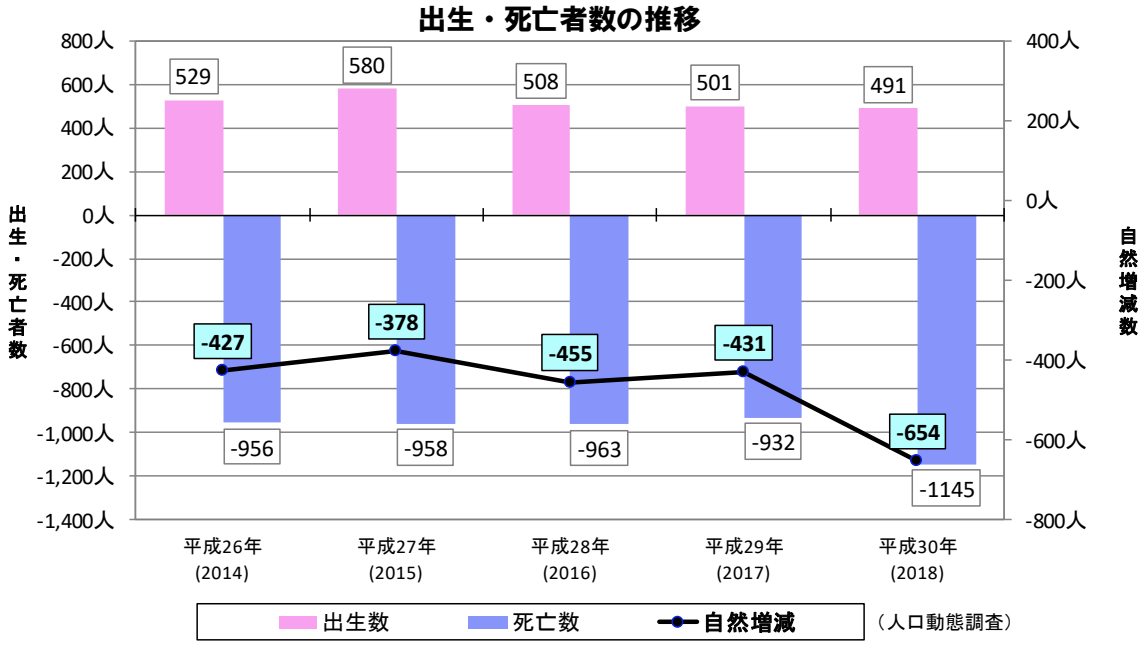
	昭和60年（1985）	平成2年（1990）	平成7年（1995）	平成12年（2000）	平成17年（2005）	平成22年（2010）	平成27年（2015）
一般世帯	22,139	22,722	23,733	25,021	26,052	26,851	27129
単独世帯	2,554	2,986	3,716	4,371	5,176	6,137	7025
核家族世帯	11,740	12,249	12,854	14,064	14,912	15,459	15761
夫婦のみ世帯	2,979	3,632	4,327	5,054	5,343	5,550	5763
夫婦と子からなる世帯	7,444	7,117	6,957	7,194	7,323	7,447	7449
ひとり親と子からなる世帯	1,317	1,500	1,570	1,816	2,246	2,462	2549
その他の一般世帯	7,845	7,487	7,163	6,586	5,906	5,250	4318
一般世帯	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
単独世帯	11.5%	13.1%	15.7%	17.5%	19.9%	22.9%	25.9%
核家族世帯	53.0%	53.9%	54.2%	56.2%	57.4%	57.6%	58.2%
夫婦のみ世帯	13.5%	16.0%	18.2%	20.2%	20.6%	20.7%	21.3%
夫婦と子からなる世帯	33.6%	31.3%	29.3%	28.8%	28.2%	27.7%	27.5%
ひとり親と子からなる世帯	5.9%	6.6%	6.6%	7.3%	8.6%	9.2%	9.4%
その他の一般世帯	35.4%	33.0%	30.2%	26.3%	22.7%	19.6%	15.9%

（国勢調査）

2．自然動態・社会動態の状況

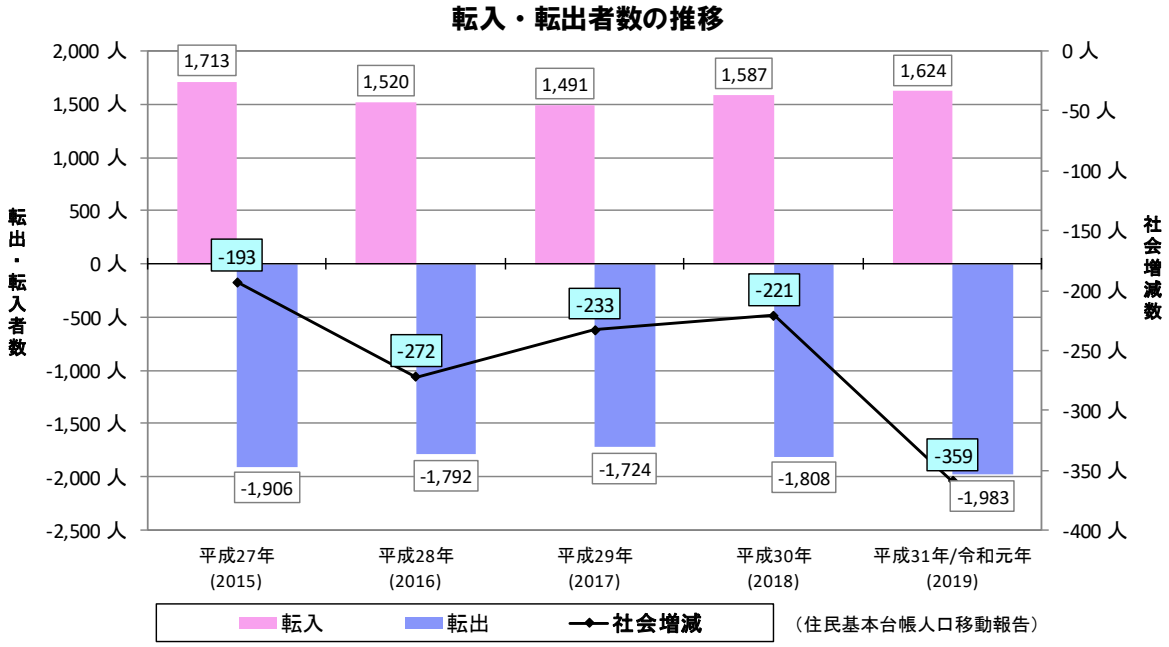
（1）自然動態

○平成 26 年から平成 30 年までの5年間の出生･死亡者数の推移を見てみると、一貫した自然減になっており、平成 30 年は過去5年間で出生数は最も少ない 491 人である一方、死亡者数は 1145 人となり、自然増減は－654 人となっています。



（2）社会動態

○平成 27 年から平成 30 年までの5年間の転入･転出者数を見てみると、一貫して転入者に比べ転出者が多い社会減となっており、平成 31 年･令和元年は、転入者数は 1,624 人である一方、転出者数は 1,983 人となり、359 人の社会減となっています。



（３）自然動態・社会動態の推移

○人口は、出生・死亡の増減による自然動態と、転入・転出（移動）の増減による社会動態によって増減します。本市の自然動態・社会動態の推移みると、昭和50年代半ばから人口減少が起きていることが分かります。

○平成7年（1995 年）に一時的に人口増が見られますが、本市にとって人口減少は昨日や今日の新しい現象ではないことが読み取れます。つまり、本市は、昭和の時代からずっと人口減少の問題に立ち向かってきたのです。

○人口減少は、本市だけの問題ではなく、多くの自治体が昭和50年代や60年代から人口が減少し始めており、徳島県も本市とほとんど同じ推移をたどっています。

○また、下図から分かるのは、平成12年（2000年）から自然減になっていることです。

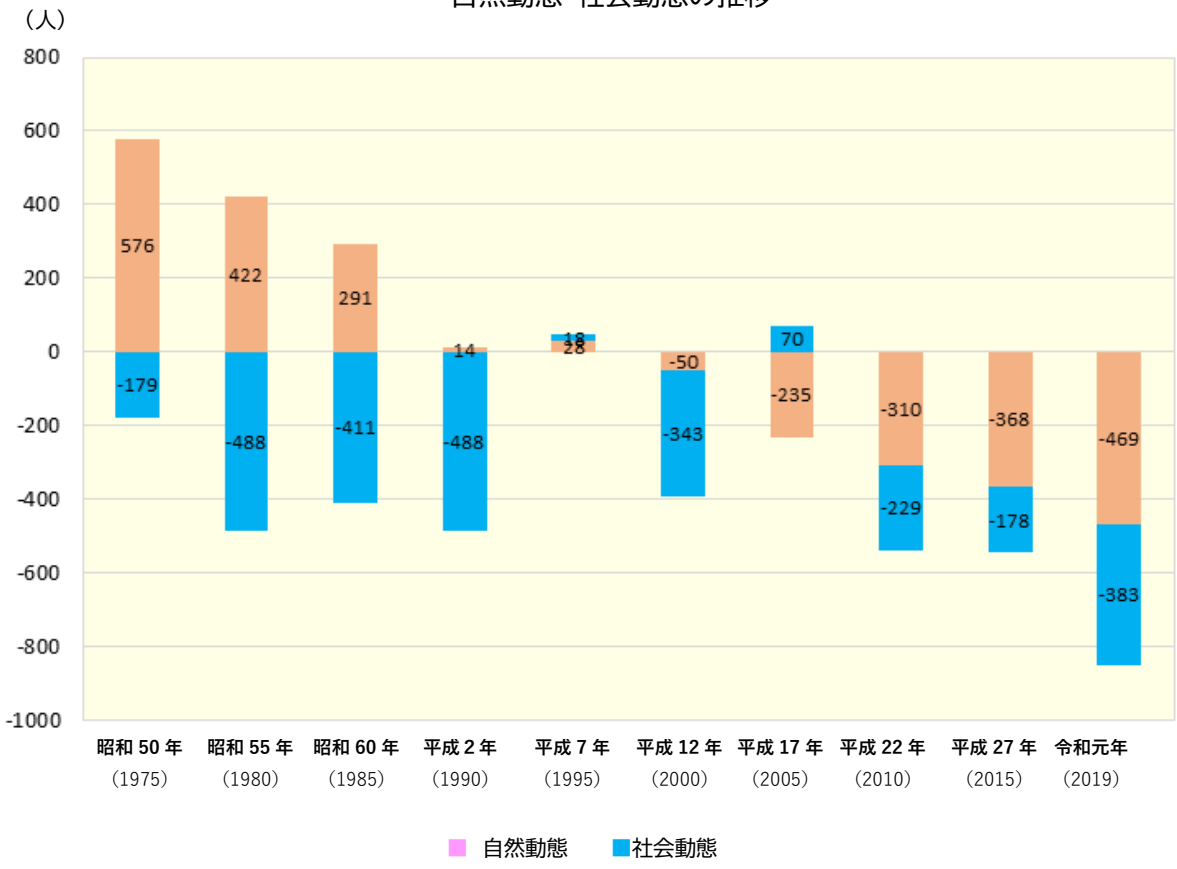
○それまでは、本市から転出していく人たちを自然増、つまり新しく生まれてくる人たちが補うことで人口規模が維持されてきましたが、2000年代から自然減が始まり、人口減少がさらに進みました。

○以降、現在の人口減少は、本市から東京圏などに転出する人たちが多いというよりも、自然減に主因があることがわかります。

○今後、さらに少子高齢化が進み、多死社会を迎える将来において、人口動態に占める自然減の割合はさらに拡大するものと考えられます。

○仮に、人口流出を抑制できたとしても、人口減少は止まらないことを踏まえると、人口減少が進んでも誰もが地域で暮らしていける社会の仕組みを整えていくことが課題であると言えます。

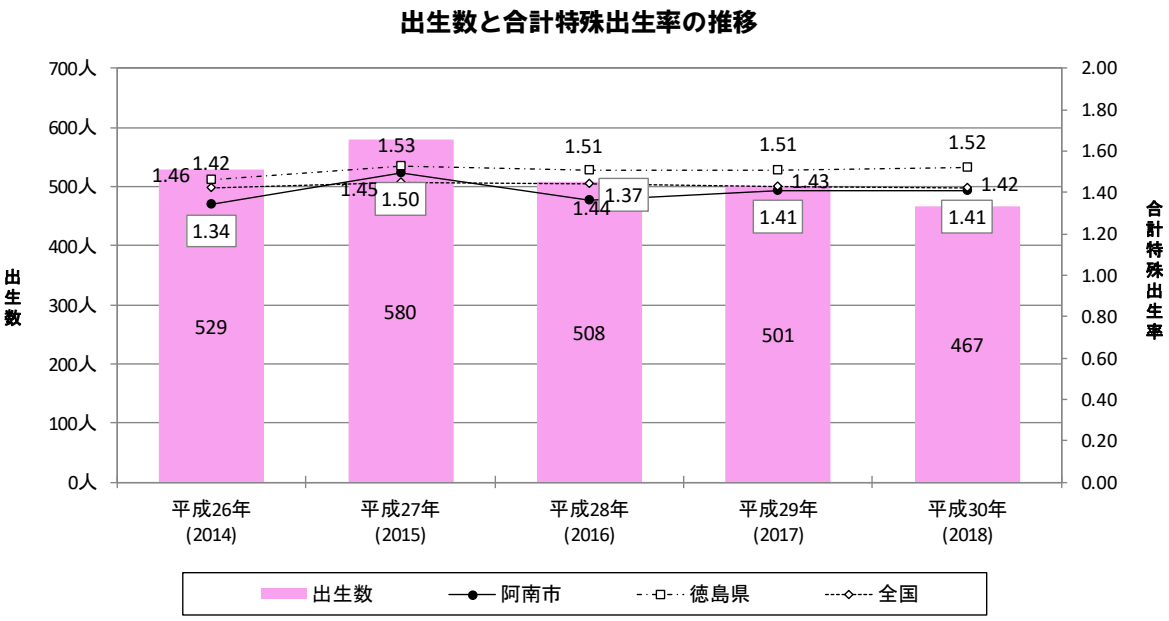
自然動態・社会動態の推移



3．出生・死亡の状況

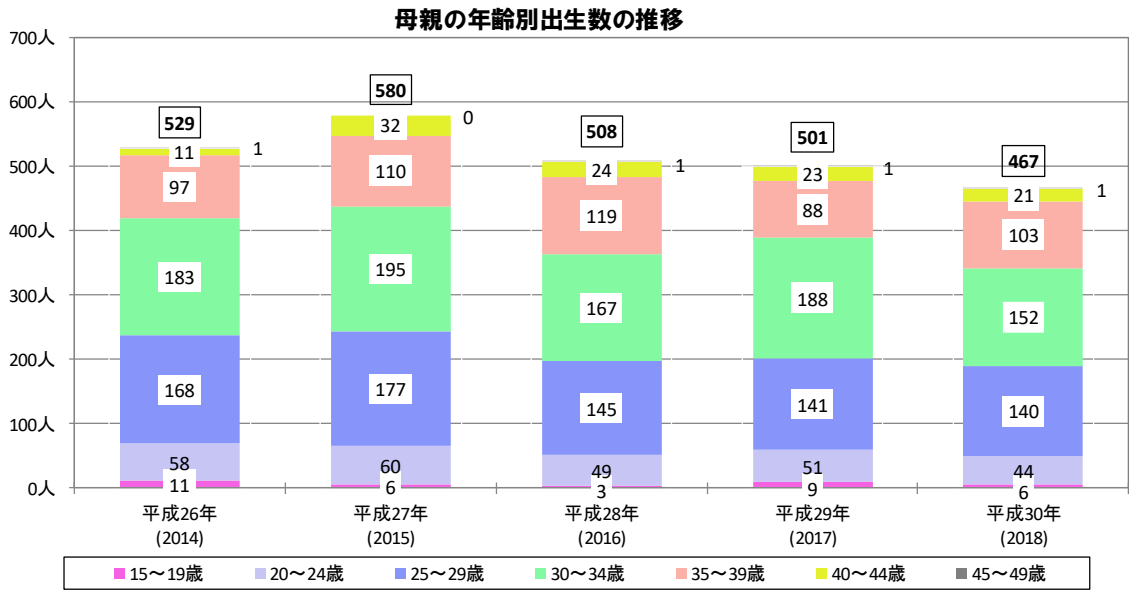
（1）出生の状況

○昭和 60 年から平成 27 年までの合計特殊出生率の推移を見てみると、阿南市は平成 27 年には、1.50 まで増加しましたが、その後は減少傾向が続き、平成 30 年には、全国や徳島県の平均より低い 1.41 となりました。



※出生数（人口動態調査）
※合計特殊出生率（全国、徳島県は人口動態調査、
阿南市は出生数、女性人口により算出）

○母親の年齢別出生数の推移を見てみると、過去5年間については、30 歳以上で出産した人の割合が概ね 55％～60％で推移しています。また、平成 30 年における 30 歳未満の出生数は、過去5年で最も少ない 190 人となっています。

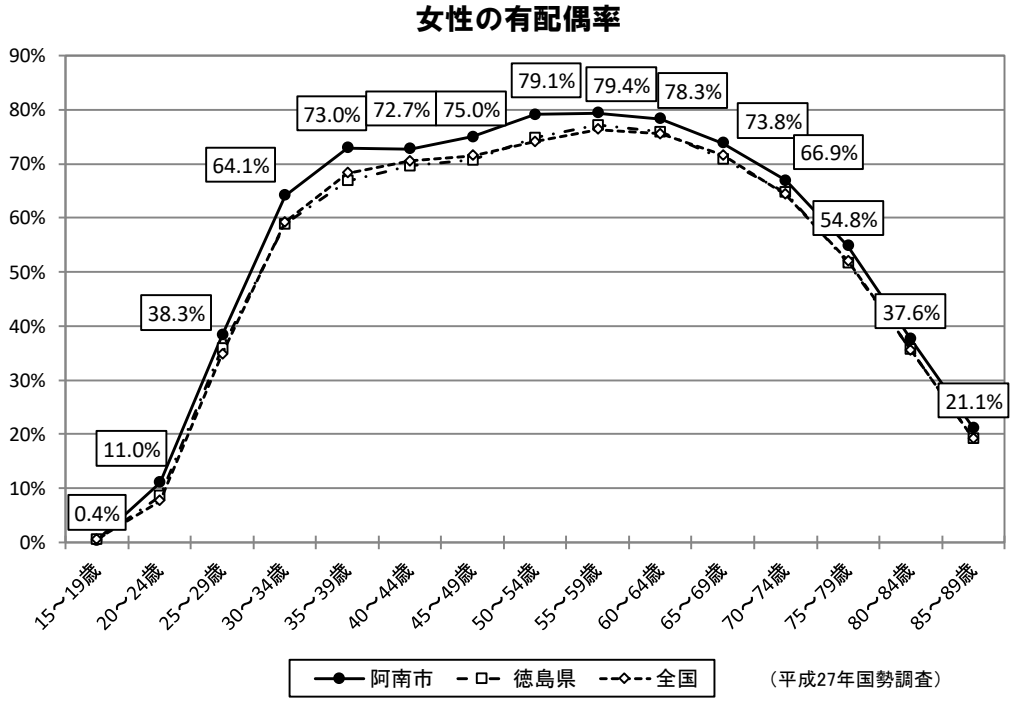


（人口動態調査 ）

（２）結婚の状況

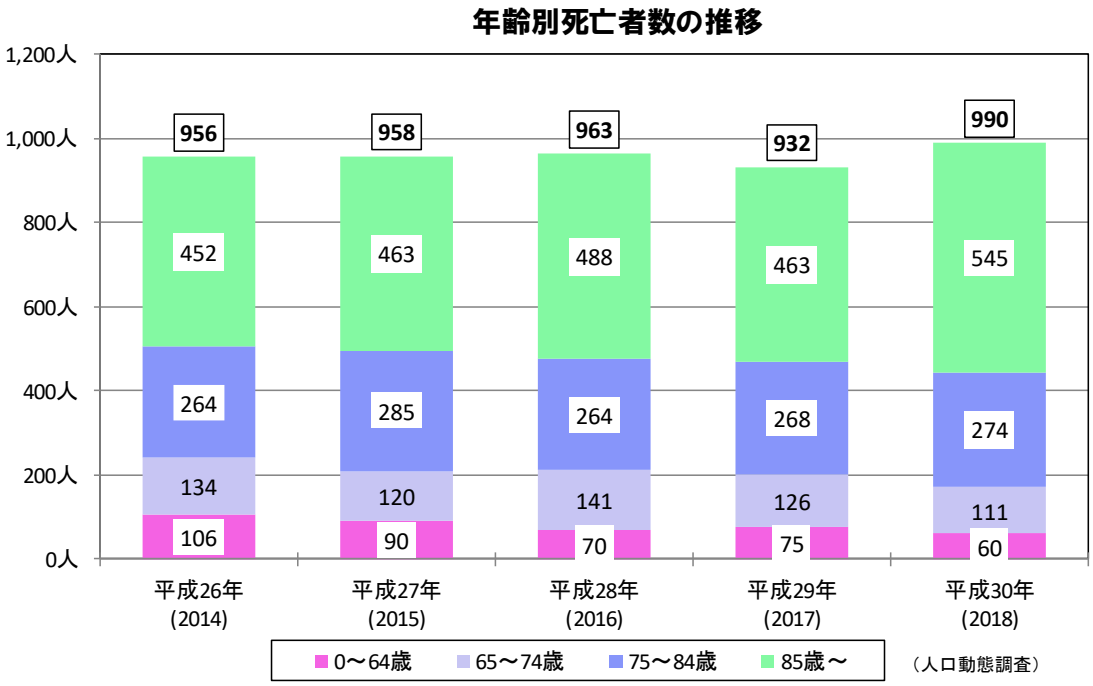
○我が国では出産の多くが嫡出子であることから、とりわけ 15 歳から 49 歳までの女性の有配偶率が高いことが出生数に影響すると考えられます。

○阿南市の 15 歳から 49 歳までの女性の有配偶率をみると、全国、徳島県よりやや高くなっています。



（３）死亡の状況

○平成 26 年から 30 年までの5年間の年齢別死亡者数をみると、「0～64 歳」は減少しており、75 歳以上の後期高齢者の割合は増加しています。

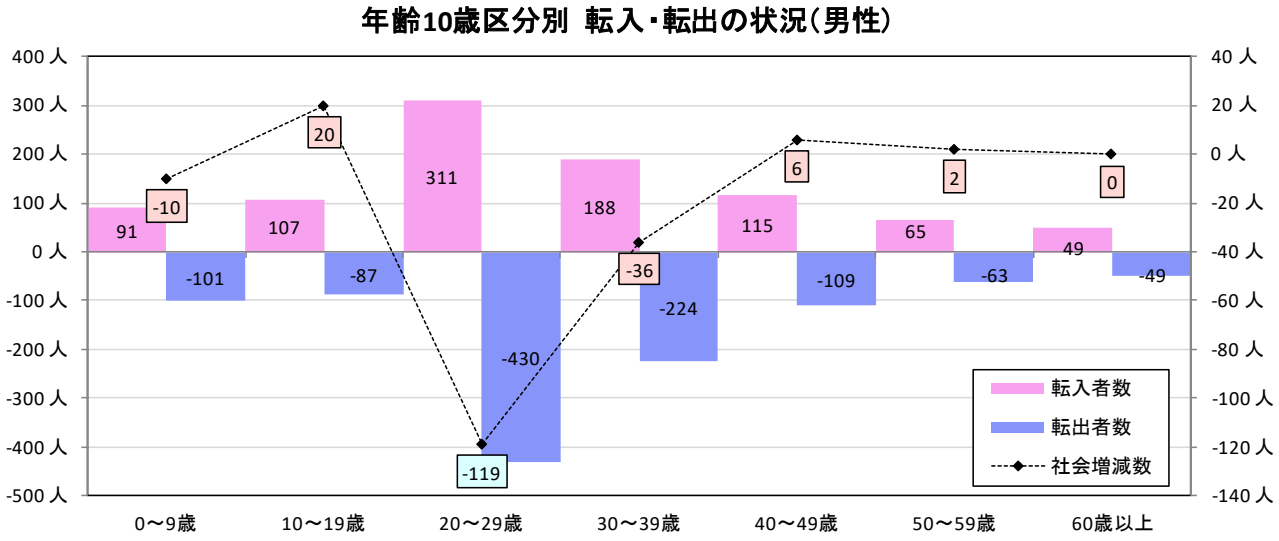


4．移動の状況

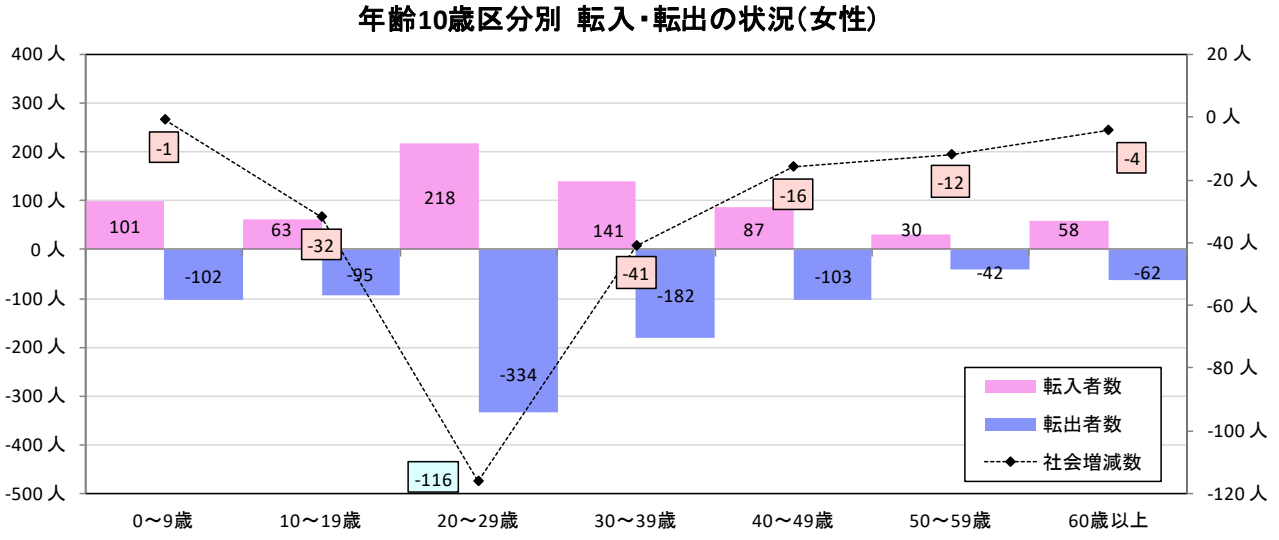
（1）性別・年齢別の移動の状況

○平成 31 年･令和元年の転入･転出の状況について、性別･年齢 10 歳区分別に見てみると、男女ともに進学、就職、結婚等の移動を伴うライフイベントが要因と考えられる 20～39 歳の移動が中心となっていることがわかります。

○男性では「20～29 歳」が 119 人の転出超過であるのに対し、女性では「20～29 歳」が 116 人、「10～19 歳」が 32 人の転出超過となっています。



（平成31年･令和元年　住民基本台帳人口移動報告※外国人含む）

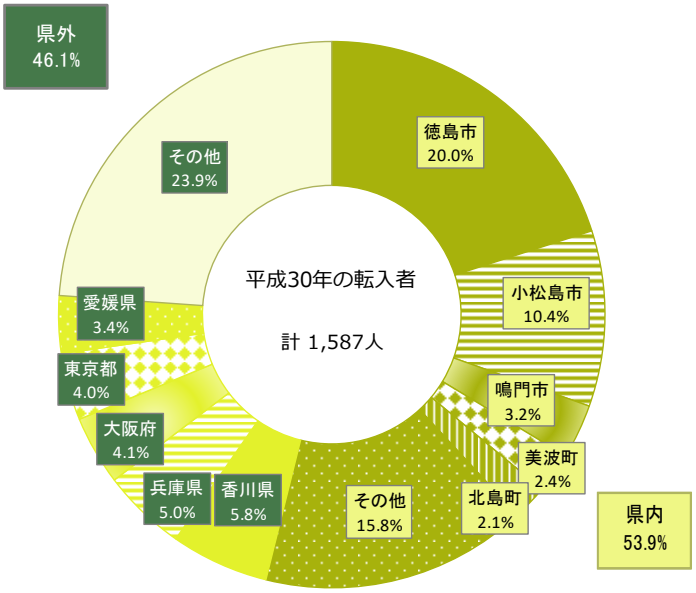


（平成31年･令和元年　住民基本台帳人口移動報告※外国人含む）

（２）地域間移動の状況

○平成 30 年の阿南市への転入の状況を転入前の居住地別に見てみると、県内では徳島市が最も多く、全体の 20.0%を占めています。次いで小松島市 10.4%、鳴門市 3.2%の順に多くなっています。

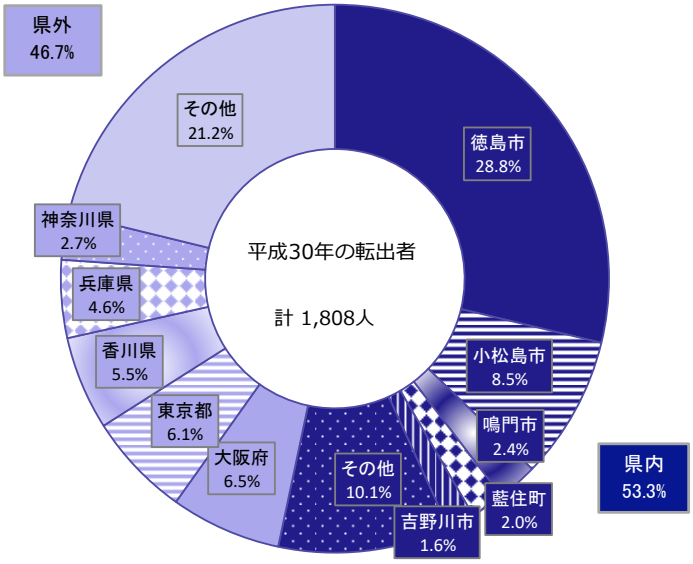
○全体の 46.1%が県外からの転入となり、最も多いのが香川県で全体の 5.8%を占めています。



（平成 30 年住民基本台帳人口移動報告※外国人含む）

○平成 30 年の阿南市からの転出の状況を転出後の居住地別に見てみると、県内では徳島市が最も多く、全体の 28.8%を占めています。次いで、小松島市 8.5%、鳴門市 2.4%の順に多くなっています。

○全体の 53.3%が県内、46.7%が県外への転出となり、県外では大阪府が 6.5%で最も多くなっています。



（平成 30 年住民基本台帳人口移動報告※外国人含む）

Ⅲ．産業の状況

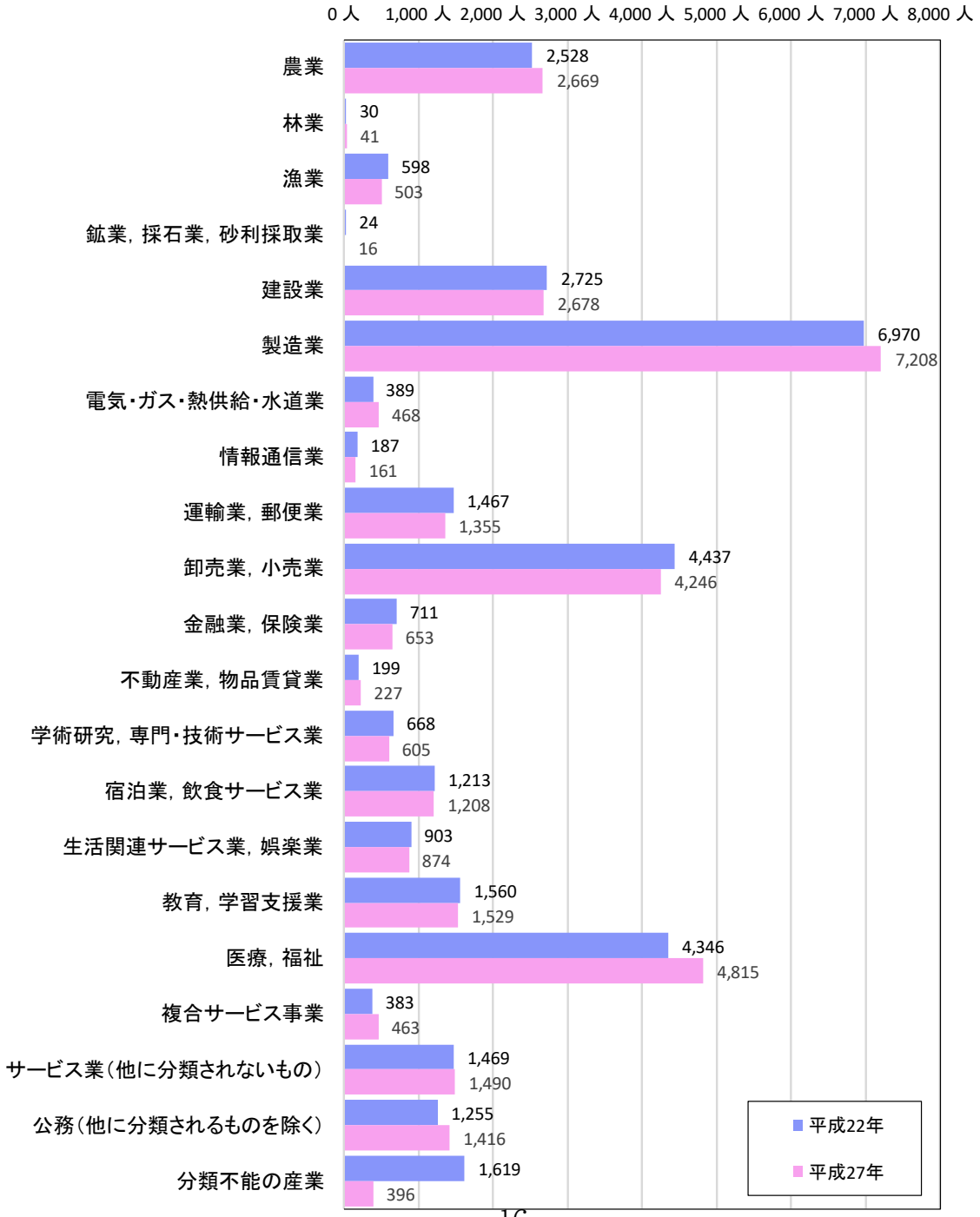
１．就業人口

（１）産業大分類別就業者人口

○平成 27 年の産業大分類別就業者人口について見てみると、最も就業者人口の多い産業は「製造業」(7,208 人)で、次いで「医療，福祉」(4,815 人)、「卸売業，小売業」(4,246 人)の順に多くなっています。

○平成 22 年と比較して、就業者人口が最も増えたのは「医療，福祉」で 469 人増、最も減ったのは「分類不能の産業」で 1,223 人減となっています。

産業大分類別就業者人口の推移

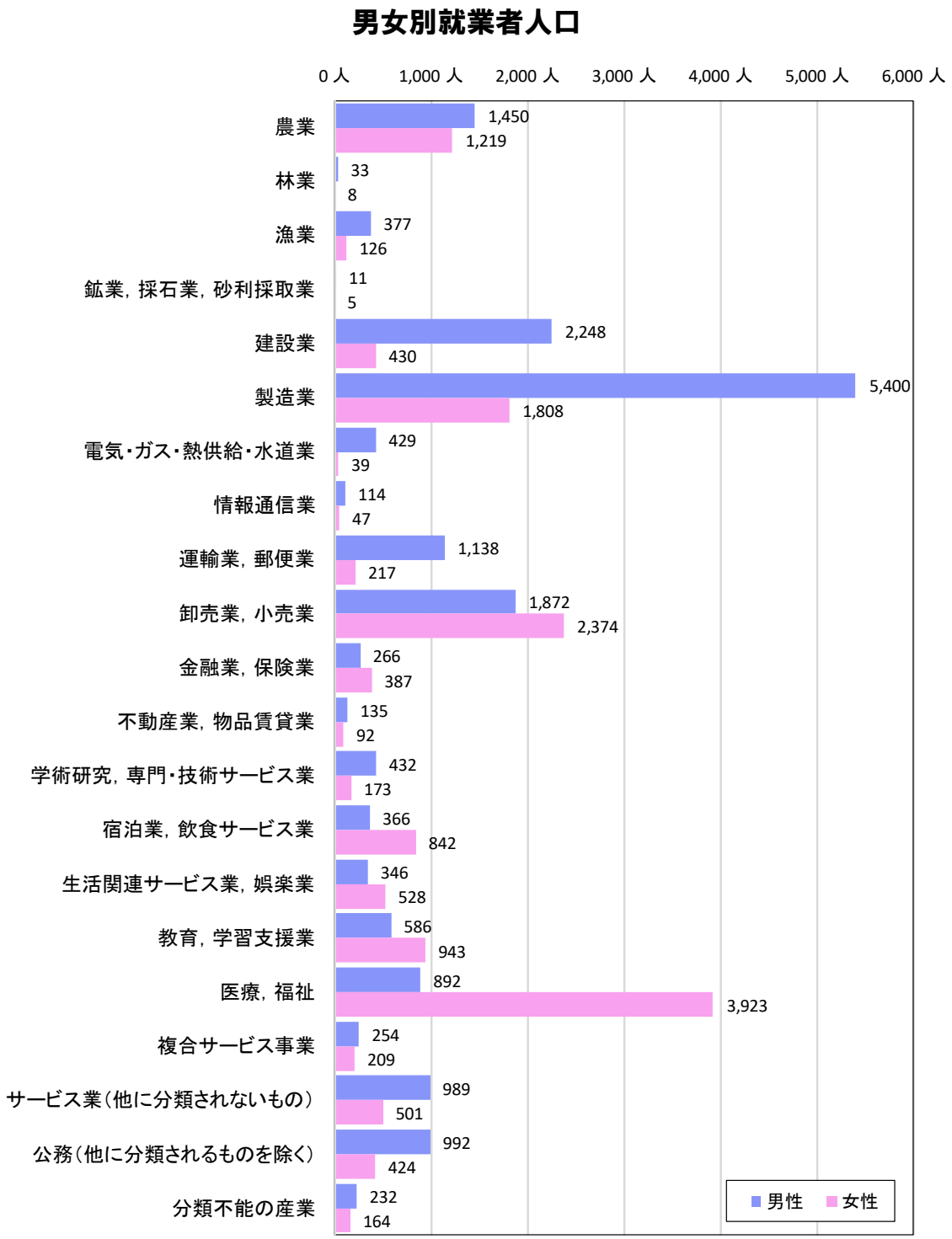


（国勢調査）

（２）男女別産業大分類別就業者人口

○平成 27 年の男女別就業者人口を見てみると、男性で最も多いのは「製造業」、次いで「建設業」、「卸売業，小売業」、「農業」の順となっています。

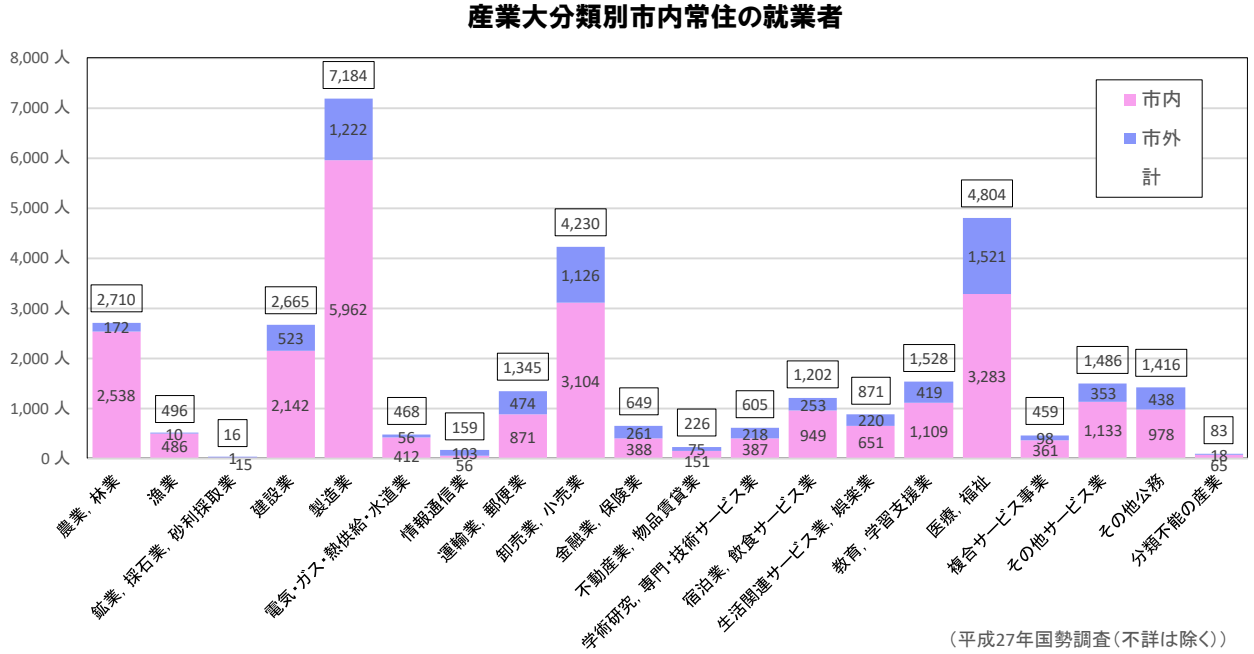
○女性で最も多いのは「医療，福祉」、次いで「卸売業，小売業」、「製造業」の順となっています。



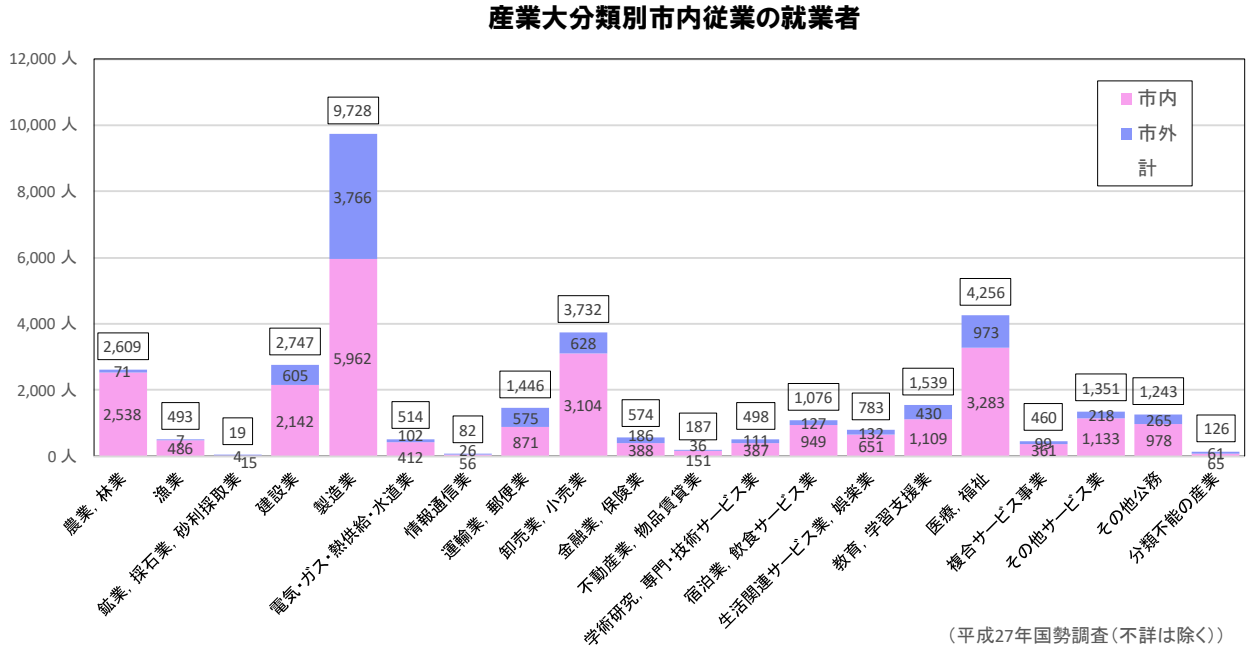
（平成27年国勢調査）

（３）市内常住の就業者の就職先

○市内常住の就業者の就業先について、就業者の多い上位3つの産業について見てみると、「製造業」は８割以上、「医療，福祉」「卸売業，小売業」は７割程度が市内で従業しています。



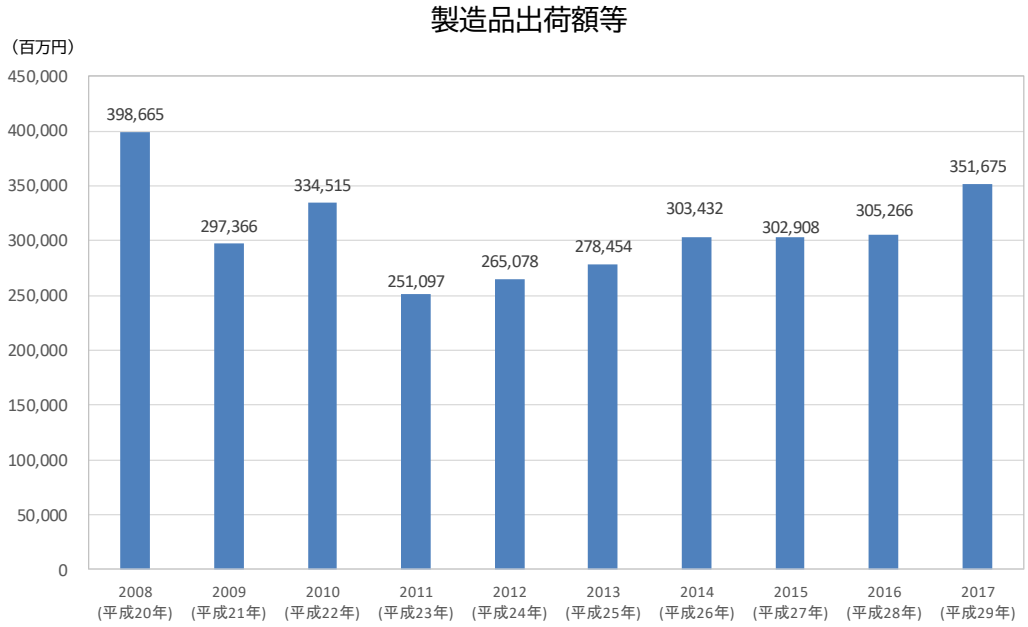
○また、平成 27 年の市内従業の就業者数について産業大分類別にみると、市内に常住する就業者数と同じく、「製造業」が最も多く 9,728 人、そのうち市外常住の就業者は 3,766 人（38.7%）となっています。次いで、「医療，福祉」が 4,256 人で、そのうち市外常住の就業者は 973 人（22.9%）となっています。



2．工業

製造品出荷額

○平成 29 年の製造品出荷額については、3,516 億 7 千 5 百万円となっています。平成 23 年までは、減少傾向にありましたが、平成 23 年以降は回復基調にあります。

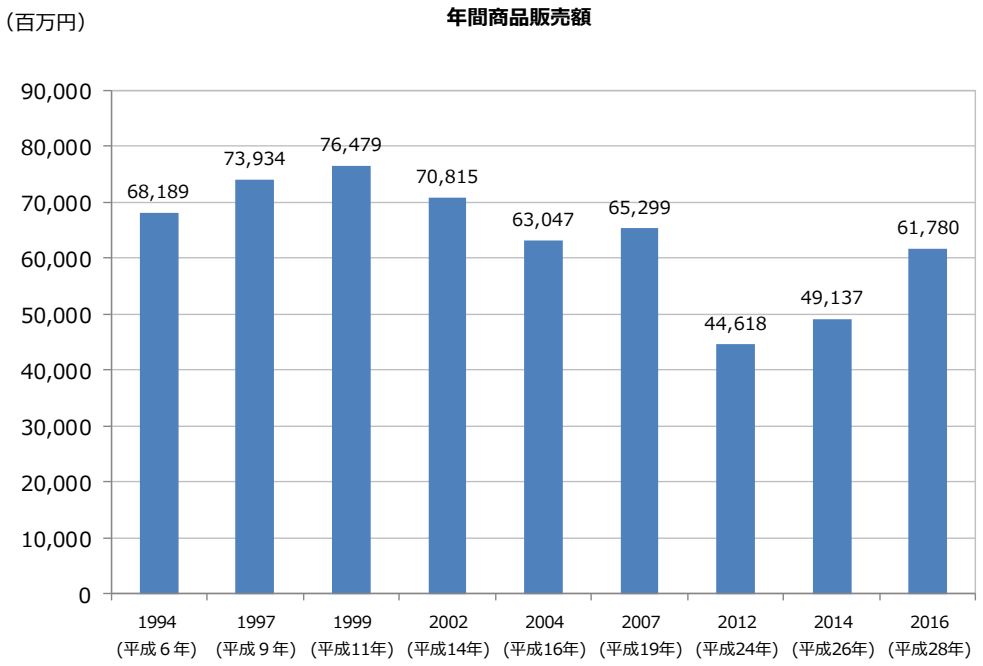


出典　経済産業省の「工業統計調査」（再編加工）と総務省・経済産業省の「経済センサス活動調査」

3．商業

年間商品販売額

○平成 28 年の年間商品販売額については、617 億 8 千万円となっています。平成 11 年から平成 24 年にかけて減少傾向にありましたが、平成 24 年以降は回復基調にあります。

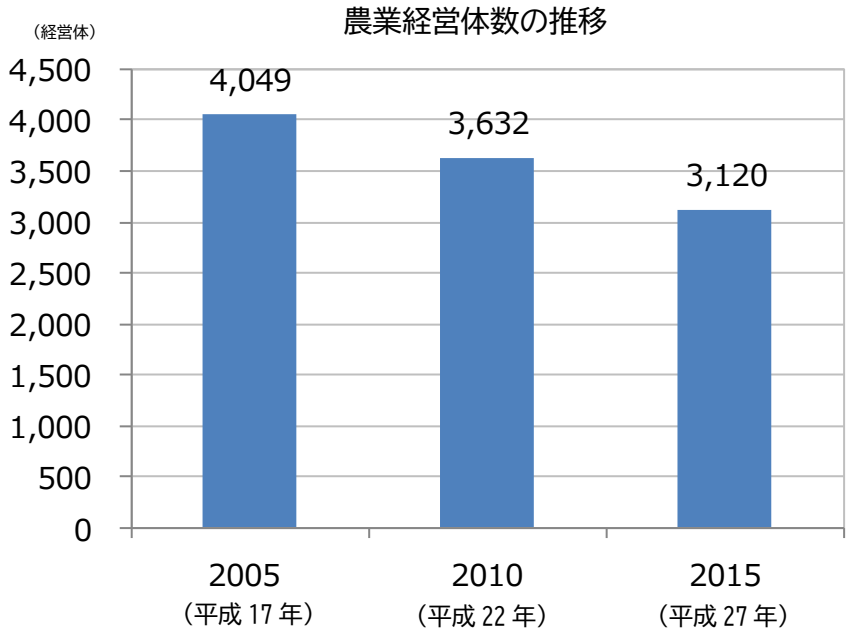


出典　農林水産省の「農林業センサス」（再編加工）

4．農業

（1）農業経営体

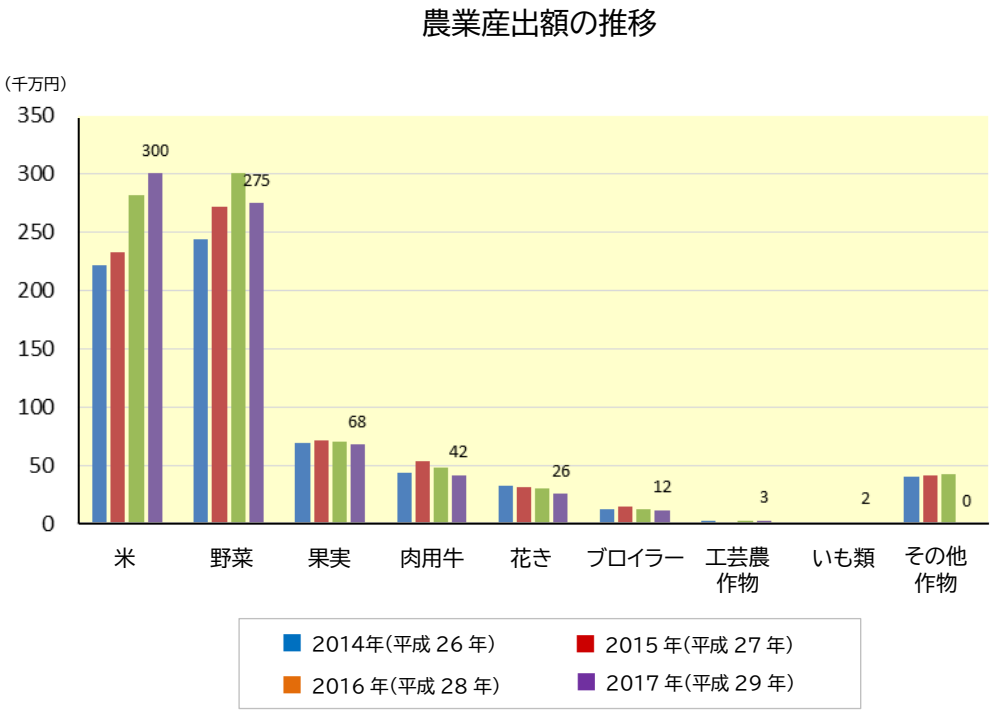
○農業経営体数については減少傾向にあり、平成 17 年には 4,049 あった農業経営体は、平成 27 年には 3,120 になり、10年間で929（約23％）減少しています。



出典　経済産業省の「商業統計調査」と総務省・経済産業省の「経済センサス活動調査」

（2）農業産出額

○農業産出額は、米、野菜が突出して多く、次いで果実、肉用牛、花きの順に高くなっています。

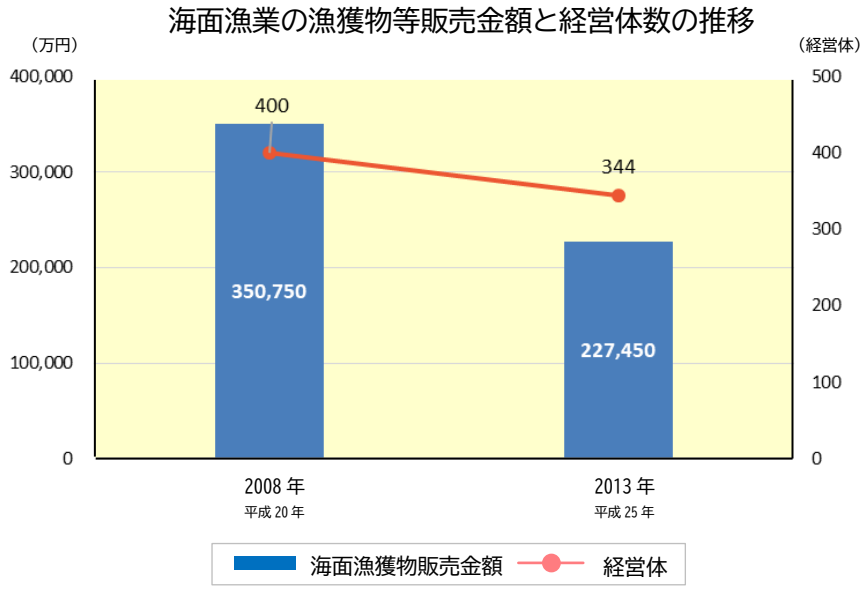


5．漁業

（1）海面漁業

○海面漁業について、経営体数は、平成20年（2008年）の 400 から平成25年（2013年）には 344 に減少しています。

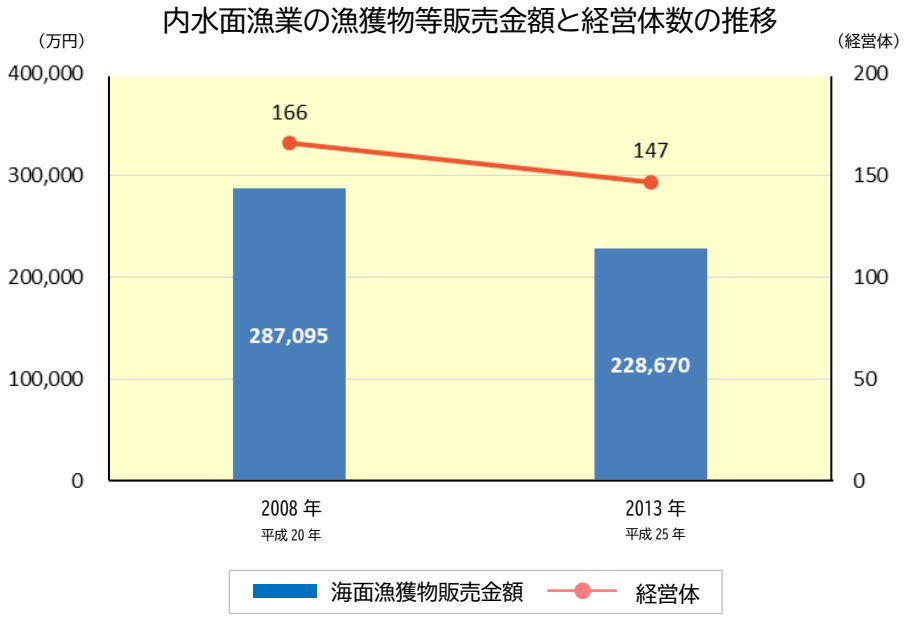
○また、漁獲物等販売金も、平成20年（2008年）の 35 億 750 万円から平成25年（2013年）には 22 億 7,450 万円まで減少しています。



（2）内水面漁業

○内水面漁業について、経営体数は、平成20年（2008年）の 166 から平成25年（2013年）には 147 に減少しています。

○また、漁獲物等販売金も、平成20年（2008年）の 28 億 7,095 万円から平成25年（2013年）には 22 億 8,670 万円まで減少しています。



Ⅳ. 通勤・通学の状況

○平成 27 年の市内常住の就業者･通学者 36,249 人の従業･通学地についてみると、市内が 27,582 人(76.1%)、他市町村が 8,667 人(23.9%)となっています。

○市内常住の就業者･通学者の他市町村への通勤･通学先は、徳島市が最も多く 4,042 人(44.2%)、次いで小松島市 2,516 人(27.5%)で、両市で 7 割以上を占めています。

○他市町村常住の就業者･通学者で、阿南市に通勤･通学している 9,919 人について見てみると、徳島市から通勤･通学している人が 3,599 人(36.3%)で最も多く、次いで小松島市で 2,725 人(27.5%)、両市で 6 割以上を占めています。

市内常住の就業者･通学者の従業･通学地(及び他市町村からの通勤･通学状況)

区分	市内		他市町村		計
	自宅で従業･通学	自宅外で従業･通学	県内の他市町村で従業･通学	県外の他市町村で従業･通学	
男	2,951	12,415	4,522	302	20,190
女	2,175	10,041	3,745	98	16,059
小計	5,126	22,456	8,267	400	
計	27,582 76.1%		8,667 23.9%		36,249

※不詳を除く

区分		阿南市から他市町村へ				他市町村から阿南市へ			
		総数	構成比	就業者	通学者	総数	構成比	就業者	通学者
総数		9,148	100.0%	7,980	1,168	9,919	100.0%	8,894	1,025
県内	徳島市	4,042	44.2%	3,447	595	3,599	36.3%	3,397	202
	小松島市	2,516	27.5%	2,233	283	2,725	27.5%	2,385	340
	那賀町	488	5.3%	440	48	507	5.1%	461	46
	美波町	291	3.2%	290	1	518	5.2%	423	95
	勝浦町	253	2.8%	227	26	287	2.9%	253	34
	鳴門市	166	1.8%	151	15	207	2.1%	165	42
	牟岐町	73	0.8%	73	0	133	1.3%	106	27
	北島町	70	0.8%	70	0	173	1.7%	154	19
	松茂町	69	0.8%	69	0	65	0.7%	63	2
	藍住町	53	0.6%	53	0	194	2.0%	167	27
	その他	246	2.7%	231	15	560	5.6%	456	104
	計	8,267	90.4%	7,284	983	8,968	90.4%	8,030	938
県外	香川県	65	0.7%	53	12	41	0.4%	41	0
	その他	275	3.0%	171	104	369	3.7%	351	18
	計	340	3.7%	224	116	410	4.1%	392	18
不詳		541	5.9%	472	69	541	5.9%	472	69

(平成27年,国勢調査)

Ⅴ．行政の状況

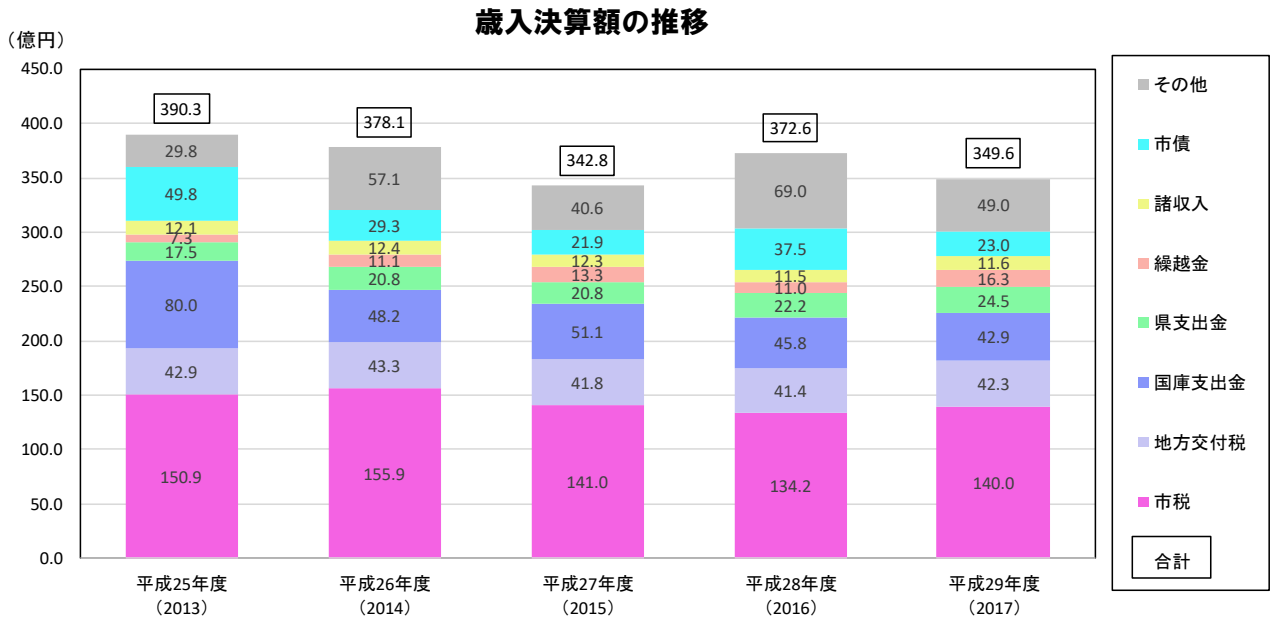
１．財政

（１）歳入の推移

○平成 25 年から 29 年までの歳入決算額の推移を見てみると、5年間の平均は約 366.7 億円で、平成 29 年は約 349.6 億円となっています。

（単位：億円）

	平成25年度（2013）	平成26年度（2014）	平成27年度（2015）	平成28年度（2016）	平成29年度（2017）
合計	390.3	378.1	342.8	372.6	349.6
市税	150.9	155.9	141.0	134.2	140.0
地方交付税	42.9	43.3	41.8	41.4	42.3
国庫支出金	80.0	48.2	51.1	45.8	42.9
県支出金	17.5	20.8	20.8	22.2	24.5
繰越金	7.3	11.1	13.3	11.0	16.3
諸収入	12.1	12.4	12.3	11.5	11.6
市債	49.8	29.3	21.9	37.5	23.0
その他	29.8	57.1	40.6	69.0	49.0



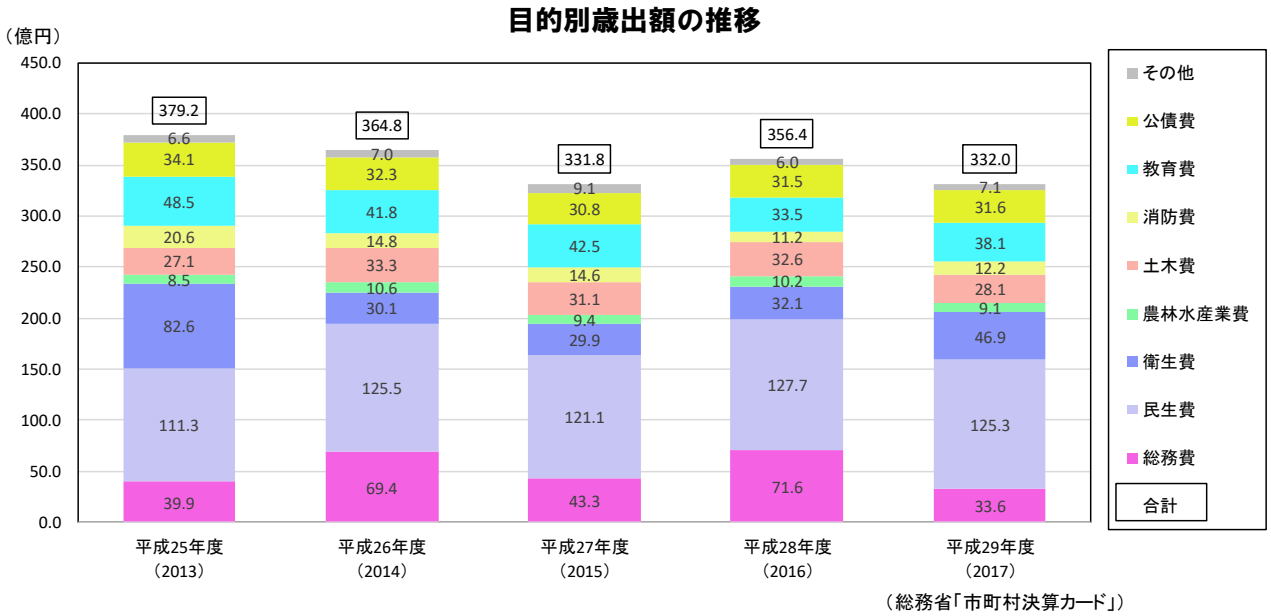
（総務省「市町村決算カード」）

（2）歳出の推移

○平成 25 年から平成 29 年までの歳出決算額の推移を見てみると、5年間の平均は約 352.8 億円で、平成 29 年は約 332.0 億円となっています。

（単位：億円）

	平成25年度（2013）	平成26年度（2014）	平成27年度（2015）	平成28年度（2016）	平成29年度（2017）
合計	379.2	364.8	331.8	356.4	332.0
総務費	39.9	69.4	43.3	71.6	33.6
民生費	111.3	125.5	121.1	127.7	125.3
衛生費	82.6	30.1	29.9	32.1	46.9
農林水産業費	8.5	10.6	9.4	10.2	9.1
土木費	27.1	33.3	31.1	32.6	28.1
消防費	20.6	14.8	14.6	11.2	12.2
教育費	48.5	41.8	42.5	33.5	38.1
公債費	34.1	32.3	30.8	31.5	31.6
その他	6.6	7.0	9.1	6.0	7.1

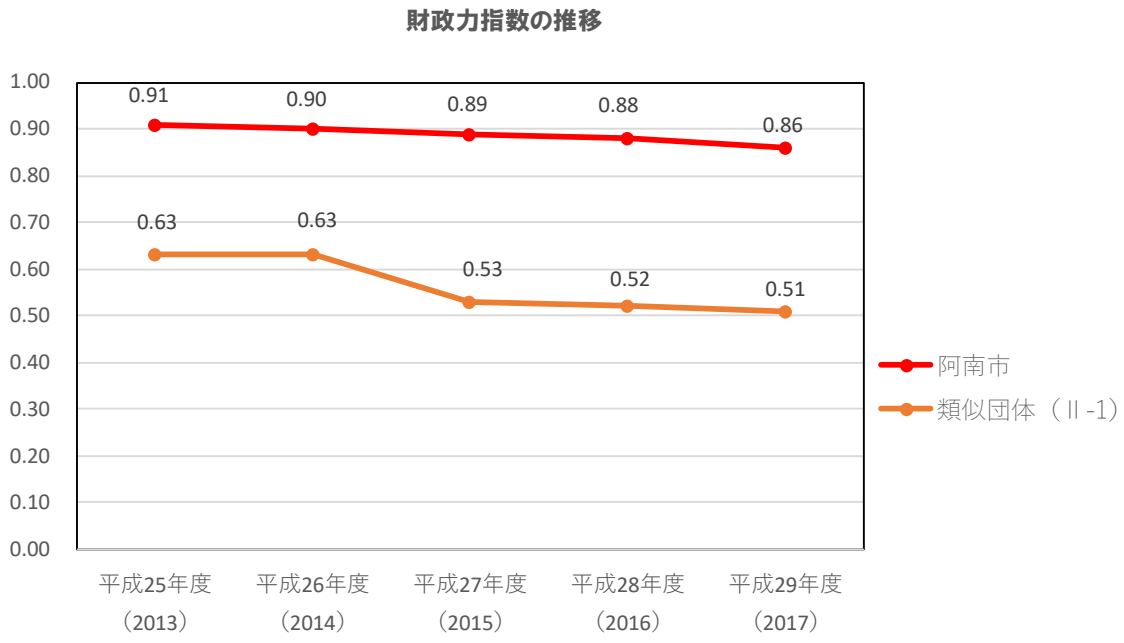


（総務省「市町村決算カード」）

（3）財政力指数の推移

〇過去5年間の財政力指数[1]は緩やかに減少しており、平成29年では 0.86 となっています。

〇類似団体[2]の平均では、平成 29 年度で 0.51 であり、過去5年のすべてで、類似団体の平均を上回っています。



（総務省「市町村決算カード」）

中国・四国・九州・沖縄の 210 市における財政力指数ランキング（平成 29 年度決算）

順位	県名	団体名	財政力指数
1	佐賀県	鳥栖市	0.94
2	大分県	大分市	0.90
3	福岡県	福岡市	0.89
4	山口県	下松市	0.88
5	岡山県	倉敷市	0.87
6	徳島県	阿南市	0.86
7	香川県	坂出市	0.85
8	広島県	広島市	0.84
9	広島県	東広島市	0.83
10	香川県	高松市	0.83

【四国】1/38 市
【中国・四国・九州・沖縄】
6/210 市

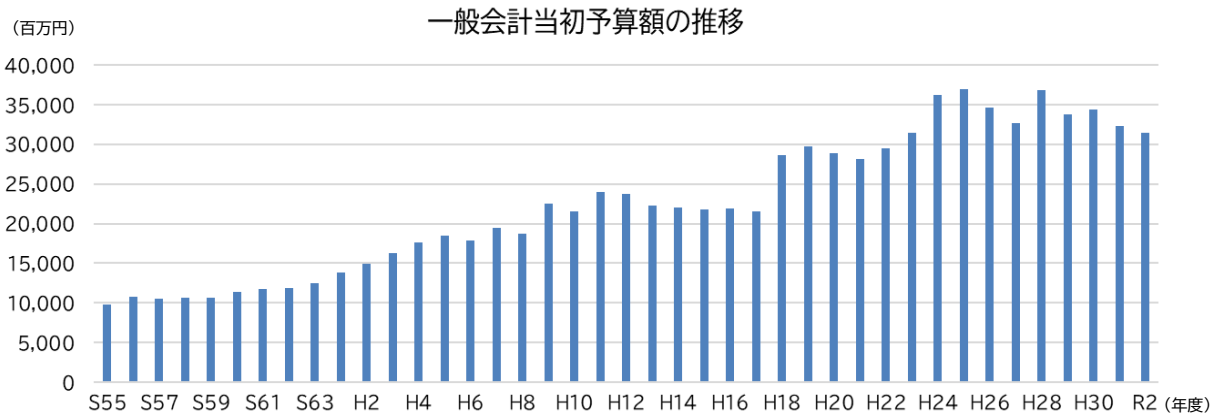
[1] 財政力指数とは、基準財政収入額を基準財政需額で除して得た数値の過去3年間の平均値で、地方公共団体の財政力を示す指数です。この数値が大きい程財政力が強いとみることができます。

[2] 類似団体とは、地方公共団体を人口規模や産業構造によって分類したものです。阿南市では、人口が 50,000 人以上～100,000 人未満、第二次･第三次産業比率が 90％未満、かつ第三次産業比率が 55％以上であることから、「Ⅱ-1」に分類されます。

（４）一般会計当初予算額の推移

○一般会計における当初予算額の推移を見てみると、昭和 55 年度の 98 億 5 千万円から令和2年度は 314億5千万円と、約3．2倍の額まで増加しています。

○平成18年度は、1市2町の合併により予算規模が増大したほか、平成24年度から平成30年度にかけては、新ごみ処理施設（エコパークあなん）整備事業、3中学校校舎建替え、庁舎建設事業など大型事業が続いたことにより予算額が伸びています。



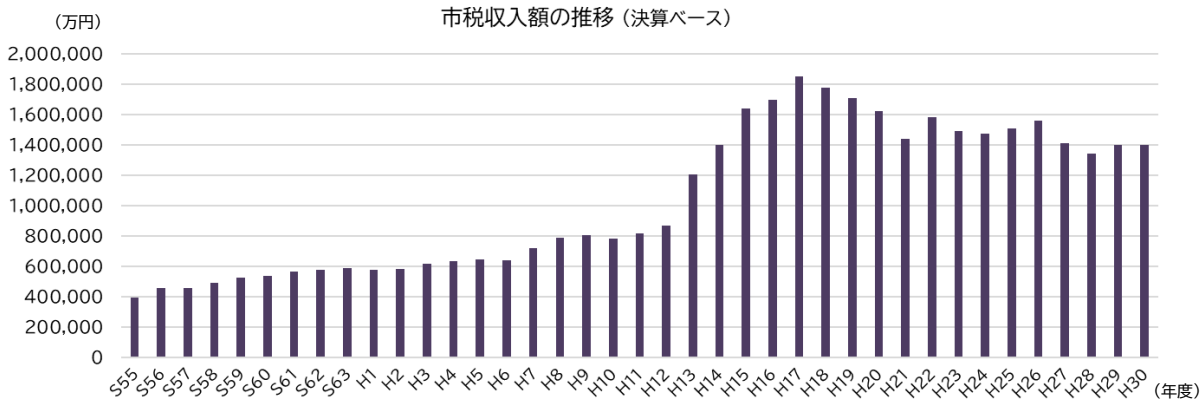
（５）市税収入額の推移

○市民税や固定資産税など市税収入額の推移について見てみると、昭和55年度の約 39 億5千万円から平成 30 年度には約 139 億 9 千万円と、約3．5倍に増加しています。

○平成13年度から平成17年度にかけての税収の伸びは、主に橘湾石炭火力発電所建設に伴う固定資産税の増収や本市に本社を置く LED 等メーカーの増益による法人市民税の増収によるものです。

○また、平成18年度以降の緩やかな減少は、主に固定資産税での地価の下落や一部の企業で設備投資が活発であるものの、減価償却が進行したためです。

○平成21年度以降は140～150億円で推移しています。

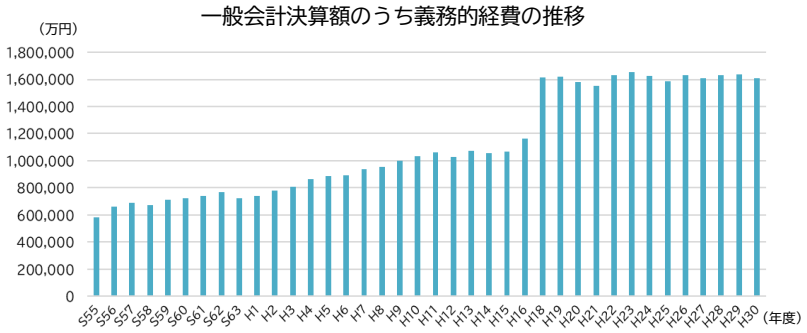


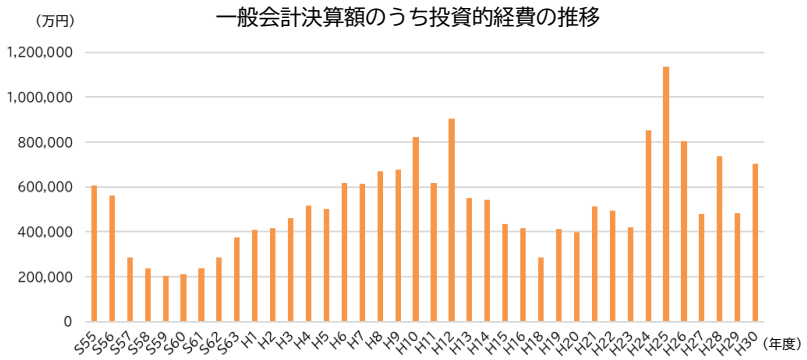
（６）性質別決算額の推移

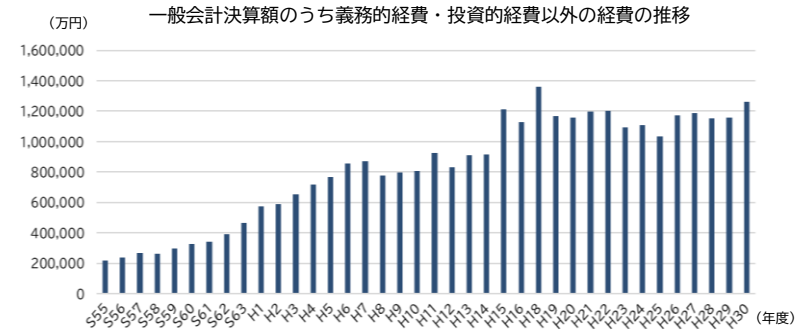
○一般会計における性質別決算額の推移を見てみると、平成18年の合併以降は、義務的経費（人件費、扶助費、公債費）は約160億円で推移しています。

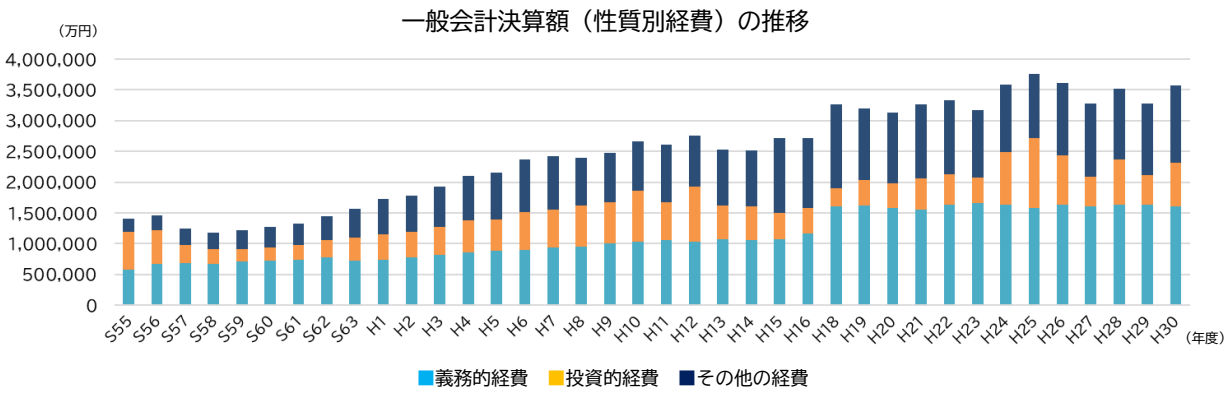
○投資的経費は、新ごみ処理施設整備事業、3中学校校舎建替え、庁舎建設事業など大型事業が続いた平成24年度から平成26年度にかけて大きく増加しています。

○義務的経費と投資的経費を除いたその他の経費は、約120億円で推移しています。







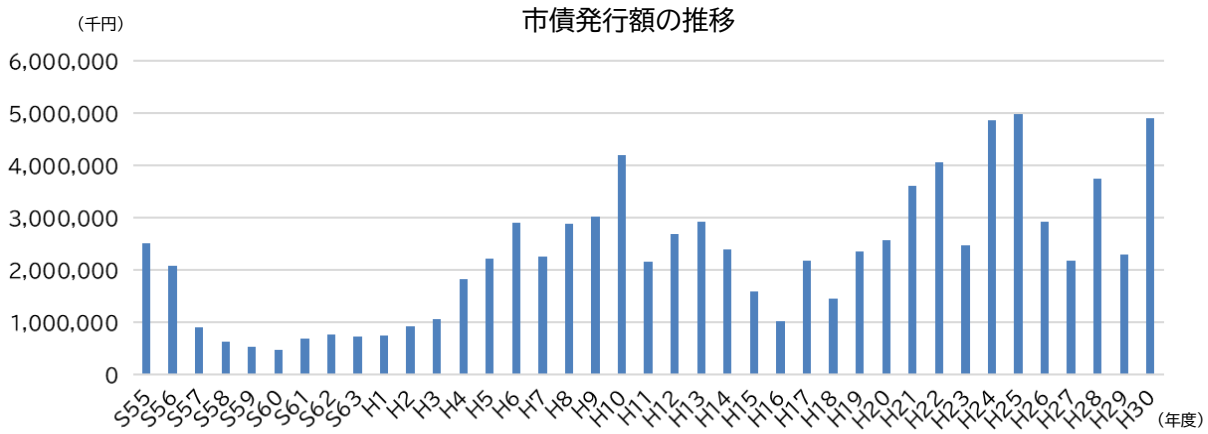


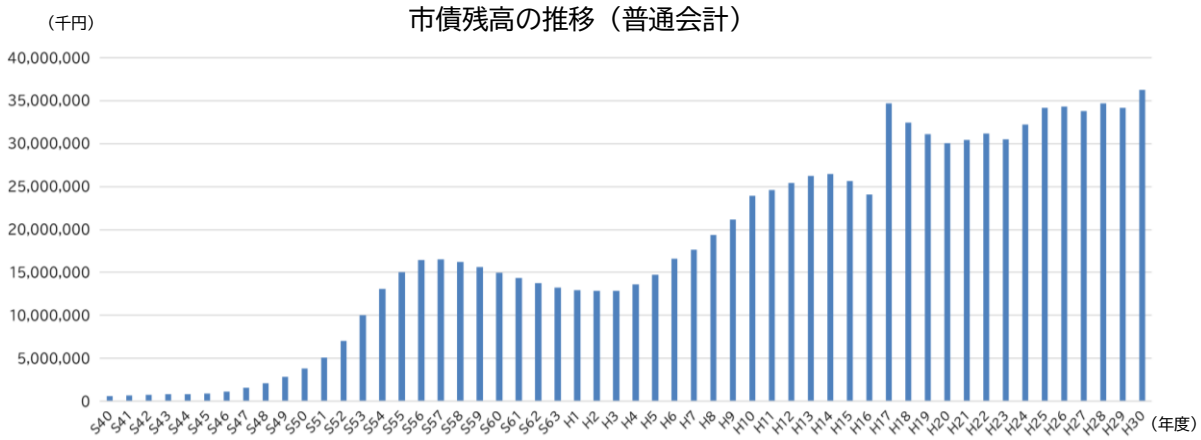
（７）市債発行額と市債現在高の推移

○市債発行額について、平成 10 年度前後は、地域総合整備事業債[1]を活用して文化施設や公園などの建設により増加しています。また、平成24年度前後は、新ごみ処理施設（エコパーク阿南）整備事業や中学校校舎改築事業等により、また、平成28年度は、庁舎建設事業、岩脇こどもセンター建設事業などにより増加しています。

○平成30年度決算における普通会計の市債現在高は、約 362 億 5 千万円で過去最高額となっており、平成20年度以降増加傾向にあります。

○平成17年度に残高が大きく伸びているのは、旧那賀川町、旧羽ノ浦町との合併によるものです。

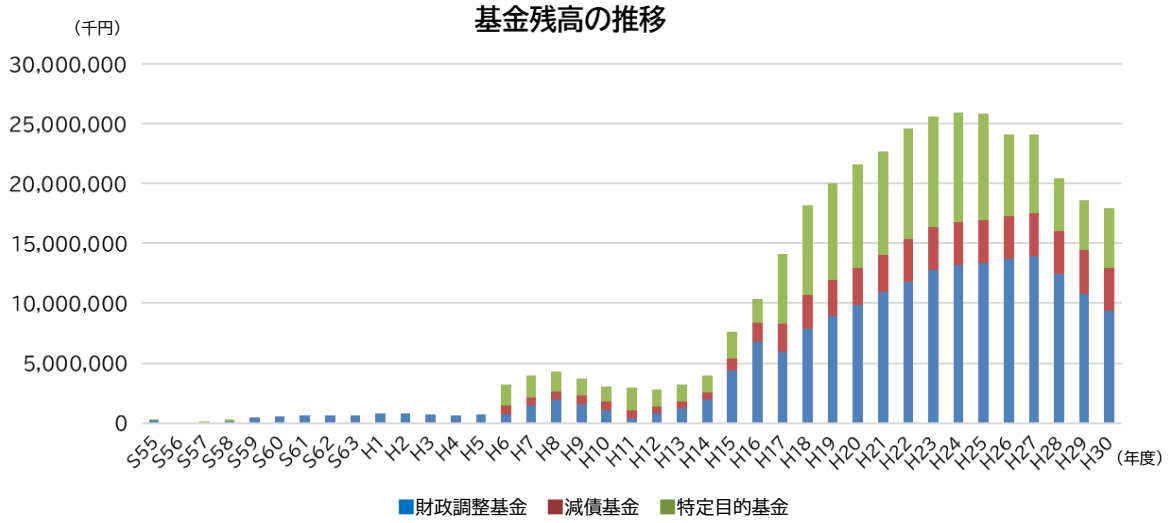




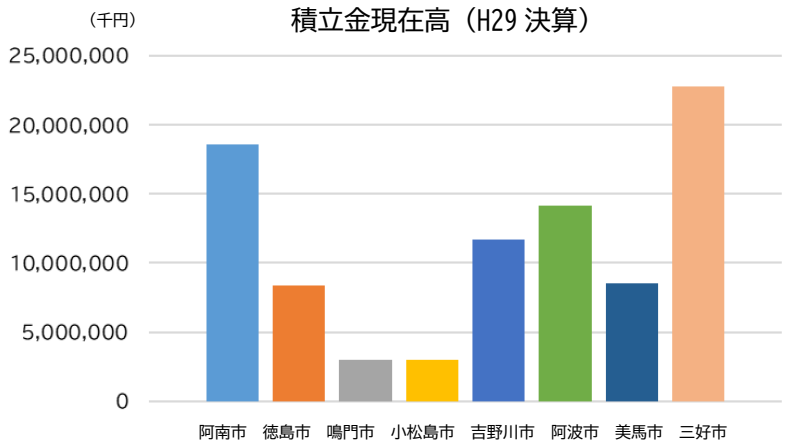
[1] 地域総合整備事業債は、地方自治体が国の補助金を受けずに実施するふるさとづくり事業やまちづくり事業の財源として発行された地方債で、その元金償還の一定割合が地方交付税の事業費補正で措置される手厚い財政支援制度で、昭和 63 年度に創設され、平成13年度まで措置されました。

（８）積立金現在高の推移と県内他市との比較

○財政調整基金と減債基金、特定目的基金を合わせた積立金現在高の推移を見てみると、橘湾石炭火力発電所建設後の平成13年度から徐々に増え始め、平成24年度には約 259 億2千万円に達しましたが、ごみ処理施設（エコパークあなん）整備事業、3中学校校舎建替え、庁舎建設事業、阿南医療センター整備補助事業など大型事業が続いたため、基金の一部を取り崩し、平成30年度末の現在高は約 179 億2千万円となっています。



○平成29年度決算における県内8市の積立金残高を見てみると、三好市が227億4千万円で最も多く、本市は 185 億 8 千万円で県内では比較的多くの基金残高を保有しています。



2．公共施設等

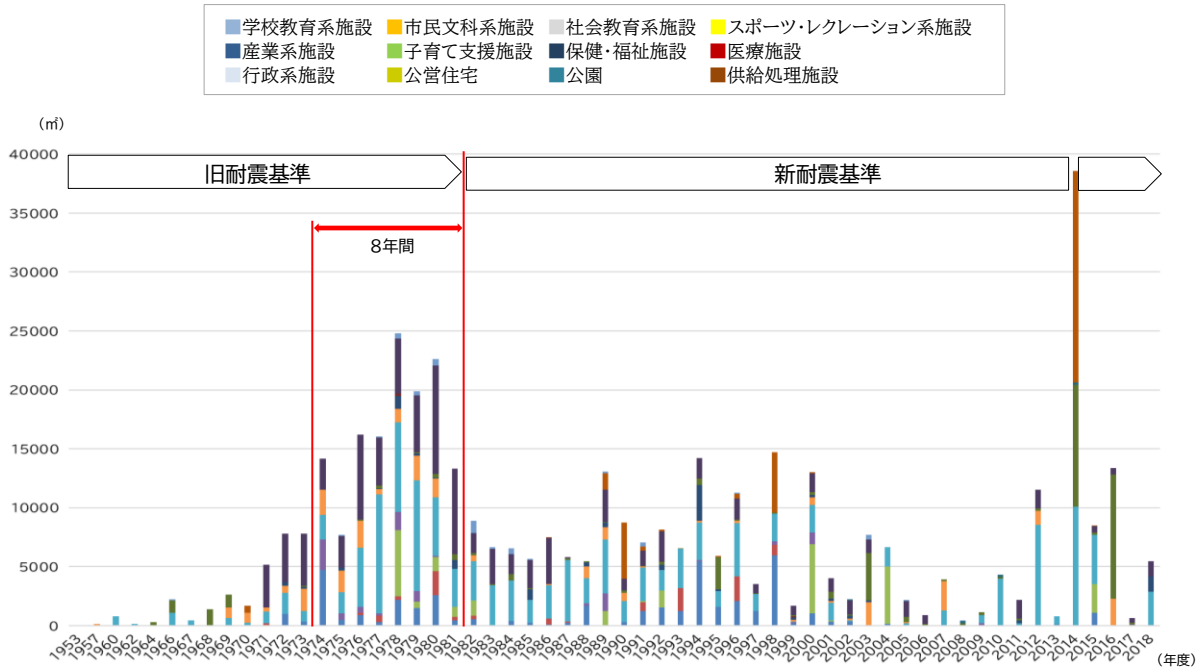
（1） 建物系公共施設の現状と更新時期

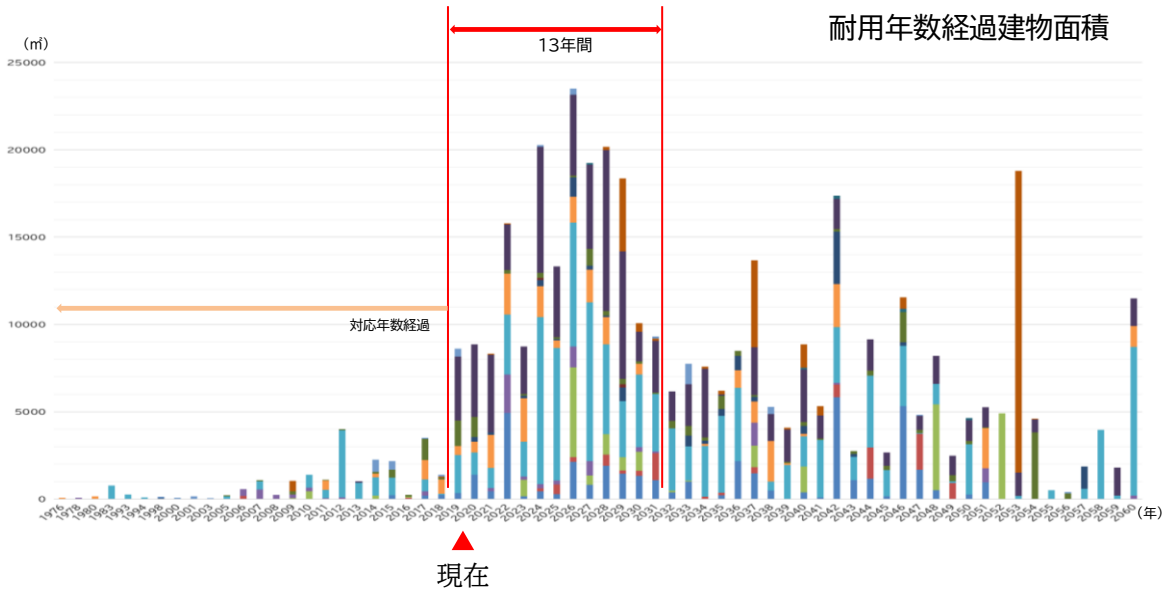
○建物系公共施設は737施設あり、総床面積は 422,843.89 ㎡、一人当たり 5.79 ㎡となっており、全国平均（3.22 ㎡／人）の約 1.8 倍の面積を所有しています。

○本市は、昭和 49年（1974年）から昭和 56 年（1981年）までの8年間に多くの施設を建設していますが、いずれも旧耐震基準に基づくもので、昭和 56 年以前に建設された施設は、全体の約 35.4％を占めています。（上図参照）

○これら建物系公共施設の耐用年数はおおよそ20年～50 年で、それを過ぎると更新していく必要があります。耐用年数を更新時期とした場合、2019 年から2031年にかけて集中し、その後も3～4年おきに更新施設の総量が大きくなります。（下図参照）

建築年度別建物延床面積の整備状況 （平成 31 年3月末現在）



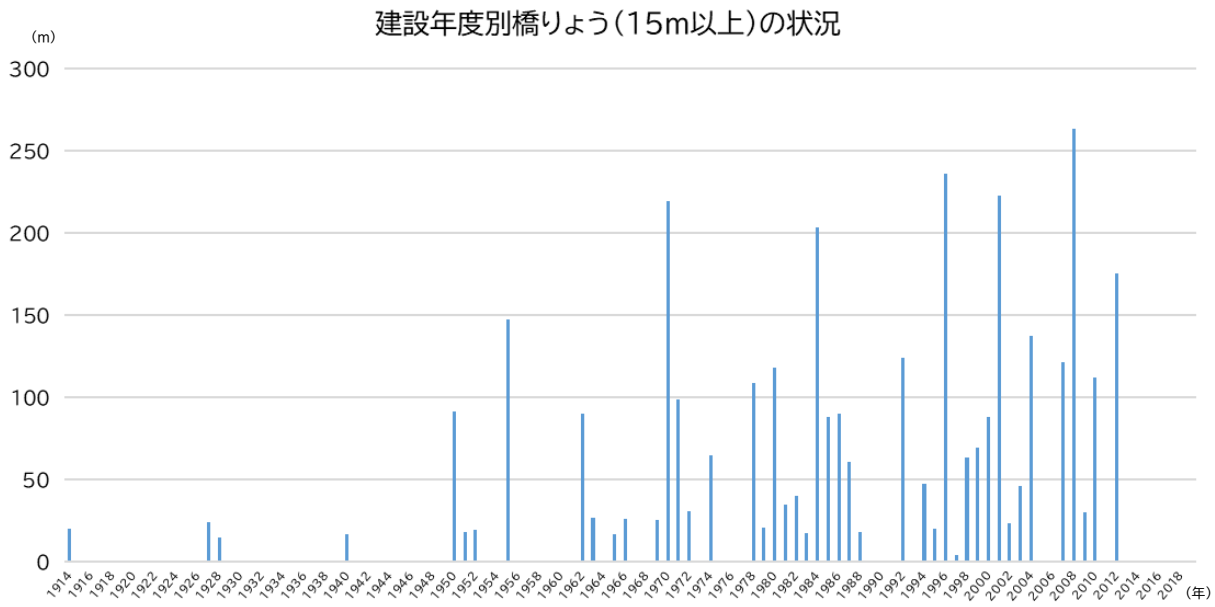


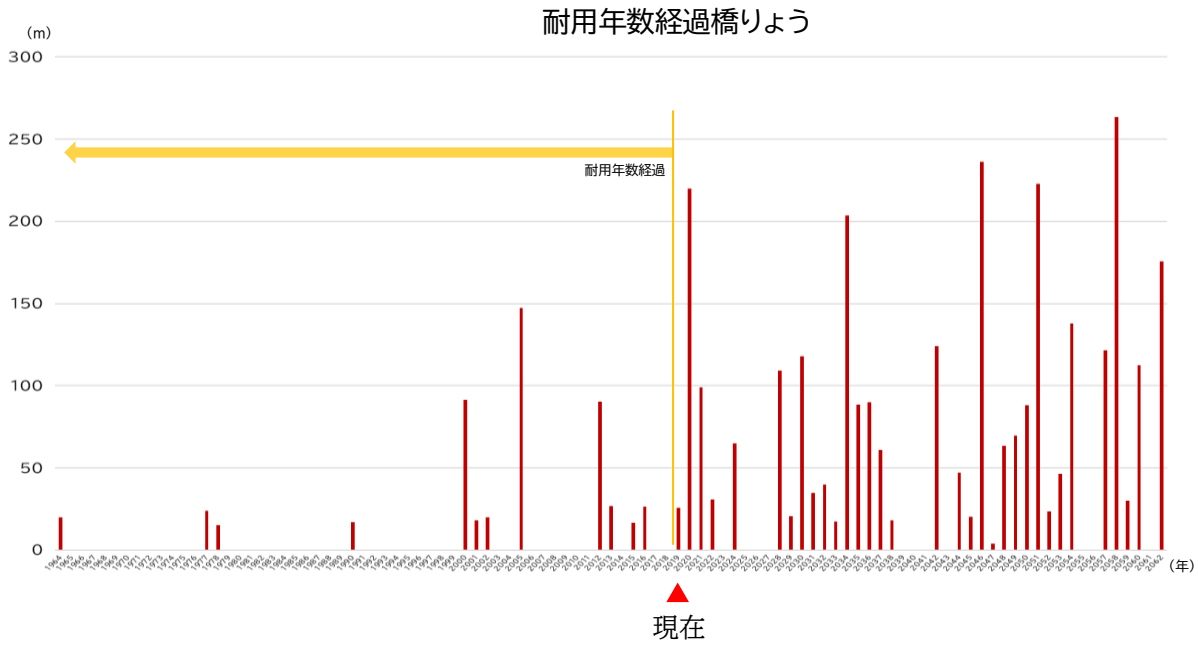
（2） 土木インフラ等工作物の現状と更新時期

○土木インフラ等工作物には、道路、橋りょう、トンネル、公園、コミュニティプラント管渠等多くの資産があります。その中で、橋長が15ｍ以上の橋りょうは79橋あり、その総延長は3,995.5mとなっています。

○土木インフラ施設の耐用年数はおおよそ 50 年といわれており、それを過ぎると更新していく必要があり、建物と同様、今後、多くのインフラ資産が安全性の観点から改修や更新時期を迎えることになります。

○橋長が15m以上の橋りょうについては、耐用年数を更新時期とした場合、2020 年以降、10～15年ごとに更新時期を迎える橋りょうの総量が伸びる見込みとなっています。





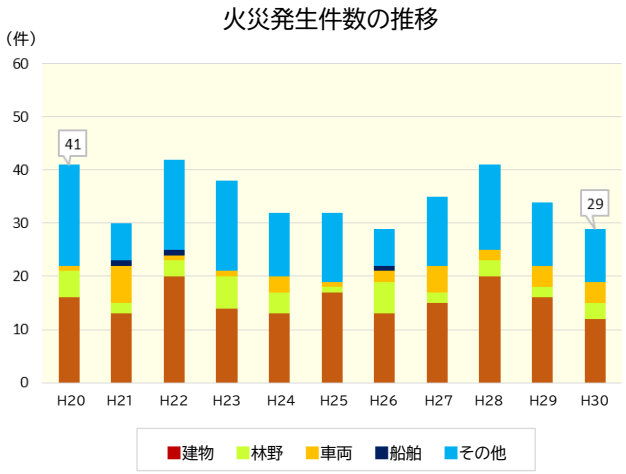
3．公安・防災

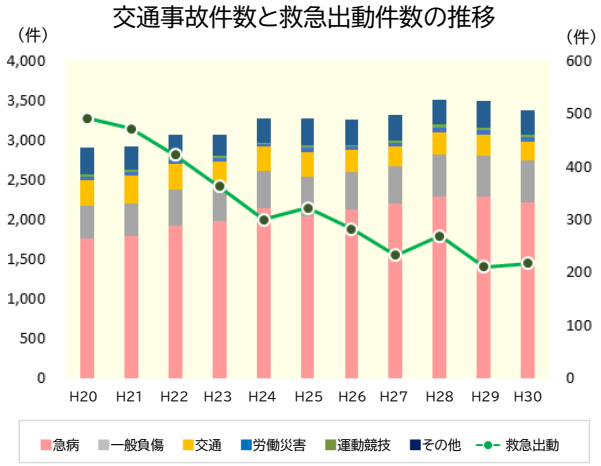
（1） 消防･救急

○本市の火災発生件数は、増減を繰り返しながらも減少傾向にあります。火災の内訳は、建物火災が最も多く、平成30年は、29件中12件が建物火災でした。

○救急活動は増加傾向にあります。中でも、急病に関する出動が増加しており、平成30年は 2,210 件ありました。この要因の一つとして高齢者の増加が考えられます。

○また、交通事故件数は大きく減少しており、交通に関する救急出動も減少しています。





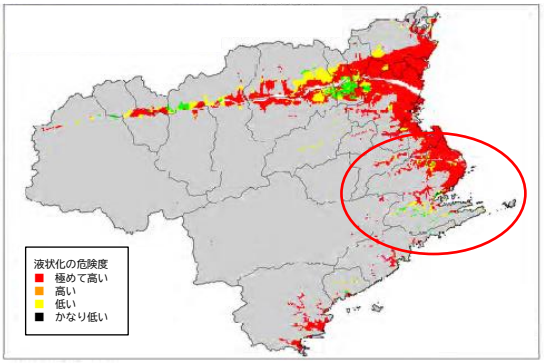
（2） 防災

① 南海トラフ地震の発生で想定される被害

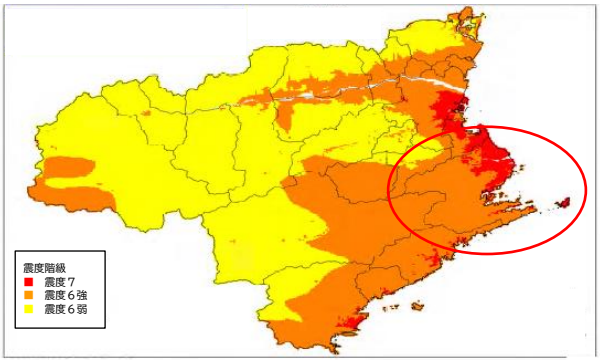
○南海トラフ地震は、今後30年以内に 60～70%、今後 50 年以内に 90%の確率で発生するといわれています。

○本市では、南海トラフ地震で震度7又は6強の非常に強い揺れが、長ければ約5分間も続くと予測されており、沿岸部や那賀川･桑野川流域では液状化の危険度が極めて高く、建物や堤防･護岸、道路などが傾いたり崩壊したりするおそれがあります。

▼液状化危険度分布図



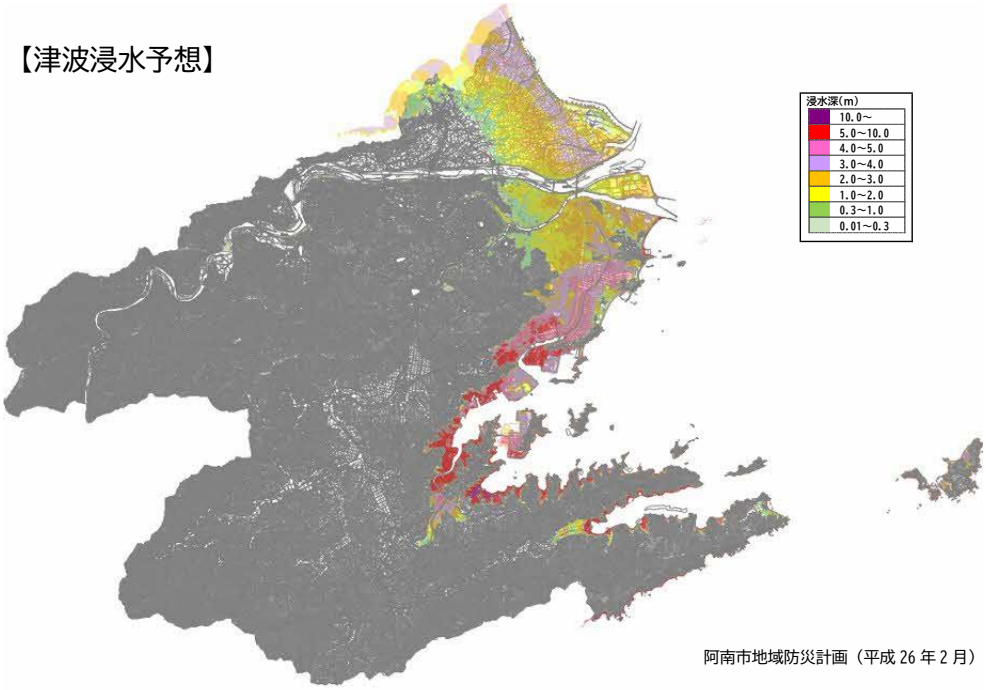
▼震度分布図



○津波による影響は、伊島で地震発生後から約12分後に、福井川河口では約19分後に、那賀川河口では約23分後に影響が出始め、浸水被害は市全体の約 16%に当たる 45 ㎢にも及ぶと想定されています。

○押し寄せる津波の高さは、伊島漁港で最大 6.2m、那賀川河口で最大 6.1m、大潟漁港で最大 6.1m、福井川河口では最大 8.2mの大津波が発生することが想定されています。

【津波浸水予想】



阿南市地域防災計画（平成 26 年 2 月）

② 防災拠点となる公共施設用の耐震化

○消防庁が毎年実施している「防災拠点となる公共施設等の耐震化」に関する調査に基づく、本市の公共施設等の耐震化の状況について、平成30年3月末現在における耐震率は、文教施設、消防本部・消防署所、社会福祉施設、体育館、庁舎、公民館等は100%で、社会福祉施設が 87.8%、その他（クリーンピュア、商工業振興センターなど）が 88.9%となっています。

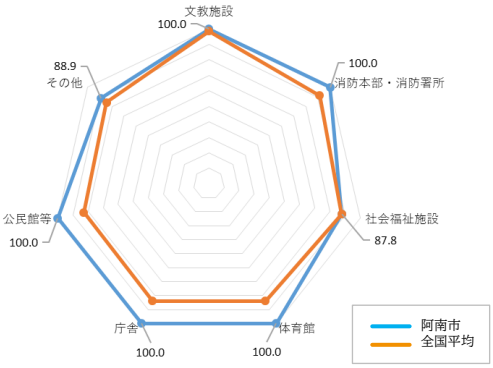
○本市の防災拠点となる公共施設の耐震率は、社会福祉施設を除き、すべて全国平均を上回っています。

防災拠点となる公共施設用の耐震化の状況

（平成 30 年 3 月 31 日現在）

（%）

	阿南市	全国（平均）
文教施設	100.0	98.5
消防本部・消防署所	100.0	91.5
社会福祉施設	87.8	88.0
体育館	100.0	84.0
庁舎	100.0	83.9
公民館等	100.0	82.8
その他	88.9	84.4



４．交通

（１）公共交通

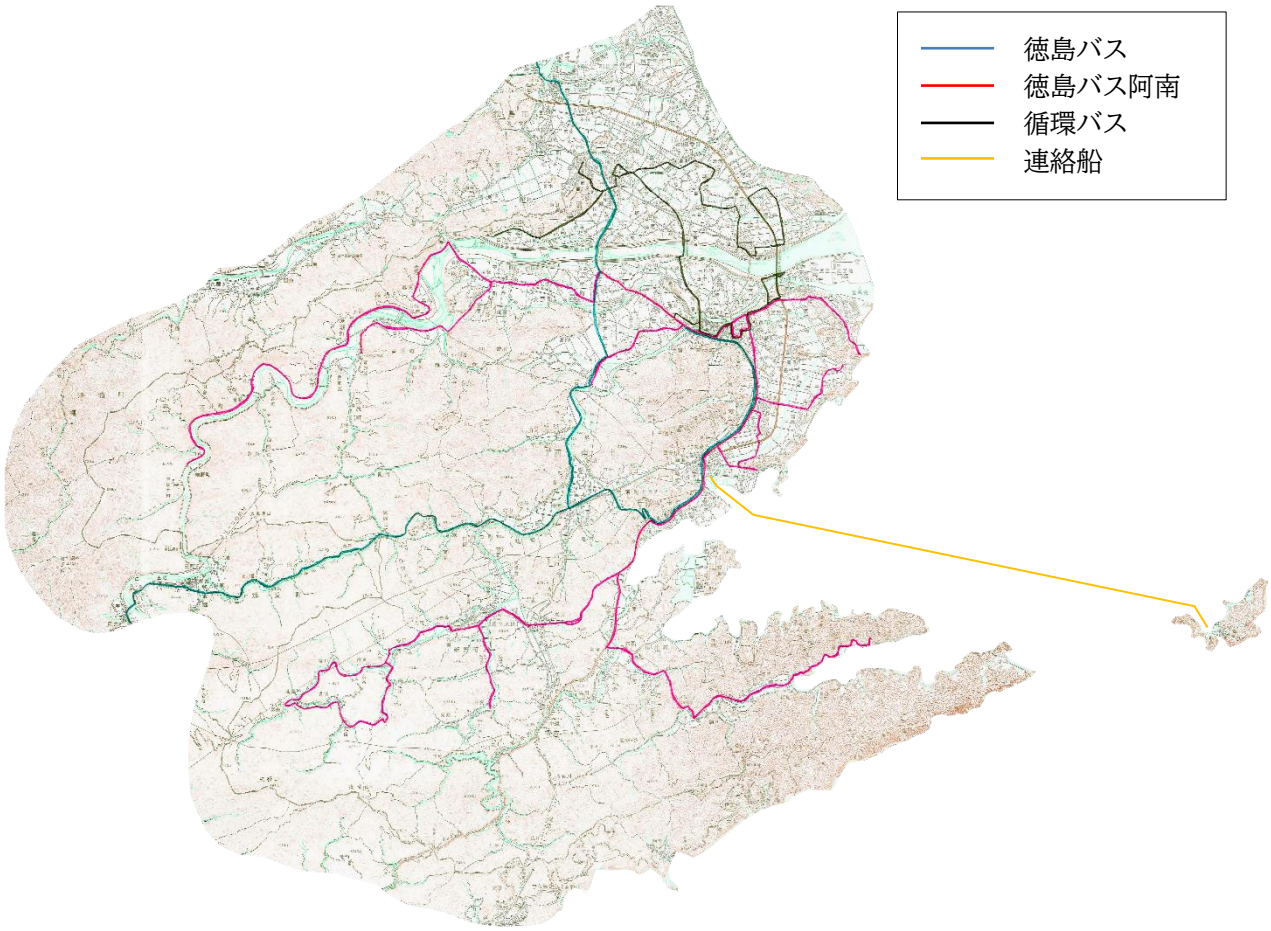
○本市の公共交通ネットワークは、四国旅客鉄道（JR 四国）をはじめ、徳島バス、阿南バス（循環バス含む）のほか、連絡船（みしま）が四国本土（答島港）と離島・伊島を結んでいます。

○地域公共交通は、地域住民の移動手段だけでなく、まちづくり、観光、健康、福祉、教育、環境等、さまざまな分野で大きな役割を果たしています。

○本市では、高齢者の社会参加や生きがい、健康づくりを促進するため、一定の要件を満たす75歳以上の高齢者に無料の乗車（乗船）券を交付しており、年間約 2,300 人の方が利用しています。

○人口減少と少子高齢化の進行により、公共交通を利用する人が年々減少しており、市は路線等を維持するため、年間約 68,000 千円の運行費補助を行っています。

【バスの路線図と連絡船の航路】

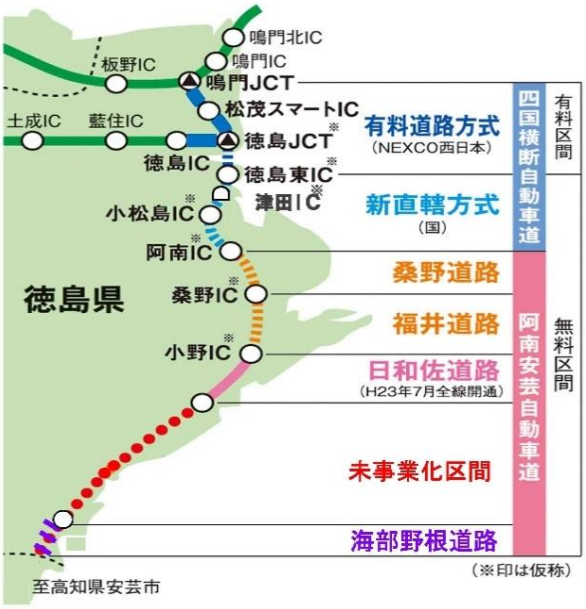


（2）高速交通ネットワーク

○阿南市は、西日本屈指の「豊かな自然と調和した産業都市」であり、世界的なLED生産拠点でもあります。本市の企業には、大きく飛躍する可能性を持ちながら、道路事情からそのポテンシャルが生かしきれていないといった現状があります。また、高速交通ネットワーク網の整備は、本市のみならず徳島県南部、さらには四国東南部の将来を左右する極めて重要な事業です。

○本市が、四国東南部の拠点都市として、このエリアの「人口のダム」機能を果たすためにも、高規格道路と関連道路ネットワークの早期実現を目指していくことが重要です。

○また、当該施策の戦略効果をさらに高めるため、国道 55 号阿南道路と四国横断自動車道及び阿南安芸自動車道を連結する東西アクセス道路の整備も推進していく必要があります。

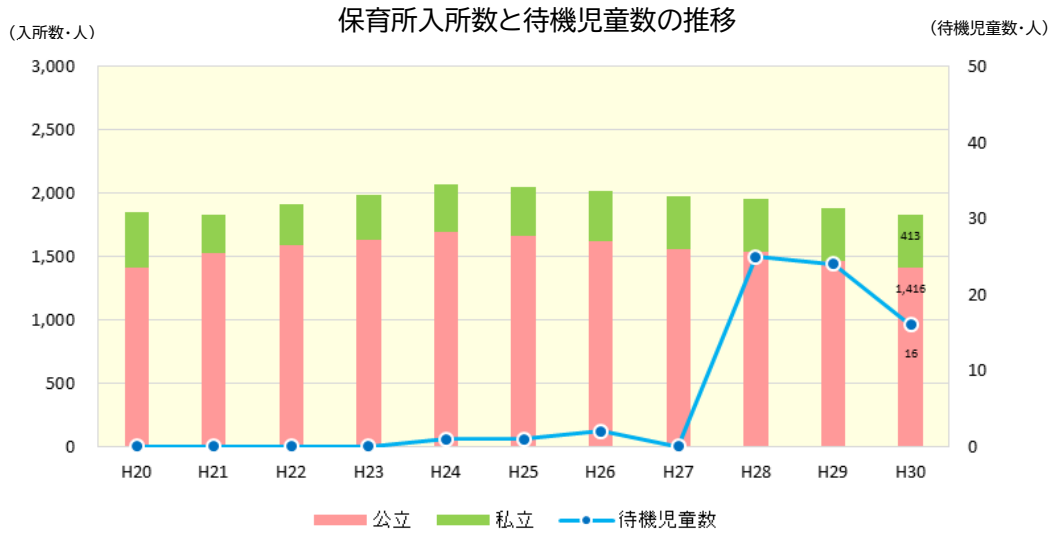


5．子育て

（1）保育の状況

○公立と私立を合わせた保育所の入所数（各年4月1日時点）は、平成24年度をピークに減少しており、平成30年度は 1,829 人となっています。

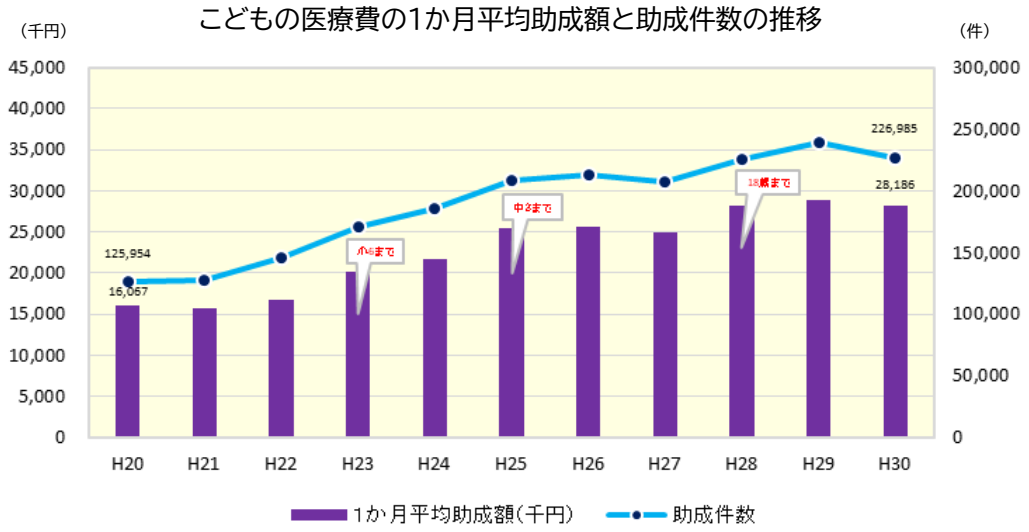
○一方、待機児童数（各年10月1日時点）は、平成28年度に25人、平成29年度に24人、平成30年度に16人となっていますが、これは、「子ども子育て支援制度」の創設により、待機児童の概念がそれまでと変わったことによるものです。



（2）こどもの医療費の推移

○本市は、県内の自治体に先駆けて、段階的にこどもの医療費の助成対象を拡大し、子育て世帯を支援してきました。

○平成28年7月からは、18歳に達する年度末まで助成対象を拡大し、平成30年度の助成件数は、約22万 7 千件で、1か月平均の支給額は 28,186 千円となっています。

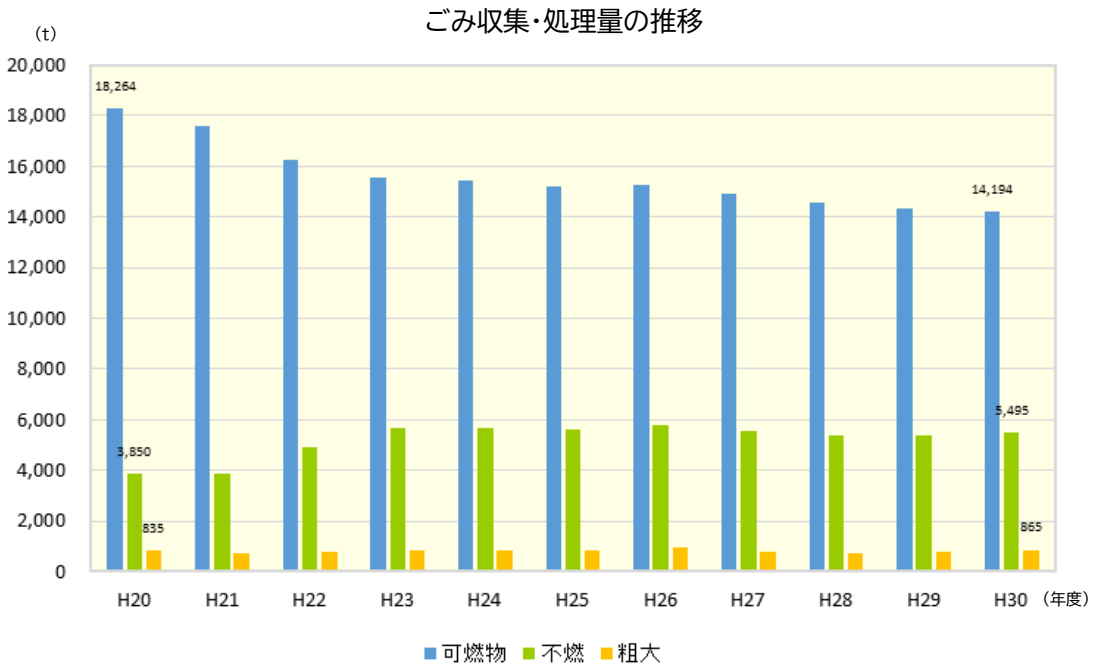


6．環境

（1）ごみ収集･処理の状況

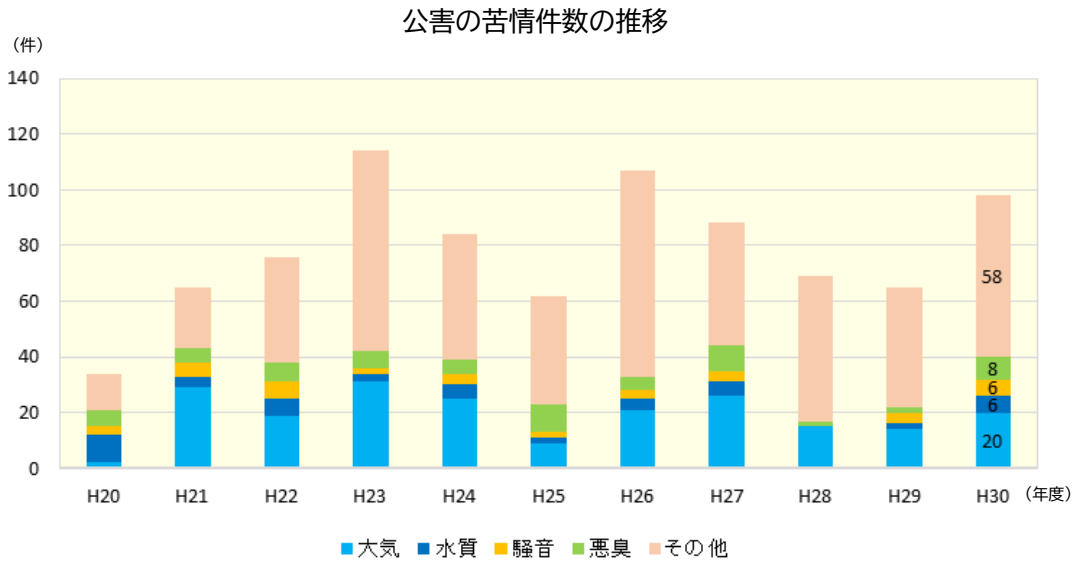
○可燃物の処理量は、平成 20 年度の 18,264tから減少しており、平成30年度は 14,194t（平成20年度比約 22％減）となっています。

○資源ごみのうち、不燃の処理量は年間約 5,500t、粗大の処理量は、年間約 800tで推移しています。



（2）公害苦情

○公害に関する苦情件数について、平成 30 年度では、大気に関する苦情が最も多く、次いで悪臭、水質、振動の順に多くなっています。



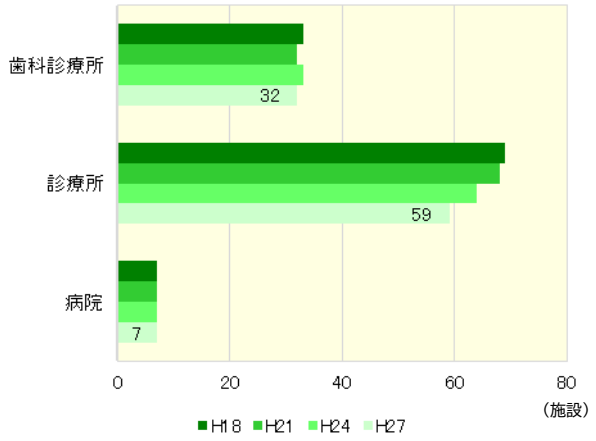
7．健康・医療

（1）医療施設･医師等の推移

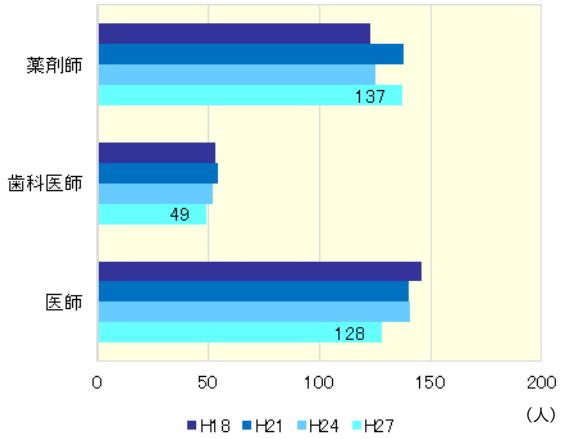
○阿南市内にある医療施設は、平成 27 年には病院が7、診療所が59、歯科診療所が 32 あり、診療所が減少しています。

○医療関係者数は、平成27年には医師が 128 人、歯科医師が 49 人、薬剤師が 137 人で、医師が減少傾向にあります。

医療施設数の推移



医師等の推移



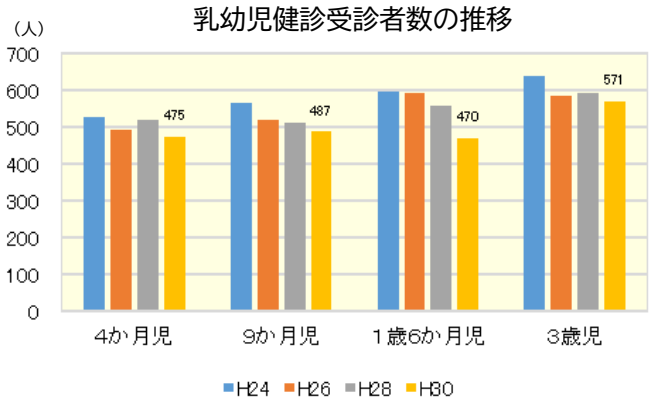
（2）乳幼児健診･がん検診の受診者数の推移

○本市は、4か月、9か月、1 歳6か月、3歳児の乳幼児を対象に健診を実施しています。

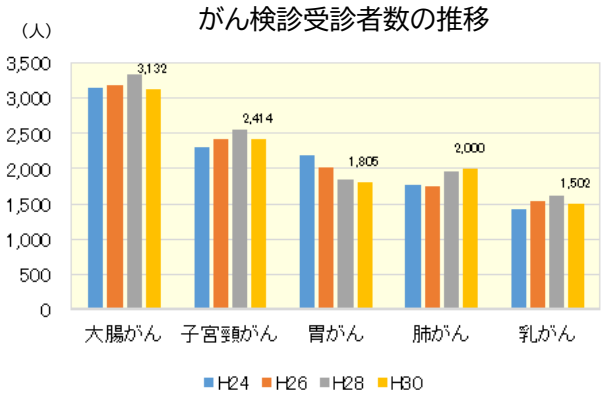
○受診状況は、それぞれ減少傾向にありますが、これは出生数の減少によるものであり、受診率はいずれの健診も増加傾向にあります。

○成人を対象としたがん検診の受診状況（カッコ内は受診率）は、平成30年度では、大腸がんは 3,132 人（6.7%）、子宮頸がんは 2,414 人（14.5%）、胃がんは 1,805 人（3.9%）、肺がんは 2,000 人（4.3%）、乳がんは 1,502 人（11.6%）となっています。

乳幼児健診受診者数の推移



がん検診受診者数の推移



8．福祉

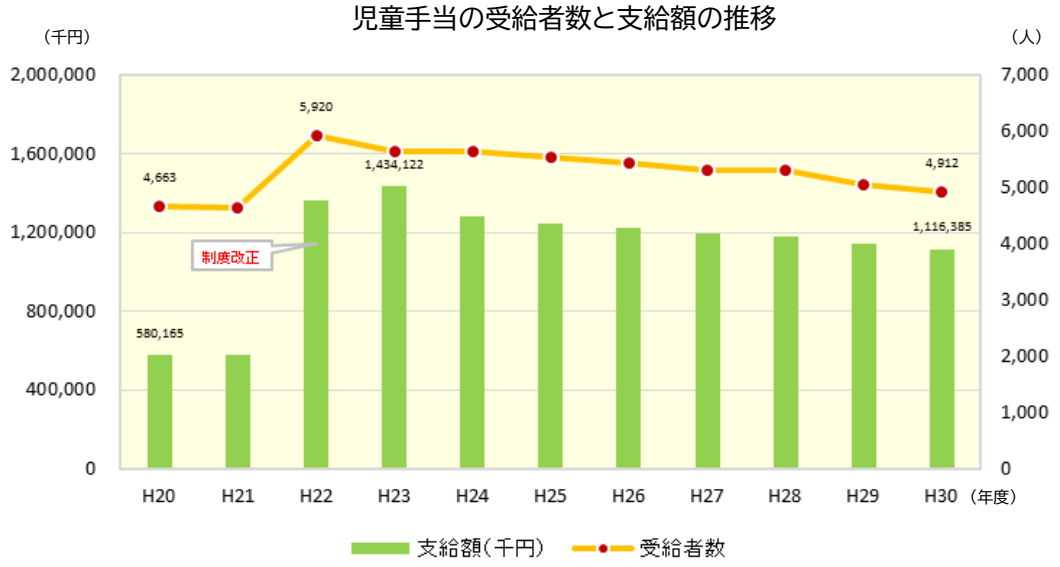
（1）児童手当・児童扶養手当支給額等の推移

○児童手当は、昭和 47 年（1972 年）に制度が創設され、段階的に支給対象や支給額が拡充されてきました。

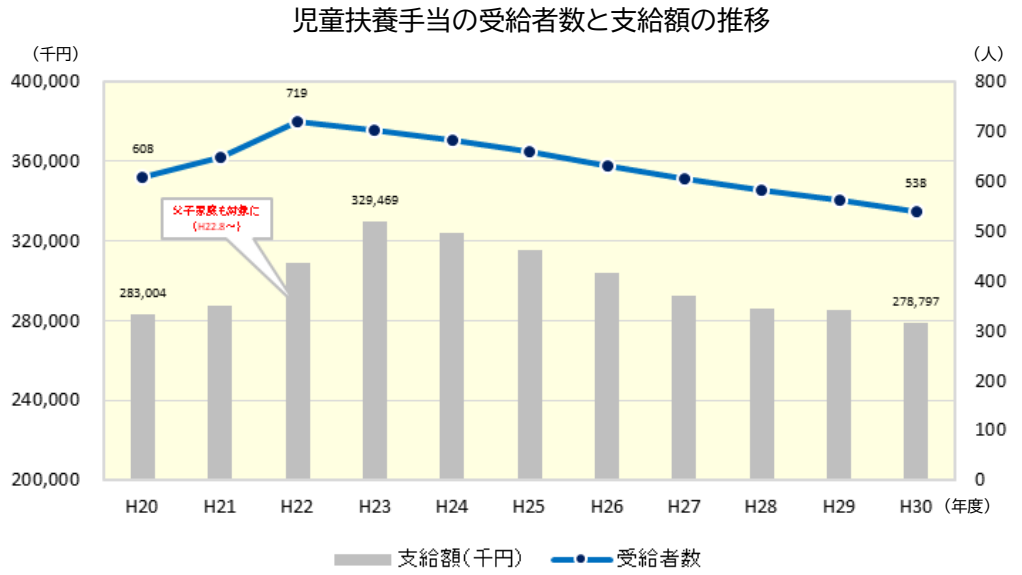
○平成22年（2010年）に受給者及び支給額が大きく伸びているのは、制度改正により、支給対象や支給額が拡充されたことによるものです。

○平成24年には所得制限が復活し、支給対象や支給額が見直され、現在に至っています。

○本市の児童手当の支給額は、受給者数の減少に伴い減少傾向にあります。



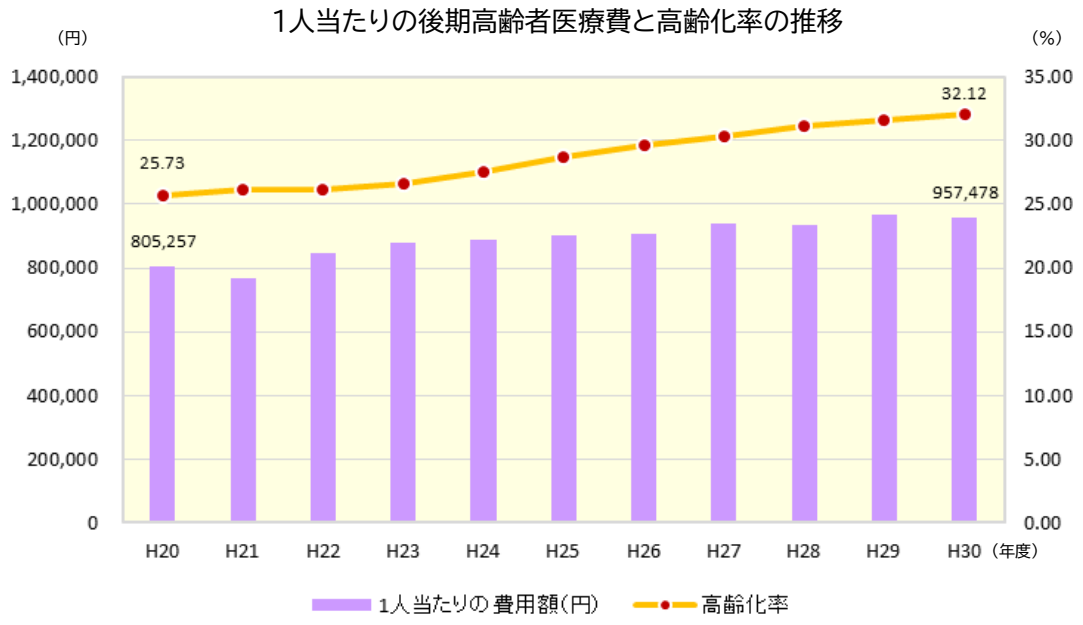
○児童扶養手当については、平成22年8月の制度改正により、父子家庭も児童扶養手当の支給対象となったことから、平成22年から平成23年にかけて受給者数、支給額ともに大きく伸びましたが、その後は減少傾向にあります。



（2）後期高齢者医療費と高齢化率の推移

○本市の後期高齢者医療費は、平成20年度の制度創設以降、緩やかに増加しています。高齢者人口の増加に加え、医療の高度化が主な要因と考えられます。

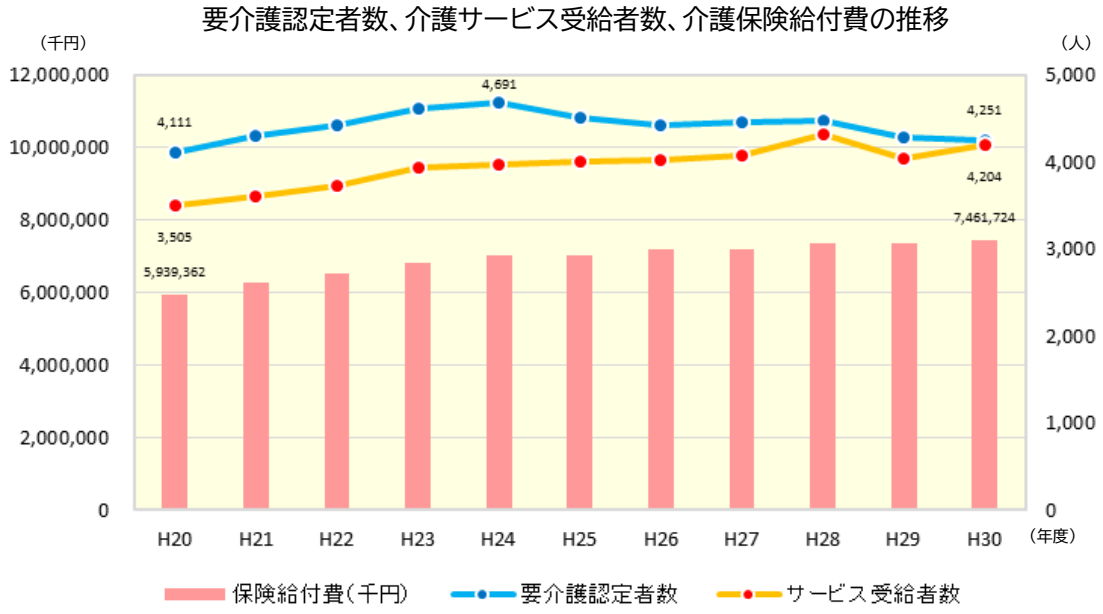
○平成30年度の1人当たりの医療費は 957,478 円で、10年前と比べて約 1.2 倍となっています。高齢者人口の増加により、今後も医療費は増えることが見込まれています。



（3）介護保険の状況

○本市の要介護認定者数（2号被保険者含む）は、平成 24 年度をピークに減少傾向にあります。

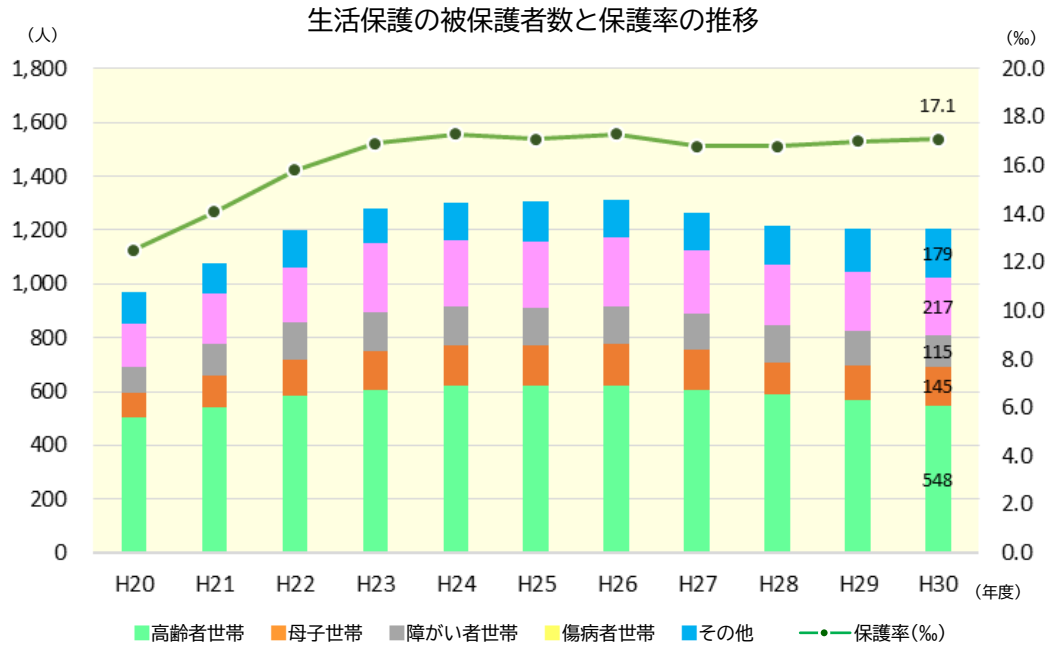
○一方、介護サービスの受給者数は増加傾向にあり、介護保険給付費は、10年間で約1.25倍に増加しています。



（4）生活保護の状況

○被保護者数は、平成 24 年にかけて増加しましたが、平成26年以降は減少しています。

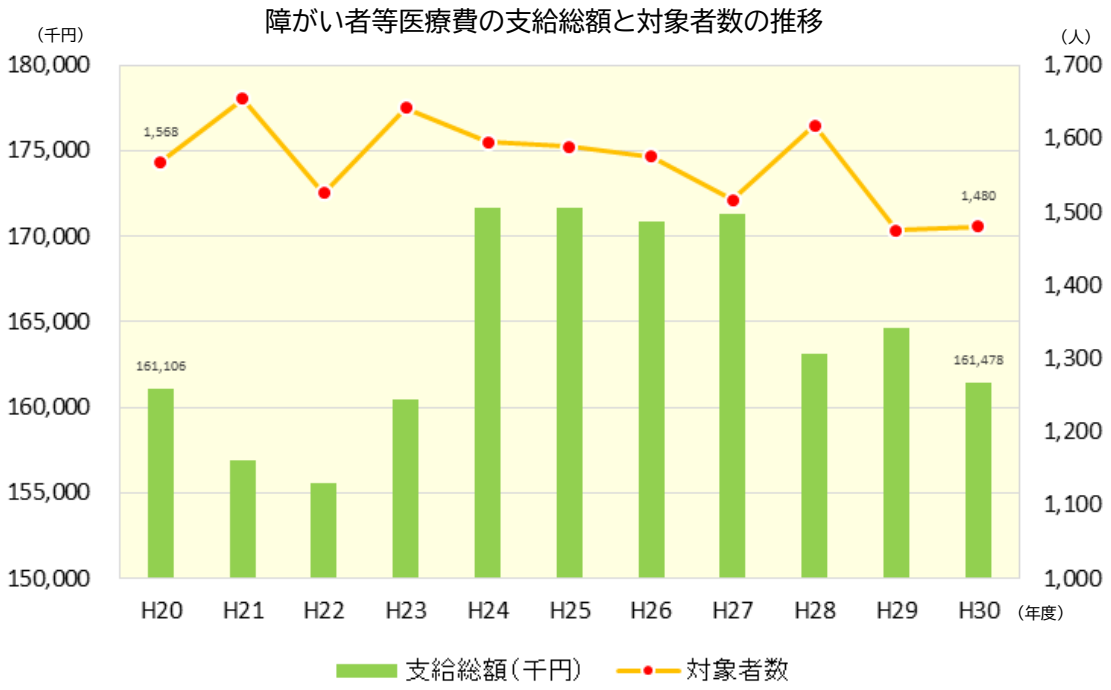
○人口 1,000 人あたりの保護率は、17‰台で推移しており、その 50％以上が高齢者世帯となっています。



（5）障がい者等医療の状況

○重度心身障がい者医療費の助成について、対象者は概ね 1,500 人～1,600 人で推移しています。

○医療費については、平成24年～平成27年にかけて増加しましたが、概ね1億6千万円程度で推移しています。



9．教育・生涯学習

（1）小学校の状況

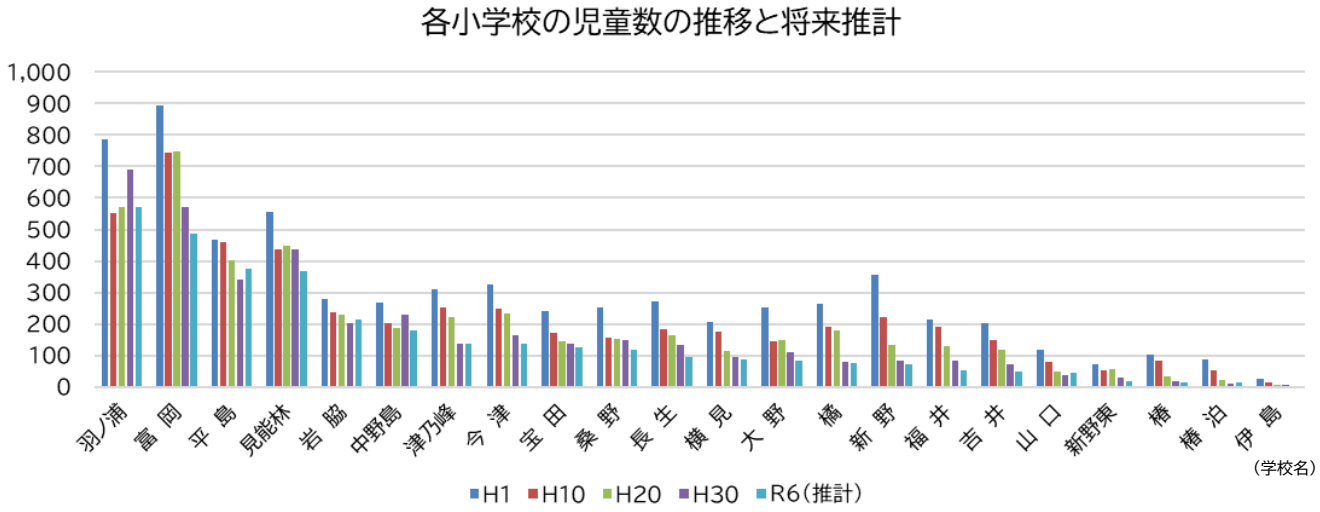
○市内小学校の児童数は、平成元年から減少し始め、平成30年では 3,812 人となっています。

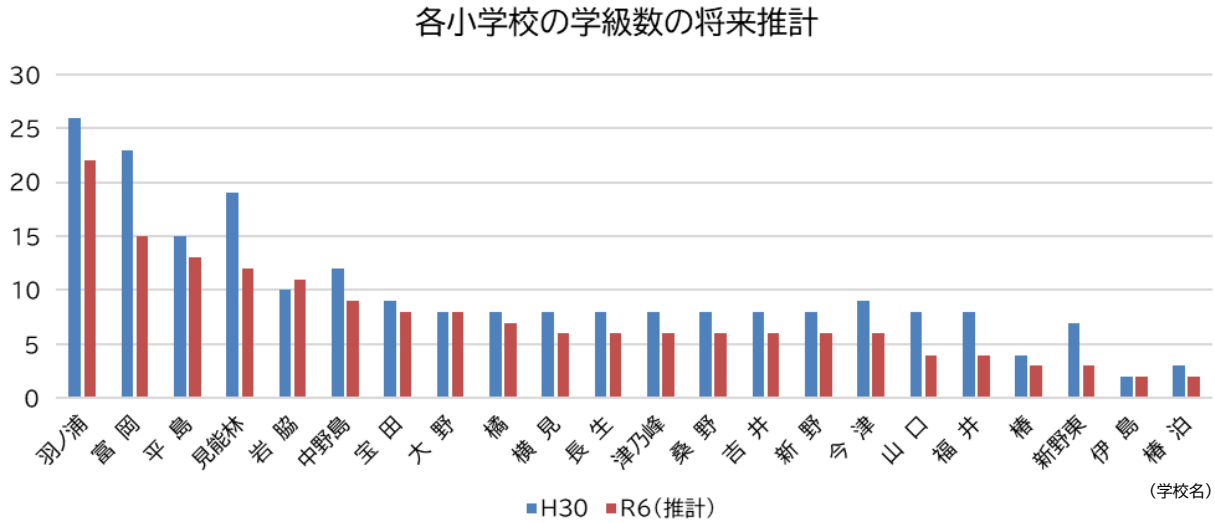
○1学級当たりの児童数は、25人から15人で推移しています。

○平成30年の児童数を学校別に見てみると、羽ノ浦小学校が 690 人で最も多く、最も少ないのは伊島小学校で5人となっています。

○平成30年の学級数を学校別に見てみると、羽ノ浦小学校が 26 で最も多く、最も少ないのは伊島小学校で2となっています。

○平成30年時点における令和6年の児童数推計では、平島、岩脇など一部の小学校で増加する見込みですが、全体的に減少傾向にあります。





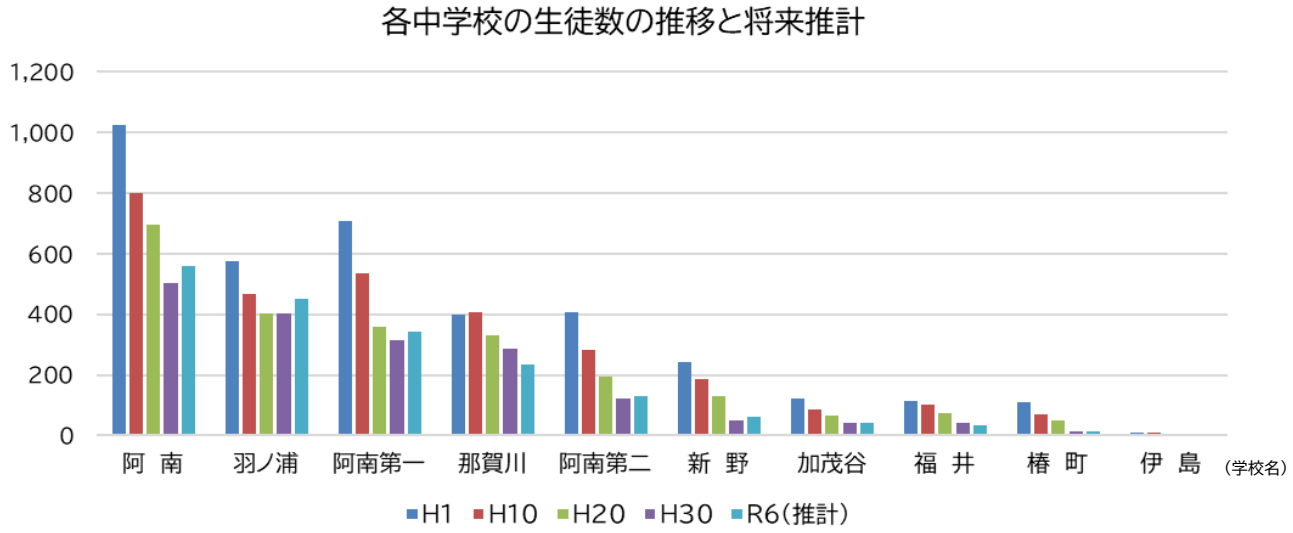
（2）中学校の状況

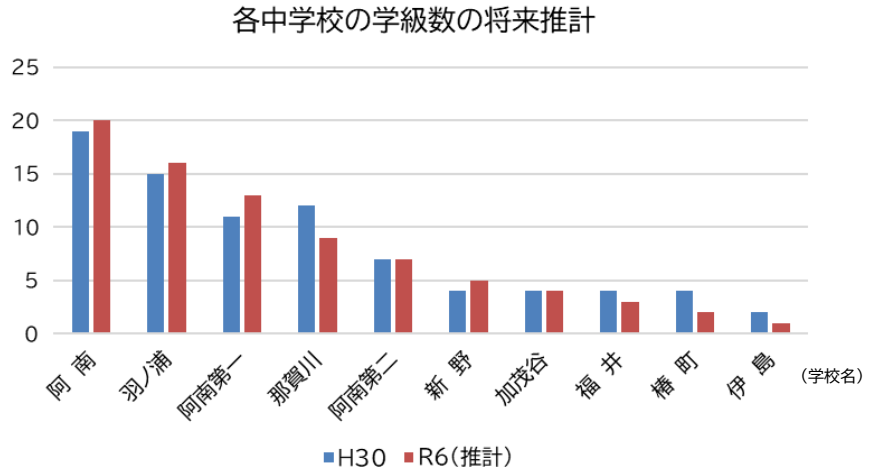
○市内中学校の生徒数は、平成30年で 1,778 人となっており、平成元年から減少しています。1学級当たりの児童数は、35 人から 21 人で推移しています。

○平成30年の生徒数を中学校別に見てみると、阿南中学校が 505 人と最も多く、最も少ないのは伊島中学校で6人となっています。

○平成30年の学級数を中学校別に見てみると、阿南中学校が19と最も多く、最も少ないのは伊島小学校で2となっています。

○平成30年時点における令和6年の生徒数推計では、阿南、羽ノ浦、阿南第一、阿南第二など一部の中学校で増加する見込みですが、全体的に減少傾向にあります。



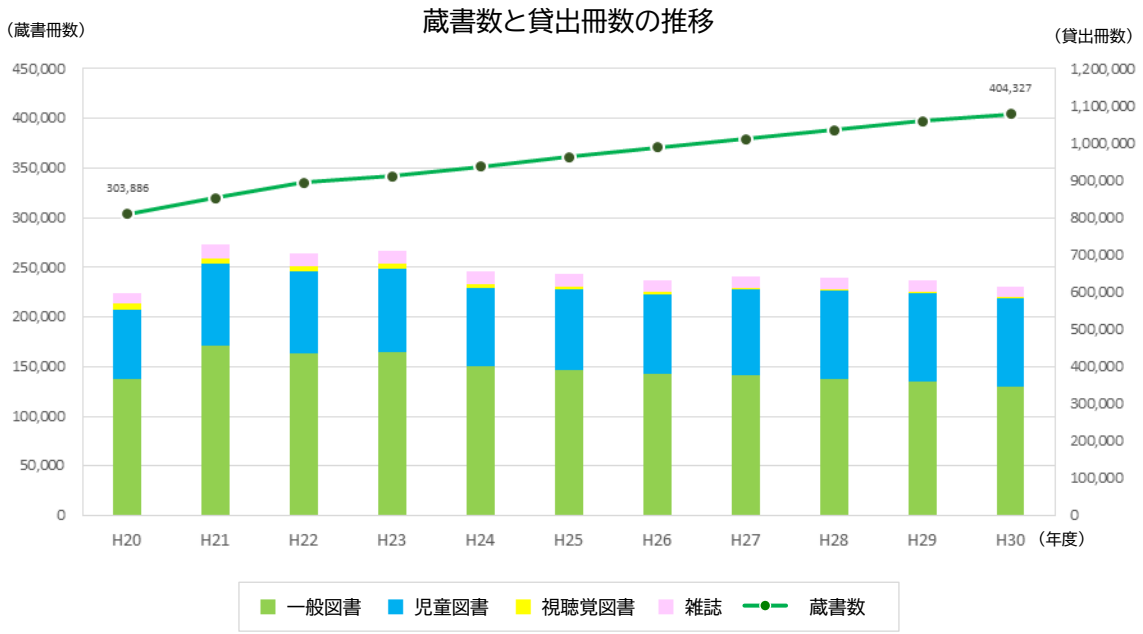


（3）図書館、公民館、文化・体育施設の状況

○本市の図書館は、阿南図書館、那賀川図書館、羽ノ浦図書館の3館があり、年間約14万人（延べ人数）の方が利用しています。

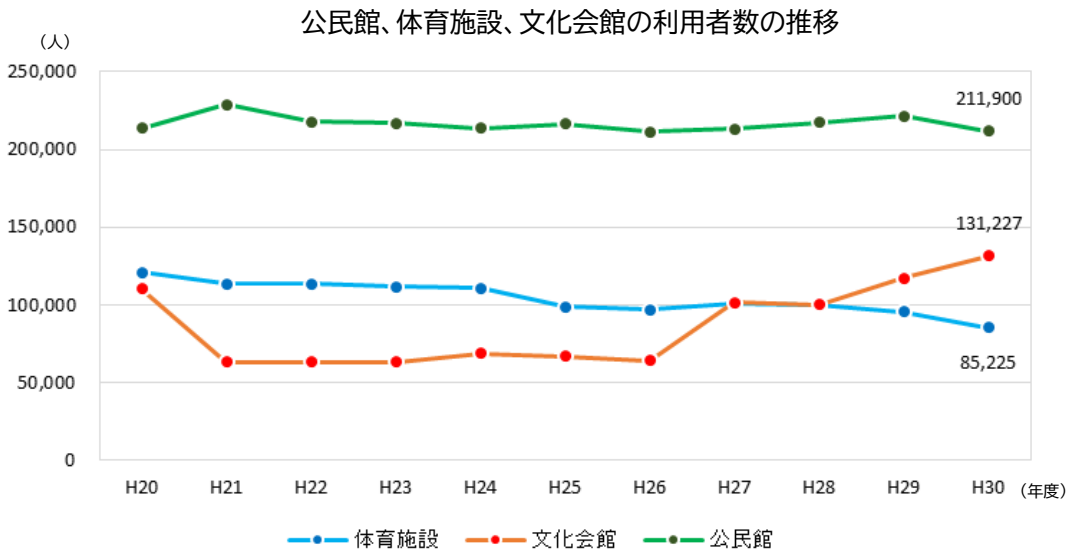
○毎年、図書を購入し、平成31年3月末時点の蔵書数は40万冊を超えています。

○貸出冊数は、おおむね62万冊で推移しており、一般図書、児童図書、雑誌、視聴覚図書の順に多くなっています。



○市内に公民館は14館あり、年間約 21 万人（延べ）の方が利用しています。また、スポーツ総合センターや武道館、B&G 施設の体育施設は、年間約9万人（延べ）の方が利用しています。

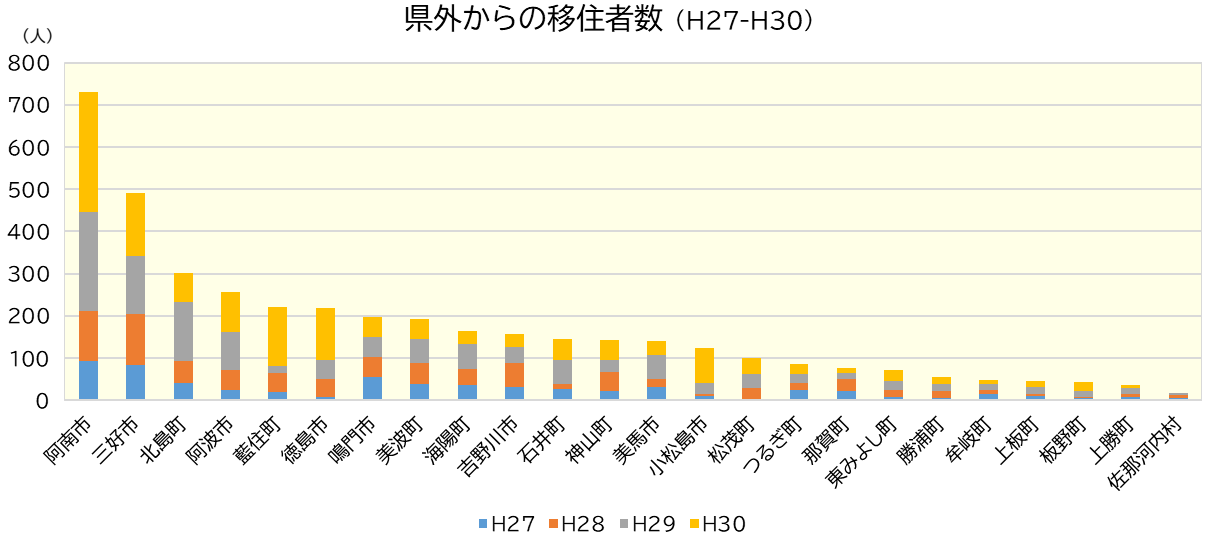
○文化会館の利用者は、平成27年度から大きく伸びており、平成30年度は約13万人（延べ）の方が利用されています。この傾向の要因の一つは、平成29年度から指定管理者制度を導入した効果によるものと考えられます。



１０．移住者

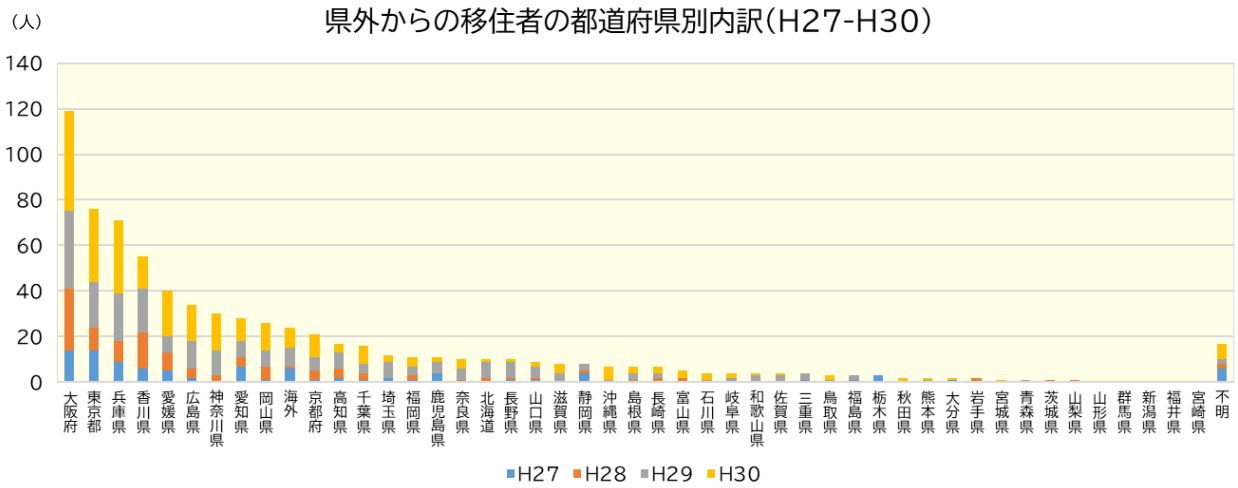
（1）県外からの移住者数

徳島県が統計を取り始めた平成27年度から平成30年度までの4年間における県内への移住者数について見てみると、阿南市は730人で最も多く、年度ごとにみても、平成28年度を除く3か年でいずれも県内トップとなっています。



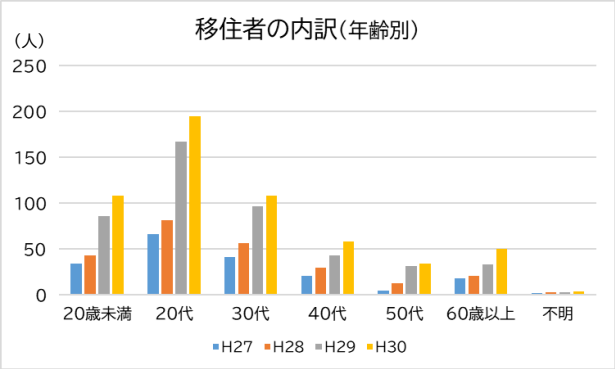
（2）移住者の内訳

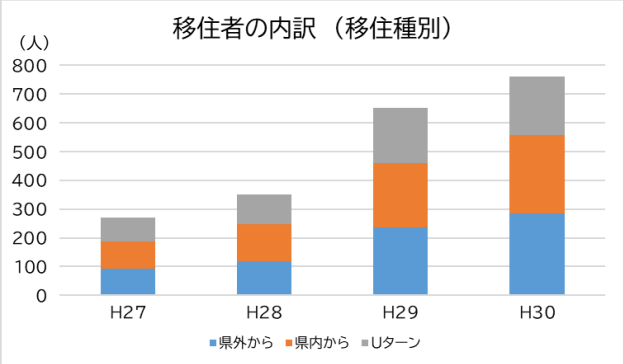
阿南市への移住者を都道府県別に見てみると、大阪府が119人で最も多く、次いで東京都の76人、兵庫県の71人、香川県の55人の順に多くなっています。

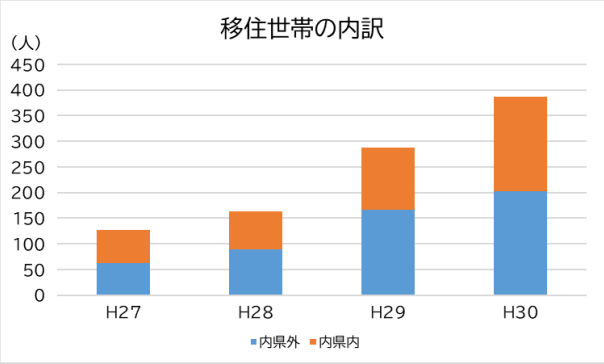


○県内移住者も含めた移住者総数を種別ごとに見てみると、県外からの移住者は 730 人、県内からは 721 人、U ターンが 582 人となっています。

○また、世代別に見てみると、20 代が 195 人で最も多く、30代までの若年層の移住者が全体の4分の3を占めています。



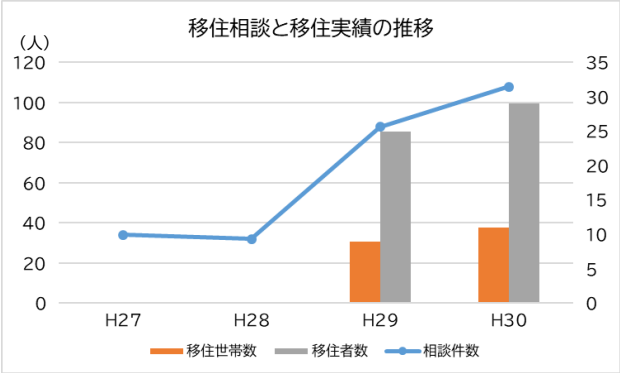




(3) 移住相談と移住実績の推移

○平成27年度から移住相談件数は、平成27年度の34件から平成30年度には 108 件に大きく増加しています。

○また、移住実績は、平成27年度は0件でしたが、平成30年度は20件まで増加しています。平成 29 年度から定住促進課(現在の「ふるさと未来課」)に「移住コーディネーター」を配置し、移住前から移住後までトータルサポートを行うなど、きめ細やかな対応が成果につながっているものと考えられます。



Ⅵ. 都市比較

本市と以下の県内他市及び類似都市等 10 市との比較の結果を整理しました。

県内	徳島市、鳴門市、小松島市、吉野川市、阿波市、美馬市、三好市
四国内の 人口同規模の自治体	【愛媛県】宇和島市、四国中央市
その他	【高知県】南国市

1．人口・世帯数

（1）総人口

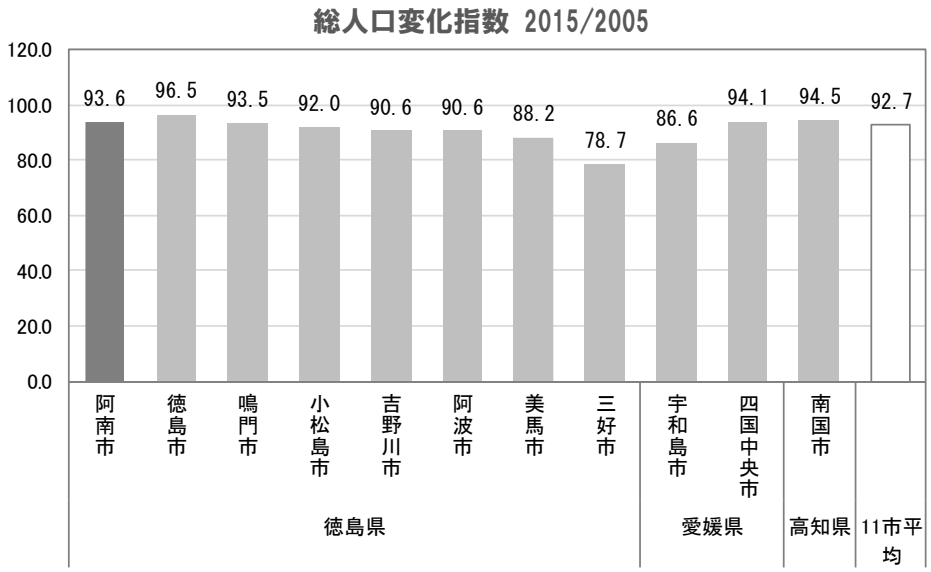
○国勢調査に基づく総人口を見てみると、2015 年の阿南市は 73,019 人で、徳島県内では徳島市に次ぐ規模となっています。

○2005 年に対する 2015 年の総人口変化指数は 93.6 で、比較対象都市 11 市（以下「11 市」という。）の平均（92.7）と大きな違いはありません。なお、11 市すべてで 100 を割り、また、2005 年に対する 2010 年の変化指数よりさらに低下していて、人口の減少が進んでいることがわかります。

総人口の推移

県・都市 ＼ 項目・年次		総人口（人）			総人口変化指数	
		2005年	2010年	2015年	2010/2005	2015/2005
徳島県	阿南市	78,002	76,063	73,019	97.5	93.6
	徳島市	267,833	264,548	258,554	98.8	96.5
	鳴門市	63,200	61,513	59,101	97.3	93.5
	小松島市	42,115	40,614	38,755	96.4	92.0
	吉野川市	45,782	44,020	41,466	96.2	90.6
	阿波市	41,076	39,247	37,202	95.5	90.6
	美馬市	34,565	32,484	30,501	94.0	88.2
	三好市	34,103	29,951	26,836	87.8	78.7
愛媛県	宇和島市	89,444	84,210	77,465	94.1	86.6
	四国中央市	92,854	90,187	87,413	97.1	94.1
高知県	南国市	50,758	49,472	47,982	97.5	94.5
11市平均		76,339	73,846	70,754	96.7	92.7

※国勢調査、着色は上位3市（以下、同様）



指数とは

特定の時点での統計数値（基準数値）と他の調査時点における値を相対的に表したものをいい、単位のない無名数である。今回の総人口変化指数では、2005年を100として2010年、2015年の数値をみている。

（2）年齢３区分別人口

○2015 年国勢調査による年齢3区分別人口の構成比を見てみると、阿南市では年少人口が12.8%、生産年齢人口が 56.3%、老年人口が 30.5%となっています。11 市平均と比較すると、年少人口がやや高く、生産年齢人口及び老年人口は同程度となっています。また、年少人口比率は、11 市すべてで調査年ごとに減少していますが、その中で阿南市は、2005 年では 11 市中2番目に高く、2010 年、2015 年には最も高くなっています。

○2005 年に対する 2015 年の年齢3区分別人口の変化指数を見てみると、年少人口は85.5で、南国市に次いで高くなっています。生産年齢人口は 85.6 で、四国中央市、南国市に次いで徳島市と並んで高くなっています。老年人口は 116.9 で、11 市平均（116.7）と同程度となっています。

年齢3区分別人口の推移

（人・%）

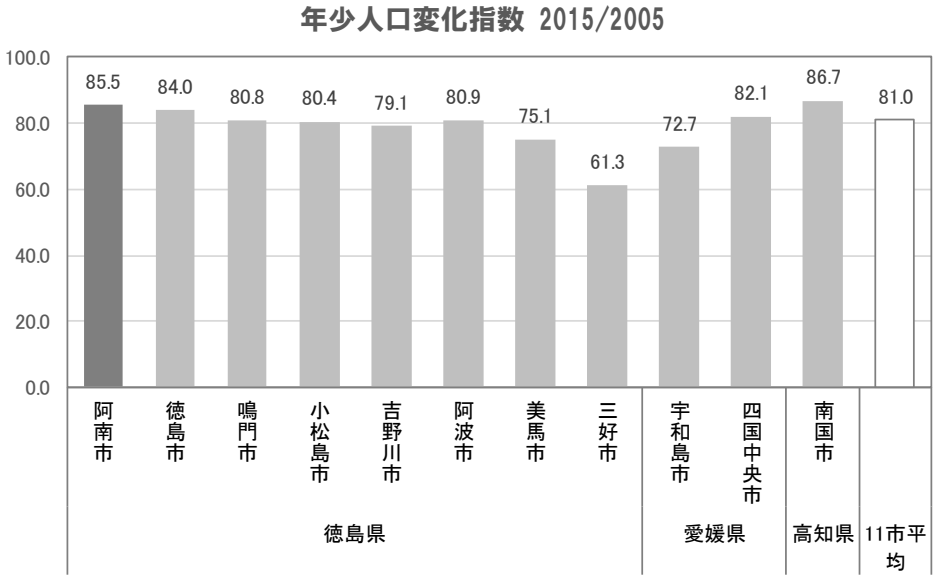
年次・項目		2005年			2010年			2015年		
		年少人口（0～14歳）	生産年齢人口（15～64歳）	老年人口（65歳以上）	年少人口（0～14歳）	生産年齢人口（15～64歳）	老年人口（65歳以上）	年少人口（0～14歳）	生産年齢人口（15～64歳）	老年人口（65歳以上）
徳島県	阿南市	10,948	48,017	19,033	10,244	45,189	20,283	9,366	41,284	22,369
		14.0	61.6	24.4	13.5	59.4	26.7	12.8	56.6	30.6
	徳島市	35,389	177,418	54,922	32,795	164,930	61,457	29,732	151,895	69,378
		13.2	66.2	20.5	12.4	62.3	23.2	11.5	58.7	26.8
	鳴門市	8,170	39,892	15,124	7,408	37,354	16,323	6,600	33,763	18,448
		12.9	63.1	23.9	12.0	60.7	26.5	11.2	57.1	31.2
	小松島市	5,539	26,827	9,748	5,131	24,789	10,661	4,456	22,238	11,934
		13.2	63.7	23.1	12.6	61.0	26.2	11.5	57.4	30.8
	吉野川市	5,609	27,309	12,848	5,046	25,583	13,280	4,434	22,486	14,336
		12.3	59.7	28.1	11.5	58.1	30.2	10.7	54.2	34.6
	阿波市	5,113	24,908	11,054	4,595	23,267	11,305	4,134	20,593	12,427
		12.4	60.6	26.9	11.7	59.3	28.8	11.1	55.4	33.4
	美馬市	4,107	20,091	10,367	3,540	18,537	10,338	3,084	16,526	10,796
		11.9	58.1	30.0	10.9	57.1	31.8	10.1	54.2	35.4
	三好市	3,793	18,074	12,236	2,904	15,655	11,385	2,326	13,500	10,992
		11.1	53.0	35.9	9.7	52.3	38.0	8.7	50.3	41.0
愛媛県	宇和島市	11,675	52,193	25,576	10,125	47,690	26,359	8,483	40,680	28,072
		13.1	58.4	28.6	12.0	56.6	31.3	11.0	52.5	36.2
	四国中央市	13,088	57,761	21,948	11,821	54,314	23,369	10,741	49,719	26,123
		14.1	62.2	23.6	13.1	60.2	25.9	12.3	56.9	29.9
高知県	南国市	6,987	31,985	11,786	6,592	30,092	12,535	6,061	27,501	14,107
		13.8	63.0	23.2	13.3	60.8	25.3	12.6	57.3	29.4
11市平均		10,038	47,680	18,604	9,109	44,309	19,754	8,129	39,999	21,715
		13.1	62.5	24.4	12.3	60.0	26.8	11.5	56.5	30.7

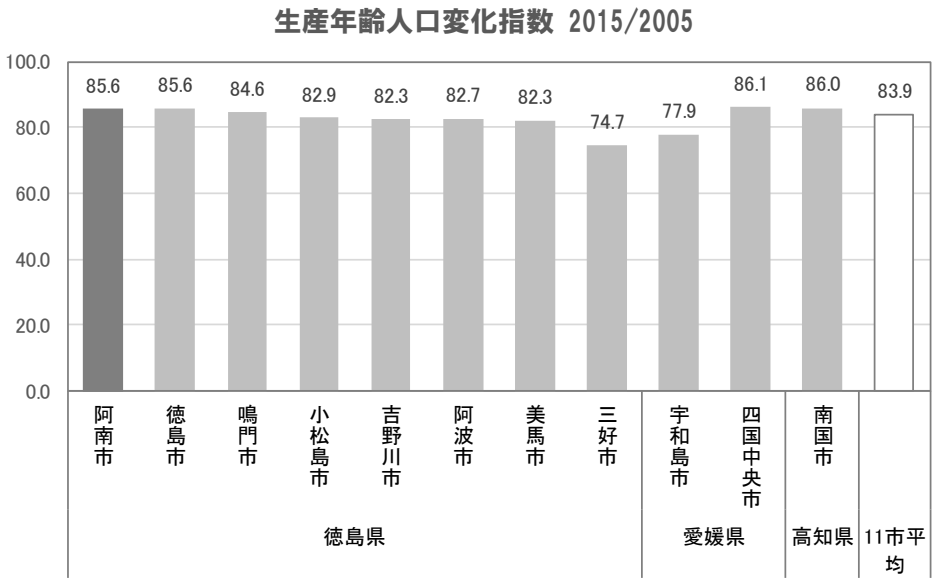
※国勢調査（年齢不詳人口を除く）

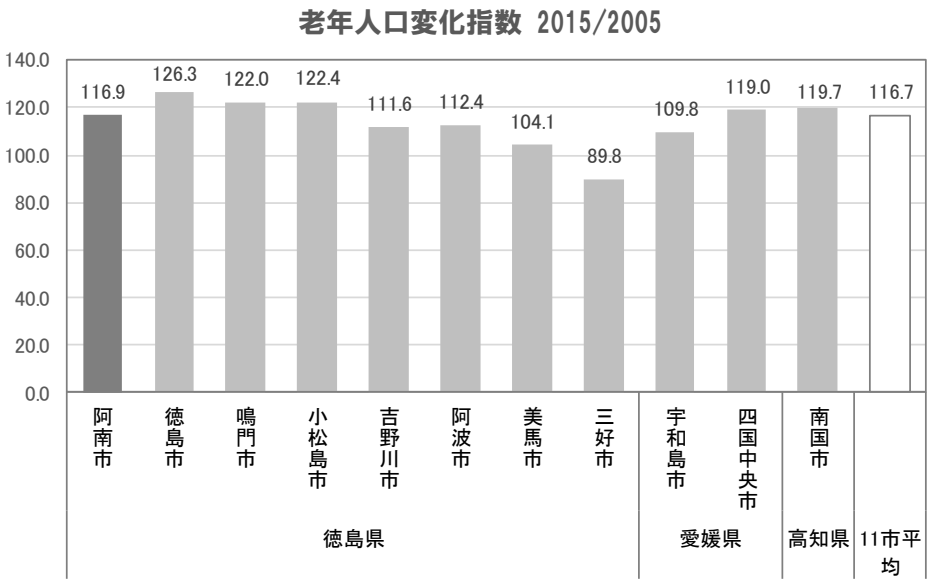
年齢3区分別人口変化指数の推移

県・都市	項目・年次	年少人口変化指数	生産年齢人口変化指数	老年人口変化指数	年少人口変化指数	生産年齢人口変化指数	老年人口変化指数
		2010/2005			2015/2005		
徳島県	阿南市	93.6	94.1	106.6	85.5	85.6	116.9
	徳島市	92.7	93.0	111.9	84.0	85.6	126.3
	鳴門市	90.7	93.6	107.9	80.8	84.6	122.0
	小松島市	92.6	92.4	109.4	80.4	82.9	122.4
	吉野川市	90.0	93.7	103.4	79.1	82.3	111.6
	阿波市	89.9	93.4	102.3	80.9	82.7	112.4
	美馬市	86.2	92.3	99.7	75.1	82.3	104.1
	三好市	76.6	86.6	93.0	61.3	74.7	89.8
愛媛県	宇和島市	86.7	91.4	103.1	72.7	77.9	109.8
	四国中央市	90.3	94.0	106.5	82.1	86.1	119.0
高知県	南国市	94.3	94.1	106.4	86.7	86.0	119.7
11市平均		90.7	92.9	106.2	81.0	83.9	116.7

※国勢調査






老年人口変化指数 2015/2005
140.0
120.0
100.0
80.0
60.0
40.0
20.0
0.0
116.9
126.3
122.0
122.4
111.6
112.4
104.1
89.8
109.8
119.0
119.7
116.7
阿南市
徳島市
鳴門市
小松島市
吉野川市
阿波市
美馬市
三好市
宇和島市
四国中央市
南国市
徳島県
愛媛県
高知県
11市平均

（3）未就学人口

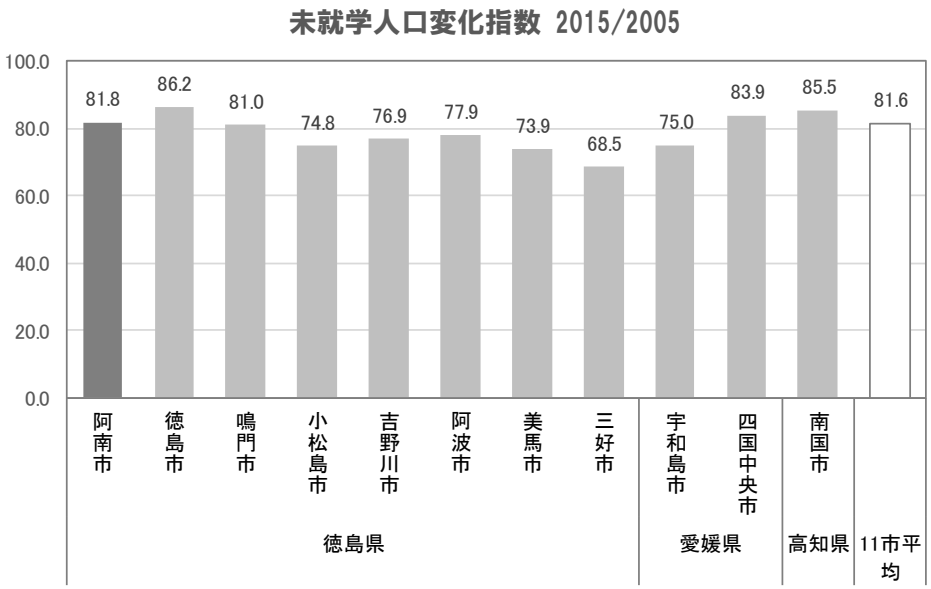
○国勢調査による未就学人口（0～5歳）の総人口に対する割合を見てみると、阿南市では他市と同様に、調査年ごとに減少し、2015 年には 4.6％となっており、11 市中、南国市の4.8％に次いで四国中央市と並んで2番目に高くなっています。

○2005 年に対する 2015 年の未就学人口の変化指数を見てみると、阿南市は 81.8 で、11 市平均（81.6）と同程度となっています。

未就学人口の推移

県・都市 ＼ 項目・年次		未就学人口（0～5歳）（人・％）						未就学人口変化指数	
		2005年		2010年		2015年		2010/2005	2015/2005
徳島県	阿南市	4,113	5.3	3,730	4.9	3,365	4.6	90.7	81.8
	徳島市	13,475	5.0	12,264	4.6	11,619	4.5	91.0	86.2
	鳴門市	2,942	4.7	2,600	4.2	2,383	4.0	88.4	81.0
	小松島市	2,107	5.0	1,917	4.7	1,576	4.1	91.0	74.8
	吉野川市	2,002	4.4	1,762	4.0	1,540	3.7	88.0	76.9
	阿波市	1,764	4.3	1,572	4.0	1,374	3.7	89.1	77.9
	美馬市	1,486	4.3	1,199	3.7	1,098	3.6	80.7	73.9
	三好市	1,179	3.5	904	3.0	808	3.0	76.7	68.5
愛媛県	宇和島市	4,034	4.5	3,492	4.1	3,024	3.9	86.6	75.0
	四国中央市	4,820	5.2	4,466	5.0	4,043	4.6	92.7	83.9
高知県	南国市	2,675	5.3	2,510	5.1	2,286	4.8	93.8	85.5
11市平均		3,691	4.8	3,311	4.5	3,011	4.3	89.7	81.6

※国勢調査



（4）従属人口

○国勢調査による従属人口（年少人口＋老年人口）の 2005 年に対する 2015 年の変化指数を見てみると、阿南市は 105.5 で、11 市平均（104.2）よりやや高くなっています。

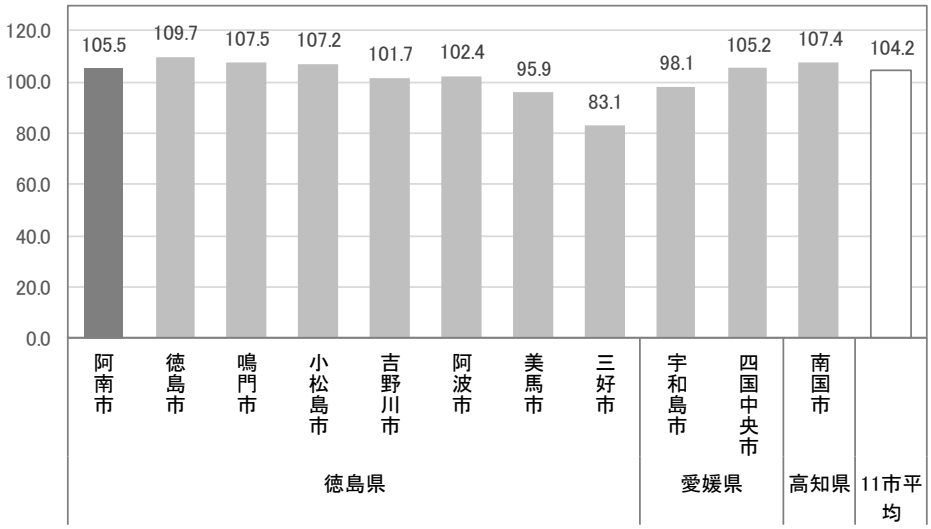
○阿南市の従属人口指数を見てみると、他市と同様に、調査年ごとに高くなり、2015 年には 76.9 となっていて、11 市平均の 74.6 より高くなっています。76.9 というのは、15 歳未満の児童あるいは 65 歳以上の高齢者1人を支えるのに、「15～64 歳」の人が 1.3 人ということを示しています。

従属人口の推移

県・都市	項目・年次	従属人口（人）			従属人口変化指数		従属人口指数		
		2005年	2010年	2015年	2010/2005	2015/2005	2005年	2010年	2015年
徳島県	阿南市	29,981	30,527	31,615	101.8	105.5	62.4	67.6	76.9
	徳島市	90,311	94,252	99,110	104.4	109.7	50.9	57.1	65.2
	鳴門市	23,294	23,731	25,048	101.9	107.5	58.4	63.5	74.2
	小松島市	15,287	15,792	16,390	103.3	107.2	57.0	63.7	73.7
	吉野川市	18,457	18,326	18,770	99.3	101.7	67.6	71.6	83.5
	阿波市	16,167	15,900	16,561	98.3	102.4	64.9	68.3	80.4
	美馬市	14,474	13,878	13,880	95.9	95.9	72.0	74.9	84.0
	三好市	16,029	14,289	13,318	89.1	83.1	88.7	91.3	98.7
愛媛県	宇和島市	37,251	36,484	36,555	97.9	98.1	71.4	76.5	89.9
	四国中央市	35,036	35,190	36,864	100.4	105.2	60.7	64.8	74.1
高知県	南国市	18,773	19,127	20,168	101.9	107.4	58.7	63.6	73.3
11市平均		28,642	28,863	29,844	100.8	104.2	60.1	65.1	74.6

※国勢調査（年齢不詳人口を除く）

従属人口変化指数 2015/2005



従属人口指数とは

年少人口と老年人口の合計を生産年齢人口で割って、100を掛けて求めたものをいいます。生産年齢人口の扶養負担の程度を表すための指標として用いられます。

（5）昼間人口

○国勢調査による昼間人口の 2005 年に対する 2015 年の変化指数を見てみると、11 市すべて 100 を割り、①の総人口（夜間人口、常住人口ともいう）と同様に、減少していることがわかります。その中で、阿南市は 95.5 となっていて、11 市中最も高くなっています。

○昼夜間人口比率（夜間人口に対する昼間人口の比率）を見てみると、阿南市では 2005 年が 99.1 と 100 を割っていましたが、2010 年には 100.2 と 100 を超え、2015 年には 101.1 とわずかながら増加しています。これは通勤や通学で他市町村や他県に流出する人口よりも、流入する人口が多くなっていることを示しています。

昼間人口の推移

県・都市 ＼ 項目・年次		昼間人口（人）			昼間人口変化指数		昼夜間人口比率		
		2005年	2010年	2015年	2010/2005	2015/2005	2005年	2010年	2015年
徳島県	阿南市	77,268	76,182	73,827	98.6	95.5	99.1	100.2	101.1
	徳島市	296,763	289,853	280,361	97.7	94.5	110.8	109.6	108.4
	鳴門市	60,217	59,181	57,187	98.3	95.0	95.3	96.2	96.8
	小松島市	39,149	37,535	36,005	95.9	92.0	93.0	92.4	92.9
	吉野川市	42,048	40,367	38,074	96.0	90.5	91.8	91.7	91.8
	阿波市	37,090	35,792	33,539	96.5	90.4	90.3	91.2	90.2
	美馬市	33,452	31,654	29,761	94.6	89.0	96.8	97.4	97.6
	三好市	34,875	30,844	27,676	88.4	79.4	102.3	103.0	103.1
愛媛県	宇和島市	90,797	85,447	78,314	94.1	86.3	101.5	101.5	101.1
	四国中央市	94,297	91,079	88,166	96.6	93.5	101.6	101.0	100.9
高知県	南国市	53,233	52,216	50,535	98.1	94.9	104.9	105.5	105.3
11市平均		78,108	75,468	72,131	96.6	92.3	102.3	102.2	101.9

※国勢調査。三好市の2005年は合併に伴う合併町村同士の流出・流入について、総務省公表資料で把握できる範囲で差し引きしている。
したがって、統計でみる市区町村のすがた（単純に合算）の数値とは異なる。

昼間人口とは

常住人口（夜間人口）に他の市区町村から通勤・通学してくる人口（流入人口）を足し、さらに他の市区町村へ通勤・通学する人口（流出人口）を引いたものをいいます。

（6）人口密度

○2015 年の阿南市の総面積は 279.25 ㎢で、人口密度は 261.5 人／㎢、可住地面積は 129.95 ㎢、可住地人口密度は 561.9 人／㎢、総面積に対する可住地面積率は 46.5%となっています。可住地人口密度は、11 市平均（794.37 人／㎢）と比較して低くなっていますが、可住地面積率は 11 市平均より高くなっています。

○2005 年に対する 2015 年の可住地人口密度変化指数を見てみると、阿南市は 92.9 で、徳島市、南国市、四国中央市に次いで高くなっています。

人口密度の推移

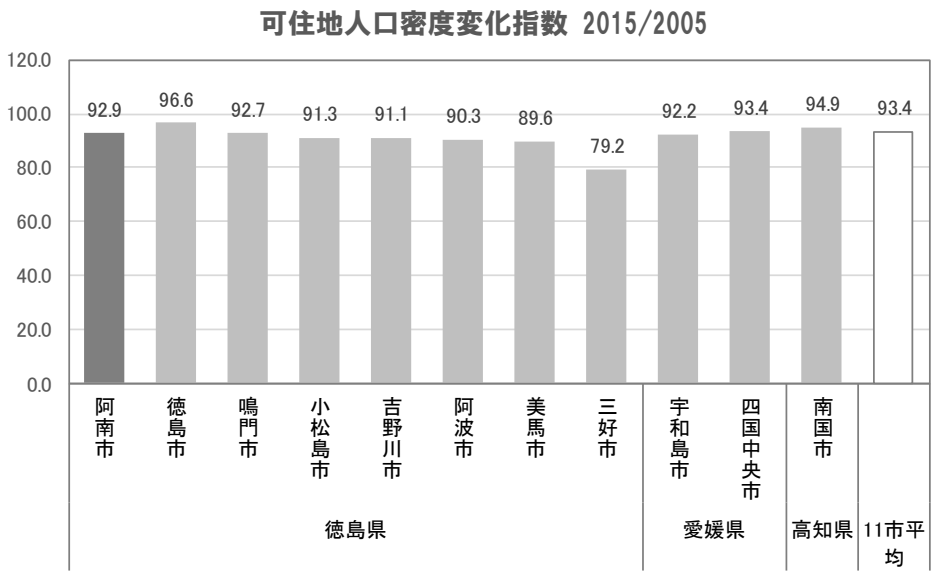
年次・項目・単位		2005年					2010年				
		総面積	人口密度	可住地面積	可住地人口密度	可住地面積率	総面積	人口密度	可住地面積	可住地人口密度	可住地面積率
県・都市		㎢	人／㎢	㎢	人／㎢	%	㎢	人／㎢	㎢	人／㎢	%
徳島県	阿南市	279.39	261.5	128.93	605.0	46.1	279.47	272.2	129.01	589.6	46.2
	徳島市	191.39	1,351.9	139.01	1,926.7	72.6	191.62	1,380.6	139.24	1,899.9	72.7
	鳴門市	135.46	435.7	59.74	1,057.9	44.1	135.46	454.1	59.74	1,029.7	44.1
	小松島市	45.11	854.2	38.05	1,106.8	84.3	45.30	896.6	38.24	1,062.1	84.4
	吉野川市	144.19	287.7	65.51	698.9	45.4	144.19	305.3	65.51	672.0	45.4
	阿波市	190.97	194.7	89.78	457.5	47.0	190.97	205.5	89.78	437.1	47.0
	美馬市	367.38	83.1	76.22	453.5	20.7	367.38	88.4	76.22	426.2	20.7
	三好市	721.48	37.2	94.03	362.7	13.0	721.48	41.5	94.03	318.5	13.0
愛媛県	宇和島市	469.48	165.5	138.51	645.8	29.5	469.58	179.3	138.61	607.5	29.5
	四国中央市	420.09	207.5	93.55	992.6	22.3	420.50	214.5	93.96	959.8	22.3
高知県	南国市	125.35	382.9	64.67	784.9	51.6	125.35	394.7	64.67	765.0	51.6
11市平均		280.9	271.8	89.80	850.1	32.0	281.00	262.8	89.90	821.4	32.0

年次・項目・単位		2015年					可住地人口密度変化指数	
		総面積	人口密度	可住地面積	可住地人口密度	可住地面積率		
県・都市		㎢	人／㎢	㎢	人／㎢	%	2010/2005	2015/2005
徳島県	阿南市	279.25	261.5	129.95	561.9	46.5	97.5	92.9
	徳島市	191.25	1,351.9	138.94	1,860.9	72.6	98.6	96.6
	鳴門市	135.66	435.7	60.26	980.8	44.4	97.3	92.7
	小松島市	45.37	854.2	38.36	1,010.3	84.5	96.0	91.3
	吉野川市	144.14	287.7	65.11	636.9	45.2	96.2	91.1
	阿波市	191.11	194.7	90.00	413.4	47.1	95.5	90.3
	美馬市	367.14	83.1	75.07	406.3	20.4	94.0	89.6
	三好市	721.42	37.2	93.39	287.4	12.9	87.8	79.2
愛媛県	宇和島市	468.16	165.5	130.10	595.4	27.8	94.1	92.2
	四国中央市	421.24	207.5	94.27	927.3	22.4	96.7	93.4
高知県	南国市	125.30	382.9	64.39	745.2	51.4	97.5	94.9
11市平均		280.90	251.9	89.08	794.3	31.7	96.6	93.4

※国勢調査、統計でみる市区町村のすがた

可住地面積とは

総面積から林野面積及び主要湖沼面積を引いたものをいいます。林野面積は森林面積と森林以外の草地をいい、主要湖沼は面積1㎢以上の湖沼で、かつ人造湖以外のものをいいます。


可住地人口密度変化指数 2015/2005
120.0
100.0
80.0
60.0
40.0
20.0
0.0
92.9
96.6
92.7
91.3
91.1
90.3
89.6
79.2
92.2
93.4
94.9
93.4
阿南市
徳島市
鳴門市
小松島市
吉野川市
阿波市
美馬市
三好市
宇和島市
四国中央市
南国市
徳島県
愛媛県
高知県
11市平均

（7）一般世帯

○国勢調査による一般世帯の状況を見てみると、2015 年の阿南市では 27,129 世帯、世帯人員は 70,810 人、1世帯当たり人員は 2.61 人となっています。

○1世帯当たり人員は、11 市ともに調査年ごとに減少し、世帯規模が縮小していますが、2015 年の阿南市は阿波市に次いで多くなっています。

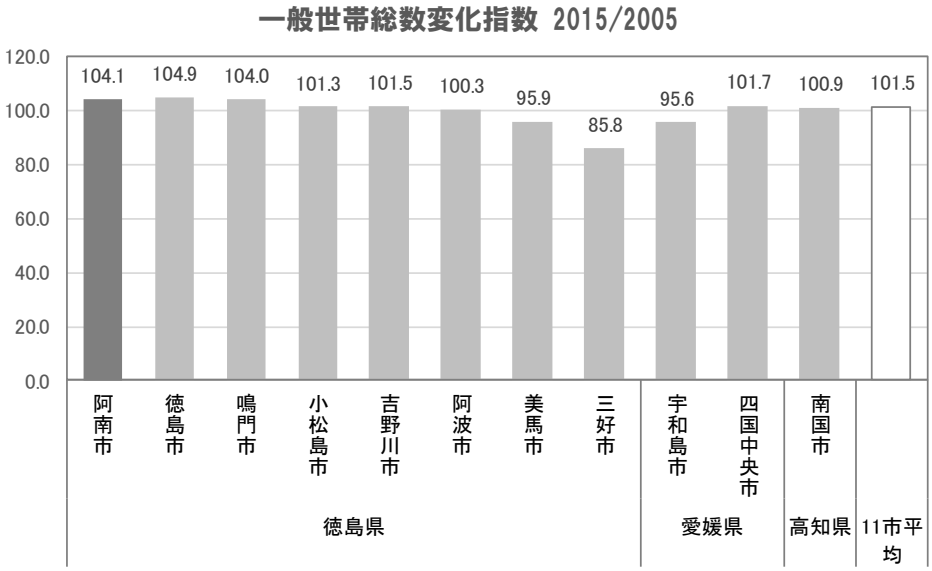
○2005 年に対する 2015 年の一般世帯総数変化指数を見てみると、阿南市は 104.1 で、徳島市に次いで高くなっています。

一般世帯総数の推移

（世帯・人）

県・都市	年次・項目	2005年			2010年			2015年			一般世帯総数変化指数	
		一般世帯総数	一般世帯世帯人員	1世帯当たり人員	一般世帯総数	一般世帯世帯人員	1世帯当たり人員	一般世帯総数	一般世帯世帯人員	1世帯当たり人員	2010/2005	2015/2005
徳島県	阿南市	26,052	75,861	2.91	26,851	73,822	2.75	27,129	70,810	2.61	103.1	104.1
	徳島市	109,359	259,057	2.37	111,434	255,799	2.30	114,765	249,837	2.18	101.9	104.9
	鳴門市	22,263	60,699	2.73	22,932	59,039	2.57	23,153	56,747	2.45	103.0	104.0
	小松島市	15,012	41,175	2.74	15,172	39,630	2.61	15,200	37,723	2.48	101.1	101.3
	吉野川市	15,445	44,290	2.87	15,755	42,466	2.70	15,670	39,932	2.55	102.0	101.5
	阿波市	13,025	40,398	3.10	13,219	38,434	2.91	13,059	36,307	2.78	101.5	100.3
	美馬市	11,863	33,228	2.80	11,606	31,021	2.67	11,377	29,038	2.55	97.8	95.9
	三好市	13,114	32,640	2.49	11,998	28,626	2.39	11,248	25,457	2.26	91.5	85.8
愛媛県	宇和島市	34,153	87,217	2.55	33,966	81,921	2.41	32,651	75,256	2.30	99.5	95.6
	四国中央市	34,311	91,147	2.66	34,907	88,479	2.53	34,900	85,334	2.45	101.7	101.7
高知県	南国市	19,249	48,587	2.52	19,332	47,208	2.44	19,431	45,577	2.35	100.4	100.9
11市平均		28,531	74,027	2.59	28,834	71,495	2.48	28,962	68,365	2.36	101.1	101.5

※国勢調査



国勢調査における一般世帯とは

住居と生計を共にしている人々の集まりで持ち家や借家等の住宅に住む世帯、下宿や会社の独身寮に住む単身者や住宅以外に住む世帯を意味しています。これに対し、「施設等の世帯」とは、寮や寄宿舎に住む学生と生徒、病院や療養所の入院者、老人ホームや児童保護施設、自衛隊営舎の居住者、そのほか定まった住居を持たない世帯等を意味しています

⑧ 核家族・単独世帯

○国勢調査による核家族世帯数及び単独世帯数の状況を見てみると、2015 年の阿南市では核家族世帯数が 15,761 世帯、単独世帯数が 7,025 世帯となっています。一般世帯総数に占める比率は、核家族世帯が 58.1%、単独世帯が 25.9%で、調査年ごとにそれぞれ高くなっています。また、2015 年の核家族世帯率は、四国中央市、小松島市に次いで高くなっています。

○2005 年に対する 2015 年の核家族世帯数変化指数を見てみると、阿南市は 105.7 で、阿波市に次いで高くなっています。

○2005 年に対する 2015 年の単独世帯数変化指数を見てみると、阿南市は 135.7 で、11 市中最も高くなっています。

核家族・単独世帯数の推移

（世帯・%）

県・都市	年次・項目	2005年				2010年			
		核家族世帯数	核家族世帯率	単独世帯数	単独世帯率	核家族世帯数	核家族世帯率	単独世帯数	単独世帯率
	阿南市	14,912	57.2	5,176	19.9	15,459	57.6	6,137	22.9
	徳島市	58,132	53.2	38,797	35.5	58,678	52.7	40,965	36.8
	鳴門市	13,045	58.6	5,272	23.7	13,210	57.6	6,157	26.8
	小松島市	9,015	60.1	3,352	22.3	9,025	59.5	3,786	25.0
	吉野川市	8,763	56.7	3,115	20.2	8,785	55.8	3,745	23.8
	阿波市	6,696	51.4	2,284	17.5	7,042	53.3	2,638	20.0
	美馬市	6,231	52.5	2,757	23.2	6,222	53.6	2,870	24.7
	三好市	6,982	53.2	3,777	28.8	6,354	53.0	3,623	30.2
愛媛県	宇和島市	18,768	55.0	9,250	27.1	18,504	54.5	10,178	30.0
	四国中央市	21,147	61.6	7,989	23.3	21,141	60.6	9,068	26.0
高知県	南国市	11,088	57.6	5,558	28.9	11,161	57.7	5,846	30.2
11市平均		15,889	55.7	7,939	27.8	15,962	55.4	8,638	30.0

（世帯・%）

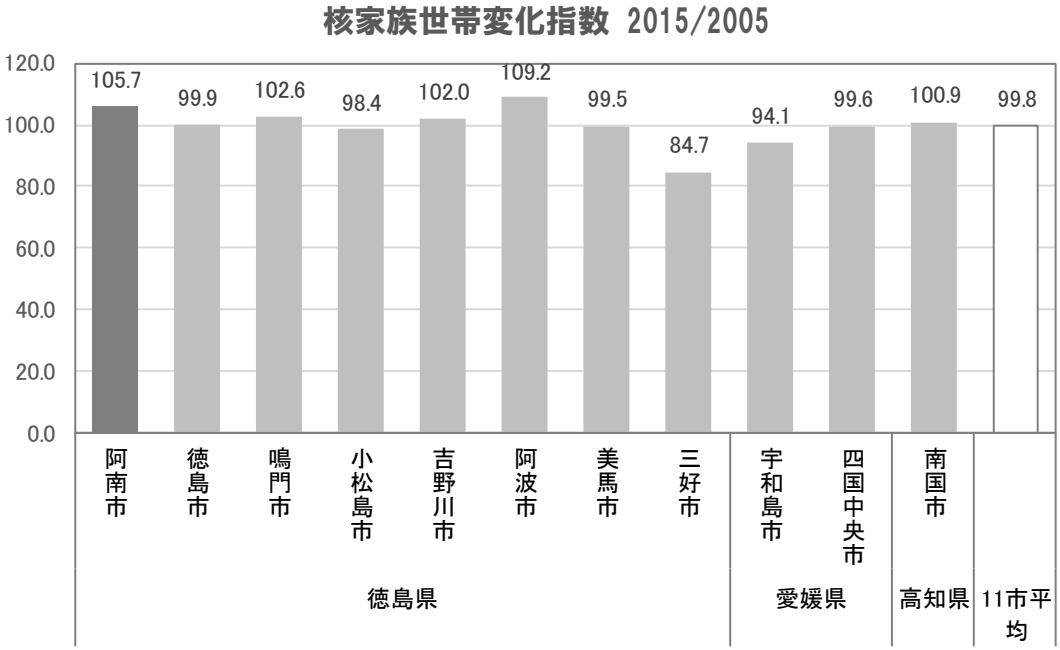
県・都市	年次・項目	2015年				核家族世帯数変化指数		単独世帯数変化指数	
		核家族世帯数	核家族世帯率	単独世帯数	単独世帯率	2010/2005	2015/2005	2010/2005	2015/2005
徳島県	阿南市	15,761	58.1	7,025	25.9	103.7	105.7	118.6	135.7
	徳島市	58,085	50.6	46,270	40.3	100.9	99.9	105.6	119.3
	鳴門市	13,378	57.8	6,826	29.5	101.3	102.6	116.8	129.5
	小松島市	8,872	58.4	4,299	28.3	100.1	98.4	112.9	128.3
	吉野川市	8,942	57.1	4,133	26.4	100.3	102.0	120.2	132.7
	阿波市	7,312	56.0	2,811	21.5	105.2	109.2	115.5	123.1
	美馬市	6,200	54.5	3,041	26.7	99.9	99.5	104.1	110.3
	三好市	5,913	52.6	3,768	33.5	91.0	84.7	95.9	99.8
愛媛県	宇和島市	17,656	54.1	10,691	32.7	98.6	94.1	110.0	115.6
	四国中央市	21,070	60.4	9,802	28.1	100.0	99.6	113.5	122.7
高知県	南国市	11,184	57.6	6,349	32.7	100.7	100.9	105.2	114.2
11市平均		15,852	54.7	9,547	33.0	100.5	99.8	108.8	120.3

※国勢調査

国勢調査における核家族世帯、単独世帯とは

核家族世帯とは、①夫婦のみの世帯、②夫婦と子供から成る世帯、③男親と子供からなる世帯、④女親と子供から成る世帯をいいます。

単独世帯とは、世帯人員が1人の世帯をいいます。


核家族世帯変化指数 2015/2005
120.0
100.0
80.0
60.0
40.0
20.0
0.0
105.7
99.9
102.6
98.4
102.0
109.2
99.5
84.7
94.1
99.6
100.9
99.8
阿南市
徳島市
鳴門市
小松島市
吉野川市
阿波市
美馬市
三好市
宇和島市
四国中央市
南国市
徳島県
愛媛県
高知県
11市平均

（9）高齢者のいる世帯

○国勢調査による高齢者のいる世帯数の 2015 年の状況を見てみると、阿南市では 13,977 世帯で、一般世帯総数に占める割合は 51.5%となっていて、11 市平均(47.4%)より高いものの、11 市中6番目となっています。

○2015 年の阿南市の高齢単身世帯数は 3,233 世帯、高齢夫婦世帯数は 3,766 世帯で、高齢単身世帯及び高齢夫婦世帯を合わせた世帯の高齢者のいる世帯に占める割合は 50.1%で、11 市平均(54.9%)より低く、また、11 市中、阿波市に次いで低くなっています。

○2005 年に対する 2015 年の高齢者のいる世帯の変化指数を見てみると、阿南市は 114.5 で、11 市平均の 114.1 と同程度となっています。

○2005 年に対する 2015 年の高齢単身世帯の変化指数を見てみると、阿南市は 156.4 で、11 市中最も高くなっています。

○2005 年に対する 2015 年の高齢夫婦世帯の変化指数を見てみると、阿南市は 129.9 で、11 市の平均(122.1)に比較して高く、11 市中3番目に高くなっています。

高齢者のいる世帯数の推移

（世帯・%）

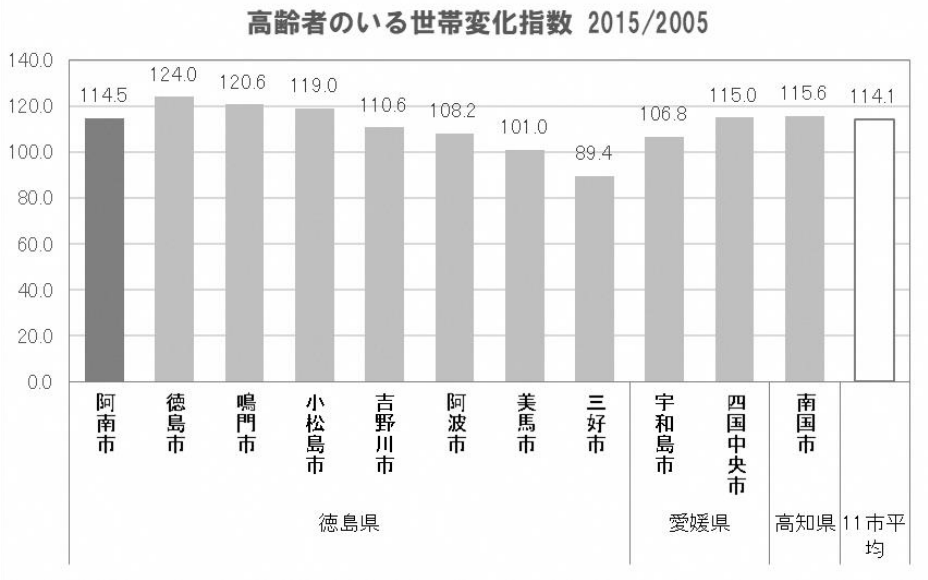
県・都市	年次・項目	2005年					2010年				
		高齢者のいる世帯数	高齢者世帯率	高齢単身世帯	高齢夫婦世帯	高齢単身・夫婦世帯率	高齢者のいる世帯数	高齢者世帯率	高齢単身世帯	高齢夫婦世帯	高齢単身・夫婦世帯率
徳島県	阿南市	12,202	46.8	2,067	2,900	40.7	12,890	48.0	2,530	3,271	45.0
	徳島市	35,550	32.5	9,382	9,270	52.5	39,377	35.3	10,925	10,520	54.5
	鳴門市	9,569	43.0	2,016	2,438	46.5	10,290	44.9	2,393	2,717	49.7
	小松島市	6,433	42.9	1,387	1,602	46.5	6,969	45.9	1,642	1,864	50.3
	吉野川市	8,012	51.9	1,533	1,882	42.6	8,266	52.5	1,817	2,041	46.7
	阿波市	7,190	55.2	1,115	1,303	33.6	7,314	55.3	1,318	1,471	38.1
	美馬市	6,613	55.7	1,461	1,563	45.7	6,465	55.7	1,555	1,557	48.1
	三好市	7,717	58.8	2,176	2,101	55.4	7,230	60.3	2,207	1,902	56.8
愛媛県	宇和島市	17,052	49.9	4,379	4,204	50.3	17,471	51.4	4,956	4,460	53.9
	四国中央市	14,418	42.0	3,066	4,049	49.3	15,220	43.6	3,527	4,377	51.9
高知県	南国市	7,522	39.1	2,534	1,983	60.1	7,954	41.1	2,063	2,114	52.5
11市平均		12,025	42.1	2,829	3,027	48.7	12,677	44.0	3,176	3,299	51.1

県・都市	年次・項目	2015年					高齢者のいる世帯数変化指数		高齢単身世帯変化指数		高齢夫婦世帯変化指数	
		高齢者のいる世帯数	高齢者世帯率	高齢単身世帯	高齢夫婦世帯	高齢単身・夫婦世帯率	2010/2005	2015/2005	2010/2005	2015/2005	2010/2005	2015/2005
徳島県	阿南市	13,977	51.5	3,233	3,766	50.1	105.6	114.5	122.4	156.4	112.8	129.9
	徳島市	44,073	38.4	13,835	12,032	58.7	110.8	124.0	116.4	147.5	113.5	129.8
	鳴門市	11,537	49.8	3,031	3,135	53.4	107.5	120.6	118.7	150.3	111.4	128.6
	小松島市	7,657	50.4	1,946	2,158	53.6	108.3	119.0	118.4	140.3	116.4	134.7
	吉野川市	8,861	56.5	2,217	2,324	51.2	103.2	110.6	118.5	144.6	108.4	123.5
	阿波市	7,777	59.6	1,533	1,844	43.4	101.7	108.2	118.2	137.5	112.9	141.5
	美馬市	6,677	58.7	1,754	1,619	50.5	97.8	101.0	106.4	120.1	99.6	103.6
	三好市	6,897	61.3	2,247	1,825	59.0	93.7	89.4	101.4	103.3	90.5	86.9
愛媛県	宇和島市	18,205	55.8	5,705	4,714	57.2	102.5	106.8	113.2	130.3	106.1	112.1
	四国中央市	16,577	47.5	4,161	4,874	54.5	105.6	115.0	115.0	135.7	108.1	120.4
高知県	南国市	8,694	44.7	2,534	2,367	56.4	105.7	115.6	81.4	100.0	106.6	119.4
11市平均		13,721	47.4	3,836	3,696	54.9	105.4	114.1	112.3	135.6	109.0	122.1

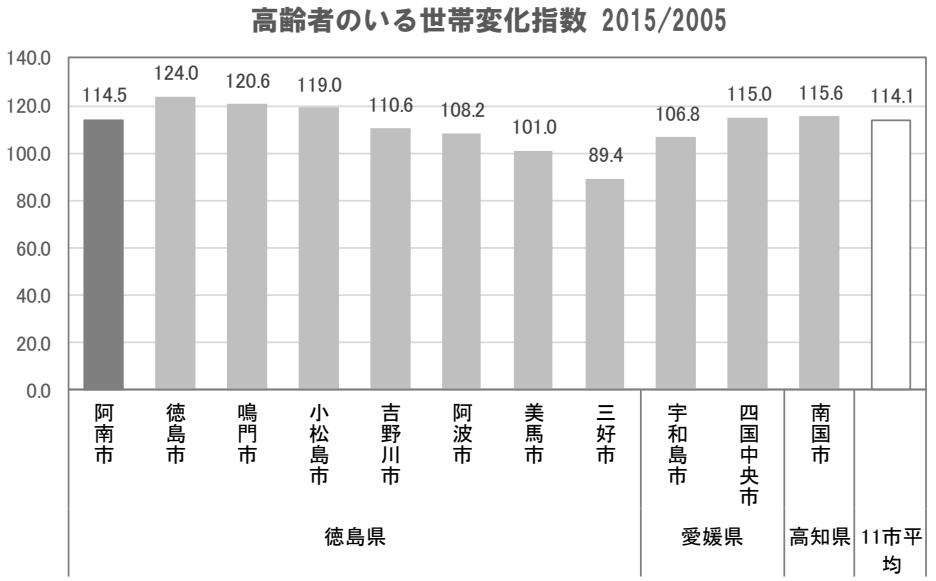
※国勢調査

国勢調査における高齢夫婦世帯とは

夫が65歳以上、妻が60歳以上の夫婦1組の一般世帯（なお、65歳以上のいる世帯に占める割合をみるならば、夫又は妻のいずれかが65歳以上とするほうがよいとも考えられます。平成2年(1990)の国勢調査の集計ではいずれかが65歳以上としていました。）


高齢者のいる世帯変化指数 2015/2005
140.0
120.0
100.0
80.0
60.0
40.0
20.0
0.0
114.5
124.0
120.6
119.0
110.6
108.2
101.0
89.4
106.8
115.0
115.6
114.1
阿南市
徳島市
鳴門市
小松島市
吉野川市
阿波市
美馬市
三好市
宇和島市
四国中央市
南国市
徳島県
愛媛県
高知県
11市平均

高齢単身世帯変化指数 2015/2005
180.0
160.0
140.0
120.0
100.0
80.0
60.0
40.0
20.0
0.0
156.4
147.5
150.3
140.3
144.6
137.5
120.1
103.3
130.3
135.7
100.0
135.6
阿南市
徳島市
鳴門市
小松島市
吉野川市
阿波市
美馬市
三好市
宇和島市
四国中央市
南国市
徳島県
愛媛県
高知県
11市平均


高齢者のいる世帯変化指数 2015/2005
140.0
120.0
100.0
80.0
60.0
40.0
20.0
0.0
114.5
124.0
120.6
119.0
110.6
108.2
101.0
89.4
106.8
115.0
115.6
114.1
阿南市
徳島市
鳴門市
小松島市
吉野川市
阿波市
美馬市
三好市
宇和島市
四国中央市
南国市
徳島県
愛媛県
高知県
11市平均

2．行財政運営

（1）歳入

○市町村決算カードにより市民一人当たりの歳入総額の推移を見てみると、阿南市では2017 年度が 470.7 千円で、11 市平均の 480.2 千円に比較してやや少なくなっています。

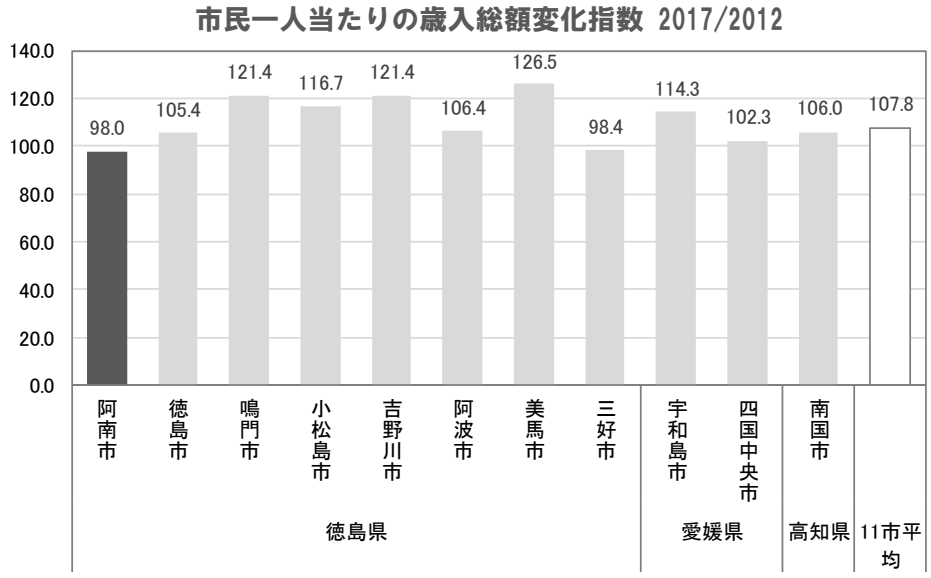
○2012 年度に対する 2017 年度の市民一人当たりの歳入総額の変化指数を見てみると、阿南市は 98.0 で、11 市平均の 107.8 より低く、また、11 市中最も低くなっています。

歳入総額の推移

（人･千円）

県・都市	年度・項目	2012年度 人口	2012年度 歳入総額	2012年度 市民一人当たりの歳入総額	2017年度 人口	2017年度 歳入総額	2017年度 市民一人当たりの歳入総額	市民一人当たりの歳入総額変化指数 2017/2012
徳島県	阿南市	77,126	37,045,940	480.3	74,275	34,961,274	470.7	98.0
	徳島市	257,662	93,190,916	361.7	255,309	97,348,011	381.3	105.4
	鳴門市	61,611	22,992,832	373.2	58,691	26,584,867	453.0	121.4
	小松島市	40,815	14,887,284	364.8	38,442	16,356,492	425.5	116.7
	吉野川市	44,272	20,813,354	470.1	41,848	23,883,484	570.7	121.4
	阿波市	40,415	21,034,530	520.5	38,308	21,210,172	553.7	106.4
	美馬市	32,052	19,496,870	608.3	29,963	23,058,564	769.6	126.5
	三好市	29,994	27,796,309	926.7	26,952	24,572,660	911.7	98.4
愛媛県	宇和島市	83,625	41,433,366	495.5	77,329	43,804,015	566.5	114.3
	四国中央市	92,130	40,933,105	444.3	88,634	40,290,110	454.6	102.3
高知県	南国市	48,529	20,422,251	420.8	47,871	21,358,505	446.2	106.0
11市平均		73,476	32,731,523	445.5	70,693	33,948,014	480.2	107.8

※市町村決算カード



（２）税収

○市町村決算カードにより市民一人当たりの税収額の推移を見てみると、阿南市では 2017 年度が 188.5 千円で、11 市中最も高くなっています。

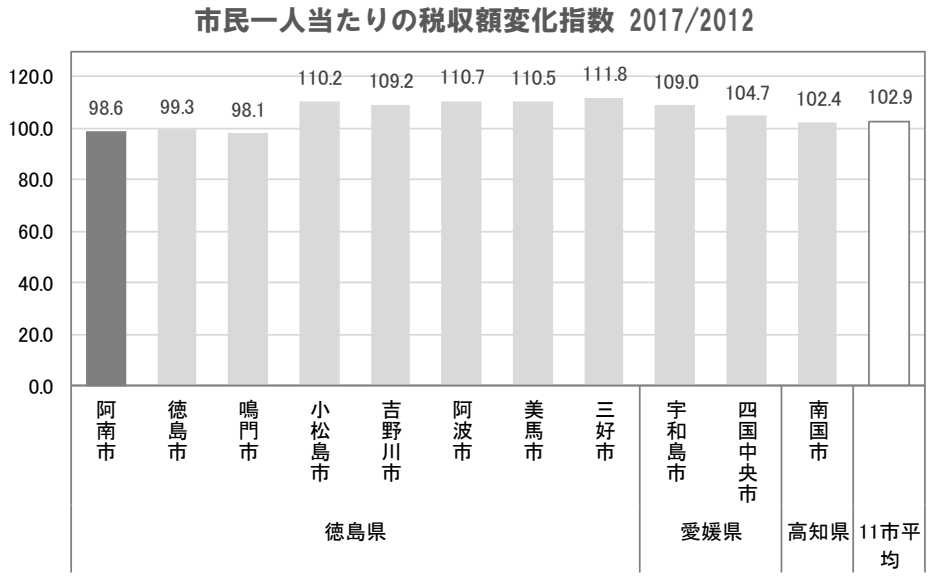
○2012 年度に対する 2017 年度の市民一人当たりの税収額の変化指数を見てみると、阿南市は 98.6 で、11 市平均の 102.9 より低く、また、11 市中鳴門市に次いで低くなっています。

税収の推移

（人・千円）

県・都市	年度・項目	2012年度			2017年度			市民一人当たりの税収額変化指数
		人口	税収	市民一人当たりの税収額	人口	税収	市民一人当たりの税収額	2017/2012
徳島県	阿南市	77,126	14,746,230	191.2	74,275	14,001,603	188.5	98.6
	徳島市	257,662	40,507,464	157.2	255,309	39,840,396	156.0	99.3
	鳴門市	61,611	8,088,773	131.3	58,691	7,560,515	128.8	98.1
	小松島市	40,815	4,322,791	105.9	38,442	4,487,529	116.7	110.2
	吉野川市	44,272	3,978,440	89.9	41,848	4,106,826	98.1	109.2
	阿波市	40,415	3,455,308	85.5	38,308	3,626,980	94.7	110.7
	美馬市	32,052	2,902,092	90.5	29,963	2,999,030	100.1	110.5
	三好市	29,994	2,615,665	87.2	26,952	2,627,204	97.5	111.8
愛媛県	宇和島市	83,625	7,805,336	93.3	77,329	7,864,143	101.7	109.0
	四国中央市	92,130	15,117,932	164.1	88,634	15,224,260	171.8	104.7
高知県	南国市	48,529	5,958,410	122.8	47,871	6,019,221	125.7	102.4
11市平均		73,476	9,954,404	135.5	70,693	9,850,701	139.3	102.9

※市町村決算カード



（3）歳出

○市町村決算カードにより市民一人当たりの歳出総額の推移を見てみると、阿南市では2017年度が447.0千円で、11市平均の466.5千円よりやや少なくなっています。

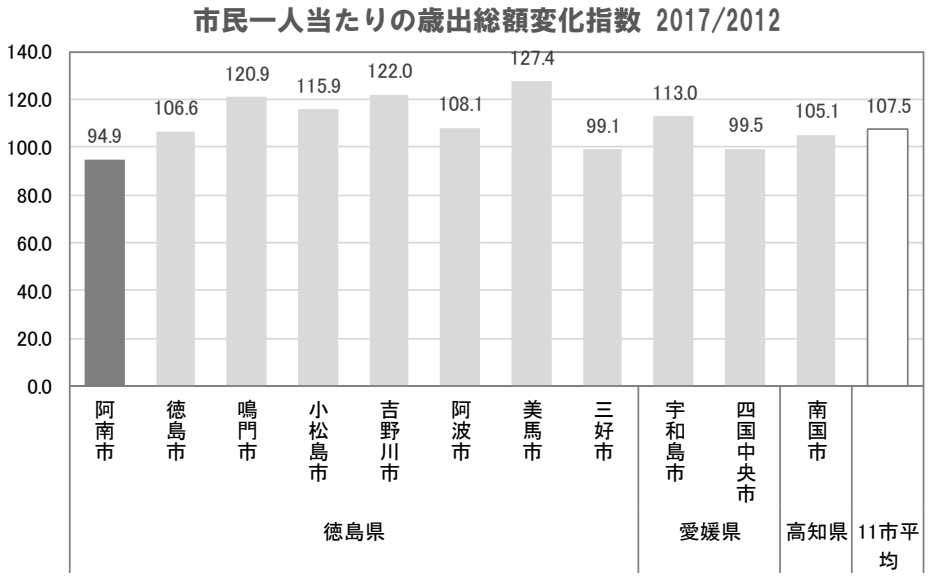
○2012年度に対する2017年度の市民一人当たりの歳出総額の変化指数を見てみると、阿南市は94.9で、11市平均の107.5より低く、また、11市中最も低くなっています。

歳出総額の推移

（人・千円）

県・都市	年度・項目	2012年度 人口	2012年度 歳出総額	2012年度 市民一人当たりの歳出総額	2017年度 人口	2017年度 歳出総額	2017年度 市民一人当たりの歳出総額	市民一人当たりの歳出総額変化指数 2017/2012
徳島県	阿南市	77,126	36,320,243	470.9	74,275	33,198,416	447.0	94.9
	徳島市	257,662	91,772,237	356.2	255,309	96,923,060	379.6	106.6
	鳴門市	61,611	22,391,825	363.4	58,691	25,798,862	439.6	120.9
	小松島市	40,815	14,823,954	363.2	38,442	16,181,216	420.9	115.9
	吉野川市	44,272	19,907,431	449.7	41,848	22,959,459	548.6	122.0
	阿波市	40,415	19,947,777	493.6	38,308	20,444,578	533.7	108.1
	美馬市	32,052	18,792,329	586.3	29,963	22,380,931	747.0	127.4
	三好市	29,994	26,747,514	891.8	26,952	23,819,502	883.8	99.1
愛媛県	宇和島市	83,625	40,762,363	487.4	77,329	42,610,409	551.0	113.0
	四国中央市	92,130	39,607,877	429.9	88,634	37,895,857	427.6	99.5
高知県	南国市	48,529	19,808,999	408.2	47,871	20,544,532	429.2	105.1
11市平均		73,476	31,898,414	434.1	70,693	32,977,893	466.5	107.5

※市町村決算カード



（4）財政指標

○市町村決算カードにより財政力指数を見てみると、阿南市では 2017 年度が 0.86 で、2012 年度と比較して 0.03 減少しているものの、両年度ともに 11 市中最も高くなっています。

○経常収支比率は、阿南市では 2017 年度が 88.5%で、2012 年度と比較して 1.3 ポイント増加し、弾力性が低下していく傾向がみられますが、11 市中 2 番目の低さとなっています。

○実質公債費比率は、阿南市では 2017 年度が 5.2%で、2012 年度と比較して 3.5 ポイント減少しています。また、宇和島市に次いで低くなっています。

○将来負担比率は、阿南市では 2012 年度、2017 年度ともにゼロとなっています。

○ラスパイレス指数は、阿南市では 2012 年度が 105.8 で、他市と同様に 100 を超えていましたが、2017 年度には 98.5 と減少しています。

財政指標

県・都市	項目・年度	財政力指数		経常収支比率(%)		実質公債費比率(%)		将来負担比率(%)		ラスパイレス指数	
		2012年度	2017年度	2012年度	2017年度	2012年度	2017年度	2012年度	2017年度	2012年度	2017年度
徳島県	阿南市	0.89	0.86	87.2	88.5	8.7	5.2	－	－	105.8	98.5
	徳島市	0.80	0.82	100.8	103.1	7.2	6.6	67.3	79.1	108.9	99.7
	鳴門市	0.64	0.64	101.0	103.1	15.3	15.3	124.0	122.5	102.0	96.0
	小松島市	0.52	0.56	101.9	103.7	16.0	11.8	99.0	99.9	106.7	99.0
	吉野川市	0.40	0.38	95.4	99.7	12.5	9.8	84.9	34.4	109.7	101.1
	阿波市	0.36	0.35	87.4	94.0	8.5	7.0	5.2	－	106.2	99.3
	美馬市	0.30	0.29	92.3	94.9	9.6	10.3	72.6	52.5	108.8	100.2
	三好市	0.21	0.22	93.5	91.5	11.9	6.8	28.6	－	105.5	98.2
愛媛県	宇和島市	0.34	0.33	89.7	85.1	11.1	4.9	59.7	－	102.6	95.1
	四国中央市	0.81	0.76	92.0	92.7	13.8	9.0	150.7	103.5	106.1	98.3
高知県	南国市	0.56	0.61	100.1	98.5	13.5	7.4	43.4	62.2	104.9	97.2
11市平均		0.53	0.53							106.1	98.4

※市町村決算カード、2012年度のラスパイレス指数は地方公務員給与実態調査

財政力指数

基準財政収入額を基準財政需額で除して得た数値の過去3年間の平均値で、地方公共団体の財政力を示す指数です。この数値が大きい程財政力が強いとみることができます。

経常収支比率

人件費、扶助費、公債費等のように容易に縮減することのできない経常的経費に市町村税、普通交付税等を中心とする経常的な一般財源収入がどの程度充当されているかを測定したものです。地方公共団体における財政構造の弾力性を見る上で最も重要な比率で、比率が高いほど財政構造の硬直化が進んでいることを表しています。なお、市町村決算カードには数値が2つ示されていますが、数値の低い方は、経常一般財源に減収補填債や臨時財政対策債などの「借金」の収入額を加えているため、今回は数値の小さい方を使用しています。

実質公債費比率

公債費や公営企業債に対する拠出金などの公債費に準ずるものを含めた実質的な公債費相当額（普通交付税が措置されるものを除く。）に充当された一般財源の標準的に収入し得る一般財源に占める割合の、過去3年間の平均値で、健全化判断比率の1つとなっています。

将来負担比率

地方公社や損失補償を行っている出資法人等に係るものも含め、当該地方公共団体の一般会計等が将来負担すべき実質的な負債の標準財政規模を基本とした額に対する比率をいいます。

ラスパイレス指数

国家公務員行政職（一）職員の俸給を基準とする地方公務員一般行政職員の給与水準を表すものです。

3．医療・福祉

（1）病院数

○医療施設調査により 2016 年の市民1万人当たりの病院数を見てみると、阿南市では一般病院数が 0.79 施設、一般診療所数が 7.67 施設、歯科診療所数が 4.23 施設となっています。

○市民1万人当たりの病院数は、11 市平均（1.25 施設）より少なく、11 市中下から3番目となっています。

○市民1万人当たりの一般診療所数は、11 市平均（9.30 施設）より少なく、11 市中下から5番目となっています。

○市民1万人当たりの歯科診療所数は、11 市平均（5.28 施設）より少なく、11 市中下から3番目となっています。

病院数の状況（2016 年）

（施設・人）

県・都市	項目	一般病院数	一般診療所数	歯科診療所数	人口	市民1万人当たり一般病院数	市民1万人当たり一般診療所数	市民1万人当たり歯科診療所数
徳島県	阿南市	6	58	32	75,653	0.79	7.67	4.23
	徳島市	42	299	177	256,451	1.64	11.66	6.90
	鳴門市	5	52	29	60,111	0.83	8.65	4.82
	小松島市	7	27	19	39,612	1.77	6.82	4.80
	吉野川市	4	51	26	42,943	0.93	11.88	6.05
	阿波市	3	30	19	39,223	0.76	7.65	4.84
	美馬市	5	32	16	30,860	1.62	10.37	5.18
	三好市	4	28	13	28,242	1.42	9.91	4.60
愛媛県	宇和島市	6	78	42	80,422	0.75	9.70	5.22
	四国中央市	9	55	35	90,242	1.00	6.09	3.88
高知県	南国市	9	35	17	48,298	1.86	7.25	3.52
11市平均		9	67	38	72,005	1.25	9.30	5.28

※医療施設調査、人口は住民基本台帳

（２）医師数

○医師・歯科医師・薬剤師調査により 2016 年の市民1万人当たりの医師数等を見てみると、阿南市では医師数が 16.5 人、歯科医師数が 6.5 人、薬剤師数が 17.3 人となっています。

○市民1万人当たりの医師数は、11 市平均（37.5 人）の半分以下で、11 市中下から2番目となっています。

○市民1万人当たりの歯科医師は、11 市平均（10.1 人）より少なく、美馬市とともに 11 市中下から3番目となっています。

○市民1万人当たりの薬剤師数は、11 市平均（33.5 人）より少なく、11 市中下から3番目となっています。

医師数の状況（2016 年）

（人）

県・都市	項目	医師数	歯科医指数	薬剤師数	市民1万人当たり医師数	市民1万人当たり歯科医師数	市民1万人当たり薬剤師数
徳島県	阿南市	125	49	131	16.5	6.5	17.3
	徳島市	1405	451	1451	54.8	17.6	56.6
	鳴門市	148	44	237	24.6	7.3	39.4
	小松島市	212	33	128	53.5	8.3	32.3
	吉野川市	124	37	94	28.9	8.6	21.9
	阿波市	44	27	26	11.2	6.9	6.6
	美馬市	56	20	65	18.1	6.5	21.1
	三好市	67	14	52	23.7	5.0	18.4
愛媛県	宇和島市	209	54	153	26.0	6.7	19.0
	四国中央市	150	48	152	16.6	5.3	16.8
高知県	南国市	437	34	162	90.5	7.0	33.5
11市平均		270	73	241	37.5	10.1	33.5

※医師・歯科医師・薬剤師調査

（3）要介護認定者

○介護保険事業状況報告年報により第1号被保険者数の推移を見てみると、阿南市では 2017 年度末には 23,358 人となっており、2012 年度からの変化指数は 110.1 で、11 市平均（110.4）と同程度となっています。

○阿南市の要介護認定者数は、2017 年度末では 4,282 人で、2012 年度からの変化指数は 91.3 で、減少しています。また、宇和島市に次いで減少率が高くなっています。

○要介護認定率（第1号被保険者数に対する要介護認定者数の割合）は、阿南市では 2012 年度の 22.1%から 2017 年度には 18.3%と減少しています。また、2012 年度では 11 市平均（22.0%）と同程度で、11 市中4番目となっていたのが、2017 年度には 11 市平均（20.4%）より低く、南国市、吉野川市に次いで3番目に低くなっています。

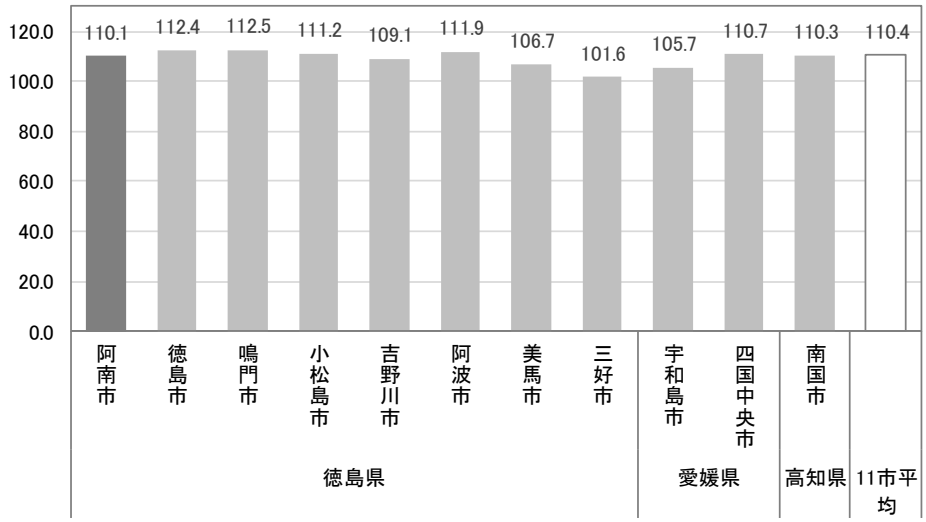
介護保険第1号被保険者数、要介護認定者数の推移

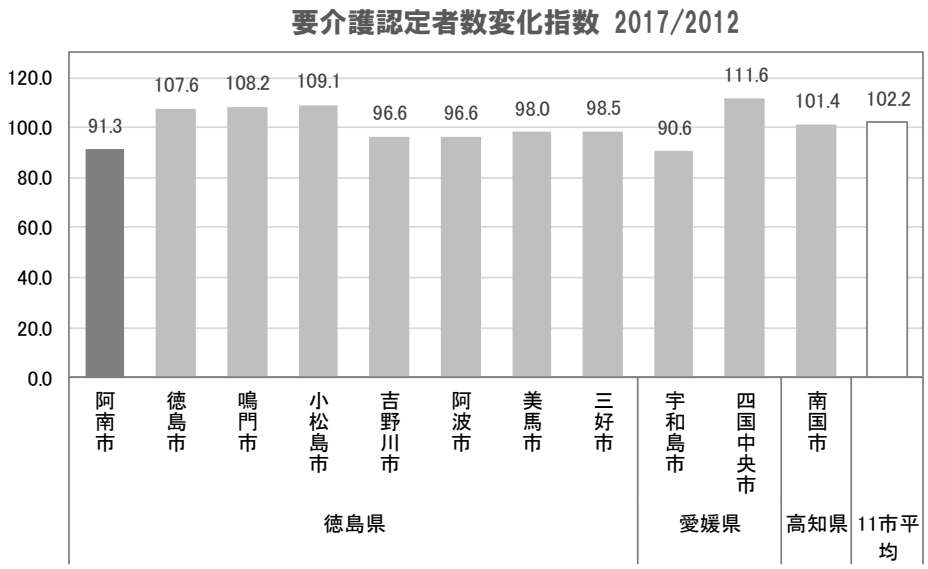
（人・%）

県・都市	項目・年度	第1号被保険者数		要介護認定者数		要介護認定率		第1号被保険者数変化指数	要介護認定者数変化指数
		2012年度	2017年度	2012年度	2017年度	2012年度	2017年度	2017/2012	2017/2012
徳島県	阿南市	21,219	23,358	4,691	4,282	22.1	18.3	110.1	91.3
	徳島市	63,807	71,740	14,755	15,875	23.1	22.1	112.4	107.6
	鳴門市	17,040	19,172	3,349	3,625	19.7	18.9	112.5	108.2
	小松島市	11,270	12,527	2,146	2,341	19.0	18.7	111.2	109.1
	吉野川市	13,424	14,648	2,762	2,667	20.6	18.2	109.1	96.6
	阿波市	11,746	13,143	2,584	2,496	22.0	19.0	111.9	96.6
	美馬市	10,075	10,745	2,147	2,105	21.3	19.6	106.7	98.0
	三好市	※15,793	※16,045	※3,453	※3,400	21.9	21.2	101.6	98.5
愛媛県	宇和島市	27,348	28,901	6,606	5,986	24.2	20.7	105.7	90.6
	四国中央市	24,783	27,429	5,638	6,290	22.7	22.9	110.7	111.6
高知県	南国市	12,998	14,341	2,331	2,364	17.9	16.5	110.3	101.4
11市平均		21,371	23,600	4,701	4,803	22.0	20.4	110.4	102.2

※介護保険事業状況報告（年報）。三好市はみより広域連合の数字

第１号被保険者数変化指数 2017/2012




要介護認定者数変化指数 2017/2012
120.0
100.0
80.0
60.0
40.0
20.0
0.0
91.3
107.6
108.2
109.1
96.6
96.6
98.0
98.5
90.6
111.6
101.4
102.2
阿南市
徳島市
鳴門市
小松島市
吉野川市
阿波市
美馬市
三好市
宇和島市
四国中央市
南国市
徳島県
愛媛県
高知県
11市平均

４．地域経済の指標

（１）就業者数

○国勢調査による総就業者数を見てみると、阿南市では 2015 年が 33,021 人で、15 歳以上人口に占める就業率は 52.1%となっています。阿南市の就業率は、11 市平均（52.4%）と同程度で、11 市中7番目となっています。

○2005 年に対する 2015 年の総就業者数の変化指数を見てみると、阿南市は 90.4 となっていて、11 市平均（91.5）よりわずかに低いものの、11 市中鳴門市と並んで5番目に高くなっています。

○阿南市の 2015 年の自市で従業している就業者率は 75.8%で、2005 年の 79.0%より 3.2%減少しています。自市就業者率は、11 市ともに調査年ごとに減少しています。

○2005 年に対する 2015 年の自市で従業している就業者数の変化指数を見てみると、阿南市は 86.8 となっていて、11 市平均（85.3）より高く、11 市中徳島市に次いで高くなっています。

○阿南市の 2015 年の他市町村への通勤者率は 22.7%で、2005 年の 21.0%より 1.7%増加しています。他市町村への通勤者率は、阿波市の 2010 年を除いて調査年ごとに増加しています。

○2005 年に対する 2015 年の他市町村への通勤者数の変化指数を見てみると、阿南市は 97.9 となっていて、11 市平均（101.8）より低く、11 市中6番目となっています。

○阿南市の 2015 年の他市町村からの通勤者率は 25.5%で、2005 年の 19.3%より 6.2%増加しています。また、他市町村への通勤者率より 2.8%高くなっています。

○2005 年に対する 2015 年の他市町村からの通勤者数の変化指数を見てみると、阿南市は 119.3 となっていて、11 市中最も高くなっています。

○阿南市の 2015 年の従業地による就業者率は 102.8%で、2005 年の 98.3%より 4.5%増加しています。

○2005 年に対する 2015 年の従業地による就業者数の変化指数を見てみると、阿南市は 94.5 となっていて、11 市中最も高くなっています。

総就業者数の推移

2005年

（人・%）

県・都市	項目	15歳以上人口	総就業者数	就業率	自市で従業している就業者数	自市で従業している就業者率	他市町村への通勤者数	他市町村への通勤者率	他市町村からの通勤者数	他市町村からの通勤者率	従業地による就業者数	従業地による就業者率
徳島県	阿南市	67,050	36,510	54.5	28,842	79.0	7,668	21.0	7,062	19.3	35,904	98.3
	徳島市	232,340	120,951	52.1	102,295	84.6	18,656	15.4	40,779	33.7	143,074	118.3
	鳴門市	55,016	29,590	53.8	19,935	67.4	9,655	32.6	7,163	24.2	27,098	91.6
	小松島市	36,575	19,491	53.3	11,084	56.9	8,407	43.1	6,005	30.8	17,089	87.7
	吉野川市	40,157	20,625	51.4	12,569	60.9	8,056	39.1	5,203	25.2	17,772	86.2
	阿波市	35,962	19,922	55.4	12,575	63.1	7,347	36.9	3,764	18.9	16,339	82.0
	美馬市	30,458	15,647	51.4	11,065	70.7	4,582	29.3	3,566	22.8	14,631	93.5
	三好市	30,310	14,270	47.1	11,458	80.3	2,812	19.7	3,223	22.6	14,681	102.9
愛媛県	宇和島市	77,769	42,216	54.3	39,927	94.6	2,289	5.4	3,534	8.4	43,461	102.9
	四国中央市	79,709	45,550	57.1	41,932	92.1	3,618	7.9	5,728	12.6	47,660	104.6
高知県	南国市	43,771	24,118	55.1	13,736	57.0	10,382	43.0	12,457	51.7	26,193	108.6
11市平均		66,283	35,354	53.3	27,765	78.5	7,588	21.5	8,953	25.3	36,718	103.9

2010年

（人・%）

県・都市	項目	15歳以上人口	総就業者数	就業率	自市で従業している就業者数	自市で従業している就業者率	他市町村への通勤者数	他市町村への通勤者率	他市町村からの通勤者数	他市町村からの通勤者率	従業地による就業者数	従業地による就業者率
徳島県	阿南市	65,472	33,681	51.4	25,620	76.1	8,061	23.9	7,478	22.2	33,926	100.7
	徳島市	226,387	115,734	51.1	93,403	80.7	22,324	19.3	37,987	32.8	134,493	116.2
	鳴門市	53,677	27,518	51.3	17,647	64.1	9,871	35.9	7,560	27.5	25,664	93.3
	小松島市	35,450	18,006	50.8	9,472	52.6	8,534	47.4	5,728	31.8	15,444	85.8
	吉野川市	38,863	18,813	48.4	10,637	56.5	8,174	43.4	5,074	27.0	15,963	84.9
	阿波市	34,572	18,626	53.9	11,027	59.2	7,599	40.8	3,744	20.1	15,524	83.3
	美馬市	28,875	13,410	46.4	8,901	66.4	4,506	33.6	3,544	26.4	12,638	94.2
	三好市	27,040	12,257	45.3	9,458	77.2	2,799	22.8	3,126	25.5	12,843	104.8
愛媛県	宇和島市	74,049	38,630	52.2	35,765	92.6	2,377	6.2	3,236	8.4	39,636	102.6
	四国中央市	77,683	42,856	55.2	37,940	88.5	4,271	10.0	5,158	12.0	44,200	103.1
高知県	南国市	42,627	22,468	52.7	12,236	54.5	10,232	45.5	12,389	55.1	24,774	110.3
11市平均		64,063	32,909	51.4	24,737	75.2	8,068	24.5	8,639	26.3	34,100	103.6

2015年

（人・%）

県・都市	項目	15歳以上人口	総就業者数	就業率	自市で従業している就業者数	自市で従業している就業者率	他市町村への通勤者数	他市町村への通勤者率	他市町村からの通勤者数	他市町村からの通勤者率	従業地による就業者数	従業地による就業者率
徳島県	阿南市	63,340	33,021	52.1	25,041	75.8	7,561	22.9	8,422	25.5	33,935	102.8
	徳島市	221,273	116,767	52.8	90,740	77.7	21,583	18.5	36,831	31.5	132,579	113.5
	鳴門市	52,211	26,748	51.2	16,746	62.6	9,618	36.0	8,211	30.7	25,410	95.0
	小松島市	34,172	17,962	52.6	9,242	51.5	8,524	47.5	6,158	34.3	15,671	87.2
	吉野川市	36,822	18,245	49.5	9,837	53.9	8,036	44.0	5,183	28.4	15,547	85.2
	阿波市	33,020	17,637	53.4	10,367	58.8	7,103	40.3	3,953	22.4	14,531	82.4
	美馬市	27,322	13,039	47.7	8,590	65.9	4,350	33.4	3,686	28.3	12,432	95.3
	三好市	24,492	11,589	47.3	8,862	76.5	2,567	22.2	3,183	27.5	12,264	105.8
愛媛県	宇和島市	68,752	36,672	53.3	33,161	90.4	2,581	7.0	3,339	9.1	37,490	102.2
	四国中央市	75,842	42,091	55.5	36,163	85.9	4,115	9.8	5,392	12.8	43,482	103.3
高知県	南国市	41,608	22,077	53.1	11,643	52.7	10,176	46.1	12,458	56.4	24,396	110.5
11市平均		61,714	32,350	52.4	23,672	73.2	7,838	24.2	8,801	27.2	33,431	103.3

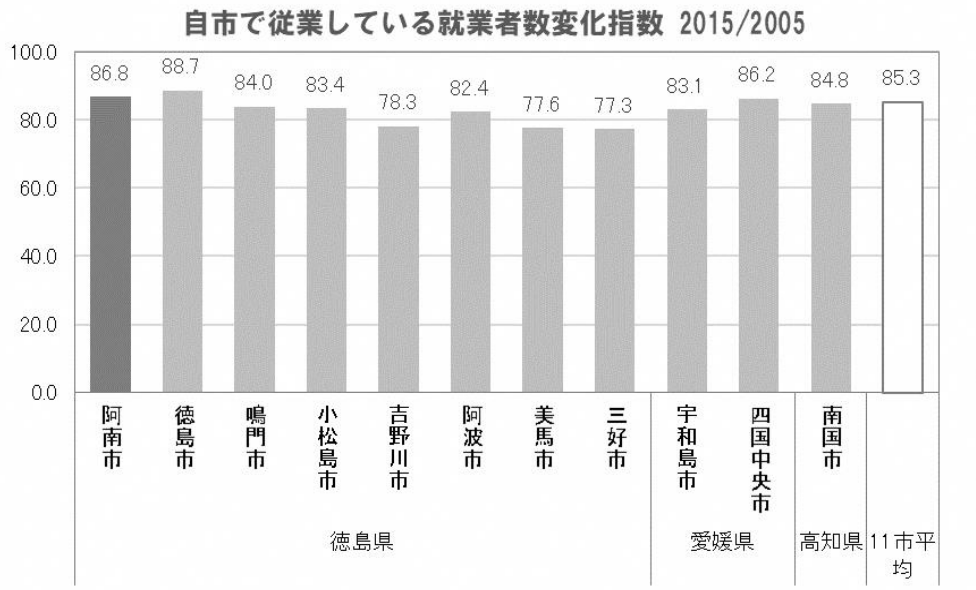
※国勢調査

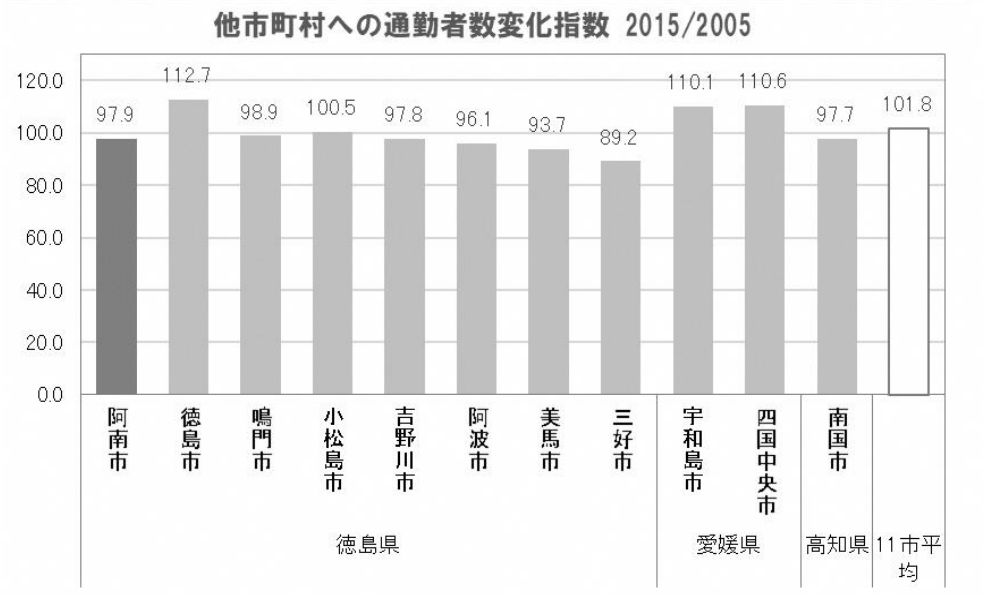
注）2015 年は「不詳」を含んでいないため、「自市で従事している就業者数」と「他市への通勤者数」の合計が「総就業者数」と一致しません。

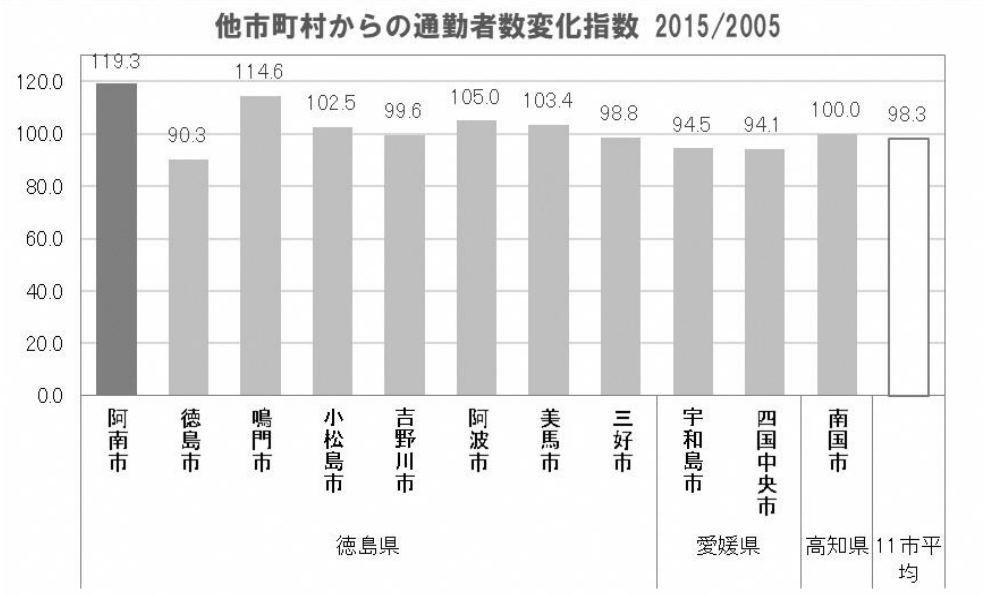
総就業者数等の変化指数

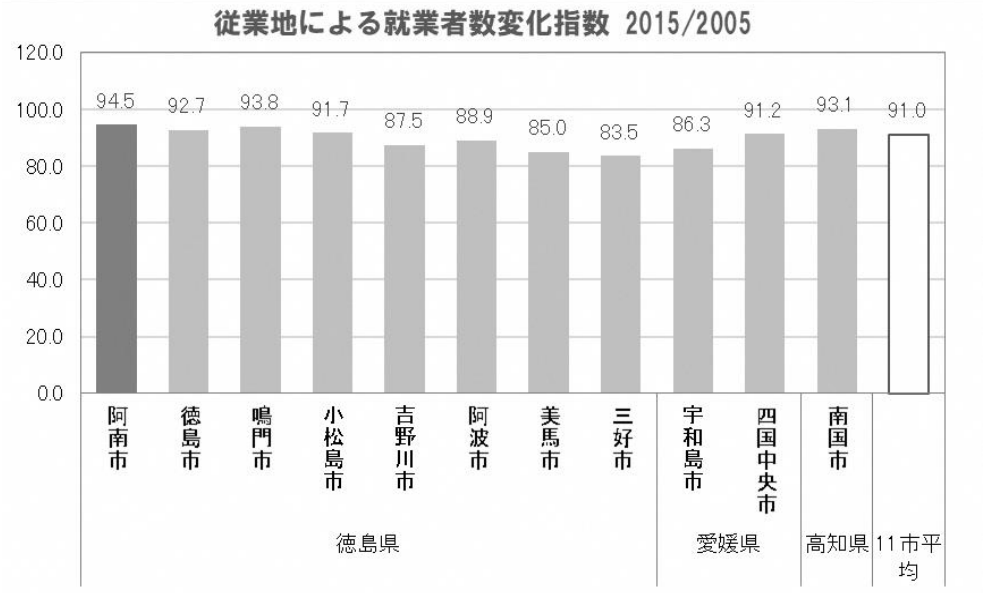
県・都市 ＼ 項目・年次		総就業者数変化指数		自市で従業している就業者数変化指数		他市町村への通勤者数変化指数		他市町村からの通勤者数変化指数		従業地による就業者数変化指数	
		2010/2005	2015/2005	2010/2005	2015/2005	2010/2005	2015/2005	2010/2005	2015/2005	2010/2005	2015/2005
徳島県	阿南市	92.3	90.4	88.8	86.8	94.3	97.9	105.9	119.3	94.5	94.5
	徳島市	95.7	96.5	91.3	88.7	103.1	112.7	93.2	90.3	94.0	92.7
	鳴門市	93.0	90.4	88.5	84.0	97.5	98.9	105.5	114.6	94.7	93.8
	小松島市	92.4	92.2	85.5	83.4	98.6	100.5	95.4	102.5	90.4	91.7
	吉野川市	91.2	88.5	84.6	78.3	98.4	97.8	97.5	99.6	89.8	87.5
	阿波市	93.5	88.5	87.7	82.4	93.2	96.1	99.5	105.0	95.0	88.9
	美馬市	85.7	83.3	80.4	77.6	94.2	93.7	99.4	103.4	86.4	85.0
	三好市	85.9	81.2	82.5	77.3	90.3	89.2	97.0	98.8	87.5	83.5
愛媛県	宇和島市	91.5	86.9	89.6	83.1	97.4	110.1	91.6	94.5	91.2	86.3
	四国中央市	94.1	92.4	90.5	86.2	105.4	110.6	90.0	94.1	92.7	91.2
高知県	南国市	93.2	91.5	89.1	84.8	97.1	97.7	99.5	100.0	94.6	93.1
11市平均		93.1	91.5	89.1	85.3	98.1	101.8	96.5	98.3	92.9	91.0

※国勢調査




他市町村への通勤者数変化指数 2015/2005
120.0
100.0
80.0
60.0
40.0
20.0
0.0
97.9
112.7
98.9
100.5
97.8
96.1
93.7
89.2
110.1
110.6
97.7
101.8
阿南市
徳島市
鳴門市
小松島市
吉野川市
阿波市
美馬市
三好市
宇和島市
四国中央市
南国市
徳島県
愛媛県
高知県
11市平均


他市町村からの通勤者数変化指数 2015/2005
120.0
100.0
80.0
60.0
40.0
20.0
0.0
119.3
90.3
114.6
102.5
99.6
105.0
103.4
98.8
94.5
94.1
100.0
98.3
阿南市
徳島市
鳴門市
小松島市
吉野川市
阿波市
美馬市
三好市
宇和島市
四国中央市
南国市
徳島県
愛媛県
高知県
11市平均


従業地による就業者数変化指数 2015/2005
120.0
100.0
80.0
60.0
40.0
20.0
0.0
94.5
92.7
93.8
91.7
87.5
88.9
85.0
83.5
86.3
91.2
93.1
91.0
阿南市
徳島市
鳴門市
小松島市
吉野川市
阿波市
美馬市
三好市
宇和島市
四国中央市
南国市
徳島県
愛媛県
高知県
11市平均

（２）産業三分類別就業者数

○国勢調査による 2015 年の産業三分類別就業者の構成を見てみると、阿南市では第一次産業が 9.7%、第二次産業が 30.0%、第三次産業が 59.1%となっていて、11 市平均で比較すると、第一次産業が 1.5%、第二次産業が 6.7%、それぞれ高く、第三次産業が 5.5%低くなっています。

○阿南市の第二次産業の就業者の割合は、四国中央市に次いで2番目に高くなっています。

産業三分類別就業者数、就業割合の推移

（人）

県・都市 ＼ 年次・項目		2005年			2010年			2015年		
		第一次	第二次	第三次	第一次	第二次	第三次	第一次	第二次	第三次
徳島県	阿南市	4,006	11,201	20,936	3,156	9,719	19,187	3,213	9,902	19,510
	徳島市	5,242	24,219	87,051	4,268	21,449	83,487	4,248	21,836	84,025
	鳴門市	3,234	7,910	17,974	2,912	6,917	16,991	2,647	6,600	16,728
	小松島市	1,699	4,963	12,450	1,438	4,151	11,981	1,461	4,127	11,961
	吉野川市	1,878	5,569	12,613	1,373	4,707	12,071	1,259	4,503	11,795
	阿波市	4,219	5,565	10,034	3,255	4,583	9,458	3,416	4,458	9,573
	美馬市	2,115	4,808	8,692	1,423	3,852	8,020	1,253	3,736	7,943
	三好市	1,159	4,238	8,838	904	3,080	7,831	797	2,917	7,553
愛媛県	宇和島市	8,509	6,780	26,589	7,534	5,336	25,015	6,593	5,142	23,387
	四国中央市	2,494	18,386	24,114	1,975	16,447	22,922	1,646	15,739	22,438
高知県	南国市	3,431	4,929	15,499	2,917	4,059	15,111	2,677	3,819	15,088
11市平均		3,453	8,961	22,254	2,832	7,664	21,098	2,655	7,525	20,909

（%）

県・都市 ＼ 年次・項目		2005年			2010年			2015年		
		第一次	第二次	第三次	第一次	第二次	第三次	第一次	第二次	第三次
徳島県	阿南市	11.0	30.7	57.3	9.4	28.9	57.0	9.7	30.0	59.1
	徳島市	4.3	20.0	72.0	3.7	18.5	72.1	3.6	18.7	72.0
	鳴門市	10.9	26.7	60.7	10.6	25.1	61.7	9.9	24.7	62.5
	小松島市	8.7	25.5	63.9	8.0	23.1	66.5	8.1	23.0	66.6
	吉野川市	9.1	27.0	61.2	7.3	25.0	64.2	6.9	24.7	64.6
	阿波市	21.2	27.9	50.4	17.5	24.6	50.8	19.4	25.3	54.3
	美馬市	13.5	30.7	55.6	10.6	28.7	59.8	9.6	28.7	60.9
	三好市	8.1	29.7	61.9	7.4	25.1	63.9	6.9	25.2	65.2
愛媛県	宇和島市	20.2	16.1	63.0	19.5	13.8	64.8	18.0	14.0	63.8
	四国中央市	5.5	40.4	52.9	4.6	38.4	53.5	3.9	37.4	53.3
高知県	南国市	14.2	20.4	64.3	13.0	18.1	67.3	12.1	17.3	68.3
11市平均		9.8	25.3	62.9	8.6	23.3	64.1	8.2	23.3	64.6

※国勢調査

（３）労働力人口

○国勢調査による労働力人口のうち、完全失業率の推移を見てみると、2005 年の 7.5%から 2010 年には 8.0%に上昇したものの、2015 年には 5.1%と低下しました。2015 年の完全失業率は、11 市平均の 4.9%よりわずかながら高く、11 市中5番目となっています。

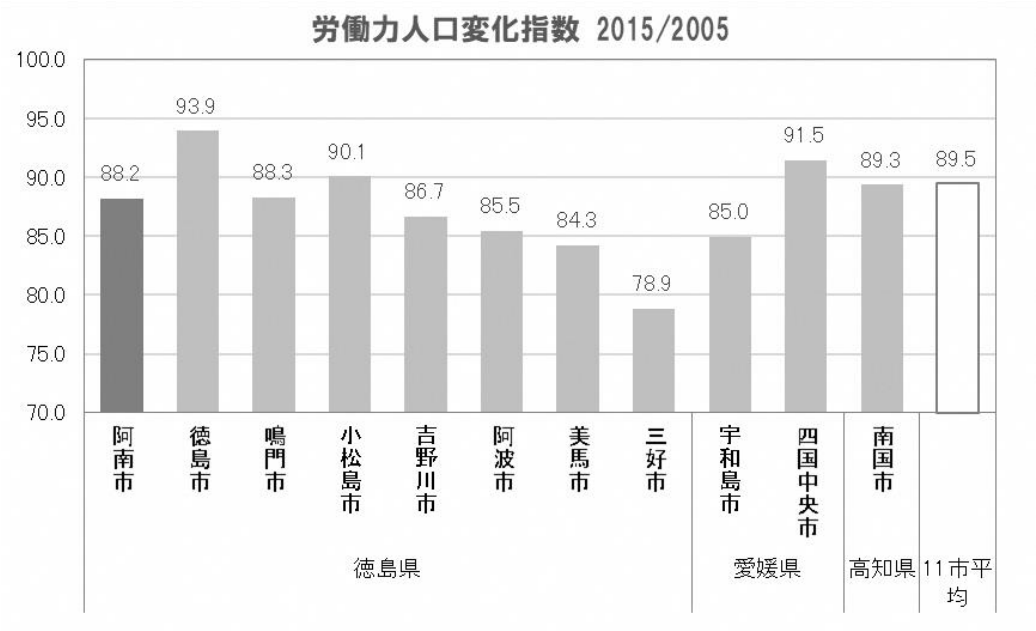
労働力人口の推移

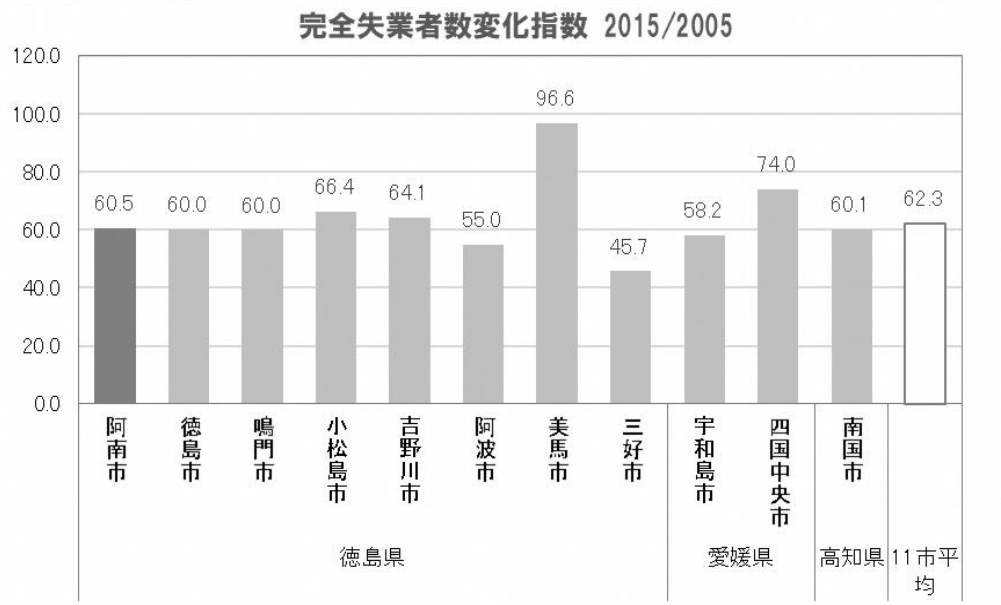
（人・%）

県・都市	年次・項目	2005年			2010年			2015年		
		労働力人口	完全失業者数	完全失業率	労働力人口	完全失業者数	完全失業率	労働力人口	完全失業者数	完全失業率
徳島県	阿南市	39,456	2,946	7.5	36,605	2,924	8.0	34,803	1,782	5.1
	徳島市	130,209	9,258	7.1	123,807	8,073	6.5	122,326	5,559	4.5
	鳴門市	31,770	2,180	6.9	29,838	2,320	7.8	28,055	1,307	4.7
	小松島市	21,204	1,713	8.1	19,906	1,900	9.5	19,099	1,137	6.0
	吉野川市	22,277	1,652	7.4	20,716	1,903	9.2	19,304	1,059	5.5
	阿波市	21,920	1,998	9.1	20,119	1,493	7.4	18,735	1,098	5.9
	美馬市	16,808	1,161	6.9	15,054	1,644	10.9	14,161	1,122	7.9
	三好市	15,281	1,011	6.6	13,147	890	6.8	12,051	462	3.8
愛媛県	宇和島市	45,214	2,998	6.6	41,445	2,815	6.8	38,418	1,746	4.5
	四国中央市	48,027	2,477	5.2	45,608	2,752	6.0	43,924	1,833	4.2
高知県	南国市	25,927	1,809	7.0	24,296	1,828	7.5	23,165	1,088	4.7
11市平均		38,008	2,655	7.0	35,505	2,595	7.3	34,004	1,654	4.9

県・都市	項目・年次	労働力人口変化指数		完全失業者数変化指数	
		2010/2005	2015/2005	2010/2005	2015/2005
徳島県	阿南市	92.8	88.2	99.3	60.5
	徳島市	95.1	93.9	87.2	60.0
	鳴門市	93.9	88.3	106.4	60.0
	小松島市	93.9	90.1	110.9	66.4
	吉野川市	93.0	86.7	115.2	64.1
	阿波市	91.8	85.5	74.7	55.0
	美馬市	89.6	84.3	141.6	96.6
	三好市	86.0	78.9	88.0	45.7
愛媛県	宇和島市	91.7	85.0	93.9	58.2
	四国中央市	95.0	91.5	111.1	74.0
高知県	南国市	93.7	89.3	101.1	60.1
11市平均		93.4	89.5	97.7	62.3

※国勢調査


労働力人口変化指数 2015/2005
100.0
95.0
90.0
85.0
80.0
75.0
70.0
88.2
93.9
88.3
90.1
86.7
85.5
84.3
78.9
85.0
91.5
89.3
89.5
阿南市
徳島市
鳴門市
小松島市
吉野川市
阿波市
美馬市
三好市
宇和島市
四国中央市
南国市
徳島県
愛媛県
高知県
11市平均


完全失業者数変化指数 2015/2005
120.0
100.0
80.0
60.0
40.0
20.0
0.0
60.5
60.0
60.0
66.4
64.1
55.0
96.6
45.7
58.2
74.0
60.1
62.3
阿南市
徳島市
鳴門市
小松島市
吉野川市
阿波市
美馬市
三好市
宇和島市
四国中央市
南国市
徳島県
愛媛県
高知県
11市平均

（4）稼ぐ力

○2016 年の地域の産業・雇用創造チャートにより、稼ぐ力[1]上位3位までを見てみると、阿南市では第1位が電子部品・デバイス・電子回路製造業で、修正特化係数[2]の対数変換値は3.61、第2位が水運業の 3.32、第3位がパルプ・紙・紙加工品製造業の 1.94 となっています。

また、水運業が 11 市中、臨海部に位置する6市すべてで上位3位までに入っています。

稼ぐ力上位産業（2016 年）

（%）

県・都市 ＼ 項目		第1位	第2位	第3位
徳島県	阿南市	電子部品・デバイス・電子回路製造業3.61	水運業3.32	パルプ・紙・紙加工品製造業 1.94
	徳島市	郵便業1.25	水運業1.19	化学工業1.06
	鳴門市	水産養殖業2.46	水運業2.21	電子部品・デバイス・電子回路製造業1.95
	小松島市	水運業2.92	農業1.77	家具・装備品製造業1.68
	吉野川市	郵便局1.29	鉱業、採石業、砂利採取業1.26	繊維工業1.08
	阿波市	ゴム製品製造業2.96	協同組合（他に分類されないもの）2.31	水産養殖業2.15
	美馬市	林業1.67	鉱業、採石業、砂利採取業1.57	電気機械器具製造業1.43
	三好市	電気業1.82	木材・木製品製造業（家具を除く）1.66	パルプ・紙・紙加工品製造業1.61
愛媛県	宇和島市	水産養殖業3.88	水運業2.43	協同組合（他に分類されないもの）1.77
	四国中央市	パルプ・紙・紙加工品製造業4.08	水運業2.31	プラスチック製品製造業1.50
高知県	南国市	生産用機械器具製造業1.77	鉱業、採石業、砂利採取業1.46	パルプ・紙・紙加工品製造業1.29

※地域の産業雇用・創造チャート2016

[1] 修正特化係数を対数変換した値で、これが1以上の産業は0以上、1未満の産業はマイナスになります。この値が大きい程稼ぐ力が大きいといえます。

[2] 特化係数とは、ある地方自治体のある産業の従事者比率を日本全体のある産業の従事者比率で割った値をいい、修正特化係数はその値を輸出入額で調整したものをいいます。これが1より大きい産業がある地方自治体の外から稼いでいる産業の目安となります。

（5）雇用力

○2016 年の地域の産業・雇用創造チャートにより、雇用力[1]上位3位までを見てみると、阿南市では第1位が電子部品・デバイス・電子回路製造業で、従業者比率は 21.79%、第2位が医療業の 6.78%、第3位が社会保険・社会福祉・介護事業の 6.64%となっていて、阿南市においては電子部品・デバイス・電子回路製造業が稼ぐ力、雇用力ともに第1位で、基盤産業といえます。

また、11 市すべてで医療業及び社会保険・社会福祉・介護事業が上位3位までに入っています。

雇用力上位産業（2016 年）

（%）

県・都市	項目	第1位	第2位	第3位
徳島県	阿南市	電子部品・デバイス・電子回路製造業21.79	医療業6.78	社会保険・社会福祉・介護事業6.64
	徳島市	医療業9.60	飲食店8.07	社会保険・社会福祉・介護事業6.26
	鳴門市	医療業10.44	社会保険・社会福祉・介護事業7.37	飲食料品小売業6.28
	小松島市	医療業17.17	飲食料品小売業7.41	社会保険・社会福祉・介護事業7.02
	吉野川市	医療業17.16	社会保険・社会福祉・介護事業7.63	飲食料品小売業7.50
	阿波市	社会保険・社会福祉・介護事業8.99	医療業6.95	飲食料品小売業6.69
	美馬市	社会保険・社会福祉・介護事業10.27	医療業9.73	飲食料品小売業7.90
	三好市	社会保険・社会福祉・介護事業12.00	総合工事業8.29	医療業6.38
愛媛県	宇和島市	社会保険・社会福祉・介護事業9.18	飲食店7.73	医療業7.41
	四国中央市	パルプ・紙・紙加工品製造業22.17	医療業6.50	社会保険・社会福祉・介護事業5.61
高知県	南国市	医療業12.69	社会保険・社会福祉・介護事業8.31	道路貨物運送業7.14

※地域の産業雇用・創造チャート2016、数値は各市の産業別従事者割合

[1] 雇用力とは、自治体における産業の就業者の割合です。雇用力係数が高いほど、雇用吸収力の高い産業といます。

（６）事業所数（公務を除く）

○経済センサス基礎調査及び経済センサス活動調査による事業所数（公務を除く）の推移をみると、阿南市では 2016 年が 2,918 事業所で、調査年ごとに減少し、2009 年に対する 2016 年の事業所数の変化指数は 83.2 となっています。この変化指数は 11 市平均の 88.1 より低く、11 市中三好市に次いで低くなっています。

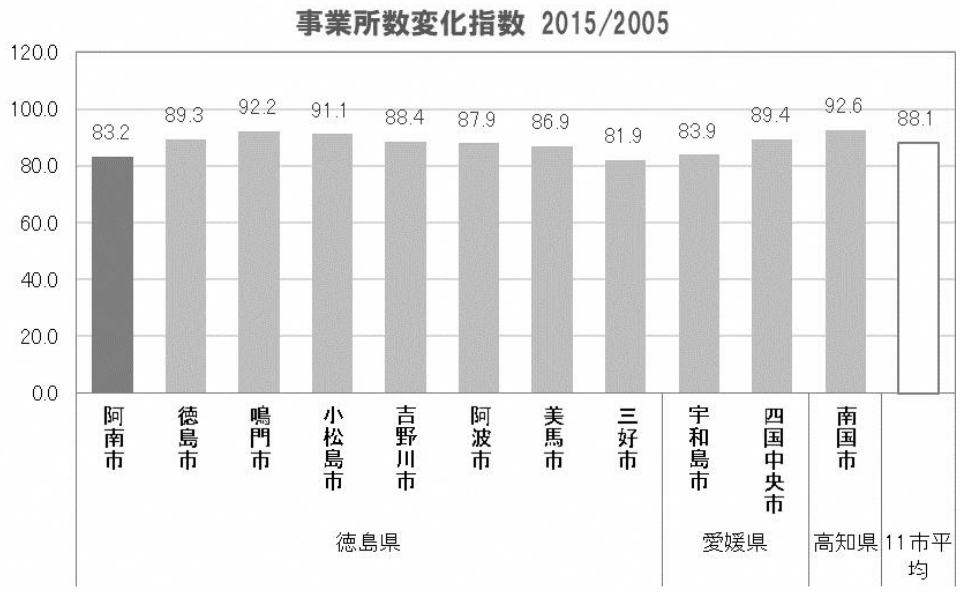
○2016 年の産業大分類別事業所数割合の上位3位までをみると、阿南市では第1位が卸売業、小売業で 26.4%、第2位が建設業の 10.9%、第3位が宿泊業、飲食サービス業の 10.8%となっています。阿南市以外の 10 市も第1位は卸売業、小売業で、事業所割合は 11 市平均は 26.5%で、阿南市も同程度となっています。また、宿泊業、飲食サービス業が 11 市中9市で第3位までに入っています。

事業所数の推移

（事業所・%）

県・都市	項目・年次	全産業事業所数(公務を除く)			事業所数変化指数		2016年 産業大分類別事業所数割合		
		2009年	2012年	2016年	2012/2009	2016/2009	第1位	第2位	第3位
徳島県	阿南市	3,508	3,321	2,918	94.7	83.2	卸売業、小売業26.4	建設業10.9	宿泊業、飲食サービス業10.8
	徳島市	15,951	14,685	14,242	92.1	89.3	卸売業、小売業25.4	宿泊業、飲食サービス業14.9	生活関連サービス業、娯楽業9.2
	鳴門市	2,922	2,897	2,693	99.1	92.2	卸売業、小売業26.0	宿泊業、飲食サービス業12.5	生活関連サービス業、娯楽業9.2
	小松島市	1,781	1,681	1,623	94.4	91.1	卸売業、小売業29.5	宿泊業、飲食サービス業11.8	生活関連サービス業、娯楽業10.5
	吉野川市	2,136	1,905	1,888	89.2	88.4	卸売業、小売業26.3	宿泊業、飲食サービス業12.9	生活関連サービス業、娯楽業11.4
	阿波市	1,424	1,317	1,251	92.5	87.9	卸売業、小売業23.4	建設業12.9	製造業12.0
	美馬市	1,541	1,440	1,339	93.4	86.9	卸売業、小売業28.9	建設業11.4	生活関連サービス業、娯楽業10.5
	三好市	1,853	1,649	1,518	89.0	81.9	卸売業、小売業27.5	建設業12.1	宿泊業、飲食サービス業11.9
愛媛県	宇和島市	5,191	4,680	4,353	90.2	83.9	卸売業、小売業28.8	宿泊業、飲食サービス業13.3	生活関連サービス業、娯楽業10.0
	四国中央市	4,713	4,415	4,212	93.7	89.4	卸売業、小売業26.0	製造業14.8	宿泊業、飲食サービス業9.6
高知県	南国市	2,088	1,935	1,933	92.7	92.6	卸売業、小売業29.0	製造業11.8	宿泊業、飲食サービス業11.0
11市平均		3,919	3,630	3,452	92.6	88.1	卸売業、小売業26.5	宿泊業、飲食サービス業12.7	生活関連サービス業、娯楽業9.6

※2009年は経済センサス基礎調査、2012年及び2016年は経済センサス活動調査



（7）従業者数（公務を除く）

○経済センサス基礎調査及び経済センサス活動調査による従業者数（公務を除く）の推移を見てみると、阿南市では 2016 年が 29,603 人で、2009 年に対する 2016 年の従業者数の変化指数は 100.3 となっています。この変化指数は 11 市中最も高くなっています。

○2016 年の1事業所当たり従業者数は 10.14 人で、南国市に次いで多くなっています。

○2016 年の産業大分類別従業者数割合の上位3位までを見てみると、阿南市では第1位が製造業で 36.3%、第2位が卸売業、小売業及び医療、福祉のそれぞれ 13.9%となっています。卸売業、小売業及び医療、福祉が 11 市すべてで第3位までに入っています。

従業者数の推移

（人）

県・都市	年次・項目	従業者数			1事業所当たりの従業者数			従業者数変化指数	
		2009年	2012年	2016年	2009年	2012年	2016年	2012/2009	2016/2009
徳島県	阿南市	29,525	29,625	29,603	8.42	8.92	10.14	100.3	100.3
	徳島市	136,904	128,877	126,691	8.58	8.78	8.90	94.1	92.5
	鳴門市	22,718	23,414	22,548	7.77	8.08	8.37	103.1	99.3
	小松島市	14,962	14,676	13,565	8.40	8.73	8.36	98.1	90.7
	吉野川市	14,330	13,022	13,947	6.71	6.84	7.39	90.9	97.3
	阿波市	10,332	10,225	9,833	7.26	7.76	7.86	99.0	95.2
	美馬市	10,395	10,203	9,754	6.75	7.09	7.28	98.2	93.8
	三好市	10,879	10,394	9,772	5.87	6.30	6.44	95.5	89.8
愛媛県	宇和島市	30,916	29,342	28,011	5.96	6.27	6.43	94.9	90.6
	四国中央市	43,359	41,726	41,469	9.20	9.45	9.85	96.2	95.6
高知県	南国市	23,561	22,165	22,614	11.28	11.45	11.70	94.1	96.0
11市平均		31,626	30,334	29,801	8.07	8.36	8.63	95.9	94.2

（%）

県・都市	項目	2016年　産業大分類別従業者数		
		第1位	第2位	第3位
徳島県	阿南市	製造業36.3	卸売業、小売業13.9	医療、福祉13.9
	徳島市	卸売業、小売業21.5	医療、福祉16.8	宿泊業、飲食サービス業10.7
	鳴門市	製造業22.4	卸売業、小売業18.3	医療、福祉18.3
	小松島市	医療、福祉25.8	卸売業、小売業21.4	製造業16.4
	吉野川市	医療、福祉25.9	卸売業、小売業19.1	製造業15.5
	阿波市	製造業27.9	卸売業、小売業17.8	医療、福祉16.7
	美馬市	卸売業、小売業22.8	医療、福祉21.3	製造業14.4
	三好市	医療、福祉19.6	卸売業、小売業17.9	製造業16.3
愛媛県	宇和島市	卸売業、小売業26.1	医療、福祉17.6	宿泊業、飲食サービス業9.9
	四国中央市	製造業34.6	卸売業、小売業16.9	医療、福祉12.4
高知県	南国市	医療、福祉21.6	卸売業、小売業19.9	製造業18.8
11市平均		卸売業、小売業20.0	製造業17.8	医療、福祉17.5

※2009年は経済センサス基礎調査、2012年及び2016年は経済センサス活動調査

5．安全・安心

（1）交通事故

○2018 年の交通事故件数を見てみると、阿南市では 217 件、交通事故死亡者数は2人となっています。

○市民 10 万人当たりの交通事故件数は 295.2 件で、11 市平均（370.3 件）より少なく、事故件数の少ない順に 11 市中5番目となっています。

○市民 10 万人当たりの交通事故死亡者数は 2.7 人で、11 市平均（4.3 人）より少なく、死亡者数の少ない順に 11 市中4番目となっています。

交通事故の状況（2018年）

（人・件）

県・都市	項目	人口 2019.1.1 現在	交通事故件数	交通事故死亡者数	市民10万人当たり交通事故件数	市民10万人当たり交通事故死亡者数
徳島県	阿南市	73,507	217	2	295.2	2.7
	徳島市	254,416	1,225	6	481.5	2.4
	鳴門市	57,837	201	2	347.5	3.5
	小松島市	38,018	181	0	476.1	0.0
	吉野川市	41,338	128	3	309.6	7.3
	阿波市	37,761	97	4	256.9	10.6
	美馬市	29,432	109	0	370.3	0.0
	三好市	26,230	75	3	285.9	11.4
愛媛県	宇和島市	75,827	149	6	196.5	7.9
	四国中央市	87,482	217	7	248.1	8.0
高知県	南国市	47,524	254	3	534.5	6.3
11市平均		69,943	259	3	370.3	4.3

※人口は住民基本台帳人口、交通事故は各警察署発表（12月末現在）

（２）避難施設

○国土地理院の緊急避難場所データ（2017 年2月 22 日公開）による指定緊急避難場所の設置数を見てみると、阿南市では 178 箇所となっており、11 市平均（154 箇所）を上回っています。また、指定緊急避難場所1箇所当たりの人口は 1,873.8 人となり、11 市中最も少なく、逆に人口 1 人当たりの施設数は多いといえます。

○各県の公表資料から福祉避難所の指定状況を見てみると、阿南市では 40 箇所となっていて、11 市平均（13箇所）に対する指数は 266.7 となり、11 市中最も高くなっています。

○2013 年の住宅・土地統計調査による最寄り緊急避難所までの平均距離は、阿南市は786mとなっており、11 市平均（854m）に対する指数は 90.0 となり、11 市中5番目に低くなっています。

避難場所等の指定状況

県・都市 ＼ 項目・単位		指定緊急避難場所(箇所)	1か所あたりの人口（人）	福祉避難所(箇所)	対11市平均（%）	最寄り緊急避難所までの平均距離(m)	対11市平均（%）
徳島県	阿南市	178	1,873.8	40	266.7	786	90.0
	徳島市	714	11,636.7	22	146.7	628	72.0
	鳴門市	255	5,958.1	10	66.7	389	44.6
	小松島市	37	4,345.6	9	60.0	1,637	187.5
	吉野川市	30	3,266.1	13	86.7	558	64.0
	阿波市	24	7,738.4	5	33.3	1,167	133.7
	美馬市	44	7,597.5	4	26.7	689	78.9
	三好市	197	2,513.7	11	73.3	791	90.6
愛媛県	宇和島市	76	8,750.6	9	60.0	867	99.3
	四国中央市	36	17,894.0	5	33.3	892	102.1
高知県	南国市	103	3,003.5	16	123.1	989	115.8
11市平均		154	5,490.4	13	100.0	854	100.0

※指定緊急避難場所は、国土交通省国土地理院の緊急避難場所データ（2017.2.22公開）
福祉避難所は各県のHPでの公表データ
徳島県は2019.4.1時点、愛媛県は2018.12.1時点、高知県は2019.3.31時点
最寄り緊急避難所までの平均距離は、住宅・土地統計調査（2013年）で、出典は都市モニタリングシート（2019）

指定緊急避難場所

災害が発生し、または発生するおそれがある場合に、その危険から緊急に避難する際の避難先として位置づける場所です。津波や洪水などの災害種別ごとに安全性等の一定の基準を満たす施設または場所を指定しています。指定避難所と重複して指定される施設もあります。

指定避難所

災害の危険性があり避難した住民等が、災害の危険性がなくなるまで必要な期間滞在し、または災害により自宅へ戻れなくなった住民等が一時的に滞在することを目的とした施設です。

福祉避難所

高齢者や障害者、妊産婦、乳幼児、在宅難病患者など特別な配慮が必要な方（「要配慮者」といいます。）を対象にした避難所のことをいいます。

（3）空き家

○2018 年の住宅・土地統計調査による空き家数を見てみると、阿南市では 3,220 戸となっていて、総住宅数に対する割合（空き家率）は 10.1%となっています。空き家率の 11 市平均は 9.4%で、阿南市は 11 市中高い順に6番目となっています。また、11 市平均に対する指数は、阿南市は 106.9 となっています。

空き家の状況（2018 年）

（戸・%）

県・都市	項目	総住宅数	空き家数	空き家率	対11市平均
徳島県	阿南市	31,950	3,220	10.1	106.9
	徳島市	142,650	7,970	5.6	59.2
	鳴門市	29,440	2,880	9.8	103.7
	小松島市	19,160	1,850	9.7	102.4
	吉野川市	19,340	2,310	11.9	126.6
	阿波市	15,280	1,980	13.0	137.4
	美馬市	15,590	2,940	18.9	199.9
	三好市	15,300	2,970	19.4	205.8
愛媛県	宇和島市	39,150	5,040	12.9	136.5
	四国中央市	43,240	4,290	9.9	105.2
高知県	南国市	22,740	1,700	7.5	79.3
11市平均		35,804	3,377	9.4	100

※住宅・土地統計調査（2018年）

住宅・土地統計調査による空き家

空き家の種類には、「二次的住宅」、「賃貸用の住宅」、「売却用の住宅」、「その他の住宅」があり、「その他の住宅」を都市モニタリングシートでは「空き家」としています。

二次的住宅 ： 別荘及びその他（たまに寝泊まりする人がいる住宅）
賃貸用の住宅 ： 新築・中古を問わず、賃貸のために空き家になっている住宅
売却用の住宅 ： 新築・中古を問わず、売却のために空き家になっている住宅
その他の住宅 ： 上記の他に人が住んでいない住宅で、例えば，転勤・入院などのため居住世帯が長期にわたって不在の住宅や建て替えなどのために取り壊すことになっている住宅など

（4）歩道の設置

○2010 年の歩道の整備率は、阿南市では 44.6%となっていて、11 市平均(32.7%)に対し 11.9 ポイント高く、11 市中高い順に4番目となっています。

歩道の設置状況（2010 年）

（km・%）

県・都市	項目	道路区間延長	歩道設置道路延長	歩道設置率	歩道設置率対11市平均
徳島県	阿南市	210.7	94.0	44.6	127.8
	徳島市	126.1	68.6	54.4	155.9
	鳴門市	70.3	37.0	52.6	150.8
	小松島市	243.2	85.3	35.1	100.5
	吉野川市	153.9	29.8	19.4	55.5
	阿波市	138.6	43.2	31.2	89.3
	美馬市	201.8	46.2	22.9	65.6
	三好市	304.0	54.4	17.9	51.3
愛媛県	宇和島市	337.5	111.4	33.0	94.6
	四国中央市	205.0	65.9	32.1	92.1
高知県	南国市	113.8	52.2	45.9	140.4
11市平均		191.4	62.5	32.7	100

※道路・交通センサス（2010年）

6．都市インフラ

（1）道路

○公共施設状況調経年比較表により道路の整備状況を見てみると、2017 年度の阿南市の道路実延長は 846,467m、道路面積は 4,005,535 ㎡となっています。

○2007 年度に対する 2017 年度の道路実延長変化指数を見てみると、阿南市は 102.6 で、11 市平均（102.7）と同程度で、11 市中吉野川市と並んで5番目に高くなっています。

○2007 年度に対する 2017 年度の道路面積変化指数を見てみると、阿南市は 105.3 で、11 市平均（106.3）をやや下回り、11 市中7番目となっています。

○道路実延長を総人口で割った人口当たり道路密度について見てみると、阿南市は 2017 年度が 11.3m/人で、11 市平均の 13.6m/人より低く、11 市中四国中央市、南国市と並んで6番目となっています。

道路整備状況

県・都市	年度・項目	2007年度			2012年度			2017年度		
		道路実延長	道路面積	人口当たりの道路密度	道路実延長	道路面積	人口当たりの道路密度	道路実延長	道路面積	人口当たりの道路密度
		m	㎡	m/人	m	㎡	m/人	m	㎡	m/人
徳島県	阿南市	824,651	3,804,235	10.4	841,750	3,952,957	10.9	846,467	4,005,535	11.3
	徳島市	1,526,266	7,574,192	5.8	1,544,704	7,736,516	6.0	1,573,455	7,930,561	6.1
	鳴門市	592,789	3,332,741	9.3	593,189	3,347,311	9.6	595,565	3,361,724	10.0
	小松島市	268,489	1,221,122	6.3	267,887	1,264,499	6.5	273,607	1,347,020	7.0
	吉野川市	861,440	3,989,725	18.6	877,624	4,096,565	19.8	883,564	4,142,257	20.8
	阿波市	1,027,163	4,914,159	24.2	1,044,817	5,201,142	25.8	1,048,423	5,267,775	27.1
	美馬市	1,159,450	5,260,909	33.7	1,225,518	5,807,353	38.0	1,226,762	5,846,377	40.4
	三好市	1,429,725	6,798,404	42.2	1,386,738	6,768,103	45.6	1,413,887	7,115,111	51.1
愛媛県	宇和島市	1,236,460	6,697,004	13.7	1,257,775	6,997,615	14.9	1,258,771	7,112,285	16.0
	四国中央市	965,192	4,999,019	10.2	1,001,295	5,225,231	10.9	1,006,637	5,324,956	11.3
高知県	南国市	497,064	2,076,400	9.8	534,194	2,336,823	11.0	541,787	2,427,233	11.3
11市平均		944,426	4,606,174	12.4	961,408	4,794,010	13.0	969,902	4,898,258	13.6

県・都市	項目・年度	道路実延長変化指数		道路面積変化指数	
		2012/2007	2017/2007	2012/2007	2017/2007
徳島県	阿南市	102.1	102.6	103.9	105.3
	徳島市	101.2	103.1	102.1	104.7
	鳴門市	100.1	100.5	100.4	100.9
	小松島市	99.8	101.9	103.6	110.3
	吉野川市	101.9	102.6	102.7	103.8
	阿波市	101.7	102.1	105.8	107.2
	美馬市	105.7	105.8	110.4	111.1
	三好市	97.0	98.9	99.6	104.7
愛媛県	宇和島市	101.7	101.8	104.5	106.2
	四国中央市	103.7	104.3	104.5	106.5
高知県	南国市	107.5	109.0	112.5	116.9
11市平均		101.8	102.7	104.1	106.3

※公共施設状況調経年比較表（2006～2017年度）
各年度4月1日現在

（2）都市公園等

○公共施設状況調経年比較表により都市公園等の整備状況を見てみると、2017 年度の阿南市は 76 箇所、面積が 516,803 ㎡となっています。

○人口1人当たりの面積は 7.0 ㎡で、11 市平均（11.7 ㎡）より狭く、11 市中広い順に7番目となっています。

都市公園等の状況（2017 年）

（箇所・㎡）

県・都市	項目	都市計画 区域内市立 都市公園		都市計画 区域内市立 その他		都市計画 区域内計		都市計画 区域内 市立以外		都市計画 区域外 都市公園	
		箇所数	面積	箇所数	面積	箇所数	面積	箇所数	面積	箇所数	面積
徳島県	阿南市	39	287,700	35	43,703	74	331,403	－	0	－	－
	徳島市	122	2,214,397	－	－	122	2,214,397	4	1,000,389	－	－
	鳴門市	46	359,530	－	－	46	359,530	2	481,000	－	－
	小松島市	1	33,400	8	29,021	9	62,421	3	116,063	－	－
	吉野川市	5	134,184	20	15,821	25	150,005	－	－	－	－
	阿波市	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	美馬市	1	37,700	2	10,866	3	48,566	－	－	－	－
	三好市	6	149,230	2	10,982	8	160,212	－	－	－	－
愛媛県	宇和島市	21	1,297,347	1	14,371	22	1,311,718	2	543,777	1	52,163
	四国中央市	22	547,047	46	186,800	68	733,847	－	－	－	－
高知県	南国市	3	17,445	121	200,806	124	218,251	1	85,464	－	－
11市平均		24	461,635	21	46,579	46	508,214	1	202,427	0.1	4,742

（箇所・㎡）

県・都市	項目	都市計画 区域外 その他		都市計画 区域外 計		都市計画 区域外 市立以外		合計 都市公園等		人口1人 当たり 面積
		箇所数	面積	箇所数	面積	箇所数	面積	箇所数	面積	
徳島県	阿南市	1	12,800	1	12,800	1	172, 600	76	516,803	7.0
	徳島市	－	－	－	－	－	－	126	3,214,786	12.6
	鳴門市	－	－	－	－	－	－	48	840,530	14.3
	小松島市	－	－	－	－	－	－	12	178,484	4.6
	吉野川市	15	313,366	15	313,366	－	－	40	463,371	11.1
	阿波市	46	122,943	46	122,943	－	－	46	122,943	3.2
	美馬市	10	82,626	10	82,626	－	－	13	131,192	4.4
	三好市	16	93,364	16	93,364	－	－	24	253,576	9.4
愛媛県	宇和島市	－	－	1	52,163	1	114,400	26	2,022,058	26.1
	四国中央市	4	335,525	4	335,525	－	－	72	1,069,372	12.1
高知県	南国市	－	－	－	－	－	－	125	303,715	6.3
11市平均		8.4	87,329	8.5	92,071	0.2	26,091	55.3	828,803	11.7

※公共施設状況調経年比較表（2006～2017年度）。各年度3月31日現在

都市公園等の種類は

都市公園等の種類・種別には、次のものがあります。

住区基幹公園等 ： 街区公園、近隣公園、地区公園、特定地区公園
都市基幹公園 ： 総合公園、運動公園
大規模公園 ： 広域公園、レクリエーション都市
緩衝緑地等 ： 特殊公園、緩衝緑地、都市緑地、都市林、広場公園、緑道
国営公園

（３）下水道

○公共施設状況調経年比較表により公共下水道等の整備状況を見てみると、2017 年度の公共下水道排水人口が 2,546 人、総人口に対する割合は 3.4%となっています。

○また、排水区域面積が 807,000 ㎡で、計画排水区域面積に対する供用率は 8.5%、処理区域面積が 799,300 ㎡で、計画処理区域面積に対する供用率は 8.4%、処理区域内人口が 2,470 人、総人口に対する割合は 3.3%で、いずれも計画のある 9 市の平均（31.2%）を下回る低い水準となっています。

○2018 年度の汚水処理人口普及率は 44.4%、下水道処理人口普及率は 3.4%となっています。

下水道の整備状況（2017 年）

（人・%・㎡）

県・都市	項目	公共下水道現在排水人口	対総人口比	計画排水区域面積	現在排水区域面積	供用率	計画処理区域面積	現在処理区域面積	供用率	現在処理区域内人口	対総人口比
徳島県	阿南市	2,546	3.4	9,520,000	807,000	8.5	9,520,000	799,300	8.4	2,470	3.3
	徳島市	81,602	32.0	15,949,000	13,924,000	87.3	15,949,000	13,653,600	85.6	79,054	31.0
	鳴門市	13,165	22.4	4,310,000	3,423,000	79.4	1,890,000	1,547,300	81.9	5,663	9.6
	小松島市	–	–	7,200,000	–	0.0	7,200,000	–	0.0	–	0.0
	吉野川市	21,013	50.2	15,000,000	8,935,000	59.6	15,000,000	8,935,000	59.6	21, 013	50.2
	阿波市	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
	美馬市	2,670	8.9	950,000	929,000	97.8	950,000	929,000	97.8	2, 670	8.9
	三好市	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
愛媛県	宇和島市	16,862	21.8	4,259,000	3,631,300	85.3	4,259,000	3,631,300	85.3	16, 862	21.8
	四国中央市	55,397	62.5	17,702,000	14,920,000	84.3	17,702,000	14,920,000	84.3	55, 397	62.5
高知県	南国市	16,241	33.9	9,479,000	2,609,000	27.5	9,479,000	2,609,000	27.5	15, 690	32.8
9市平均		26,187	37.0	9,374,333	5,464,256	58.3	8,105,444	5,224,944	64.5	22,091	31.2

（人・%・㎡）

県・都市	年度・項目	2017年度					2018年度	
		現在水洗便所設置済人口	対総人口比	都市下水路計画排水区域面積	現在排水区域面積	供用率	汚水処理人口普及率	下水道処理人口普及率
徳島県	阿南市	1,371	1.8	2,824,000	1,466,400	51.9	44.4	3.4
	徳島市	70,262	27.5	26,640,000	18,850,000	70.8	78.7	30.9
	鳴門市	2,160	3.7	–	–	–	46.9	10.1
	小松島市	–	0.0	–	–	–	34.0	0.0
	吉野川市	15,804	37.8	–	–	–	71.3	50.5
	阿波市	–	–	–	–	–	56.4	*
	美馬市	1,258	4.2	–	–	–	51.9	9.1
	三好市	–	–	3,810,000	1,580,000	41.5	55.3	*
愛媛県	宇和島市	14,825	19.2	1,773,800	621,000	35.0	57.9	22.2
	四国中央市	53,062	59.9	–	–	–	84.0	63.2
高知県	南国市	15,690	32.8	–	–	–	83.6	36.6
9市平均		19,381	27.4	8,761,950	5,629,350	64.2		

※公共施設状況調経年比較表（2006～2017年度） 各年度3月31日現在
汚水・下水道処理人口普及率は国土交通省、農林水産省、環境省合同調査
による結果公表資料（全国市町村別汚水処理及び下水道処理人口普及率一覧2018年度末）より

下水道の排水区域と処理区域

排水区域は、水洗便所から排出される排水（し尿）を、浄化槽によって浄化した上で下水道管へ放出しなければならない区域のことで、処理区域は、浄化槽によって浄化することなく下水道管へ放出することができる区域のこと。

下水道処理人口普及率

下水道を利用できる地域の人口の行政人口に対する割合のこと。

汚水処理人口普及率

下水道処理人口の他に農業、漁業等集落排水による処理人口や合併処理浄化槽による処理人口を加えた値の行政人口に対する割合のこと。

第３章　人口・世帯数等の将来推計

Ⅰ．総人口の将来推計

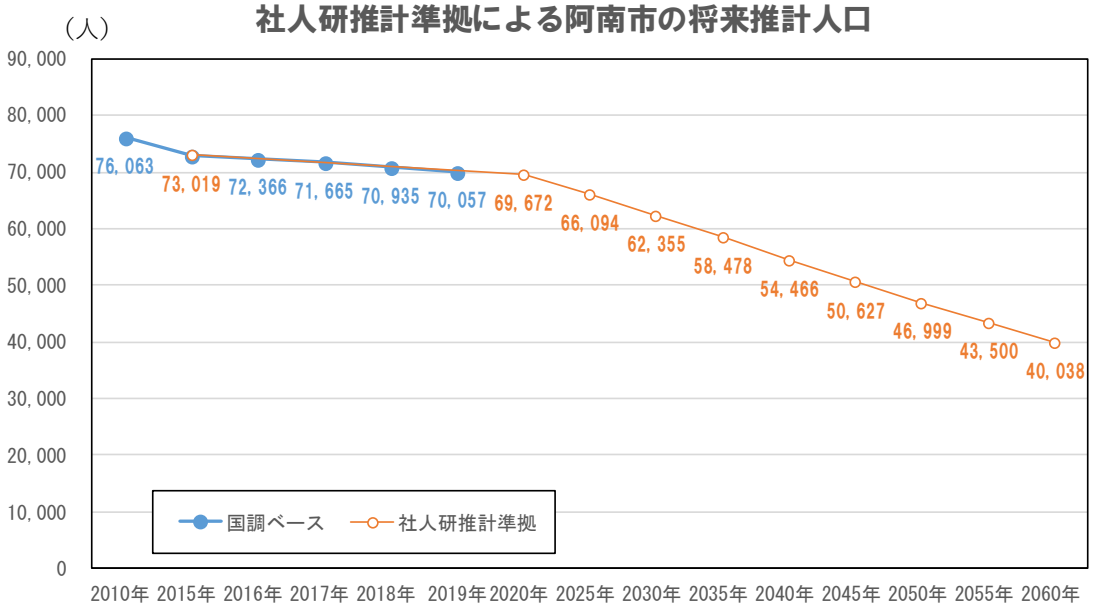
1. 推計方法

将来推計人口の推計方法は、別冊『阿南市人口・世帯数推計報告書』(P1～P4)に詳しく記載していますので、ここでの説明は省略します。

2．推計結果

（1）社人研推計準拠による将来人口

2015 年までの国勢調査による人口(以下、「国調人口」という。)を踏まえた国立社会保障・人口問題研究所(以下「社人研」という。)による人口推計に準拠(以下「社人研推計準拠」という。)した本市の将来人口は、2020 年に 69,672 人、2040 年に 54,466 人、2060 年に 40,038 人になると見込まれています。



※国調ベース(各年10月1日現在)の2016～2018年値は、国勢調査時の人口に、その後の出生・死亡、転入・転出による人口の増減を加算したもの(徳島県推計人口)。

（2）社人研推計準拠による将来人口の補正

徳島県では、直近(2015 年)の国調人口を基に、毎月の住民基本台帳法及び戸籍法の規定による人口の増減を加算した、毎月1日現在の「市町村別推計人口」を推計・公表しており、これを本市の将来推計人口(国調人口ベース)として置き換え、2019 年までの4年間の変化率により 2020 年の人口を推計すると、69,159 人となります。

（単位：人）

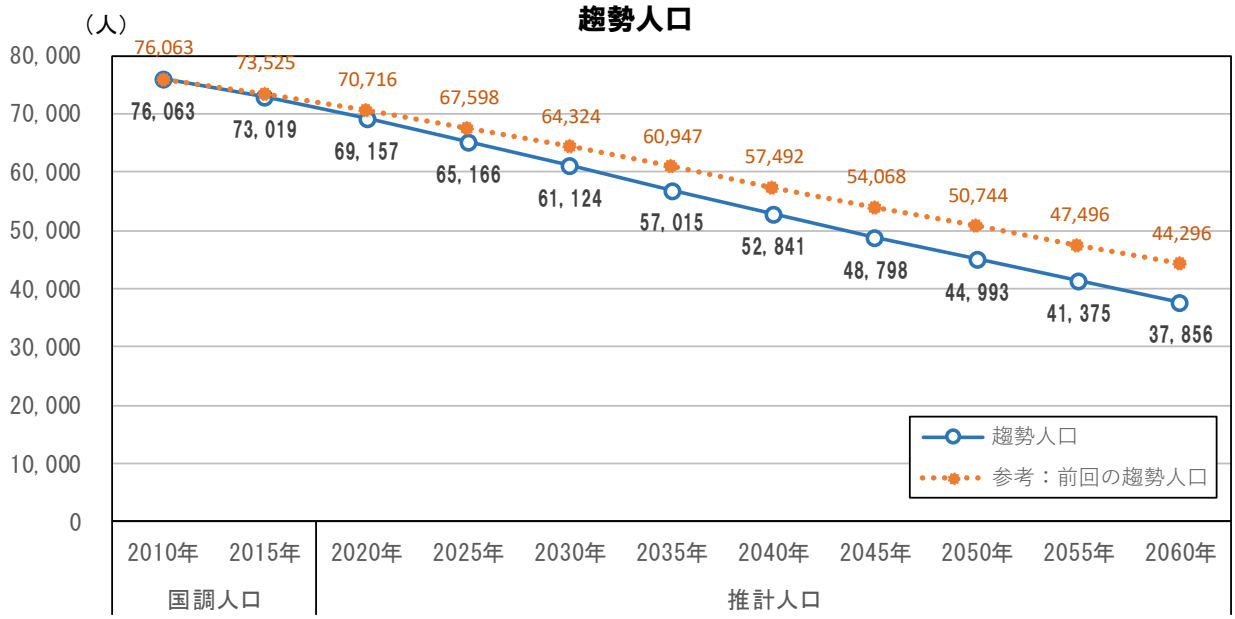
	国調人口	徳島県推計人口				推計
	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
阿南市	73,019	72,366	71,665	70,935	70,057	69,159
年変化率		99.1%	99.0%	99.0%	98.8%	98.7%
		4年間の変化率に基づき2020年の変化率を直線回帰で予測すると98.7%				

一方、社人研推計準拠による本市の2020年推計人口は69,672人であり、500人程度の乖離が生じているため、社人研推計準拠による 2020 年の将来推計人口が徳島県推計人口に近似するよう純移動率の補正を行います。

（3）趨勢人口の推計

前記の補正を踏まえ、2020 年以降の性別・年齢別の純移動率仮定値の下方修正（約99.5%）を行い、推計した将来推計人口を本市の趨勢人口（今後、現状以上の特段の人口政策効果等を見込まない場合に将来的に想定される人口）とします。

推計結果を見てみると、2020 年に 69,157 人に、2040 年に 52,841 人に、2060 年には 37,856 人にまで減少することが想定されます。



とりわけ、2060年の推計人口について、平成28年版人口ビジョン策定時に参考にした社人研推計（2013 年）と比較してみると、今回が 6,440 人少なくなっています。

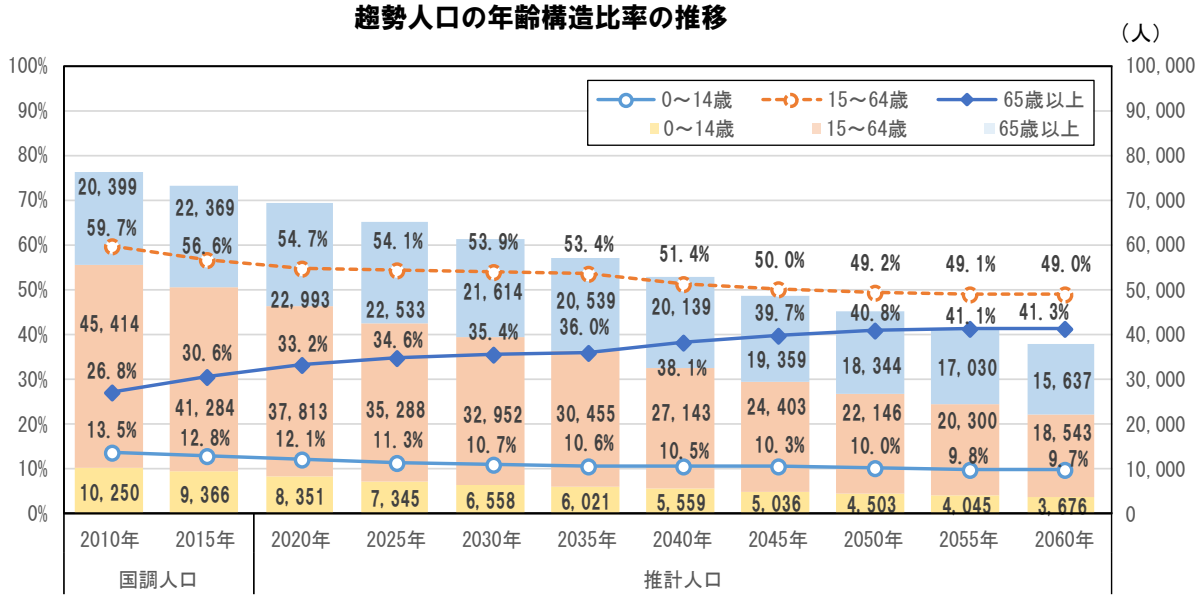
この要因は、社人研による将来の純移動率仮定値が見直され、2060 年の生涯定住率[1]ベースで男性が約 0.92 から 0.85 へ、女性が 0.88 から 0.65 へ、それぞれ転出超過がより拡大することが想定されたことによるものと考えられます。

[1] 性別・年齢別純移動率仮定値にそれぞれ1を加算した値を性別に乗じて得られる値で、例えばこれが 1.00 を下回るほどに転出超過が大きいことを示す。

（4）年齢３区分別人口（比率）と高齢化率の将来動向

年齢別の人口構造については、0～14 歳人口は 2015 年の 12.8%から 2060 年には 9.7%にまで減少、15～64 歳人口は同期間に 56.5%から 49.0%にまで減少し、一方、65 歳以上人口（高齢化率）については同期間に 30.6%から 41.3%にまで増加することが見込まれます。

趨勢人口の年齢構造比率の推移



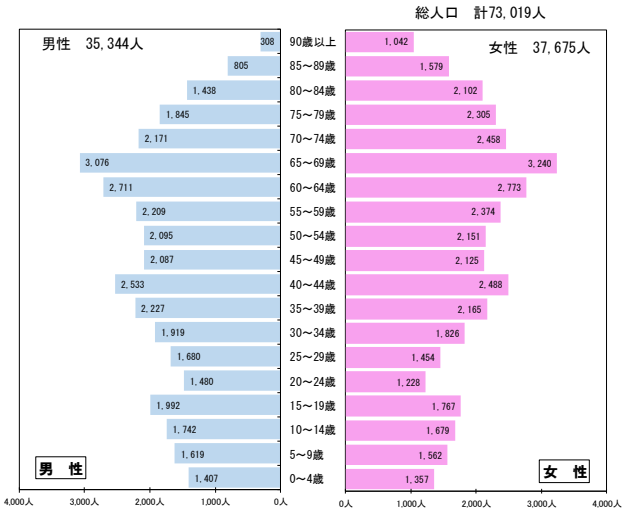
（単位：人）

趨勢人口	国調人口		推計人口								
	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
総人口	76, 063	73, 019	69, 157	65, 166	61, 124	57, 015	52, 841	48, 798	44, 993	41, 375	37, 856
0～4歳	3, 103	2, 764	2, 368	2, 113	1, 984	1, 835	1, 652	1, 465	1, 309	1, 201	1, 104
5～9歳	3, 427	3, 181	2, 825	2, 424	2, 164	2, 034	1, 884	1, 697	1, 506	1, 345	1, 234
10～14歳	3, 720	3, 421	3, 158	2, 808	2, 410	2, 152	2, 023	1, 874	1, 688	1, 499	1, 338
15～19歳	3, 846	3, 759	3, 381	3, 109	2, 764	2, 372	2, 116	1, 987	1, 842	1, 658	1, 473
20～24歳	2, 905	2, 708	2, 645	2, 379	2, 185	1, 943	1, 666	1, 486	1, 395	1, 293	1, 164
25～29歳	3, 752	3, 134	2, 925	2, 904	2, 611	2, 386	2, 128	1, 827	1, 630	1, 530	1, 418
30～34歳	4, 412	3, 745	3, 129	2, 912	2, 913	2, 616	2, 383	2, 130	1, 829	1, 632	1, 532
35～39歳	5, 019	4, 392	3, 716	3, 109	2, 889	2, 898	2, 598	2, 364	2, 114	1, 815	1, 619
40～44歳	4, 242	5, 021	4, 361	3, 705	3, 104	2, 879	2, 896	2, 596	2, 362	2, 112	1, 813
45～49歳	4, 338	4, 212	4, 951	4, 297	3, 660	3, 071	2, 845	2, 867	2, 571	2, 339	2, 091
50～54歳	4, 681	4, 246	4, 104	4, 830	4, 194	3, 575	3, 002	2, 781	2, 803	2, 513	2, 287
55～59歳	5, 609	4, 583	4, 139	4, 005	4, 718	4, 099	3, 497	2, 938	2, 722	2, 743	2, 460
60～64歳	6, 610	5, 484	4, 462	4, 038	3, 914	4, 616	4, 012	3, 427	2, 878	2, 665	2, 686
65～69歳	4, 946	6, 316	5, 213	4, 253	3, 856	3, 745	4, 421	3, 847	3, 286	2, 758	2, 552
70～74歳	4, 579	4, 629	5, 922	4, 897	4, 011	3, 645	3, 547	4, 194	3, 648	3, 116	2, 614
75～79歳	4, 281	4, 150	4, 226	5, 448	4, 514	3, 719	3, 389	3, 310	3, 911	3, 400	2, 905
80～84歳	3, 470	3, 540	3, 466	3, 564	4, 656	3, 869	3, 222	2, 954	2, 885	3, 405	2, 957
85～89歳	1, 981	2, 384	2, 457	2, 446	2, 551	3, 406	2, 844	2, 409	2, 205	2, 153	2, 537
90歳以上	1, 142	1, 350	1, 709	1, 925	2, 026	2, 155	2, 716	2, 645	2, 409	2, 198	2, 072
構成比											
0～14歳	13. 5%	12. 8%	12. 1%	11. 3%	10. 7%	10. 6%	10. 5%	10. 3%	10. 0%	9. 8%	9. 7%
15～64歳	59. 7%	56. 6%	54. 7%	54. 1%	53. 9%	53. 4%	51. 4%	50. 0%	49. 2%	49. 1%	49. 0%
65～74歳	12. 5%	15. 0%	16. 1%	14. 0%	12. 9%	13. 0%	15. 1%	16. 5%	15. 4%	14. 2%	13. 6%
75歳以上	14. 3%	15. 6%	17. 1%	20. 5%	22. 5%	23. 1%	23. 0%	23. 2%	25. 4%	26. 9%	27. 7%
65歳以上	26. 8%	30. 6%	33. 2%	34. 6%	35. 4%	36. 0%	38. 1%	39. 7%	40. 8%	41. 1%	41. 3%

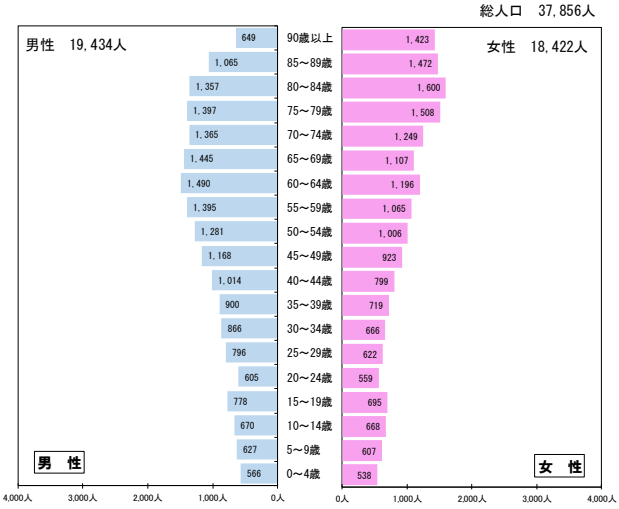
※国調人口について、年齢不詳人口がある場合はこれを社人研按分値を踏まえて按分している。

（5）人口ピラミッドで見る将来推計人口構造の変化

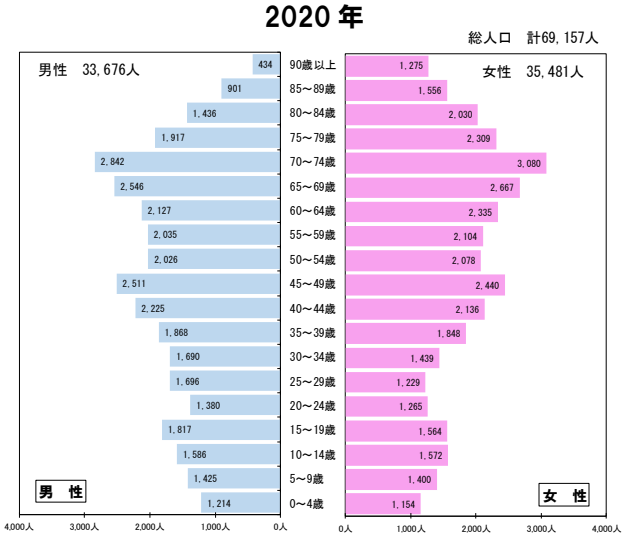
2015 年



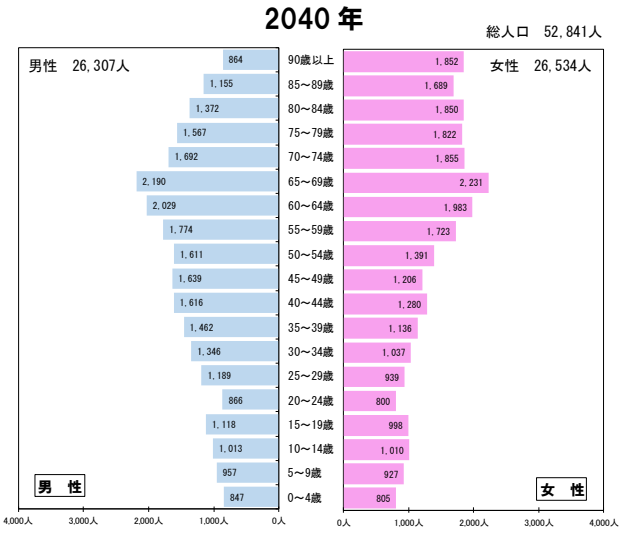
2060 年



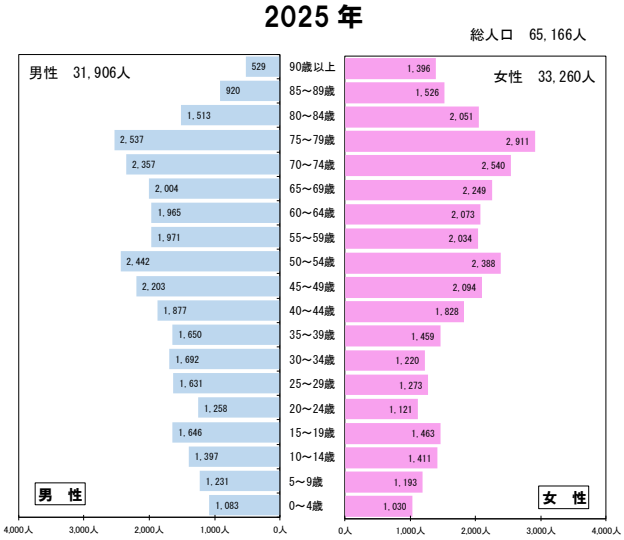
2020 年



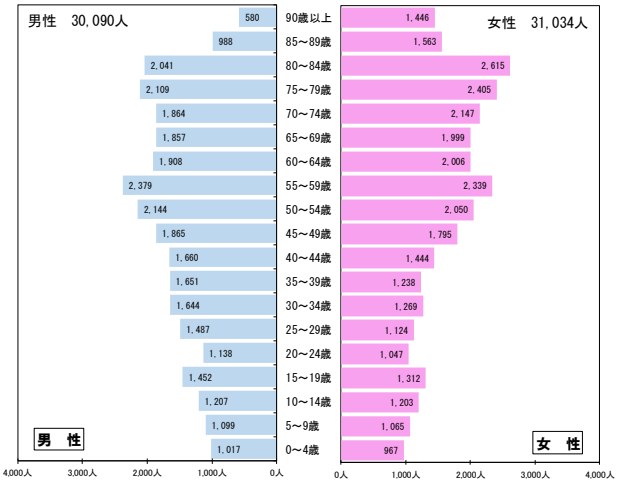
2040 年



2025 年



2030 年

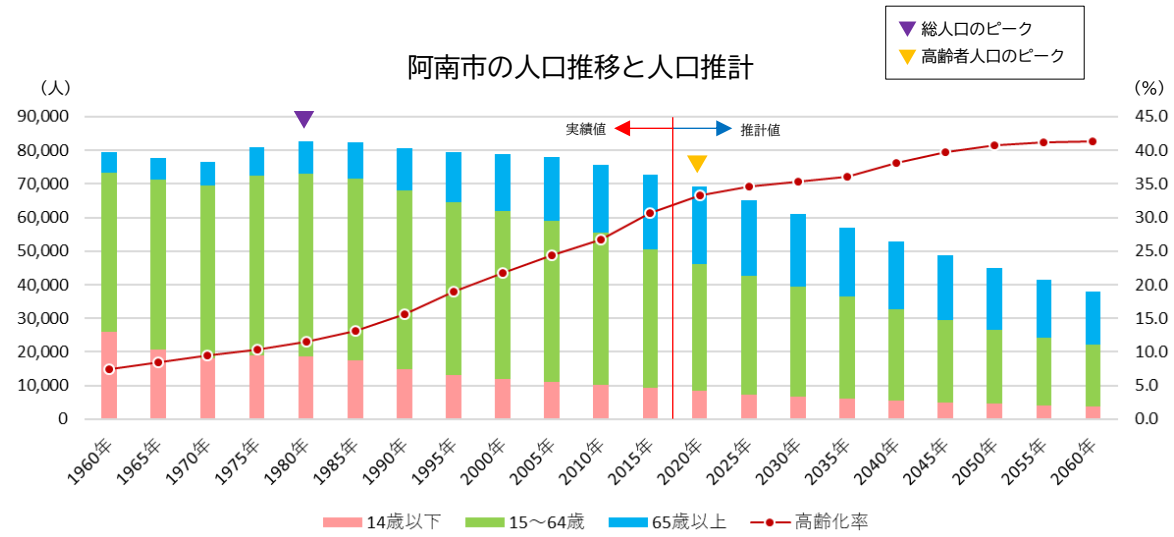


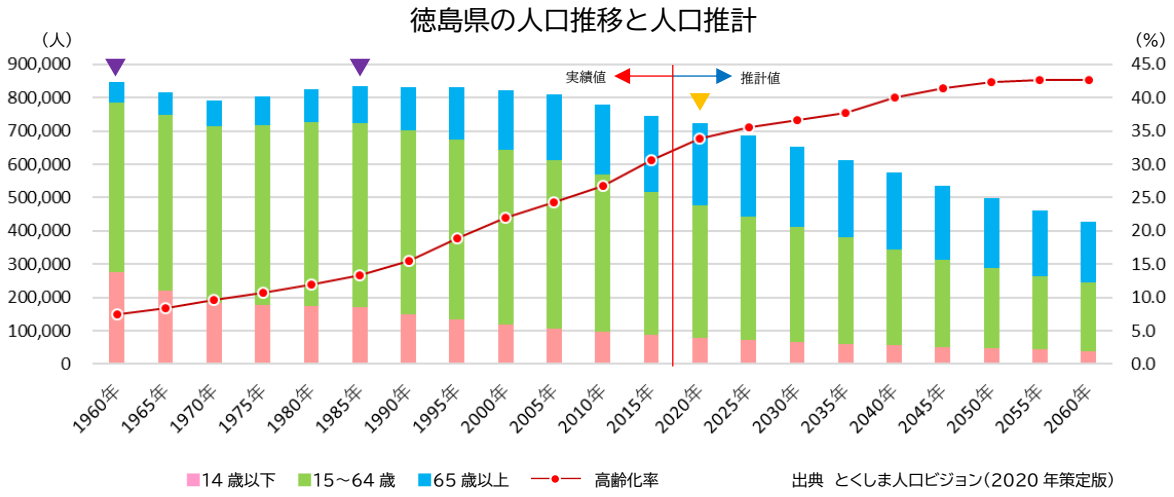
※2015 年は、年齢不詳人口 314 人を按分して含む。

（６）阿南市、徳島県、国全体の人口推移と人口推計

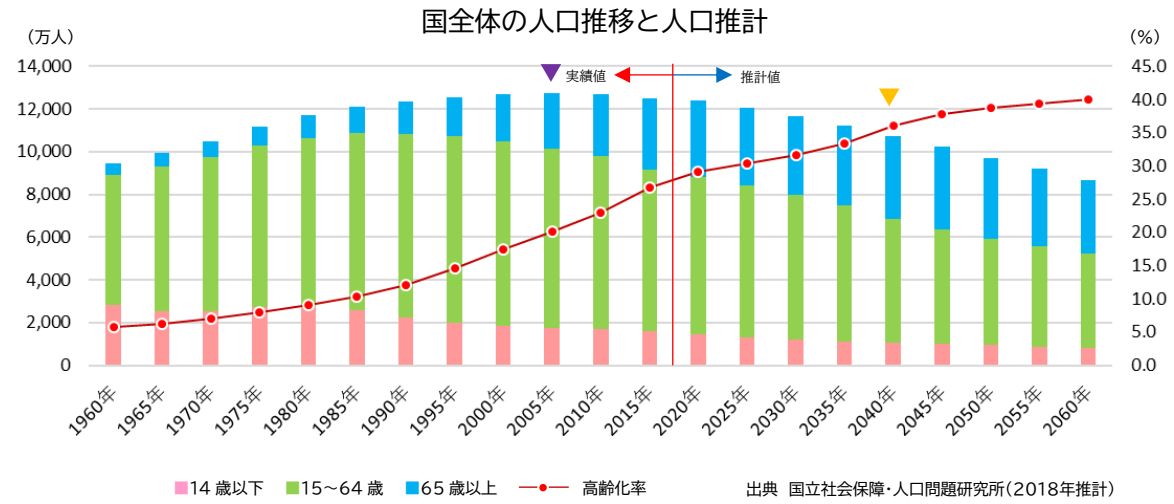
○阿南市の人口推移及び人口推計を徳島県や国全体と比較すると、本市の総人口のピーク及び高齢者人口のピークは、徳島県とほぼ同様ですが、国全体よりも早く訪れます。

○また、生産年齢人口（15～64 歳）の減少スピードは国全体より速く、高齢化率は、徳島県や国全体とほぼ同じ割合で上昇していくと見込まれています。





出典　とくしま人口ビジョン（2020 年策定版）



出典　国立社会保障・人口問題研究所（2018年推計）

Ⅱ．地区別人口の将来推計

１．推計方法

地区別将来人口の推計方法は、別冊『阿南市人口・世帯数推計報告書』(P14)に詳しく記載していますので、ここでの説明は省略します。

２．推計結果

（１）地区別将来人口

コーホート変化率法[1]により地区別将来人口を推計した結果、すべての地区で一貫して人口が減少していくことが見込まれます。

また、40年後の 2060 年には、6地区で 1,000 人を下回るなど、人口の偏在がより顕著となり、コミュニティの維持が懸念されます。

人口　（単位：人）

	国調人口			推計人口								
	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
阿南市	78,002	76,063	73,019	69,157	65,166	61,124	57,015	52,841	48,798	44,993	41,375	37,856
富岡	11,252	10,716	10,353	9,712	9,044	8,387	7,744	7,098	6,458	5,838	5,237	4,651
宝田	2,996	3,015	2,979	2,912	2,848	2,782	2,701	2,602	2,502	2,413	2,329	2,231
中野島	5,096	4,828	4,716	4,431	4,134	3,824	3,488	3,145	2,820	2,517	2,247	2,003
長生	3,254	3,209	2,930	2,722	2,499	2,280	2,056	1,831	1,626	1,434	1,263	1,110
大野	2,565	2,446	2,313	2,150	1,977	1,814	1,638	1,469	1,303	1,158	1,021	893
加茂谷	2,445	2,167	1,945	1,688	1,464	1,259	1,069	892	736	598	483	377
桑野	4,103	3,933	3,780	3,551	3,313	3,077	2,823	2,566	2,314	2,089	1,884	1,708
見能林	11,399	11,355	10,805	10,210	9,577	8,916	8,260	7,606	6,978	6,377	5,766	5,167
新野	4,128	3,892	3,418	3,070	2,727	2,395	2,075	1,767	1,475	1,227	1,021	841
福井	2,595	2,354	2,113	1,865	1,634	1,424	1,224	1,041	876	732	605	493
椿(伊島)	1,893	1,661	1,468	1,273	1,082	917	751	609	494	398	317	253
橘	3,199	2,844	2,512	2,191	1,897	1,605	1,353	1,141	964	810	666	541
那賀川	10,914	10,962	10,868	10,597	10,299	9,972	9,585	9,117	8,611	8,102	7,570	7,025
羽ノ浦	12,163	12,681	12,819	12,785	12,671	12,472	12,248	11,957	11,641	11,300	10,966	10,563

（２）人口変化指数でみた地区別人口の将来動向

2015年の人口指数をそれぞれ100とした場合の変化指数で人口変動をみてみると、2060 年における数値が最も小さい(変動が最も大きい)のは椿(伊島)地区で17.2、最も大きい(変動が最も小さい)のは羽ノ浦地区で 82.4 となっており、地区によって人口減少のスピードが異なることがわかります。

また、市全体の数値を上回っているのは、宝田、那賀川、羽ノ浦の3地区のみとなっています。

[1] 過去の2つの時点の年齢別人口から求めた各コーホートの変化率に基づいて、将来人口を推計する方法で、人口変動の要因は考慮せず、一定期間におけるコーホートの変化率そのものが対象地域の年齢別人口変化の特徴であるとして人口

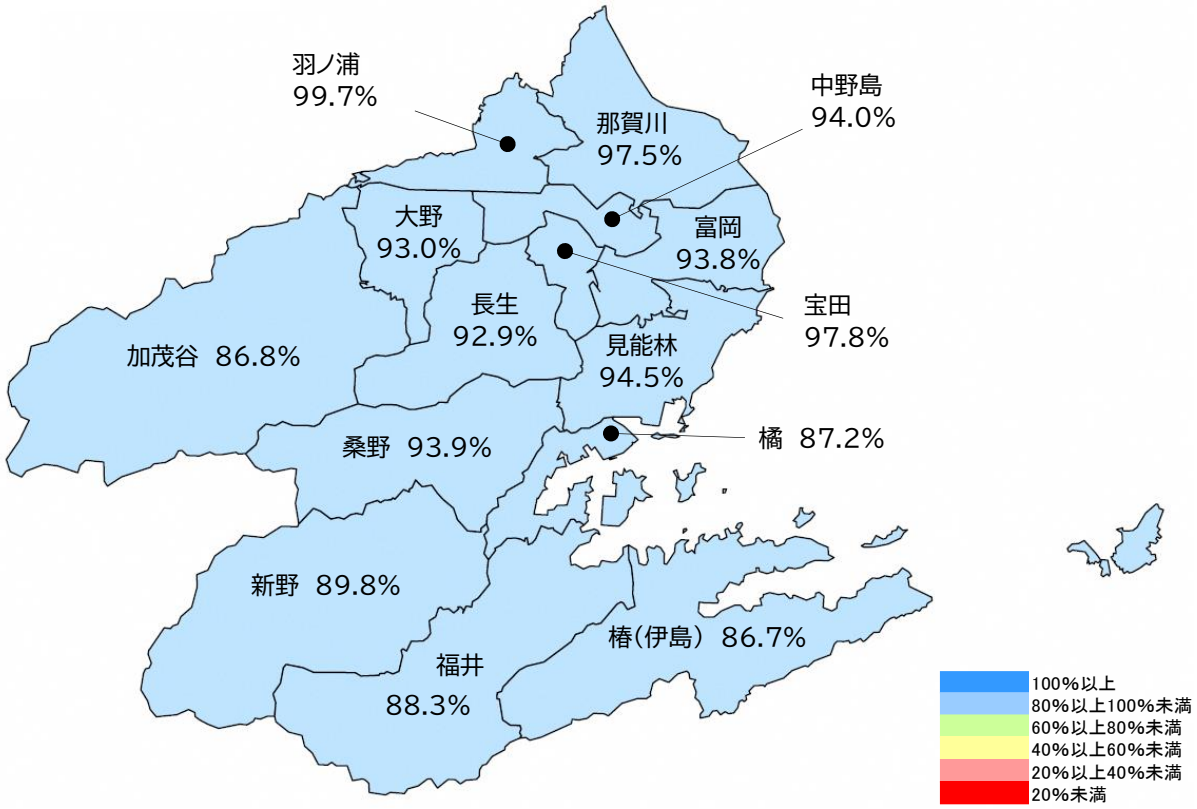
を推計。

人口変化指数（2015年値＝100.0） ５年前と比べて上昇

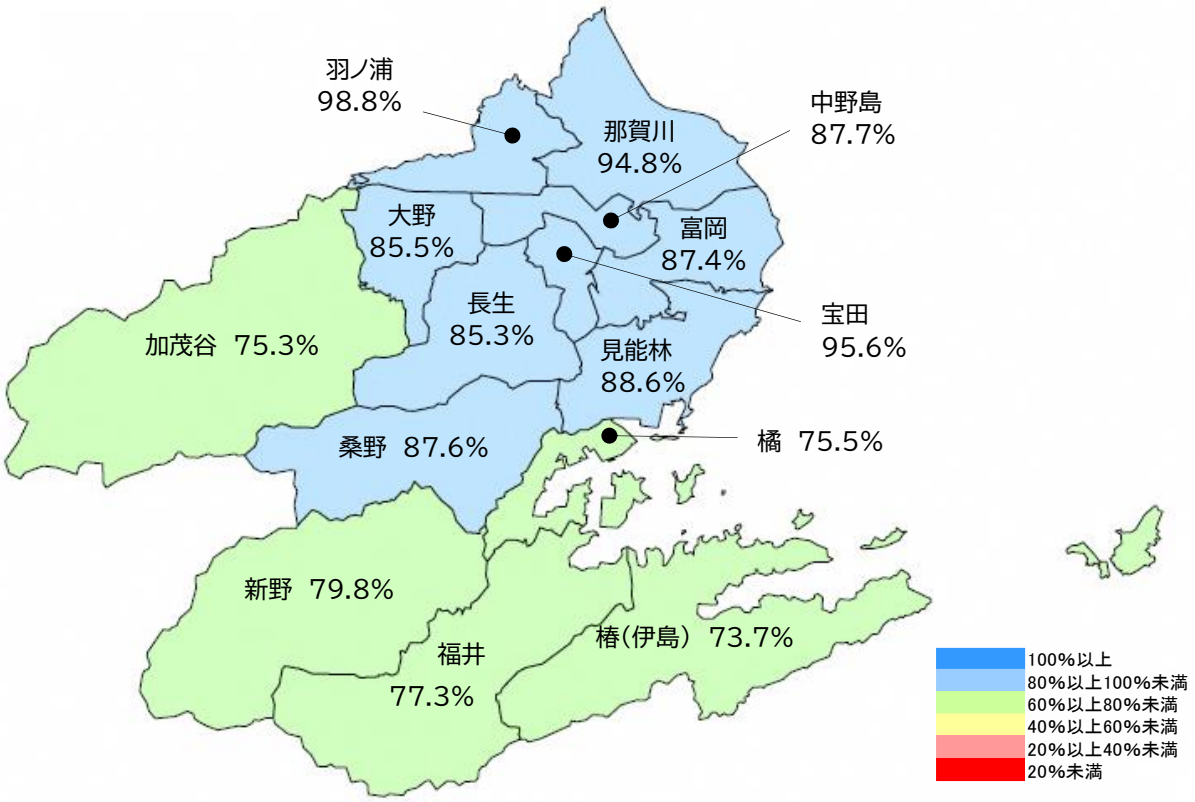
	国調人口			推計人口								
	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
阿南市	106.8	104.2	100.0	94.7	89.2	83.7	78.1	72.4	66.8	61.6	56.7	51.8
富岡	108.7	103.5	100.0	93.8	87.4	81.0	74.8	68.6	62.4	56.4	50.6	44.9
宝田	100.6	101.2	100.0	97.8	95.6	93.4	90.7	87.3	84.0	81.0	78.2	74.9
中野島	108.1	102.4	100.0	94.0	87.7	81.1	74.0	66.7	59.8	53.4	47.6	42.5
長生	111.1	109.5	100.0	92.9	85.3	77.8	70.2	62.5	55.5	48.9	43.1	37.9
大野	110.9	105.8	100.0	93.0	85.5	78.4	70.8	63.5	56.3	50.1	44.1	38.6
加茂谷	125.7	111.4	100.0	86.8	75.3	64.7	55.0	45.9	37.8	30.7	24.8	19.4
桑野	108.5	104.0	100.0	93.9	87.6	81.4	74.7	67.9	61.2	55.3	49.8	45.2
見能林	105.5	105.1	100.0	94.5	88.6	82.5	76.4	70.4	64.6	59.0	53.4	47.8
新野	120.8	113.9	100.0	89.8	79.8	70.1	60.7	51.7	43.2	35.9	29.9	24.6
福井	122.8	111.4	100.0	88.3	77.3	67.4	57.9	49.3	41.5	34.6	28.6	23.3
椿(伊島)	129.0	113.1	100.0	86.7	73.7	62.5	51.2	41.5	33.7	27.1	21.6	17.2
橘	127.3	113.2	100.0	87.2	75.5	63.9	53.9	45.4	38.4	32.2	26.5	21.5
那賀川	100.4	100.9	100.0	97.5	94.8	91.8	88.2	83.9	79.2	74.5	69.7	64.6
羽ノ浦	94.9	98.9	100.0	99.7	98.8	97.3	95.5	93.3	90.8	88.2	85.5	82.4

人口変化指数でみた地区別人口の将来動向

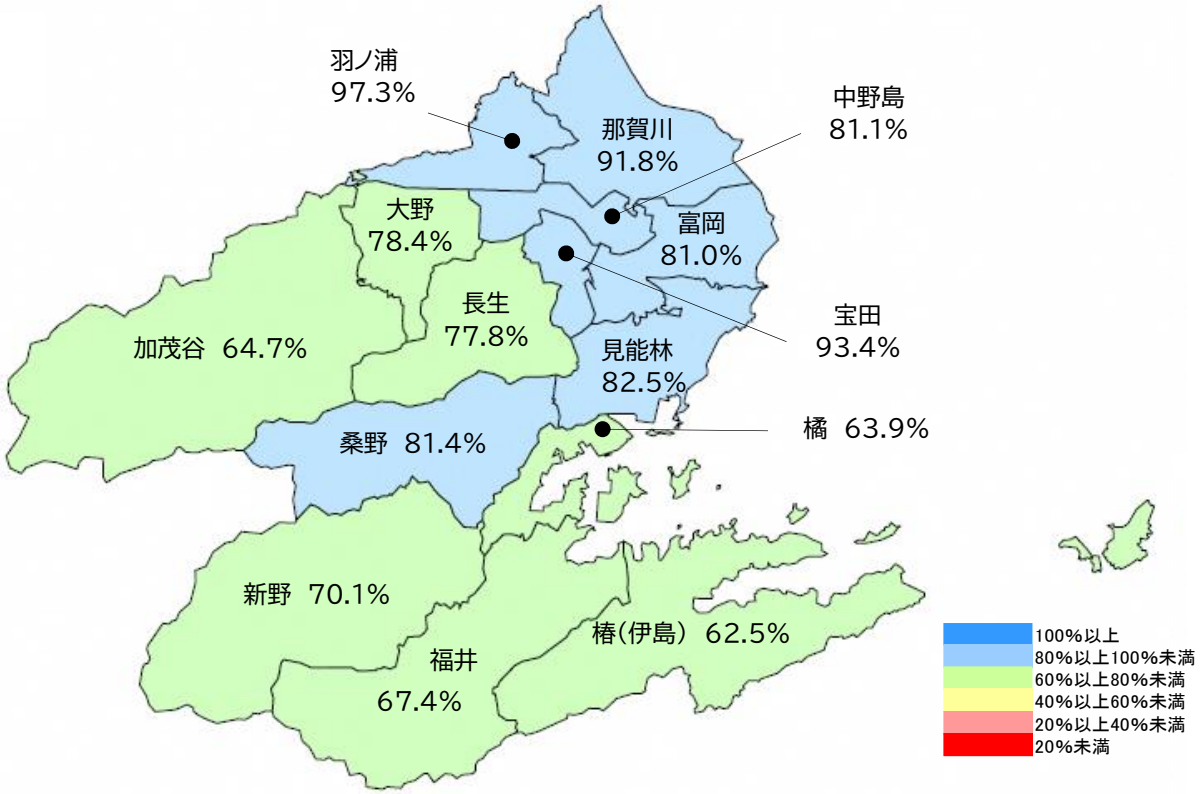
【2020 年】



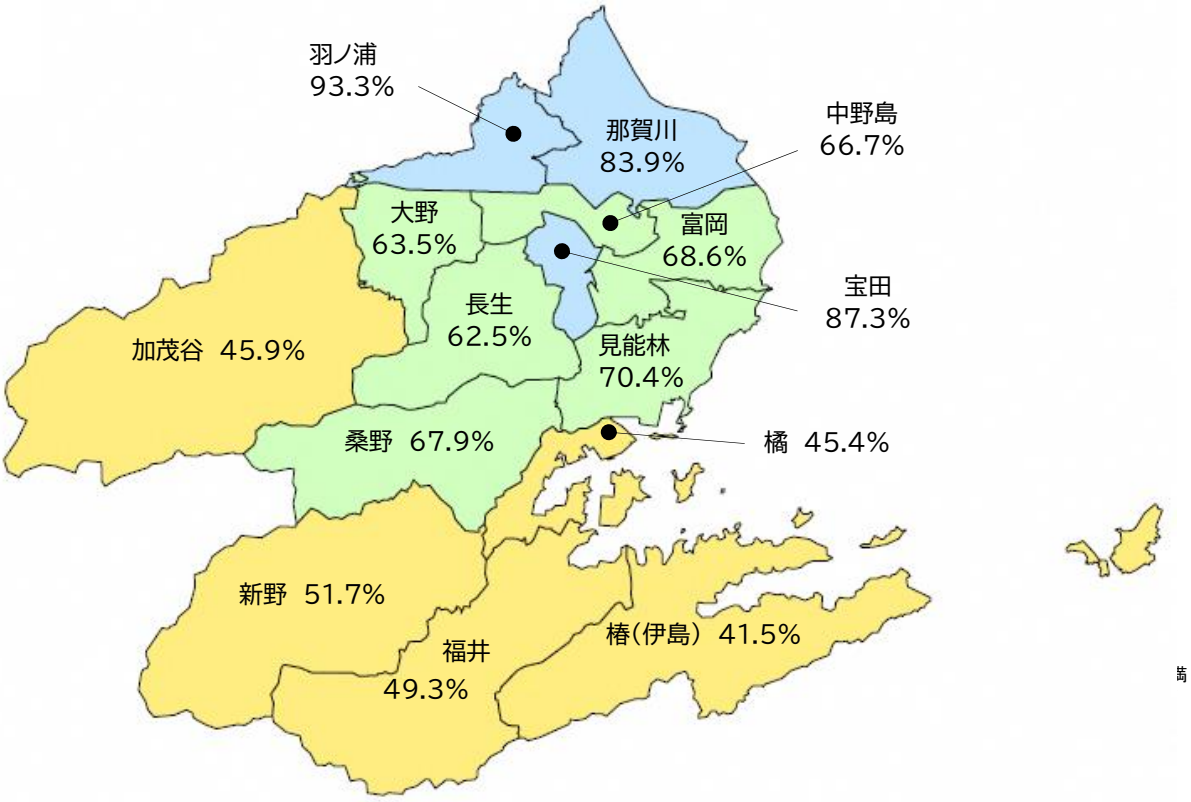
【2025 年】


羽ノ浦
98.8%
那賀川
94.8%
中野島
87.7%
大野
85.5%
富岡
87.4%
長生
85.3%
宝田
95.6%
加茂谷 75.3%
見能林
88.6%
桑野 87.6%
橘 75.5%
新野 79.8%
福井
77.3%
椿(伊島) 73.7%
100%以上
80%以上100%未満
60%以上80%未満
40%以上60%未満
20%以上40%未満
20%未満

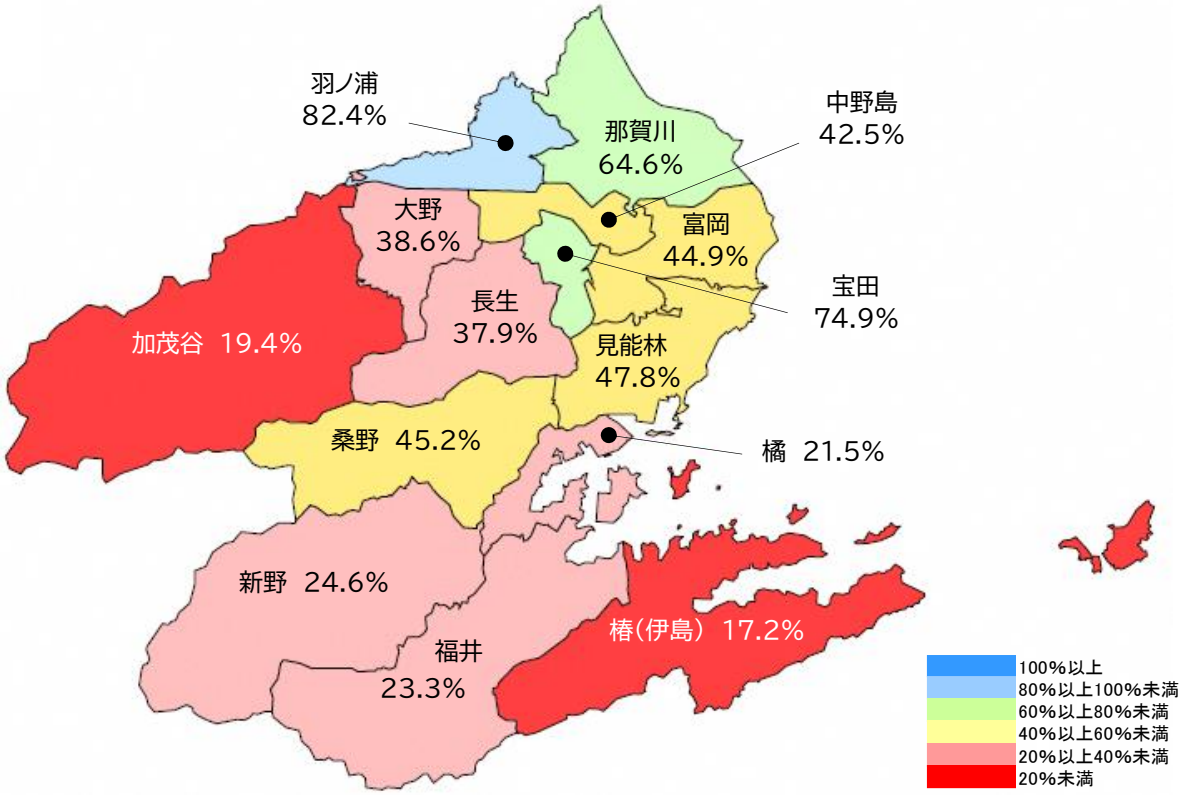
【2030年】


羽ノ浦
97.3%
那賀川
91.8%
中野島
81.1%
大野
78.4%
富岡
81.0%
長生
77.8%
宝田
93.4%
加茂谷 64.7%
見能林
82.5%
桑野 81.4%
橘 63.9%
新野 70.1%
福井
67.4%
椿(伊島) 62.5%
100%以上
80%以上100%未満
60%以上80%未満
40%以上60%未満
20%以上40%未満
20%未満

【2040 年】


羽ノ浦
93.3%
那賀川
83.9%
中野島
66.7%
大野
63.5%
富岡
68.6%
宝田
87.3%
長生
62.5%
加茂谷 45.9%
見能林
70.4%
桑野 67.9%
橘 45.4%
新野 51.7%
福井
49.3%
椿(伊島) 41.5%

【2060 年】


羽ノ浦
82.4%
那賀川
64.6%
中野島
42.5%
大野
38.6%
富岡
44.9%
宝田
74.9%
長生
37.9%
加茂谷 19.4%
見能林
47.8%
桑野 45.2%
橘 21.5%
新野 24.6%
福井
23.3%
椿(伊島) 17.2%
100%以上
80%以上100%未満
60%以上80%未満
40%以上60%未満
20%以上40%未満
20%未満

（3）年齢３区分別人口（比率）の将来動向

① 年少人口比率

年少人口比率は、総人口に占める年少人口（0～14 歳）の占める割合をいいます。

市全体では、2015 年の 12.9%から 2030 年に 10.7%に減少し、2055年以降は総人口の１割を切り、その後も減少し続けると見込まれています。

0～14歳　年少人口比率　　５年前と比べて上昇

	国調人口			推計人口								
	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
阿南市	14.0%	13.5%	12.9%	12.1%	11.3%	10.7%	10.6%	10.5%	10.3%	10.0%	9.8%	9.7%
富岡	15.7%	14.7%	13.0%	12.1%	11.1%	10.6%	10.3%	10.0%	9.6%	9.0%	8.6%	8.3%
宝田	12.4%	12.3%	13.0%	12.6%	11.8%	11.6%	11.8%	12.1%	12.1%	11.9%	11.9%	11.8%
中野島	12.8%	12.3%	12.4%	11.8%	10.9%	9.7%	9.5%	9.3%	8.9%	8.4%	8.1%	7.9%
長生	12.5%	12.9%	11.7%	10.7%	9.4%	9.0%	8.7%	8.5%	8.4%	8.0%	7.8%	7.7%
大野	12.7%	13.1%	12.9%	11.3%	10.6%	10.3%	9.4%	9.0%	8.6%	8.3%	7.9%	7.6%
加茂谷	12.1%	10.2%	8.7%	7.5%	6.2%	5.6%	4.8%	4.4%	4.2%	3.8%	3.3%	2.7%
桑野	11.7%	10.9%	11.4%	11.3%	11.0%	9.8%	9.8%	10.2%	10.0%	10.0%	9.8%	10.0%
見能林	15.0%	14.9%	13.7%	12.7%	11.7%	11.3%	11.2%	11.1%	10.8%	10.4%	10.1%	9.9%
新野	12.1%	9.6%	7.7%	6.7%	6.0%	5.2%	4.9%	4.5%	4.1%	3.7%	3.3%	3.1%
福井	12.4%	11.5%	9.5%	7.9%	6.9%	7.0%	6.6%	6.6%	6.3%	5.6%	5.1%	4.7%
椿（伊島）	10.2%	6.9%	6.6%	5.8%	5.5%	4.8%	4.7%	4.1%	3.6%	3.5%	3.2%	2.4%
橘	12.6%	11.7%	10.1%	9.1%	8.1%	7.7%	7.4%	7.2%	6.8%	6.7%	6.2%	5.7%
那賀川	14.9%	14.5%	13.6%	12.3%	11.1%	10.5%	10.1%	9.8%	9.4%	8.9%	8.4%	8.0%
羽ノ浦	15.7%	15.8%	16.1%	15.6%	15.0%	14.1%	13.9%	13.8%	13.6%	13.2%	13.0%	13.0%

② 生産年齢人口比率

生産年齢人口比率は、総人口に占める生産年齢人口（15～64歳）の占める割合をいいます。2015 年の 56.5%から 2030 年に 53.9%に減少し、2050 年には5割を割り込み、その後も減少し続けると見込まれています。中でも、新野、橘（伊島）の2地区は、2060 年に30%未満まで減少する見込みで、地域コミュニティ機能の低下が懸念されます。

15～64歳　生産年齢人口比率　　５年前と比べて上昇

	国調人口			推計人口								
	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
阿南市	61.6%	59.7%	56.5%	54.7%	54.2%	53.9%	53.4%	51.4%	50.0%	49.2%	49.1%	49.0%
富岡	61.8%	59.8%	58.7%	57.7%	57.7%	57.1%	56.0%	53.0%	51.6%	50.7%	50.4%	49.5%
宝田	60.3%	58.3%	54.8%	53.2%	53.9%	53.9%	53.5%	51.8%	51.4%	51.3%	51.0%	50.9%
中野島	64.3%	62.1%	56.9%	53.6%	51.8%	51.4%	51.1%	50.1%	48.8%	47.9%	46.9%	45.8%
長生	61.8%	59.8%	55.4%	52.5%	51.9%	51.7%	51.5%	48.0%	46.0%	46.1%	46.7%	46.9%
大野	60.7%	58.2%	55.3%	53.6%	52.0%	51.9%	52.7%	50.6%	48.3%	45.4%	45.1%	46.4%
加茂谷	55.3%	54.7%	51.6%	49.6%	47.5%	44.6%	42.7%	37.8%	35.5%	35.1%	36.2%	34.2%
桑野	59.0%	57.5%	52.9%	49.7%	47.8%	47.8%	47.3%	45.7%	45.5%	43.7%	44.5%	44.6%
見能林	64.9%	62.5%	59.6%	58.5%	58.2%	57.8%	56.6%	54.0%	52.3%	51.5%	51.6%	51.7%
新野	57.2%	56.1%	50.8%	46.2%	43.3%	40.1%	39.3%	36.8%	34.0%	32.4%	30.0%	27.3%
福井	57.3%	54.9%	51.3%	49.1%	46.7%	45.0%	43.0%	39.2%	38.5%	38.0%	34.7%	34.1%
椿（伊島）	55.5%	55.9%	49.3%	45.3%	43.2%	41.0%	40.5%	41.9%	36.6%	33.7%	30.0%	25.7%
橘	60.5%	58.1%	55.3%	55.3%	56.0%	56.4%	55.1%	51.5%	50.4%	51.9%	52.9%	52.3%
那賀川	61.7%	60.5%	58.3%	57.0%	56.7%	56.3%	55.5%	53.5%	51.9%	51.1%	50.7%	50.2%
羽ノ浦	63.0%	60.4%	56.6%	54.6%	54.4%	55.3%	55.4%	53.9%	52.3%	51.1%	50.9%	51.3%

③ 老年人口比率

老年人口比率は、総人口に占める老年人口（65 歳以上）の占める割合をいいます。

老年人口比率（高齢化率）の将来動向は、2015 年の 30.6%から 2030 年に 35.4%に増加し、2060 年には 41.3%に達すると見込まれています。

地区別にみても、比率は一様に上昇し、新野、椿（伊島）地区は 2025 年に、2035年には加茂谷、福井地区がそれぞれ50%に達するなど、地域コミュニティ機能の低下が懸念されます。

65歳以上　老年人口比率（高齢化率）　　５年前と比べて上昇

	国調人口			推計人口								
	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
阿南市	24.4%	26.8%	30.6%	33.2%	34.6%	35.4%	36.0%	38.1%	39.7%	40.8%	41.2%	41.3%
富岡	22.5%	25.5%	28.3%	30.1%	31.1%	32.3%	33.8%	37.0%	38.8%	40.3%	41.1%	42.2%
宝田	27.3%	29.3%	32.2%	34.2%	34.3%	34.5%	34.7%	36.1%	36.5%	36.8%	37.2%	37.3%
中野島	22.9%	25.6%	30.6%	34.6%	37.3%	38.9%	39.4%	40.6%	42.3%	43.7%	45.1%	46.3%
長生	25.7%	27.3%	32.9%	36.8%	38.7%	39.3%	39.9%	43.5%	45.6%	45.9%	45.5%	45.4%
大野	26.5%	28.6%	31.8%	35.0%	37.4%	37.8%	37.9%	40.4%	43.1%	46.3%	47.0%	46.0%
加茂谷	32.6%	35.1%	39.6%	42.9%	46.3%	49.8%	52.6%	57.8%	60.3%	61.0%	60.5%	63.1%
桑野	29.3%	31.6%	35.6%	39.0%	41.2%	42.4%	42.9%	44.2%	44.5%	46.3%	45.7%	45.4%
見能林	20.1%	22.7%	26.6%	28.9%	30.1%	30.9%	32.2%	34.9%	36.8%	38.1%	38.3%	38.4%
新野	30.7%	34.3%	41.5%	47.0%	50.7%	54.7%	55.9%	58.6%	61.9%	63.9%	66.7%	69.6%
福井	30.3%	33.6%	39.2%	43.1%	46.5%	48.0%	50.4%	54.2%	55.3%	56.4%	60.2%	61.3%
椿（伊島）	34.3%	37.3%	44.1%	48.9%	51.4%	54.2%	54.9%	54.0%	59.7%	62.8%	66.9%	71.9%
橘	26.9%	30.2%	34.7%	35.6%	35.9%	36.0%	37.5%	41.3%	42.7%	41.5%	41.0%	42.0%
那賀川	23.4%	25.0%	28.1%	30.7%	32.1%	33.1%	34.3%	36.6%	38.6%	40.0%	40.9%	41.8%
羽ノ浦	21.4%	23.8%	27.3%	29.9%	30.6%	30.6%	30.6%	32.3%	34.1%	35.6%	36.1%	35.7%

（4）将来の人口シェア

将来人口の推移を市全体の人口に占める地区人口の割合（シェア）で見てみると、宝田、那賀川、羽ノ浦の3地区はシェア率が増加し続けるのに対し、その他の地区は一様に減少し続けます。

すべての地区人口が減少する中にあって、こうした差が生じるということは、当該3地区よりそれ以外の地区の人口減少が、より速く進むことを意味しています。

また、2060年のシェア率を見てみると、那賀川地区と羽ノ浦地区の合計が 46.5％（あくまで参考値）に達し、市全体の過半数近くの人口がこの2地区に偏在することが見込まれています。

人口シェア

	国調人口			推計人口								
	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
阿南市	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
富岡	14.4%	14.1%	14.2%	14.0%	13.9%	13.7%	13.6%	13.4%	13.2%	13.0%	12.7%	12.3%
宝田	3.8%	4.0%	4.1%	4.2%	4.4%	4.6%	4.7%	4.9%	5.1%	5.4%	5.6%	5.9%
中野島	6.5%	6.3%	6.5%	6.4%	6.3%	6.3%	6.1%	6.0%	5.8%	5.6%	5.4%	5.3%
長生	4.2%	4.2%	4.0%	3.9%	3.8%	3.7%	3.6%	3.5%	3.3%	3.2%	3.1%	2.9%
大野	3.3%	3.2%	3.2%	3.1%	3.0%	3.0%	2.9%	2.8%	2.7%	2.6%	2.5%	2.4%
加茂谷	3.1%	2.8%	2.7%	2.4%	2.2%	2.1%	1.9%	1.7%	1.5%	1.3%	1.2%	1.0%
桑野	5.3%	5.2%	5.2%	5.1%	5.1%	5.0%	5.0%	4.9%	4.7%	4.6%	4.6%	4.5%
見能林	14.6%	14.9%	14.8%	14.8%	14.7%	14.6%	14.5%	14.4%	14.3%	14.2%	13.9%	13.6%
新野	5.3%	5.1%	4.7%	4.4%	4.2%	3.9%	3.6%	3.3%	3.0%	2.7%	2.5%	2.2%
福井	3.3%	3.1%	2.9%	2.7%	2.5%	2.3%	2.1%	2.0%	1.8%	1.6%	1.5%	1.3%
椿（伊島）	2.4%	2.2%	2.0%	1.8%	1.7%	1.5%	1.3%	1.2%	1.0%	0.9%	0.8%	0.7%
橘	4.1%	3.7%	3.4%	3.2%	2.9%	2.6%	2.4%	2.2%	2.0%	1.8%	1.6%	1.4%
那賀川	14.0%	14.4%	14.9%	15.3%	15.8%	16.3%	16.8%	17.3%	17.6%	18.0%	18.3%	18.6%
羽ノ浦	15.6%	16.7%	17.6%	18.5%	19.4%	20.4%	21.5%	22.6%	23.9%	25.1%	26.5%	27.9%

人口シェアの変化指数（2015年値＝100.0）　□ ５年前と比べて上昇

	国調人口			推計人口								
	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
阿南市	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
富岡	101.7	99.4	100.0	99.0	97.9	96.8	95.8	94.7	93.3	91.5	89.3	86.7
宝田	94.1	97.2	100.0	103.2	107.1	111.6	116.1	120.7	125.7	131.5	138.0	144.5
中野島	101.2	98.3	100.0	99.2	98.2	96.9	94.7	92.2	89.5	86.6	84.1	81.9
長生	104.0	105.1	100.0	98.1	95.6	93.0	89.9	86.4	83.0	79.4	76.1	73.1
大野	103.8	101.5	100.0	98.1	95.8	93.7	90.7	87.8	84.3	81.3	77.9	74.5
加茂谷	117.7	107.0	100.0	91.6	84.3	77.3	70.4	63.4	56.6	49.9	43.8	37.4
桑野	101.6	99.9	100.0	99.2	98.2	97.2	95.6	93.8	91.6	89.7	88.0	87.2
見能林	98.8	100.9	100.0	99.8	99.3	98.6	97.9	97.3	96.6	95.8	94.2	92.2
新野	113.1	109.3	100.0	94.8	89.4	83.7	77.7	71.4	64.6	58.3	52.7	47.5
福井	115.0	106.9	100.0	93.2	86.6	80.5	74.2	68.1	62.0	56.2	50.5	45.0
椿（伊島）	120.7	108.6	100.0	91.6	82.6	74.6	65.5	57.3	50.4	44.0	38.1	33.2
橘	119.2	108.7	100.0	92.1	84.6	76.3	69.0	62.8	57.4	52.3	46.8	41.5
那賀川	94.0	96.8	100.0	103.0	106.2	109.6	113.0	115.9	118.6	121.0	122.9	124.7
羽ノ浦	88.8	95.0	100.0	105.3	110.8	116.2	122.4	128.9	135.9	143.1	151.0	158.9

① ０～４歳人口シェア

市全体の 0～4 歳以上人口に占める各地区の当該人口の割合（シェア）を見てみると、富岡、見能林、那賀川、羽ノ浦地区の比重が大きく、2060 年には、那賀川、羽ノ浦地区の2地区に、この年齢層の過半数以上が偏在することが想定されています。

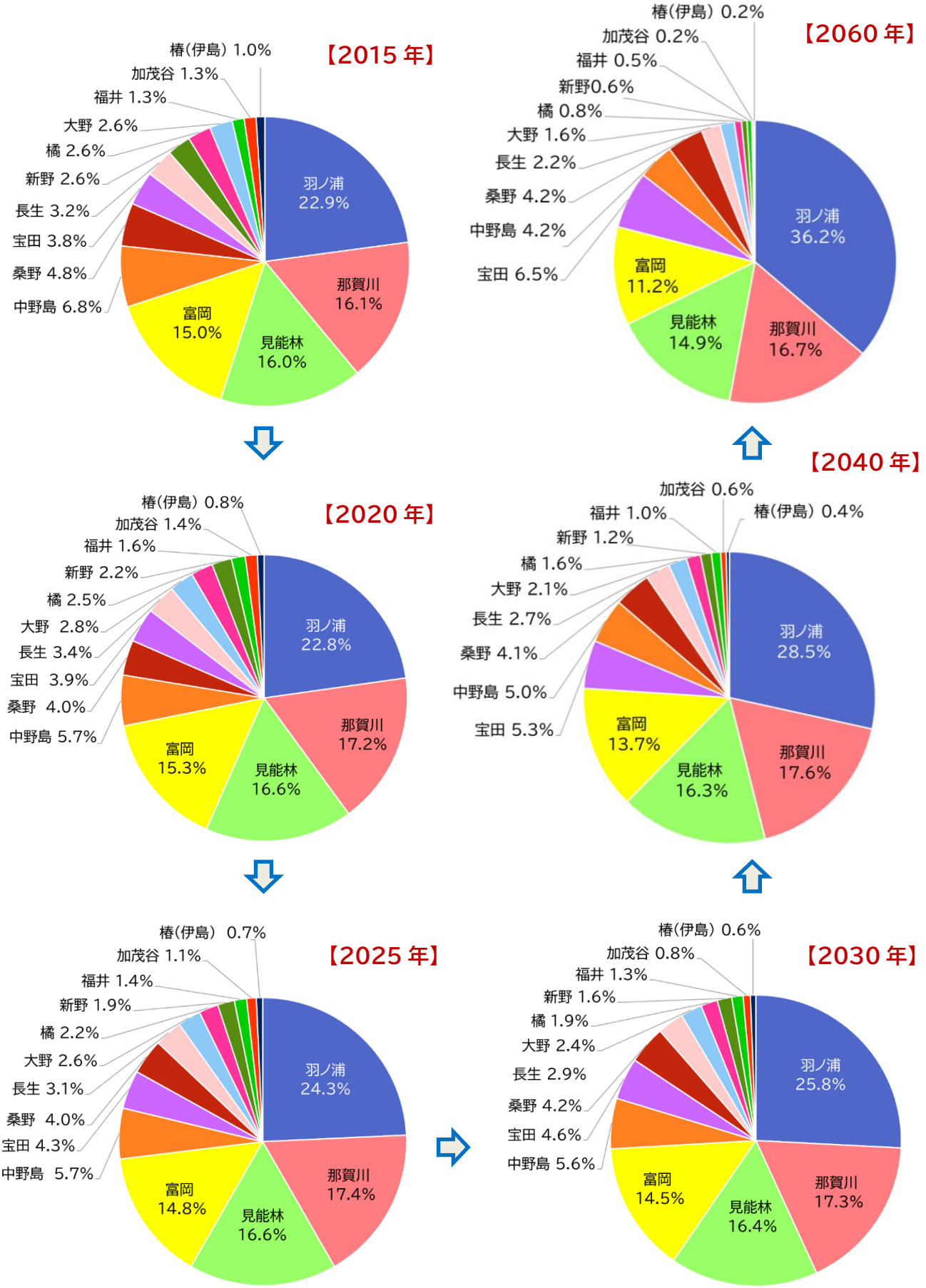
0～4歳人口シェア

	国調人口			推計人口								
	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
阿南市	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
富岡	17.3%	14.6%	15.0%	15.3%	14.8%	14.5%	14.1%	13.7%	13.0%	12.2%	11.7%	11.2%
宝田	3.0%	3.7%	3.8%	3.9%	4.3%	4.6%	5.0%	5.3%	5.5%	6.0%	6.4%	6.5%
中野島	5.6%	6.0%	6.8%	5.7%	5.7%	5.6%	5.2%	5.0%	4.7%	4.5%	4.4%	4.2%
長生	3.6%	4.2%	3.2%	3.4%	3.1%	2.9%	2.9%	2.7%	2.6%	2.4%	2.3%	2.2%
大野	3.4%	2.7%	2.6%	2.8%	2.6%	2.4%	2.1%	2.1%	2.0%	1.8%	1.7%	1.6%
加茂谷	2.5%	1.7%	1.3%	1.4%	1.1%	0.8%	0.7%	0.6%	0.5%	0.4%	0.3%	0.2%
桑野	4.1%	3.4%	4.8%	4.0%	4.0%	4.2%	4.0%	4.1%	4.0%	4.1%	4.2%	4.2%
見能林	16.8%	17.8%	16.0%	16.6%	16.6%	16.4%	16.6%	16.3%	16.0%	15.7%	15.3%	14.9%
新野	3.0%	2.8%	2.6%	2.2%	1.9%	1.6%	1.5%	1.2%	1.0%	0.8%	0.7%	0.6%
福井	2.3%	2.1%	1.3%	1.6%	1.4%	1.3%	1.2%	1.0%	0.9%	0.8%	0.6%	0.5%
椿（伊島）	1.2%	0.9%	1.0%	0.8%	0.7%	0.6%	0.5%	0.4%	0.3%	0.3%	0.2%	0.2%
橘	3.7%	3.0%	2.6%	2.5%	2.2%	1.9%	1.7%	1.6%	1.4%	1.2%	1.0%	0.8%
那賀川	15.7%	17.8%	16.1%	17.2%	17.4%	17.3%	17.6%	17.6%	17.5%	17.3%	16.8%	16.7%
羽ノ浦	17.7%	19.3%	22.9%	22.8%	24.3%	25.8%	26.8%	28.5%	30.7%	32.5%	34.4%	36.2%

0～4歳人口シェアの変化指数（2015年値＝100. ５年前と比べて上昇

	国調人口			推計人口								
	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
阿南市	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
富岡	115.7	97.3	100.0	102.1	98.6	96.9	94.2	91.3	86.6	81.6	77.8	75.0
宝田	78.2	96.8	100.0	102.3	113.4	122.1	132.0	140.2	145.5	158.9	168.8	171.7
中野島	82.6	88.7	100.0	83.8	83.5	82.3	76.9	73.0	69.2	66.3	64.9	61.3
長生	112.9	131.7	100.0	106.1	98.1	91.8	90.7	85.6	81.5	76.8	73.2	68.3
大野	130.7	104.2	100.0	108.5	101.3	92.2	80.6	80.1	77.1	71.4	64.8	63.5
加茂谷	184.3	130.1	100.0	100.9	81.3	60.2	52.9	45.2	35.7	28.5	24.9	13.5
桑野	85.8	71.0	100.0	82.5	82.6	88.0	83.8	85.5	83.7	85.7	86.5	86.6
見能林	104.8	111.3	100.0	104.0	103.9	102.8	103.6	101.8	99.9	97.9	95.8	92.9
新野	114.8	107.4	100.0	84.7	71.7	61.1	57.8	45.8	38.8	28.9	25.2	24.0
福井	175.4	154.2	100.0	116.7	102.5	94.1	89.6	76.9	66.3	57.1	43.5	40.6
椿（伊島）	127.8	95.7	100.0	77.8	72.7	61.9	50.2	37.2	28.0	31.3	25.6	18.5
橘	143.7	113.9	100.0	95.6	83.6	71.6	66.9	60.4	52.4	46.9	38.4	31.3
那賀川	97.6	110.6	100.0	106.8	108.2	107.7	109.3	109.4	108.5	107.2	104.5	103.5
羽ノ浦	77.3	84.3	100.0	99.5	106.2	112.9	117.3	124.4	134.3	142.0	150.4	158.5

■０～４歳人口のシェア率


【2015 年】
羽ノ浦 22.9%
那賀川 16.1%
見能林 16.0%
富岡 15.0%
中野島 6.8%
桑野 4.8%
宝田 3.8%
長生 3.2%
新野 2.6%
橘 2.6%
大野 2.6%
福井 1.3%
加茂谷 1.3%
椿(伊島) 1.0%
【2020 年】
羽ノ浦 22.8%
那賀川 17.2%
見能林 16.6%
富岡 15.3%
中野島 5.7%
桑野 4.0%
宝田 3.9%
長生 3.4%
大野 2.8%
橘 2.5%
新野 2.2%
福井 1.6%
加茂谷 1.4%
椿(伊島) 0.8%
【2025 年】
羽ノ浦 24.3%
那賀川 17.4%
見能林 16.6%
富岡 14.8%
中野島 5.7%
桑野 4.0%
宝田 4.3%
長生 3.1%
大野 2.6%
橘 2.2%
新野 1.9%
福井 1.4%
加茂谷 1.1%
椿(伊島) 0.7%
【2030 年】
羽ノ浦 25.8%
那賀川 17.3%
見能林 16.4%
富岡 14.5%
中野島 5.6%
桑野 4.2%
宝田 4.6%
長生 2.9%
大野 2.4%
橘 1.9%
新野 1.6%
福井 1.3%
加茂谷 0.8%
椿(伊島) 0.6%
【2040 年】
羽ノ浦 28.5%
那賀川 17.6%
見能林 16.3%
富岡 13.7%
中野島 5.0%
宝田 5.3%
桑野 4.1%
長生 2.7%
大野 2.1%
橘 1.6%
新野 1.2%
福井 1.0%
加茂谷 0.6%
椿(伊島) 0.4%
【2060 年】
羽ノ浦 36.2%
那賀川 16.7%
見能林 14.9%
富岡 11.2%
宝田 6.5%
中野島 4.2%
桑野 4.2%
長生 2.2%
大野 1.6%
橘 0.8%
新野0.6%
福井 0.5%
加茂谷 0.2%
椿(伊島) 0.2%

② 5～14歳人口

市全体の 5～14 歳以上人口に占める各地区の当該人口の割合（シェア）をみてみると、0～4歳人口と同様に富岡、見能林、那賀川、羽ノ浦地区の比重が大きく、2060 年には、那賀川、羽ノ浦地区の2地区に、この年齢層の過半数以上が偏在することが想定されています。

こうした将来推計を踏まえ、教育環境の充実の観点から、将来を見据えた適切な対応を考えることは喫緊の課題であると言えます。

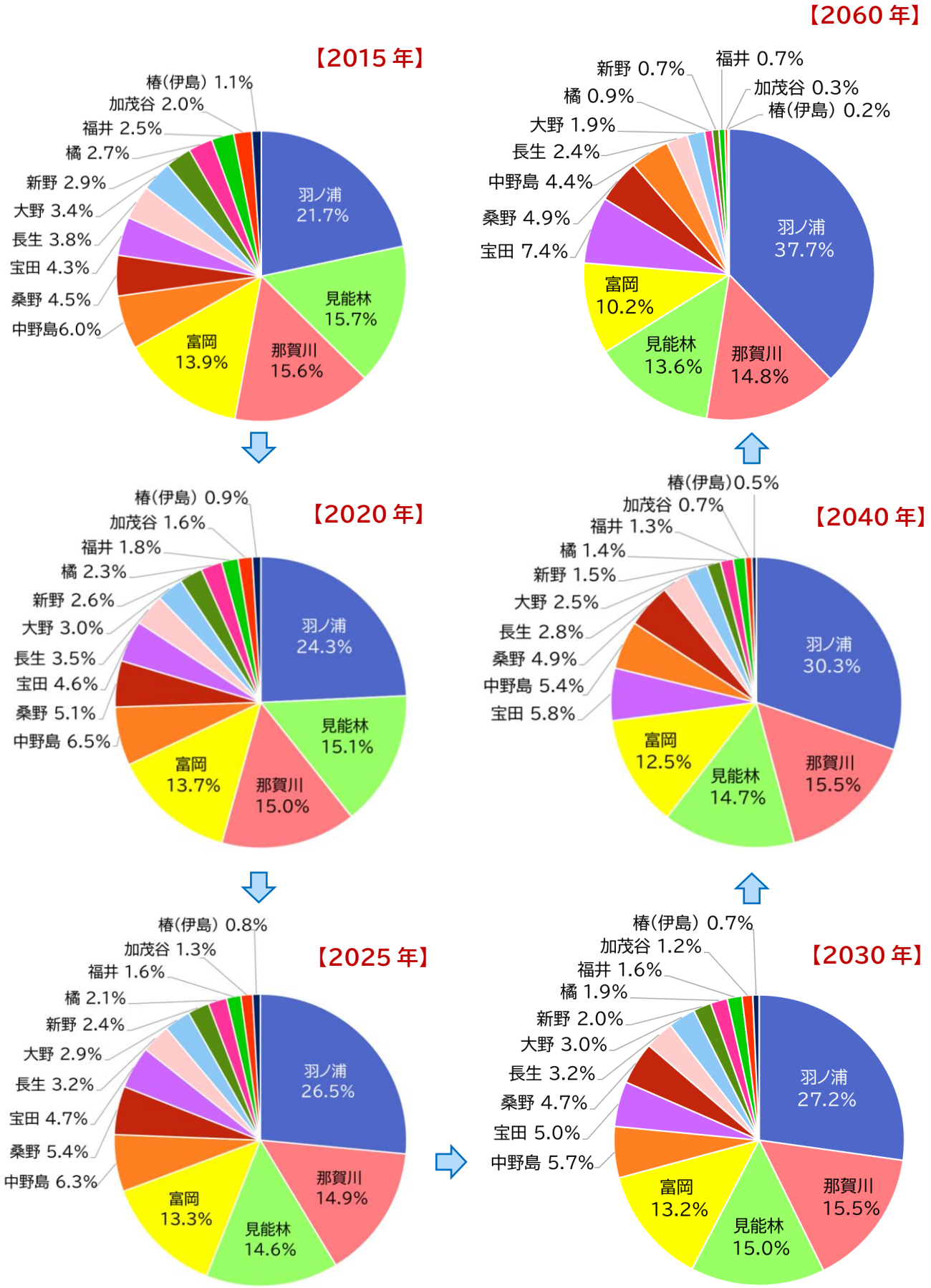
5～14歳人口シェア

	国調人口			推計人口								
	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
阿南市	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
富岡	15.6%	15.4%	13.9%	13.7%	13.3%	13.2%	12.8%	12.5%	12.0%	11.5%	10.8%	10.2%
宝田	3.6%	3.6%	4.3%	4.6%	4.7%	5.0%	5.4%	5.8%	6.2%	6.5%	7.0%	7.4%
中野島	6.1%	5.6%	6.0%	6.5%	6.3%	5.7%	5.6%	5.4%	5.1%	4.8%	4.5%	4.4%
長生	3.8%	4.0%	3.8%	3.5%	3.2%	3.2%	3.0%	2.8%	2.7%	2.6%	2.5%	2.4%
大野	2.8%	3.3%	3.4%	3.0%	2.9%	3.0%	2.8%	2.5%	2.3%	2.3%	2.1%	1.9%
加茂谷	2.8%	2.4%	2.0%	1.6%	1.3%	1.2%	0.9%	0.7%	0.7%	0.6%	0.4%	0.3%
桑野	4.5%	4.5%	4.5%	5.1%	5.4%	4.7%	4.8%	4.9%	4.8%	4.8%	4.7%	4.9%
見能林	15.0%	15.8%	15.7%	15.1%	14.6%	15.0%	14.8%	14.7%	14.6%	14.4%	14.0%	13.6%
新野	5.2%	4.0%	2.9%	2.6%	2.4%	2.0%	1.7%	1.5%	1.3%	1.1%	0.9%	0.7%
福井	3.2%	2.9%	2.5%	1.8%	1.6%	1.6%	1.4%	1.3%	1.2%	1.0%	0.8%	0.7%
椿（伊島）	2.0%	1.2%	1.1%	0.9%	0.8%	0.7%	0.6%	0.5%	0.4%	0.3%	0.2%	0.2%
橘	3.6%	3.3%	2.7%	2.3%	2.1%	1.9%	1.6%	1.4%	1.3%	1.2%	1.0%	0.9%
那賀川	14.4%	14.4%	15.6%	15.0%	14.9%	15.5%	15.5%	15.5%	15.6%	15.4%	15.2%	14.8%
羽ノ浦	17.3%	19.6%	21.7%	24.3%	26.5%	27.2%	28.9%	30.3%	31.7%	33.6%	35.7%	37.7%

5～14歳人口シェアの変化指数（2015年値＝100.0）　　５年前と比べて上昇

	国調人口			推計人口								
	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
阿南市	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
富岡	112.2	110.6	100.0	98.4	95.8	94.7	92.0	89.7	86.7	82.9	78.0	73.3
宝田	84.3	84.2	100.0	107.6	109.6	117.7	126.9	136.6	145.5	153.2	163.8	173.8
中野島	102.0	94.3	100.0	108.7	105.4	95.4	93.8	89.8	84.7	79.5	75.2	73.4
長生	99.1	104.1	100.0	92.4	84.6	84.8	78.2	74.4	71.9	68.1	64.5	62.1
大野	82.1	96.9	100.0	86.5	85.6	88.4	80.6	72.9	67.6	65.6	62.4	56.5
加茂谷	138.8	116.7	100.0	78.8	64.5	59.7	45.1	36.8	33.4	28.0	20.9	15.4
桑野	99.6	99.9	100.0	113.7	119.0	105.1	107.4	109.4	106.7	106.8	105.1	107.7
見能林	95.8	100.5	100.0	96.0	93.3	95.3	94.5	93.6	93.3	91.6	89.4	86.7
新野	181.9	139.6	100.0	89.4	82.3	69.9	60.6	53.4	44.8	38.1	31.8	25.7
福井	129.0	116.1	100.0	74.0	63.9	66.0	56.7	53.6	47.3	39.1	34.0	26.6
椿（伊島）	187.8	112.2	100.0	88.3	79.3	66.0	58.6	45.9	37.0	29.5	23.2	14.7
橘	134.2	123.4	100.0	86.3	76.1	69.3	59.9	52.9	47.5	43.9	37.6	31.5
那賀川	92.8	92.6	100.0	96.4	95.5	99.5	99.7	99.9	100.3	99.2	97.6	95.0
羽ノ浦	79.6	90.5	100.0	111.9	122.3	125.6	133.4	139.7	146.4	154.8	164.5	174.0

■5～14 歳人口のシェア率



③ 20～39 歳人口

市全体の 20～39 歳以上人口に占める各地区の当該人口の割合(シェア)を見てみると、宝田、那賀川、羽ノ浦の3地区のみが拡大し、2060 年には那賀川、羽ノ浦の2地区にこの年齢層の半数近くが集中することが見込まれています。

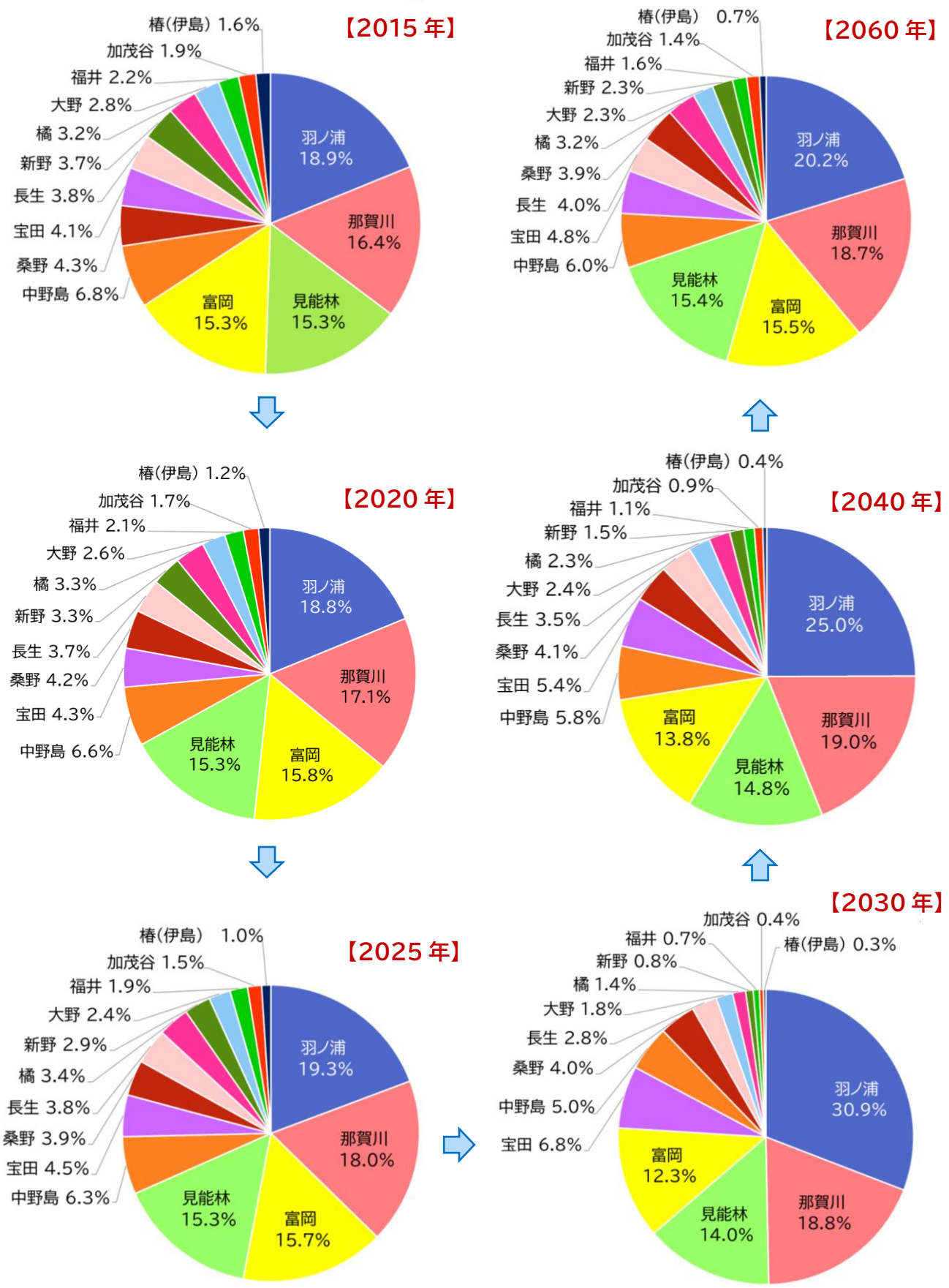
20～39歳人口シェア

	国調人口			推計人口								
	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
阿南市	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
富岡	16.1%	14.6%	15.3%	15.8%	15.7%	15.5%	14.6%	13.8%	13.5%	13.0%	12.7%	12.3%
宝田	3.8%	3.9%	4.1%	4.3%	4.5%	4.8%	5.0%	5.4%	5.7%	5.9%	6.3%	6.8%
中野島	6.5%	6.5%	6.8%	6.6%	6.3%	6.0%	5.9%	5.8%	5.7%	5.6%	5.1%	5.0%
長生	4.3%	4.5%	3.8%	3.7%	3.8%	4.0%	3.7%	3.5%	3.3%	3.0%	2.9%	2.8%
大野	3.0%	2.8%	2.8%	2.6%	2.4%	2.3%	2.3%	2.4%	2.2%	2.1%	2.0%	1.8%
加茂谷	2.5%	2.1%	1.9%	1.7%	1.5%	1.4%	1.1%	0.9%	0.8%	0.7%	0.6%	0.4%
桑野	4.4%	4.3%	4.3%	4.2%	3.9%	3.9%	4.0%	4.1%	4.1%	4.3%	4.0%	4.0%
見能林	15.9%	15.8%	15.3%	15.3%	15.3%	15.4%	15.2%	14.8%	14.5%	14.1%	14.2%	14.0%
新野	4.0%	4.1%	3.7%	3.3%	2.9%	2.3%	1.9%	1.5%	1.3%	1.2%	1.0%	0.8%
福井	2.6%	2.5%	2.2%	2.1%	1.9%	1.6%	1.3%	1.1%	0.9%	0.8%	0.8%	0.7%
椿(伊島)	1.6%	1.4%	1.6%	1.2%	1.0%	0.7%	0.5%	0.4%	0.4%	0.3%	0.3%	0.3%
橘	4.2%	3.5%	3.2%	3.3%	3.4%	3.2%	2.8%	2.3%	2.0%	1.8%	1.6%	1.4%
那賀川	15.0%	15.9%	16.4%	17.1%	18.0%	18.7%	18.9%	19.0%	18.8%	18.5%	18.9%	18.8%
羽ノ浦	16.2%	18.1%	18.9%	18.8%	19.3%	20.2%	22.7%	25.0%	26.7%	28.7%	29.6%	30.9%

20～39歳人口シェアの変化指数（2015年値＝100.0）　　５年前と比べて上昇

	国調人口			推計人口								
	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
阿南市	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
富岡	105.1	95.7	100.0	103.4	102.6	101.1	95.7	90.0	88.1	85.2	83.3	80.4
宝田	91.2	95.5	100.0	104.4	110.6	115.7	121.4	131.4	139.0	144.2	154.0	165.9
中野島	96.2	95.8	100.0	97.1	92.8	89.2	87.6	86.0	84.8	82.0	75.9	73.4
長生	113.7	119.7	100.0	99.6	102.6	105.4	99.9	93.3	87.8	80.7	77.8	74.4
大野	106.9	100.9	100.0	92.8	84.8	82.7	82.5	84.8	77.9	74.4	70.7	65.5
加茂谷	133.7	111.8	100.0	90.5	81.9	76.3	60.4	50.0	43.9	35.3	29.9	23.3
桑野	103.0	100.7	100.0	98.5	89.9	89.9	93.3	94.9	96.0	98.9	92.5	92.2
見能林	103.9	103.5	100.0	99.7	100.3	100.9	99.1	96.7	94.5	92.3	92.7	91.4
新野	108.5	110.9	100.0	90.6	78.5	62.6	51.3	41.7	36.3	31.7	27.4	22.4
福井	122.0	113.2	100.0	95.8	88.5	72.6	60.9	52.5	43.1	39.0	36.0	31.3
椿(伊島)	100.3	89.4	100.0	78.5	64.1	47.2	31.9	27.8	23.8	20.2	18.4	16.8
橘	133.8	111.2	100.0	103.2	107.7	101.2	88.4	72.8	64.4	55.4	50.4	45.2
那賀川	91.2	96.8	100.0	104.4	110.1	114.0	115.2	115.7	114.5	113.2	115.4	115.0
羽ノ浦	85.9	95.8	100.0	99.7	102.2	107.4	120.4	132.4	141.8	152.3	156.9	163.6

■20～39 歳人口のシェア率



④ 65 歳以上（高齢者）人口

市全体の65歳以上人口に占める各地区の当該人口の割合(シェア)を見てみると、宝田、那賀川、羽ノ浦の3地区に比重が大きい状態が長期にわたって続き、2060 年には、那賀川、羽ノ浦の2地区に、全体の4割余りの高齢者が集中することが想定されます。

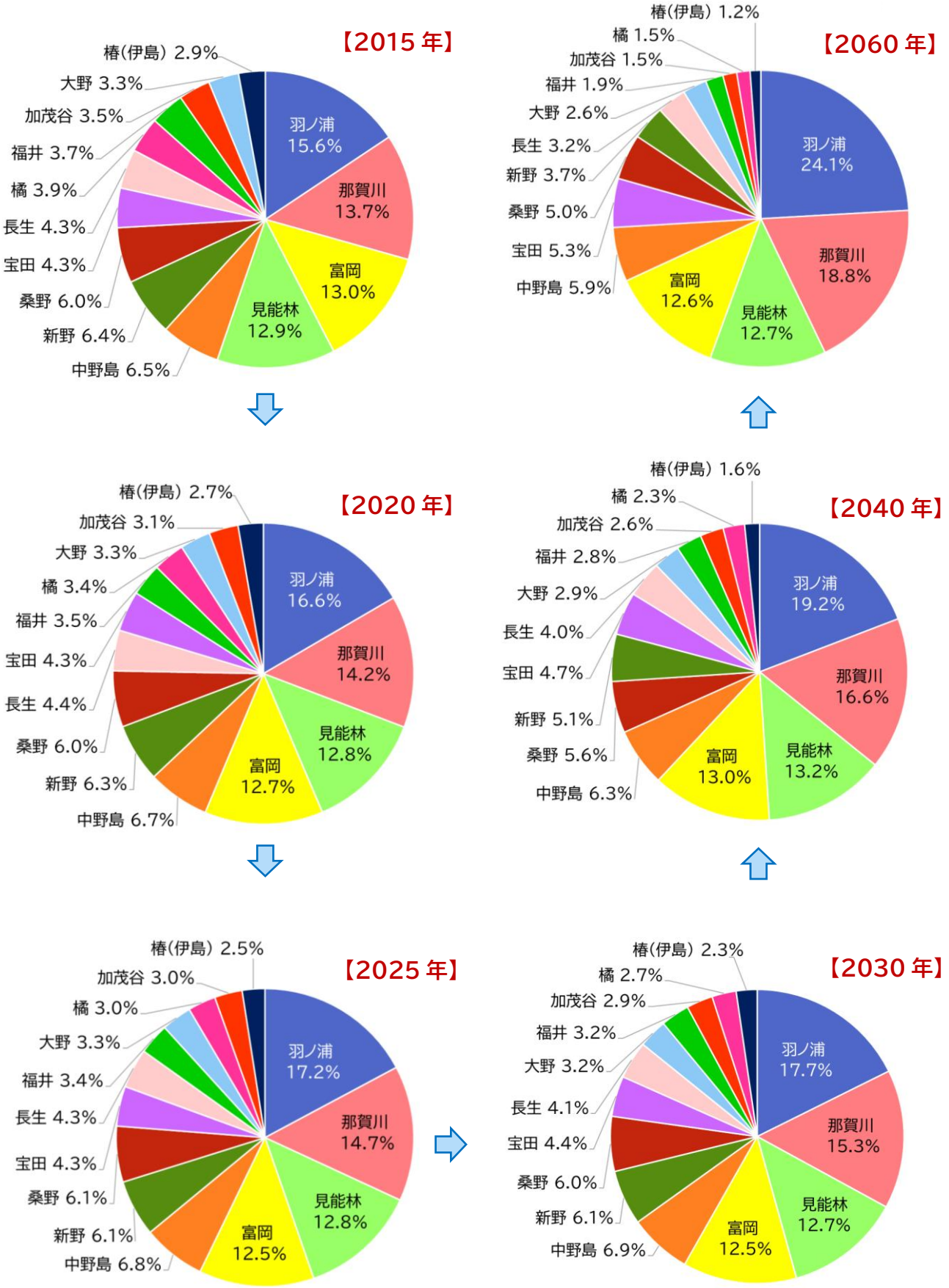
65歳以上(高齢者）人口シェア

	国調人口			推計人口								
	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
阿南市	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
富岡	13.3%	13.3%	13.0%	12.7%	12.5%	12.5%	12.7%	13.0%	12.9%	12.8%	12.6%	12.6%
宝田	4.3%	4.3%	4.3%	4.3%	4.3%	4.4%	4.6%	4.7%	4.7%	4.8%	5.1%	5.3%
中野島	6.1%	6.1%	6.5%	6.7%	6.8%	6.9%	6.7%	6.3%	6.2%	6.0%	5.9%	5.9%
長生	4.4%	4.3%	4.3%	4.4%	4.3%	4.1%	4.0%	4.0%	3.8%	3.6%	3.4%	3.2%
大野	3.6%	3.5%	3.3%	3.3%	3.3%	3.2%	3.0%	2.9%	2.9%	2.9%	2.8%	2.6%
加茂谷	4.2%	3.7%	3.5%	3.1%	3.0%	2.9%	2.7%	2.6%	2.3%	2.0%	1.7%	1.5%
桑野	6.3%	6.1%	6.0%	6.0%	6.1%	6.0%	5.9%	5.6%	5.3%	5.3%	5.1%	5.0%
見能林	12.0%	12.6%	12.9%	12.8%	12.8%	12.7%	12.9%	13.2%	13.3%	13.2%	13.0%	12.7%
新野	6.7%	6.6%	6.4%	6.3%	6.1%	6.1%	5.6%	5.1%	4.7%	4.3%	4.0%	3.7%
福井	4.1%	3.9%	3.7%	3.5%	3.4%	3.2%	3.0%	2.8%	2.5%	2.3%	2.1%	1.9%
椿(伊島)	3.4%	3.1%	2.9%	2.7%	2.5%	2.3%	2.0%	1.6%	1.5%	1.4%	1.2%	1.2%
橘	4.5%	4.2%	3.9%	3.4%	3.0%	2.7%	2.5%	2.3%	2.1%	1.8%	1.6%	1.5%
那賀川	13.4%	13.4%	13.7%	14.2%	14.7%	15.3%	16.0%	16.6%	17.2%	17.7%	18.2%	18.8%
羽ノ浦	13.6%	14.9%	15.6%	16.6%	17.2%	17.7%	18.3%	19.2%	20.5%	22.0%	23.2%	24.1%

65歳以上(高齢者）人口シェアの変化指数（2015年値＝100.0）　　５年前と比べて上昇

	国調人口			推計人口								
	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
阿南市	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
富岡	102.0	102.0	100.0	97.7	95.9	96.2	97.6	100.0	99.3	98.3	96.9	96.4
宝田	99.7	101.0	100.0	100.5	100.6	103.2	106.1	108.3	109.7	112.4	118.1	123.6
中野島	95.0	94.1	100.0	103.2	106.0	106.7	103.8	98.3	95.5	93.0	92.2	91.9
長生	102.1	100.2	100.0	101.4	99.7	96.4	92.8	91.9	89.1	83.4	78.5	74.9
大野	108.2	104.3	100.0	99.0	99.1	95.9	91.3	89.0	87.6	88.3	85.2	79.5
加茂谷	120.8	108.1	100.0	90.9	86.8	83.7	79.0	73.9	66.2	57.4	49.5	43.9
桑野	104.9	101.6	100.0	100.0	100.6	100.1	97.7	93.3	88.2	87.6	83.9	82.3
見能林	93.4	97.9	100.0	99.5	99.4	99.0	100.5	102.4	103.1	102.7	100.8	98.5
新野	104.6	103.3	100.0	98.8	96.5	95.3	88.7	80.9	74.2	67.2	62.9	58.8
福井	110.8	104.9	100.0	93.8	90.5	84.9	80.7	75.3	67.2	60.5	57.4	51.9
椿(伊島)	117.4	105.0	100.0	93.0	84.9	79.1	69.0	56.2	52.4	46.9	42.8	40.0
橘	116.4	108.3	100.0	87.4	77.7	68.7	63.5	60.2	54.7	47.1	41.2	37.3
那賀川	97.8	98.0	100.0	103.4	107.2	111.5	116.9	121.1	125.3	128.9	132.8	137.0
羽ノ浦	87.2	95.0	100.0	106.1	109.9	112.9	116.8	122.6	131.1	140.3	148.4	154.0

■65 歳以上（高齢者）人口のシェア率



⑤ 75 歳以上（後期高齢者）人口

市全体の75歳以上人口に占める各地区の当該人口の割合（シェア）を見てみると、2015年比でシェア率が上昇するのは、宝田、見能林、那賀川、羽ノ浦の4地区だけと見込まれており、

2060年には、那賀川、羽ノ浦地区の2地区に市全体の4割余りの後期高齢者が集中することが想定されます。

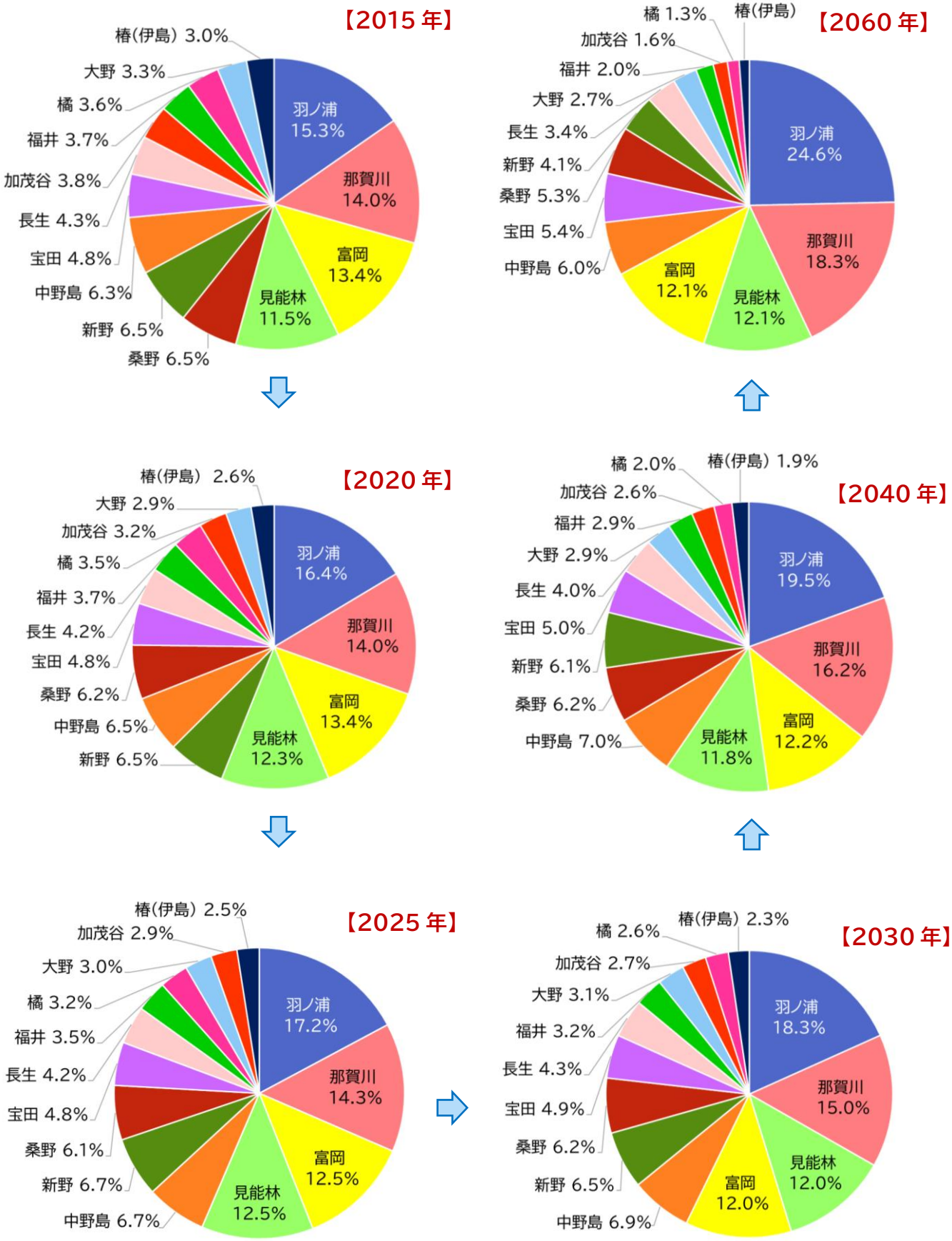
75歳以上（後期高齢者）人口シェア

	国調人口			推計人口								
	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
阿南市	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
富岡	12.2%	12.4%	13.4%	13.4%	12.5%	12.0%	11.9%	12.2%	12.5%	12.8%	12.5%	12.1%
宝田	4.9%	5.0%	4.8%	4.8%	4.8%	4.9%	4.9%	5.0%	5.1%	5.2%	5.3%	5.4%
中野島	6.1%	5.9%	6.3%	6.5%	6.7%	6.9%	7.0%	7.0%	6.6%	6.1%	6.0%	6.0%
長生	4.3%	4.5%	4.3%	4.2%	4.2%	4.3%	4.2%	4.0%	3.8%	3.8%	3.7%	3.4%
大野	3.5%	3.6%	3.3%	2.9%	3.0%	3.1%	3.1%	2.9%	2.7%	2.6%	2.7%	2.7%
加茂谷	4.2%	4.1%	3.8%	3.2%	2.9%	2.7%	2.6%	2.6%	2.4%	2.2%	1.9%	1.6%
桑野	6.9%	6.6%	6.5%	6.2%	6.1%	6.2%	6.3%	6.2%	5.8%	5.5%	5.2%	5.3%
見能林	10.9%	11.3%	11.5%	12.3%	12.5%	12.0%	11.8%	11.8%	12.3%	12.7%	12.5%	12.1%
新野	7.8%	7.2%	6.5%	6.5%	6.7%	6.5%	6.3%	6.1%	5.5%	4.8%	4.5%	4.1%
福井	4.5%	4.1%	3.7%	3.7%	3.5%	3.2%	3.1%	2.9%	2.8%	2.6%	2.2%	2.0%
椿（伊島）	3.3%	3.0%	3.0%	2.6%	2.5%	2.3%	2.0%	1.9%	1.6%	1.3%	1.2%	1.1%
橘	4.1%	3.9%	3.6%	3.5%	3.2%	2.6%	2.2%	2.0%	2.0%	2.0%	1.7%	1.3%
那賀川	14.2%	13.9%	14.0%	14.0%	14.3%	15.0%	15.6%	16.2%	17.0%	17.5%	17.9%	18.3%
羽ノ浦	13.1%	14.5%	15.3%	16.4%	17.2%	18.3%	19.1%	19.5%	19.9%	20.9%	22.8%	24.6%

75歳以上（後期高齢者）人口シェアの変化指数（2015年値＝100.0） □ ５年前と比べて上昇

	国調人口			推計人口								
	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
阿南市	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
富岡	90.9	93.0	100.0	99.9	93.4	89.4	88.6	90.9	93.6	96.0	93.1	90.3
宝田	102.4	103.8	100.0	99.2	100.4	102.0	101.4	103.4	106.4	109.3	110.1	112.6
中野島	96.8	93.7	100.0	102.4	106.0	108.8	110.7	110.0	104.2	96.5	94.4	94.3
長生	101.7	105.4	100.0	97.9	98.6	100.9	98.9	93.8	88.7	89.0	86.4	79.3
大野	107.6	109.7	100.0	88.2	91.5	93.5	92.9	87.4	80.6	80.0	80.4	81.9
加茂谷	111.5	109.4	100.0	84.7	78.0	72.6	69.9	68.3	63.8	58.8	51.1	42.2
桑野	106.8	101.9	100.0	95.4	93.7	95.6	97.4	95.2	89.9	84.5	79.7	81.8
見能林	94.2	97.7	100.0	106.5	108.1	104.3	102.0	102.1	106.8	110.1	108.5	104.9
新野	120.3	110.9	100.0	101.0	103.0	100.6	96.8	95.2	85.4	74.9	69.1	63.6
福井	122.0	109.9	100.0	98.6	93.8	87.4	83.6	77.4	74.4	69.4	60.0	52.9
椿（伊島）	107.8	100.3	100.0	86.2	81.5	77.2	67.2	61.7	53.9	41.6	40.5	37.1
橘	113.8	106.0	100.0	96.1	88.0	71.5	61.4	55.058	55.083	54.2	46.3	35.9
那賀川	101.2	99.5	100.0	99.9	102.0	106.7	111.3	115.5	121.5	125.0	128.1	130.9
羽ノ浦	85.3	94.6	100.0	107.1	112.2	119.3	124.5	126.9	129.7	136.0	148.8	160.8

■75 歳以上（後期高齢者）人口のシェア率



Ⅲ．世帯数の将来推計

１．推計方法

将来世帯数の推計方法は、別冊『阿南市人口・世帯数推計報告書』(P9)に詳しく記載していますので、ここでの説明は省略します。

２．推計結果

（１）将来世帯数

世帯主率法により将来世帯数を推計した結果、2015年に 27,129 世帯であった一般世帯数は、2030 年に 24,527 世帯に、2060 年には 16,438 世帯(2015 年比約 40%減)にまで減少することが想定されます。

世帯類型別に見てみると、「核家族世帯」は今後も概ね同水準で推移し、その内「夫婦のみ世帯」が微増する分、「夫婦と子からなる世帯」の割合が減少する見通しです。

また、「単独世帯」は、2015 年の 25.9%から 2030 年には 29.6%に、さらに 2060 年には 30.5%にまで増加する見通しです。

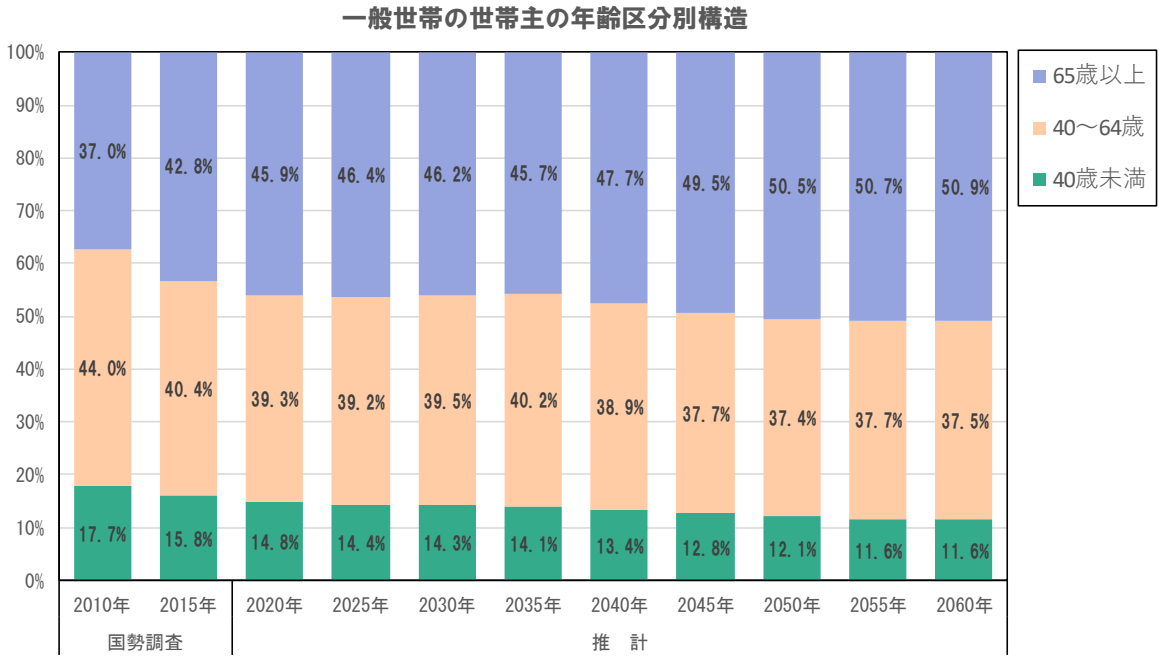
（単位：世帯）

一般世帯数の内訳	国勢調査		推　計								
	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
一般世帯	26,851	27,129	26,469	25,570	24,527	23,322	22,008	20,612	19,253	17,882	16,438
単独世帯	6,137	7,025	7,220	7,290	7,272	7,096	6,804	6,338	5,892	5,468	5,009
核家族世帯	15,459	15,761	15,555	15,025	14,328	13,582	12,806	12,021	11,240	10,429	9,587
夫婦のみ世帯	5,550	5,763	5,804	5,698	5,440	5,149	4,869	4,648	4,427	4,164	3,870
夫婦と子からなる世帯	7,447	7,449	7,188	6,821	6,478	6,119	5,757	5,370	4,962	4,559	4,158
ひとり親と子からなる世帯	2,462	2,549	2,563	2,506	2,410	2,314	2,180	2,003	1,851	1,706	1,559
その他の一般世帯	5,250	4,318	3,694	3,255	2,927	2,644	2,398	2,253	2,121	1,985	1,842
一般世帯	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
単独世帯	22.9%	25.9%	27.3%	28.5%	29.6%	30.4%	30.9%	30.7%	30.6%	30.6%	30.5%
核家族世帯	57.6%	58.1%	58.8%	58.8%	58.4%	58.2%	58.2%	58.3%	58.4%	58.3%	58.3%
夫婦のみ世帯	20.7%	21.2%	21.9%	22.3%	22.2%	22.1%	22.1%	22.5%	23.0%	23.3%	23.5%
夫婦と子からなる世帯	27.7%	27.5%	27.2%	26.7%	26.4%	26.2%	26.2%	26.1%	25.8%	25.5%	25.3%
ひとり親と子からなる世帯	9.2%	9.4%	9.7%	9.8%	9.8%	9.9%	9.9%	9.7%	9.6%	9.5%	9.5%
その他の一般世帯	19.6%	15.9%	14.0%	12.7%	11.9%	11.3%	10.9%	10.9%	11.0%	11.1%	11.2%

（２）世帯主の年齢区分別構造

一般世帯における世帯主の年齢区分別構造を見てみると、2015 年では 65 歳以上が 42.8%と最も多く、次いで 40～64 歳(40.4%)、40 歳未満(15.8%)となっています。

40年後の 2060 年には、65 歳以上が 50.9%(8.1%増)と過半数を占めるようになり、40～64 歳は37.5%(2.9%減)、40 歳未満は 11.6%(4.2%減)となる見通しです。

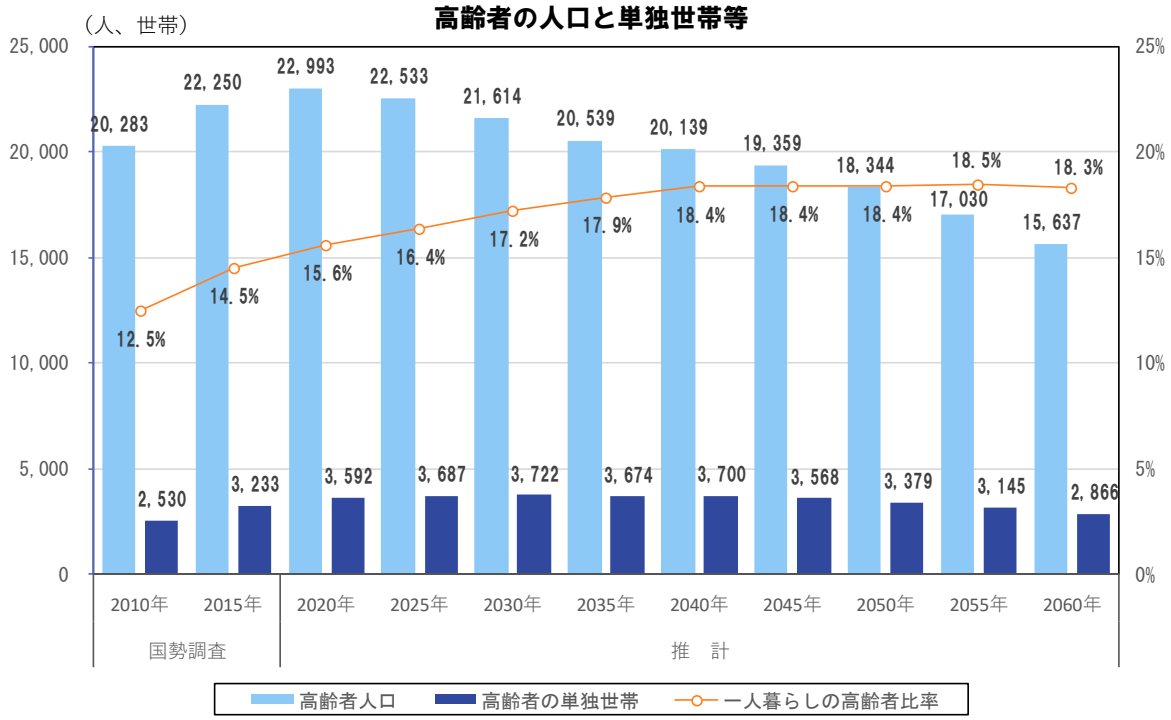


（単位：世帯）

一般世帯	国勢調査		推　計								
	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
世帯主	26, 851	27, 129	26, 469	25, 570	24, 527	23, 322	22, 008	20, 612	19, 253	17, 882	16, 438
40歳未満	4, 760	4, 292	3, 926	3, 673	3, 518	3, 291	2, 952	2, 630	2, 326	2, 078	1, 900
40～64歳	11, 822	10, 959	10, 391	10, 026	9, 686	9, 371	8, 559	7, 780	7, 201	6, 735	6, 171
65歳以上	9, 930	11, 612	12, 152	11, 871	11, 323	10, 660	10, 497	10, 202	9, 726	9, 069	8, 367
世帯主	100. 0%	100. 0%	100. 0%	100. 0%	100. 0%	100. 0%	100. 0%	100. 0%	100. 0%	100. 0%	100. 0%
40歳未満	17. 7%	15. 8%	14. 8%	14. 4%	14. 3%	14. 1%	13. 4%	12. 8%	12. 1%	11. 6%	11. 6%
40～64歳	44. 0%	40. 4%	39. 3%	39. 2%	39. 5%	40. 2%	38. 9%	37. 7%	37. 4%	37. 7%	37. 5%
65歳以上	37. 0%	42. 8%	45. 9%	46. 4%	46. 2%	45. 7%	47. 7%	49. 5%	50. 5%	50. 7%	50. 9%

（3）高齢者の人口と単独世帯等

高齢者の単独世帯比率の増加は、高齢者に占める一人暮らし高齢者の比率の増加を意味します。こうした一人暮らし高齢者の比率について見てみると、2015 年の 14.5%から 2030 年には 17.2%に増加し、さらに 2040 年には 18.4%にまで増加、その後は概ね同水準で推移することが想定されます。



（単位：世帯）

	国勢調査		推　計								
	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
高齢者人口	20,283	22,250	22,993	22,533	21,614	20,539	20,139	19,359	18,344	17,030	15,637
高齢者の単独世帯	2,530	3,233	3,592	3,687	3,722	3,674	3,700	3,568	3,379	3,145	2,866
一人暮らしの高齢者比率	12.5%	14.5%	15.6%	16.4%	17.2%	17.9%	18.4%	18.4%	18.4%	18.5%	18.3%

＜参考＞

上記グラフで示したとおり、本市における高齢者人口は 2020 年頃にピークを迎え、その後は減少に転じますが、高齢者人口より65歳未満人口の減少割合が大きいため、高齢化率は 2020 年以降も引き続き増加していくものと想定されます。

なお、高齢者人口のピークについては、今後将来的に高齢期を迎える年齢層（コーホート）としての団塊ジュニア世代等の人口規模によって異なってきます。

今後、大きな人口規模の団塊ジュニア世代を抱える国全体や大都市部では、団塊ジュニア世代がすべて高齢期となる 2040 年以降に高齢者人口のピークを迎えることが想定されるのに対し、本市は、団塊ジュニア世代の人口規模がさほど大きくないため、ピークが早く訪れることになります。

第４章　社会経済状況の動向

Ⅰ．社会経済動向と今後の見込み

１．環境問題

（１）環境問題の深刻化

○大量の資源消費に起因する二酸化炭素の増加等による地球温暖化や資源の枯渇、生物多様性の減少といった地球環境問題が深刻化しています。とりわけ、地球温暖化に伴う気候変動の影響により、豪雨や猛暑などの異常気象の頻発といった自然災害リスクの増大が差し迫った課題として憂慮されているほか、世界的な人口増加や新興国の経済成長などと相まって、水不足や食料不足なども懸念されています。

○特に日本では、年平均気温がこの100 年で 1.21 度と、世界平均（0.73 度）を上回る速度で気温上昇が進んでおり、豪雨などによる気象災害だけでなく、農業などさまざまな分野で影響が深刻化しつつあります。

○2015 年 12月に採択されたパリ協定は、国際的な気候変動への対応として、「世界全体の平均気温の上昇を産業革命以前に比べて2度より低く保つとともに、1.5 度に抑える努力を追求すること」として、世界の多くの国々が脱炭素社会の実現に向けた取組を加速させています。

（２）持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）

○2015 年 9 月に「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」が国連で採択され、国連に加盟するすべての国が 2015 年から 2030 年までに、貧困や飢餓の撲滅、エネルギー、気候変動、平和な社会の促進など、持続可能な開発のための諸目標を達成すべく力を尽くすことを宣言するものです。

○そのアジェンダの中核を成すのが、「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals：SDGs）」です。17 の目標には、環境への取組を推進することでその解決につながる多くの項目が掲げられています。その背景には、地球温暖化の進行に伴う世界各地での異常気象の頻発、資源の枯渇や生物多様性の減少など、環境問題の深刻化があり、環境問題の解決なくして、持続可能な社会は築き得ないということの表れといえます。

○このような国際的な動向を踏まえて、日本政府は、2016 年 5 月に安倍晋三首相を本部長に、全国務大臣を構成員とする「SDGs 推進本部」を発足させ、同推進本部幹事会において決定された「SDGs 実施指針」（2016 年 10 月 18 日）では、「わが国は、SDGs 実施における世界のロールモデルとなることを目指し、国内実施、国際協力の両面において、世界を、誰一人取り残されることのない持続可能なものに変革するための取組を進めていくことを目指す」としています。

《５つの特徴》

◇**普遍性**：先進国を含めて、すべての国が行動

◇**包摂性**：人間の安全保障の理念を反映し、「誰一人取り残さない」

◇**参画型**：すべてのステークホルダーが役割を

◇**統合性**：社会・経済・環境に統合的に取り組む

◇**透明性**：定期的にフォローアップ

《５つの要素》

◇**PEOPLE**　人間

◇**PROSPERTY**　豊かさ

◇**PEACE**　平和

◇**PARTNERSHIP**　パートナーシップ

◇**PLANET**　地球

出典
国連広報センター

ＳＤＧｓが目指す１７のゴール	
1. 貧困をなくそう	あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ
2. 飢餓をゼロに	飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する
3. すべての人に健康と福祉を	あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する
4. 質の高い教育をみんなに	すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する
5. ジェンダー平等を実現しよう	ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る
6. 安全な水とトイレを世界中に	すべての人に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する
7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに	すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する
8. 働きがいも経済成長も	すべての人のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）を推進する
9. 産業と技術革新の基盤をつくろう	強靭なインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、技術革新の拡大を図る
10. 人や国の不平等をなくそう	国内および国家間の格差を是正する
11. 住み続けられるまちづくりを	都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靭かつ持続可能にする
12. つくる責任　つかう責任	持続可能な消費と生産のパターンを確保する
13. 気候変動に具体的な対策を	気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る
14. 海の豊かさを守ろう	海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する
15. 陸の豊かさも守ろう	陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る
16. 平和と公正をすべての人に	持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する
17. パートナーシップで目標を達成しよう	持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

２．南海トラフ地震対策

○今後 30 年以内に、南海トラフ地震（M8～9クラス）が 70～80％程度、今後 50 年以内に 90％程度（地震調　査研究推進本部「活断層及び海溝型地震の長期評価」〈平成 31 年 2月 26日公表〉）の確率で発生するとの予測が公表されており、巨大地震発生への社会的な備えが急務となっています。特に、高度成長期以降に整備された道路橋、トンネル、河川、下水道、港湾などの社会インフラについては、今後、建設後 50 年以上経過する施設の割合が加速度的に高まっていくと想定されおり、大規模自然災害に耐えうる強靭な国土づくりが喫緊の課題となっています。

３．情報通信技術の発展

○現在、世界の国々では、ICT 機器の爆発的な普及とともに、IoT（Internet of Things）、ビッグデータ、AI、ロボットなどの革新技術がけん引する「第4次産業革命」が急激な進展を見せており、さまざまな製品、サービスの開発や社会実装が次々と進み、生活のあり方に大きな変化をもたらしています。5G（第5世代移動通信システム）サービスも開始され、革新技術によるイノベーションは、今後さらに進展すると考えられており、生産や販売、消費といった経済活動に加え、健康や医療、公共サービス、さらには人々の働き方などを根底から変えていくとともに、国連の「持続可能な開発目標（SDGs）」に代表される人類共通の課題解決や世界全体の持続的発展に寄与することが期待されています。

○さらに、情報社会（Society 4.0）では知識や情報が共有されず、分野横断的な連携が不十分であるという問題がありました。Society5.0（サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、新たな未来社会）は、IoT で全ての人とモノがつながり、さまざまな知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出すことで、これらの課題や困難を克服できるとともに、各々の地域特性に応じて有効に活用することで、単に直面する課題に対処するだけではなく、モノやサービスの生産性や利便性を飛躍的に高め、産業や生活等の質を大きく変化させ、魅力を向上させるものと期待されています。

４．市民の価値観の多様化

○社会や経済の成熟、国際化の進展、情報通信技術の発達などに伴い、これまでの画一的・横並び志向から、慣習にとらわれない自由で個性的な生き方や生活のあらゆる場面において多様な選択を求める動きが見られるなど、価値観やライフスタイルが多様化してきています。とりわけ、価値観においては、物の豊かさより心の豊かさを重視する人が増えてきています。

○このように、価値観が多様化する社会にあっては、心身の健康づくりやワーク・ライフ・バランスの推進をはじめ、豊かな人間性を育む教育・文化の振興などにより、価値観の変化に対応した新たな文化の創造を図るとともに、市民一人ひとりの価値観や多様な生き方が尊重され、個性や能力が最大限に発揮できるまちづくりに取り組んでいく必要があります。

○さらに、今後ますます多様化・複雑化が見込まれる地域課題に対し、市民、地域住民組織、事業者、行政などが協働して解決に取り組んでいく必要があります。

5．地方分権の進展

○行政サービスの持続可能性を保つには、地域課題に総合的に対応する地方公共団体の役割はますます重要になり、新たな発想も取り入れながら地域の実情に応じた解決策を実行していく必要があります。

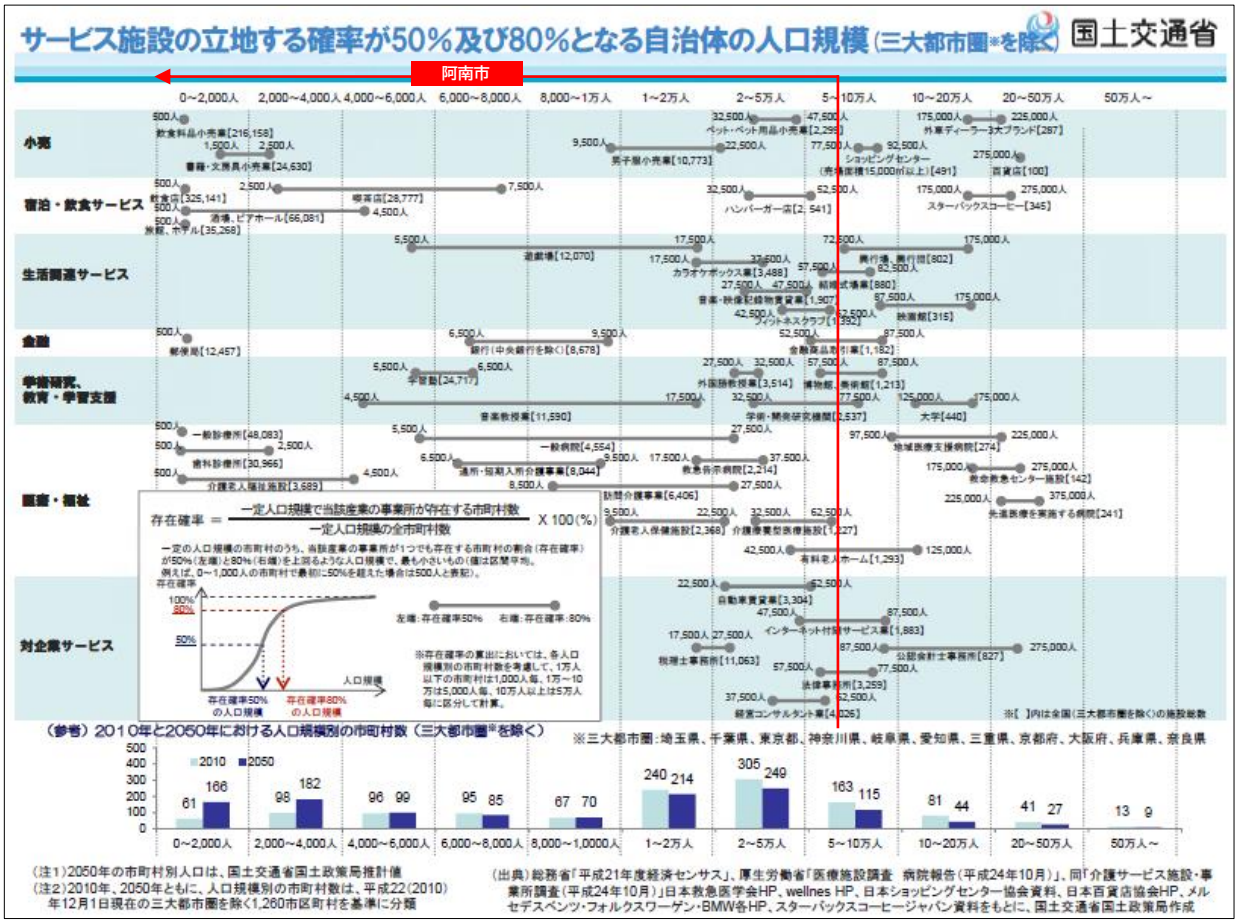
○地方分権は、地域が自らの発想により問題解決を図るための基盤となるものであり、地方公共団体がこのような変化・課題に対応するため、事務・権限の移譲や義務付け・枠付けの見直しなど、地方公共団体の自由度を高める地方分権改革を一層推進する必要があるとともに、新技術等を活用しながら効率的に行政サービスを提供することも求められます。

○こうした時代の流れに適切に対応し、市民が主体となった地域社会の形成を目指して地方分権を一層進めるとともに、行政と市民や企業との緊密なパートナーシップにより、心の豊かさを実感できるまちづくりを進める必要があります。

6．人口減少がまち・生活に与える影響

○私たちが日常生活を送るために必要な各種サービスは、一定の人口規模のうえに成り立っています。必要とされる人口規模はサービスの種類によりさまざまであり、その分布状況を示したものが下図です。

○人口減少により、こうした生活関連サービスの立地に必要な人口規模を割り込む場合には、地域からサービス産業の撤退が進み、生活に必要な商品やサービスを入手することが困難になるなど、日々の生活が不便になる恐れがあります。



出典：国土交通省　都市圏参考資料

Ⅱ．国及び県の関連計画の整理

１．まち・ひと・しごと創生基本方針 2019（国）

◇令和元年6月 21 日閣議決定

２．『未知への挑戦』とくしま行動計画（徳島県）

◇計画期間　2019（令和元）年度から 2022（令和 4）年度までの 4 年間

３．徳島県南部圏域振興計画（徳島県　南部総合県民局）　平成 30 年 9 月

◇計画期間　2019（令和元）年度から 2022（令和 4）年度までの 4 年間

４．徳島発の政策提言　「持続可能な社会」実現への処方箋　　令和元年 11 月

Ⅲ．関連法令等の整理

１．総合計画における法的位置付け

国の地域主権改革の下、平成 23 年5月2日に「地方自治法の一部を改正する法律」が公布され、基本構想の法的な策定義務がなくなり、策定及び議会の議決を経るかどうかは市の独自の判断に委ねられることとなりました。

しかし、同日付けで総務大臣から、引き続き個々の自治体の判断で、地方議会の議決を経て基本構想の策定を行うことが可能である旨の通知が出され、この通知に基づき、条例を根拠にして基本構想を策定する地方自治体が増えています。

【総務大臣通知（総行行第 57 号総行市　第 51 号　平成 23 年5月2日）抜粋】

第4　地方分権改革推進計画に基づく義務付けの廃止に関する事項

市町村の基本構想に関する規定を削除することとされたこと。（旧法第2条第4項関係）

なお、改正法の施行後も、法第 96 条第2項の規定に基づき、個々の市町村がその自主的な判断により、引き続き現行の基本構想について議会の議決を経て策定することは可能であること。

《地方自治法第 96 条》

普通地方公共団体の議会は、次に掲げる事件を議決しなければならない。

一　条例を設け又は改廃すること。

二　予算を定めること。（略）

2　前項に定めるものを除くほか、普通地方公共団体は、条例で普通地方公共団体に関する事件（法定受託事務に係るものを除く。）につき議会の議決すべきものを定めることができる。

２．その他関連する法令

・まち・ひと・しごと創生法（平成二十六年法律第百三十六号）抄

・地域再生法（平成 17 年法律第 24 号）

・都市計画法第 18 条の2　　・都市計画法第 6 条の2

・国土形成計画法　　・国土利用計画法　　・その他個別計画の根拠法令　等

第５章　現行の総合計画・総合戦略の整理

Ⅰ．総合計画の基本目標・施策体系等

１．第５次阿南市総合計画の施策評価

○本施策評価は、「（仮称）第6次阿南市総合計画」を策定するにあたり、「第5次阿南市総合計画＜後期基本計画＞」に掲げている施策を、担当部署が各施策の進捗度や残された課題について検証しています。

○具体的取組の進捗度を４段階で評価し、次の方法により点数化して示しています。

【進捗評価方法】

点数	評価基準
4	Ａ　十分な成果が得られている
3	Ｂ　十分な成果が得られる見込みである
2	Ｃ　事業継続中により、現段階では成果は得られていない
1	Ｄ　準備段階である

※1つの施策について、複数の担当課が評価を行っている場合は、各課の評価した点数の平均としています。

○評価可能な 454 の具体的取組の評価結果は、次のとおりです。

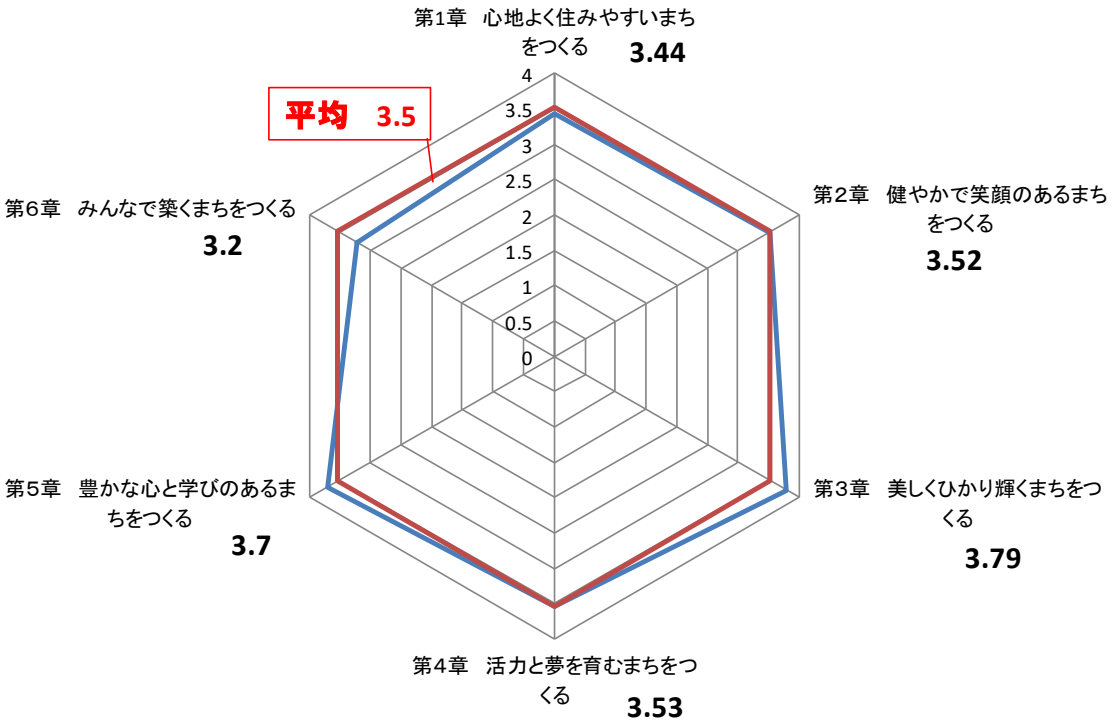
章	施策名	4段階評価				
		A	B	C	D	計
1	1 市街地の整備、都市景観の形成	1	1			2
	2 道路・交通網の整備	5	3		1	9
	3 港湾の整備	1				1
	4 住宅の整備	8	1	3	1	13
	5 上水道の整備	4		2		6
	6 下水道の整備	3	3	1		7
	7 防災・消防体制の充実	10	14	2		26
	8 交通安全・防犯体制の充実	7	1			8
	9 地域情報化の推進	2	6	1		9
2	1 地域福祉の推進	3	5			8
	2 保健・医療の充実	16	7			23
	3 高齢者福祉の充実	6	26	3		35
	4 子育て支援の充実	23	3	1		27
	5 障がい者福祉の充実	2	8			10
	6 社会保障の充実	2	2			4
	7 年金・保険の充実	2				2
3	1 環境循環型社会の形成	7				7
	2 調和のとれた土地利用の推進	1				1
	3 治山・治水の推進	2	1			3
	4 衛生環境行政の充実	7	2			9
	5 公園・緑化の推進	2	2			4
4	1 農業の振興	13	8			21
	2 林業の振興	6	1			7
	3 漁業の振興	4				4
	4 工業の振興	1	6			7
	5 商業・サービス業の振興	3				3
	6 観光の振興	10	4	1		15
	7 雇用環境の充実	2	6	2		10
	8 消費者行政の充実		4			4
5	1 生涯学習環境の整備	19	2			21
	2 就学前教育・家庭教育の充実	6	1	1		8
	3 学校教育の充実	20	11			31
	4 人権の尊重	7				7
	5 男女共同参画社会の推進	15	1			16
	6 青少年の健全育成	7	7			14
	7 健康増進・体力づくりと生涯スポーツの振興	12	2	1		15
	8 豊かな歴史文化の継承と新しい文化の創造	12	2			14
	9 国際交流・地域間交流の推進		2			2
6	1 ボランティア活動の推進		1	1		2
	2 地域コミュニティの形成	4	3			7
	3 移住・定住の促進や新たなつながりの創出	5	3			8
	4 市民と行政との協働体制の推進	3	3			6
	5 効率的な行政運営		2		1	3
	6 健全な財政運営	7	1		1	9
	7 広域行政の推進	3	3			6
計		273	158	19	4	454
達成率		60.1%	34.8%	4.2%	0.9%	100.0%

2．施策の柱（章）単位の評価

○「第5次阿南市総合計画＜後期基本計画＞」における取組（主な施策、具体的取組）は、5つの施策の柱（章）に基づき体系化されており、これらの章単位の評価は次のとおりです。

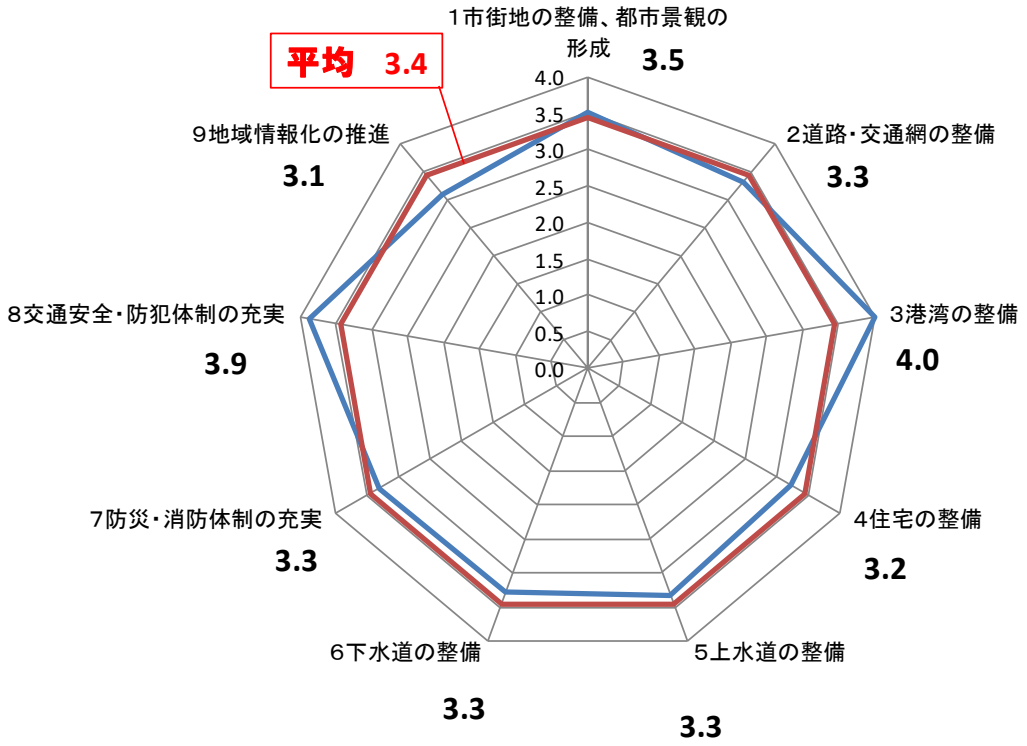
○章単位で最も評価が高かったのは“第3章　美しくひかり輝くまちをつくる”で 3.79 点、これを含め、5つの柱すべてが 3 点台です。

○計画全体では、3.5 点で、「計画した取組はある程度実施できているが、まだ残されたものもあり今後ともさらなる取組が必要である」と総括することができます。

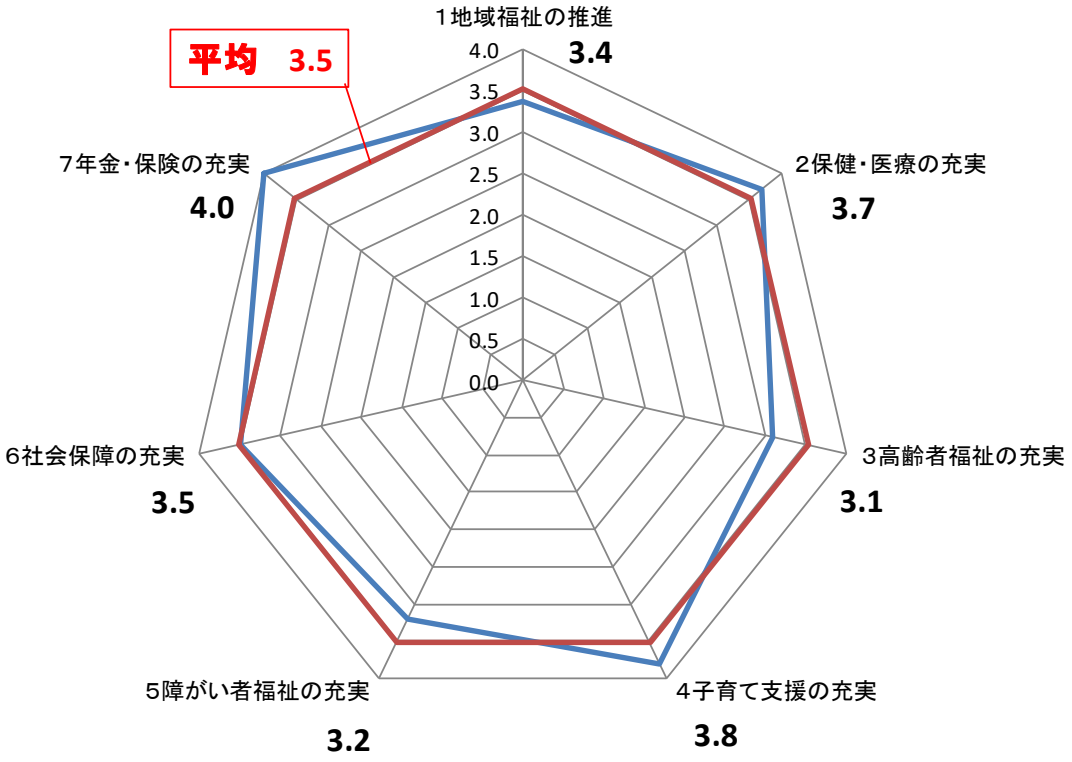


３．主な施策単位の評価

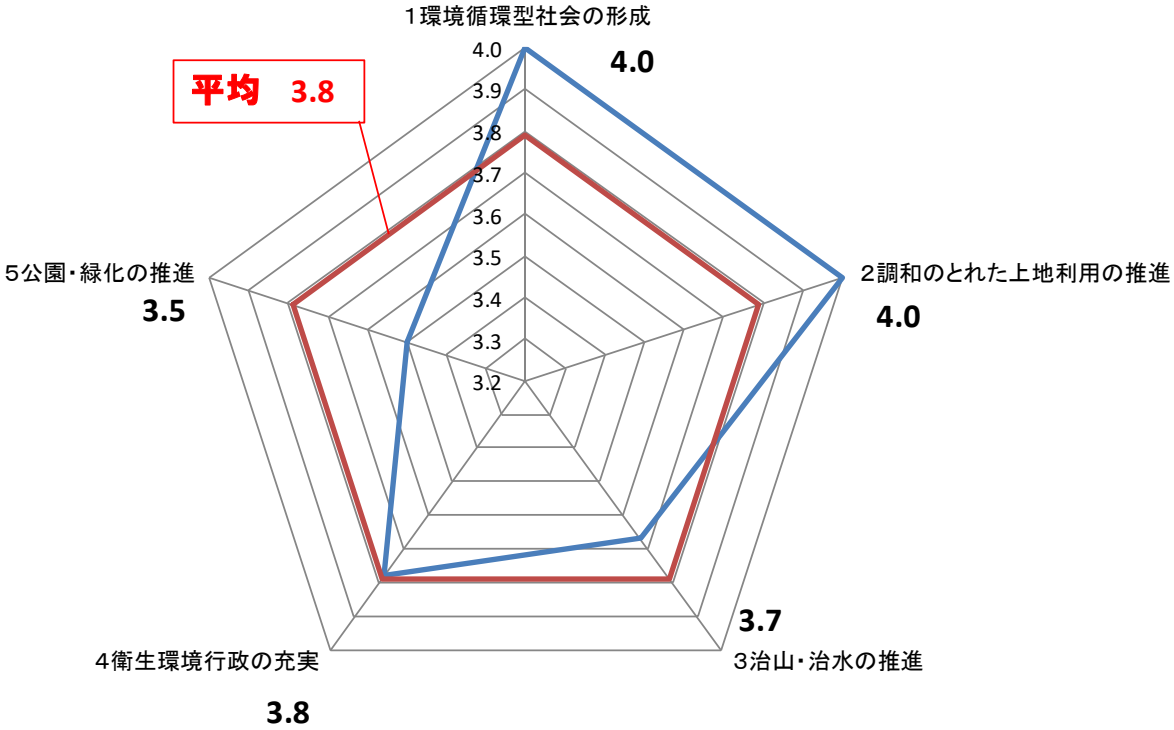
第１章　心地よく住みやすいまちをつくる



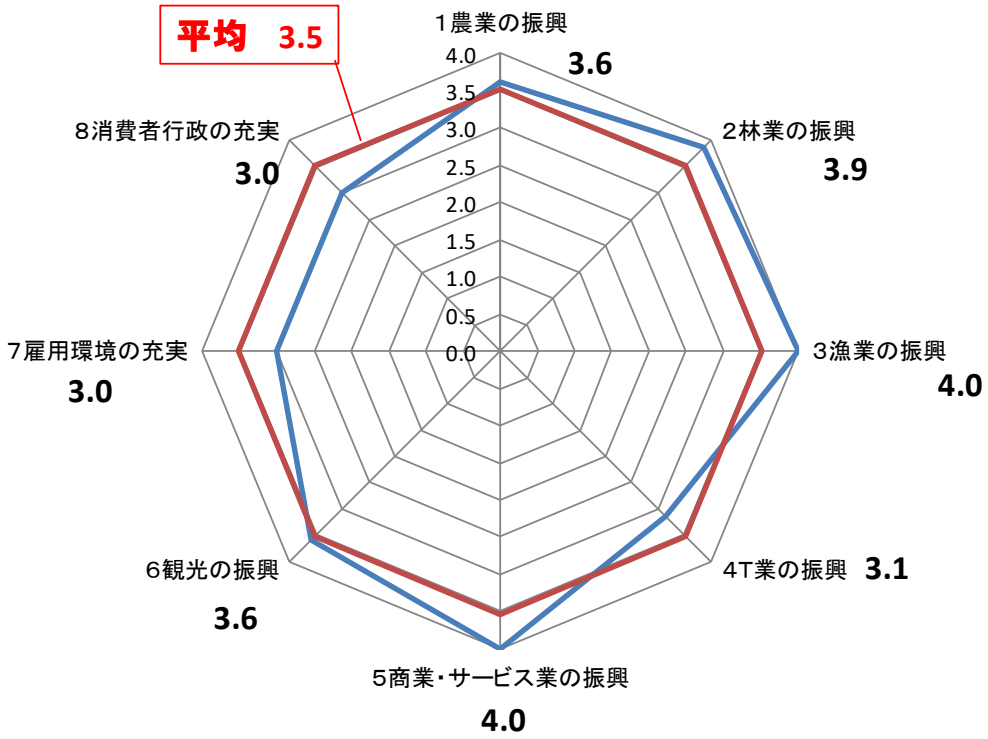
第２章　健やかで笑顔のあるまちをつくる



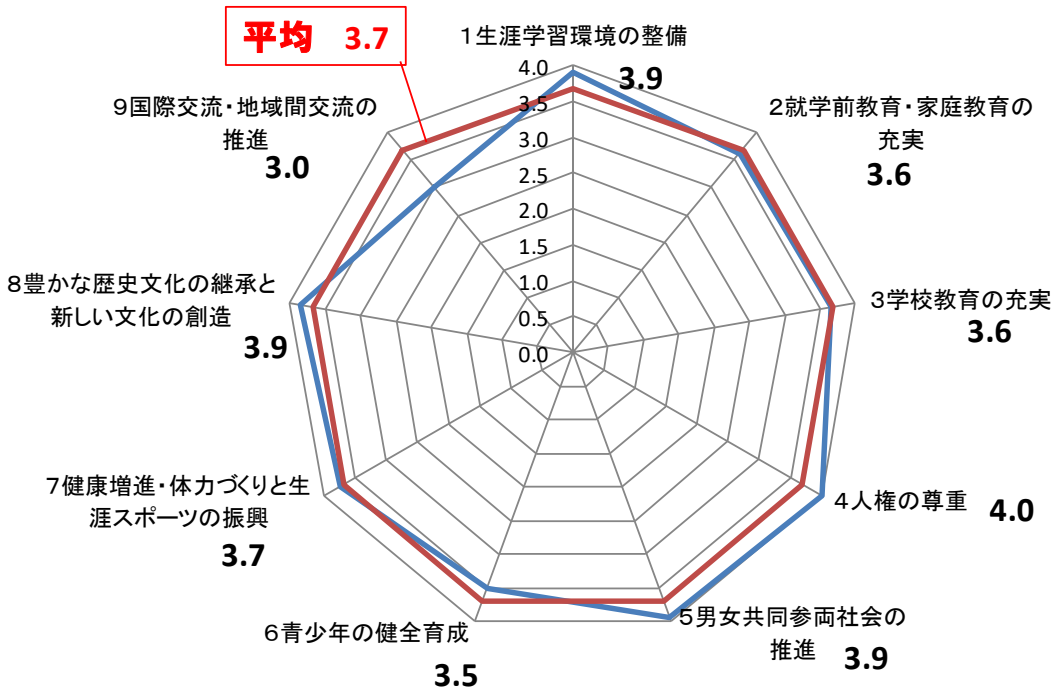
第３章　美しくひかり輝くまちをつくる



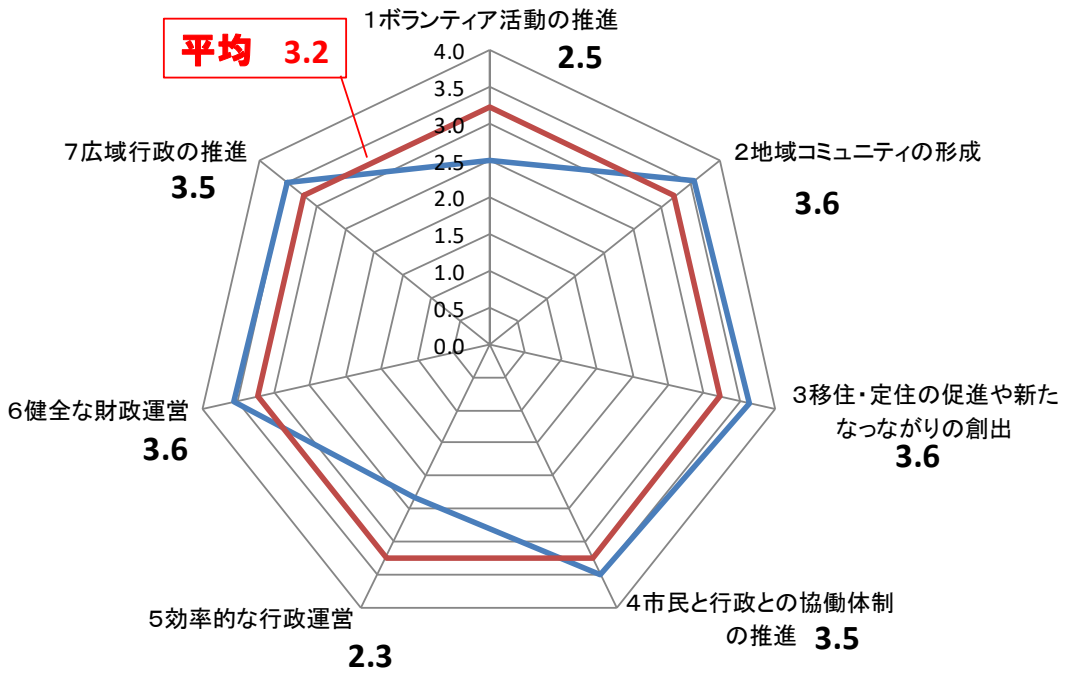
第４章　活力と夢を育むまちをつくる



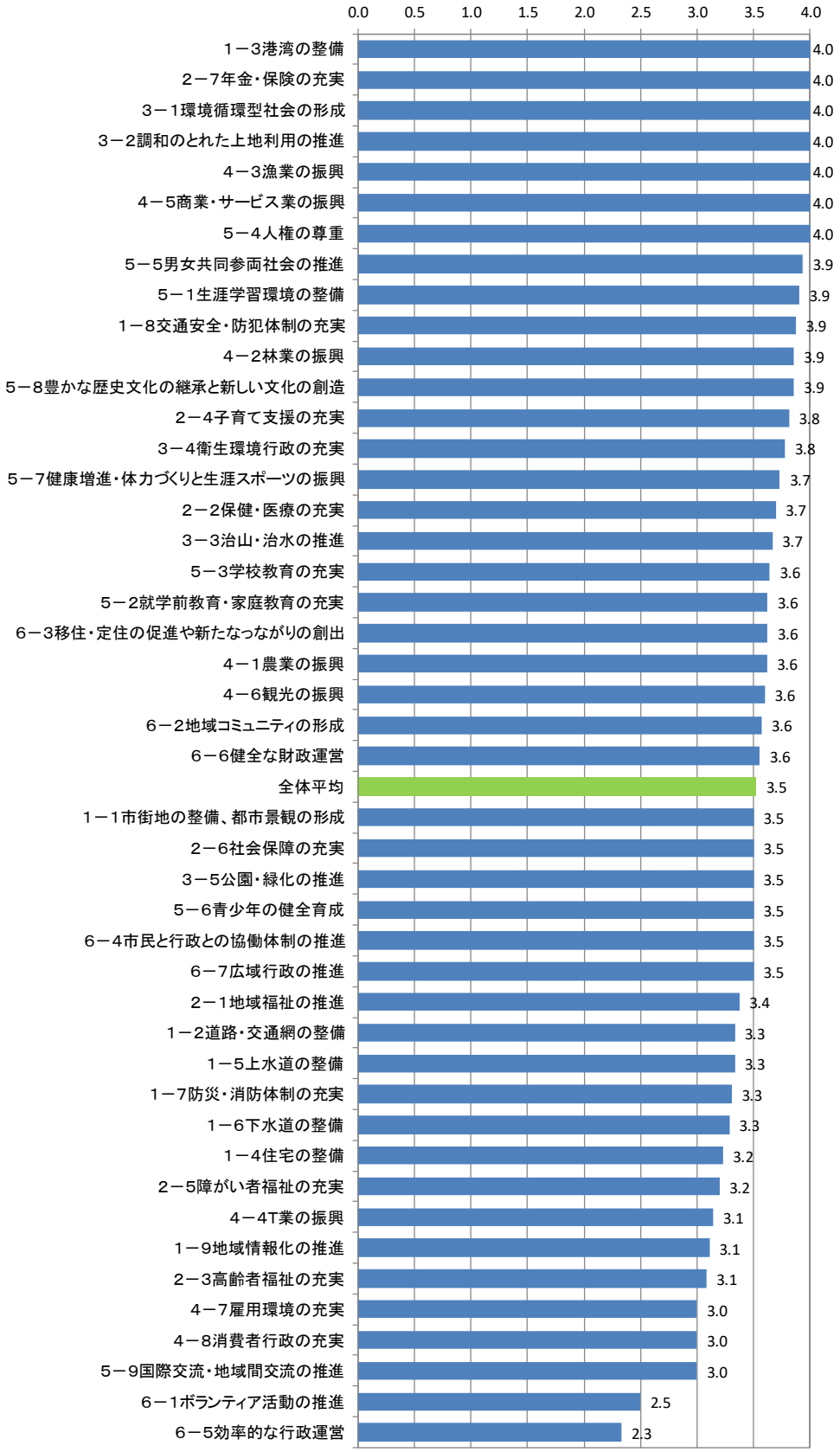
第５章　豊かな心と学びのあるまちをつくる



第６章　みんなで築くまちをつくる



○主な施策単位での評価結果は、「1－3港湾の整備」、「2－7年金・保険の充実」、「3－1環境循環型社会の形成」、「3－2調和のとれた上地利用の推進」、「4－3漁業の振興」、「4－5商業・サービス業の振興」、「5－4人権の尊重」が4点で高く、逆に低いのは「6－1ボランティア活動の推進」2.5 点、「6－5効率的な行政運営」2.3 点となっています。



Ⅱ．総合戦略の基本目標・施策体系等

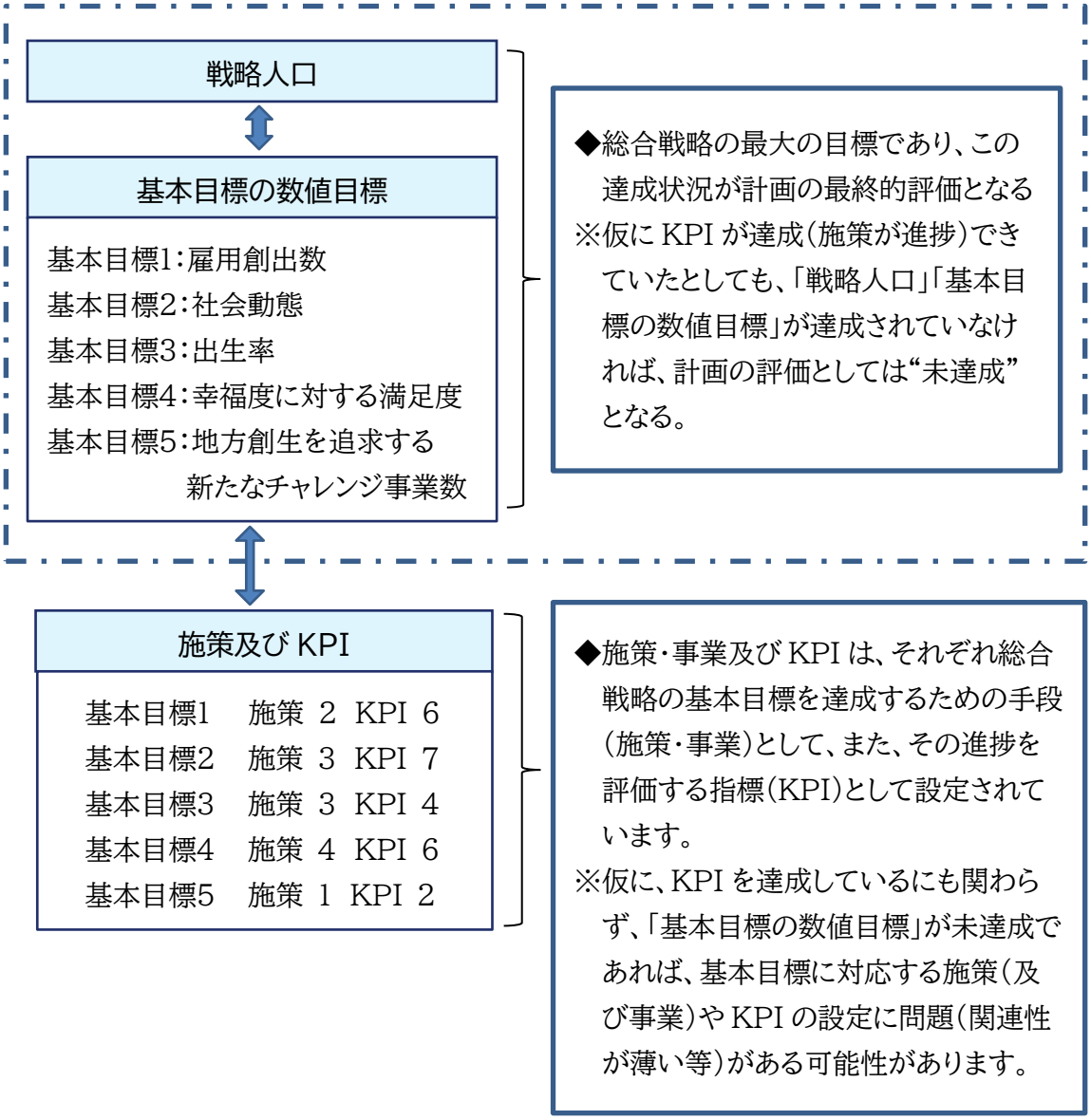
１．総合戦略の目的と構成を踏まえた検証のポイント

○総合戦略は人口ビジョンで掲げる将来の目標人口（戦略人口）を達成するための戦略として位置づけられた計画です。

○阿南市の総合戦略は戦略人口を達成するための5つの基本目標（及びその達成を測るための5つの数値目標）とその実現のための政策パッケージ（施策・事業とその進捗を測るための KPI）で構成されています。

○総合戦略の評価は、こうした計画の趣旨や構造を踏まえれば、最大の目標である「戦略人口」、これを実現するための「基本目標の数値目標」の達成の検証が最も重要となります。

○また、こうした上位の目標達成の手段としての施策や事業と KPI の関係性についても検証し、次期計画策定につなげることが必要です。



2．「戦略人口」「基本目標の数値目標」の検証

（1）2020 年の「将来の目標人口」の検証

○阿南市の人口ビジョンにおいては 2020 年の「目標人口」を、住民基本台帳人口ベースで 73,000 人超と設定していましたが、令和2年1月1日現在の総人口は 72,644 人となっており、現時点では達成が困難な状況となっています。

◇阿南市の人口ビジョンの「目標人口（2020 年 10 月1日時点）」 ⇒ 約 73,000 人

⇩

◇2020 年 1 月1日現在の住民基本台帳人口　72,644 人

（2）総合戦略の KPI の達成状況

○総合戦略の 25 の KPI のうち、達成区分が「①達成継続」の指標は 14（56.0%）となっています。

○また、達成区分が「③やや遅れ」「④遅れ」となった指標はそれぞれ3つ（12.0%）となっており、こうした指標に関連する施策・事業については、指標との関係性を含め、再度精査が必要と考えられます。

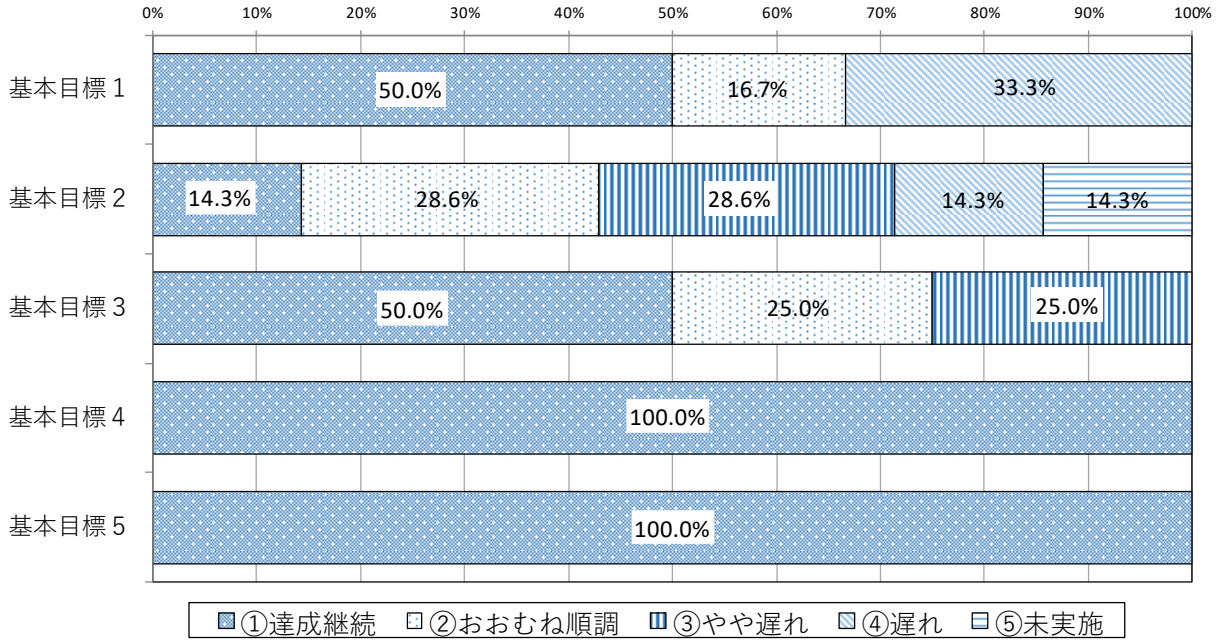
【全体の KPI の達成状況】

評価の枠組み	件　数
①達成継続	14（56.0%）
②おおむね順調	4（16.0%）
③やや遅れ	3（12.0%）
④遅れ	3（12.0%）
⑤未実施	1（ 4.0%）

○4つの基本目標の中で、達成区分が「①達成継続」の KPI が最も多いのは「基本目標4 時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する」「基本目標5　未来の阿南市を見据え、地域創生を追求する」が 100%となっています。

○一方で、達成区分が「④遅れ」の KPI が最も多いのは「基本目標1 地域における安定した雇用を創出する」となっています。

【基本目標別の KPI の達成状況】



（3）基本目標ごとの KPI の検証

基本目標1 地域における安定した雇用を創出する

数値目標	雇用創出数　5年間で 1,000 人

○数値目標「雇用創出数　5年間で 1,000 人」については、平成 30 年度実績で 1,101 人（主要企業の新規採用及び新規就農者の計）となっており達成できています。

○基本施策「1　新産業の創出」は KPI が2つとも「④遅れ」となっており、目標値（達成可能な数値目標であるか含め）や、目標達成のための施策・事業内容等の見直しが求められます。

○基本施策の「2　地域産業の振興」は4つの KPI のうち3つ（75％）が「①達成継続」となっており、基本目標の数値目標と KPI の達成状況が連動した結果になっていると考えられます。

基本目標	1	地域における安定した雇用を創出する

数値目標		実績（H30まで）
雇用創出数	5 年間で1,000人	1,101人（達成）

I	新産業の創出

KPI項目	KPI説明	指標値	実績値					進捗状況	担当課名
			H27	H28	H29	H30	R1		企業振興課・商工観光労政課
新規創業者数	起業力養成講座受講者のうち創業者（10人／回×14回）	14人（1講座1人）	—	講座12回 受講24人 起業 0 人	講座12回 受講21人 起業 2 人	講座12回 受講15人 起業0人		遅れ	
開店数	空き店舗の活用による事業者の開店数	年 1 件以上	—	0 件	0 件	0 件		遅れ	

II	地域産業の振興

KPI項目	KPI説明	指標値	実績値					進捗状況	担当課名
			H27	H28	H29	H30	R1		農林水産課
阿波美人生産戸数	早期米コシヒカリ「阿波美人」の生産戸数	430戸	400戸	410戸	453戸	467戸		達成継続	
プレミアム阿波美人の作付面積	ワンランク上の「阿波美人」の作付面積	20ha	10ha	13ha	15ha	20ha		達成継続	
露地野菜栽培面積	露地野菜の栽培面積	1.5倍（70→105ha）	70ha	80ha	86ha	97ha		概ね順調	
放置竹林再生面積	放棄竹林の再生面積	30ha	0 ha	8ha	18ha	28ha		達成継続	

基本目標2　地方への新しいひとの流れをつくる

数値目標	2025 年までに転出超過から転入超過へシフト 2020 年までに転出超過 40%削減 （平成 22 年～平成 26 年平均▲126 人）

○数値目標「2025 年までに転出超過から転入超過へシフト　2020 年までに転出超過 40%削減」については、平成 30 年の転出超過が 137 人で、未達成となっている中で、7の KPI のうち達成区分が「③やや遅れ」（28.6%）「④遅れ」（14.3%）「⑤未実施」（14.3%）となっており、目標値（達成可能な数値目標であるか含め）や、目標達成のための施策・事業内容等の見直しが求められます。

基本目標	2	地方への新しいひとの流れをつくる

I	移住・定住の促進

KPI項目	KPI説明	指標値	実績値					進捗状況	担当課名
			H27	H28	H29	H30	R1		定住促進課
移住相談者数	移住について具体的相談があった人数	10人	34人	32人	88人	108人		達成 継続	
市外からの雇用者数	新たに市外から雇用し、市内に転入した人数	30人	―	2 人	0 人	0 人		遅れ	

II	交流の拡大

KPI項目	KPI説明	指標値	実績値					進捗状況	担当課名
			H27	H28	H29	H30	R1		商工観光労政課
ステーションプラザ来場者数	阿南光のまちステーションプラザへの来場者数	年間3,000人増 （12千人→15千人）	11,825人	9,972人	9,363人	10,113人		やや遅れ	

KPI項目	KPI説明	指標値	実績値					進捗状況	担当課名
			H27	H28	H29	H30	R1		野球のまち推進課
野球のまち推進事業参加者数	各種野球大会、アイランドリーグ、合宿、野球観光ツアー、イベント等への参加者数	年間4,000人増 （11千人→15千人）	9,973人	8,304人	11,065人	11,488人		やや遅れ	

III	新たなつながりの創出

KPI項目	KPI説明	指標値	実績値					進捗状況	担当課名
			H27	H28	H29	H30	R1		環境保全課
阿南市への訪問人数	「伊島・蒲生田ふるさと学・キャンパス」創設事業による阿南市への訪問人数	300人	未実施	→				未実施	

KPI項目	KPI説明	指標値	実績値					進捗状況	担当課名
			H27	H28	H29	H30	R1		企画政策課
阿南市への訪問人数	県南地域づくりキャンパス事業による阿南市への訪問人数	延べ140人	449人	129人	135人	520人		概ね順調	
ふるさと会会員数	東京・阿南ふるさと会、関西・阿南ふるさと会の会員数の合計	100人増 （366人→466人）	390人	412人	434人	459人 東310人・西149人		概ね順調	

基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

数値目標	結婚や出産に関する希望がかなう場合の出生率（希望出生率） 2020 年に 1.68、2025 年に 1.8 をめざします。 ※言うまでもなく個人の考え方や価値観が尊重されることが前提です。

○基本目標3の数値目標「合計特殊出生率」については、現時点で国から公表されていないため評価することができませんが、人口減少が進む中でも、阿南市の出生数については毎年減少しています。

○一方で、4つの KPI は「①達成継続」（50.0％）「②おおむね順調」（25.0％）となっていることから、次期戦略の策定に向けては関連する施策・事業含めて改めて精査が必要です。

基本目標	3	若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

I	出産希望の実現

KPI項目	KPI説明	指標値	実績値					進捗状況	担当課名
			H27	H28	H29	H30	R1		
児童クラブ支援数	放課後児童クラブ支援数	26支援 （18→26クラブ）	21	24	26	29		達成 継続	生涯学習課

KPI項目	KPI説明	指標値	実績値					進捗状況	担当課名
			H27	H28	H29	H30	R1		
待機児童数	待機児童数	ゼロ維持	0 人	25人	24人	16人		やや遅れ	こども課

※各年とも10月 1 日現在の実数

II	結婚希望の実現

KPI項目	KPI説明	指標値	実績値					進捗状況	担当課名
			H27	H28	H29	H30	R1		
成婚数	婚活イベントによる成婚数	年 1 組	5 組	4 組	5 組	1 組		達成 継続	定住促進課

III	若者の家庭づくりを応援

KPI項目	KPI説明	指標値	実績値					進捗状況	担当課名
			H27	H28	H29	H30	R1		
若者定住促進住宅入居戸数	伊島の若者定住促進住宅の入居戸数	5 戸	―	―	4 戸	4 戸		概ね 順調	定住促進課

基本目標4 時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する

数値目標	理想とする幸福度に対する満足度 95%超 （平成 27 年度調査結果 93%）

○基本目標の数値目標「理想とする幸福度に対する満足度」は、令和元年の調査結果では96.5%となっており達成できています。

○基本目標4の KPI の 6 すべてが「①達成継続」となっており、基本目標の数値目標と KPI の達成状況が概ね連動した結果になっていると考えられます。

基本目標	4	時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する

I	地域コミュニティの活性化

KPI項目	KPI説明	指標値	実績値					進捗状況	担当課名
			H27	H28	H29	H30	R1		農林水産課
まちの活性化に挑戦する人数	「わたしたちのまちの創生事業」によりまちの活性化に挑戦する人数	100人	120人	120人	120人	120人		達成 継続	

※武蔵野大学生農業体験ボランティア受入れ事業

II	安心なくらしの確保

KPI項目	KPI説明	指標値	実績値					進捗状況	担当課名
			H27	H28	H29	H30	R1		保健センター
確保する医師数	新たに確保する医師数	3人	2人	3人	3人	3人		達成 継続	

III	安心なまちづくり

KPI項目	KPI説明	指標値	実績値					進捗状況	担当課名
			H27	H28	H29	H30	R1		まちづくり推進課
計画策定	都市再生特別措置法に基づく「立地適正化計画」を策定する	平成31年度までに策定	—	—	—	策定		達成 継続	

KPI項目	KPI説明	指標値	実績値					進捗状況	担当課名
			H27	H28	H29	H30	R1		住宅・建築課
民間市場サイクルの確立	空き家問題を解決する民間市場サイクルを確立する	平成31年度までに確立	—	—	—	アンケート調査実施（サイクルの確立）		達成 継続	

KPI項目	KPI説明	指標値	実績値					進捗状況	担当課名
			H27	H28	H29	H30	R1		総務課
計画策定	「公共施設等総合管理計画」を策定する	平成28年度までに策定	—	策定	→	→		達成 継続	

※計画は、平成29年3月に策定。

IV	定住自立圏の拡充

KPI項目	KPI説明	指標値	実績値					進捗状況	担当課名
			H27	H28	H29	H30	R1		企画政策課
定住自立圏の拡充等	定住自立圏を拡充し、新たな共生ビジョンの取組を始める	1市4町 平成29年度	—	拡充	→	→	→	達成 継続	

基本目標5 未来の阿南市を見据え、地域創生を追求する

数値目標	地方創生を追求する新たなチャレンジ 5年間で 10 事業

○基本目標の数値目標「地方創生を追及する新たなチャレンジ 」は、平成 30 年度までに 13 事業にチャレンジしており達成できています。

○基本目標5の KPI の2すべてが「①達成継続」となっており、基本目標の数値目標と KPI の達成状況が概ね連動した結果になっていると考えられます。

基本目標	5	未来の阿南市を見据え、地域創生を追求する

Ⅰ	未来の戦略づくり

KPI項目	KPI説明	指標値	実績値					進捗状況	担当課名
			H27	H28	H29	H30	R1		企画政策課
未来会議による提案数	「あなん未来会議」による提案数	年10件以上	8件	14件	10件	10件		達成 継続	
地域実習生の受入れ	大正大学との連携による地域実習生の受入れ	毎年7人	―	8人	7人	16人		達成 継続	

第６章　市民意識調査

Ⅰ．市民・学生アンケート調査

1．調査の目的

新たなまちづくりの指針となる（仮称）「第6次阿南市総合計画」の策定するに当たり、市民の皆様のご意見やお考えを計画に反映させることを目的として実施しました。

2．実施概要

令和元年9月1日時点において阿南市にお住いの満18歳以上の方から、地区ごとに無作為抽出した市民３千人及び市内の高等学校等に通学する2年生（801 人）を対象に実施しました。

実施時期　令和元年9月10日～10月15日

方　　法　・市民向け　郵送による送付・回答、電子申請によるインターネット回答

　　・学生向け　各学校に配布・回収を依頼

回 収 数　郵送回答 1,180 件（回収率 39.3％）、インターネット回答 12 件

　　学生回答 778 件（回収率 97.1％）

3．調査結果の見方

◇　設問ごとにその設問内容を示すタイトルを付けています。

◇　タイトルの横には、質問形態を記載しています。

SA＝単数回答：「1つに○」など選択肢を1つ選ぶ質問形態
MA＝複数回答：「あてはまるものすべてに○」など2つ以上の選択を選ぶ質問形態
FA＝文字記述回答
NA＝数量回答：日数や時間、回数などの数値・数量を記入してもらう質問形態

◇　各グラフの“n”は、当該設問に回答すべき方（回答対象者）の人数を示しています。

◇　集計結果のグラフ・表における「無回答」は、当該設問への無回答の他、回答規則違反（例えば、単数回答の設問における複数回答など）の件数（票数）を示しています。

◇　グラフ・表には、原則として各集計数の総回答対象者数に対する比率を表示しています。

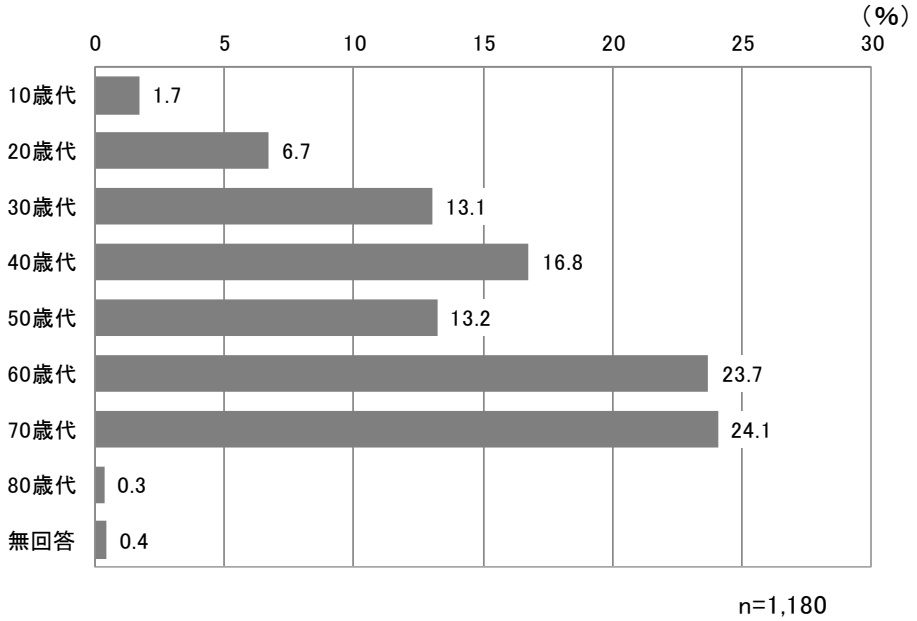
◇　各比率は、小数点第１位以下を四捨五入して算出しているため、合計が 100％にならない場合があります。

◇　各設問の選択肢等について、その意味を損なわない程度に表現を簡略化している場合があります。

◇　前回調査は、平成 27 年（2015 年）に行われたもので、今回調査と比較する際に使用しています。

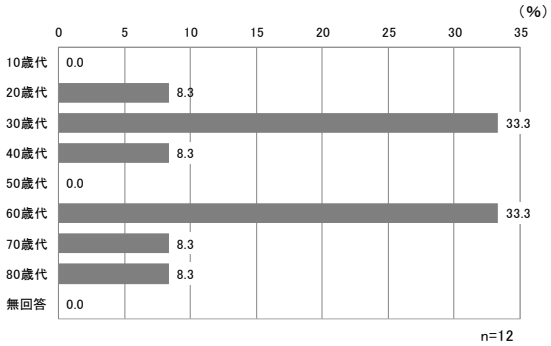
4. 市民アンケート調査結果の概要

① 回答者の年齢



		合計	問2　年齢								
			10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	無回答
全体		1180	20	79	154	198	156	280	284	4	5
		100.0	1.7	6.7	13.1	16.8	13.2	23.7	24.1	0.3	0.4
問1　性別	男性	495	12	28	58	78	65	124	128	2	0
		100.0	2.4	5.7	11.7	15.8	13.1	25.1	25.9	0.4	0.0
	女性	679	8	50	95	120	91	156	155	2	2
		100.0	1.2	7.4	14.0	17.7	13.4	23.0	22.8	0.3	0.3
	その他	2	0	1	0	0	0	0	1	0	0
		100.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0

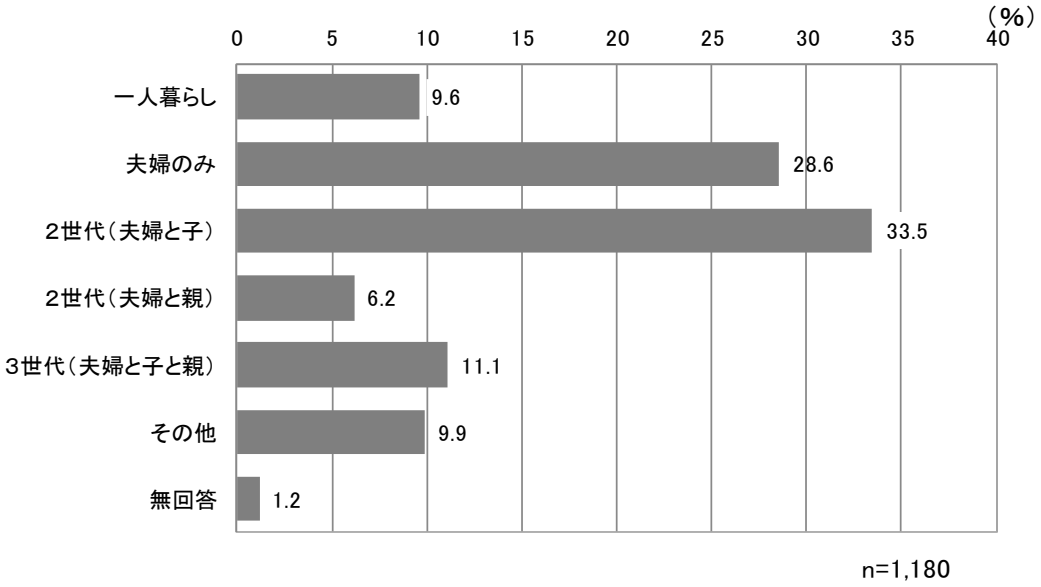
【参考】Web アンケート結果



② 家族構成

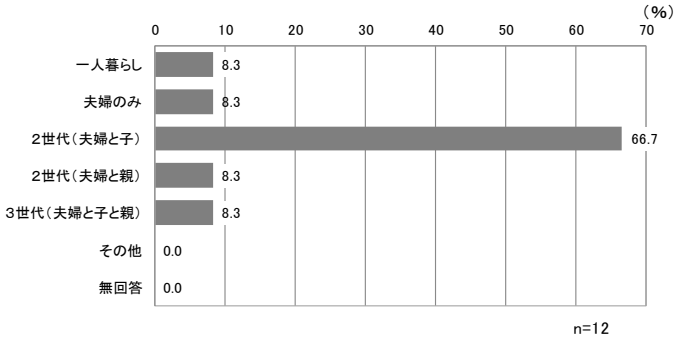
○家族構成について尋ねたところ、「2世代（夫婦と子）」が 33.5％で最も多く、次いで「夫婦のみ」で 28.6％となっています。

○年齢別に見てみると、60 歳代、70 歳代は「夫婦のみ」が最も多くなっています。



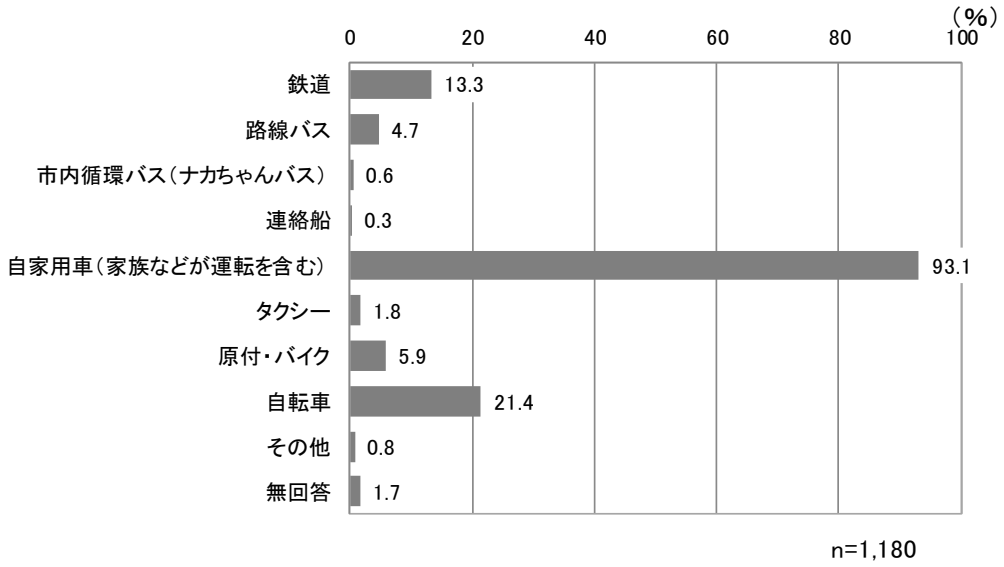
		合計	問4　家族構成						
			一人暮らし	夫婦のみ	2世代（夫婦と子）	2世代（夫婦と親）	3世代（夫婦と子と親）	その他	無回答
全体		1180	113	337	395	73	131	117	14
		100.0	9.6	28.6	33.5	6.2	11.1	9.9	1.2
問2　年齢	10歳代	20	1	0	8	0	8	2	1
		100.0	5.0	0.0	40.0	0.0	40.0	10.0	5.0
	20歳代	79	7	7	37	4	11	11	2
		100.0	8.9	8.9	46.8	5.1	13.9	13.9	2.5
	30歳代	154	7	15	89	3	20	18	2
		100.0	4.5	9.7	57.8	1.9	13.0	11.7	1.3
	40歳代	198	9	13	113	12	30	20	1
		100.0	4.5	6.6	57.1	6.1	15.2	10.1	0.5
	50歳代	156	11	36	44	21	30	14	0
		100.0	7.1	23.1	28.2	13.5	19.2	9.0	0.0
	60歳代	280	31	121	60	28	18	21	1
		100.0	11.1	43.2	21.4	10.0	6.4	7.5	0.4
	70歳代	284	46	144	41	5	14	30	4
		100.0	16.2	50.7	14.4	1.8	4.9	10.6	1.4
	80歳代	4	0	1	2	0	0	1	0
		100.0	0.0	25.0	50.0	0.0	0.0	25.0	0.0

【参考】Web アンケート結果



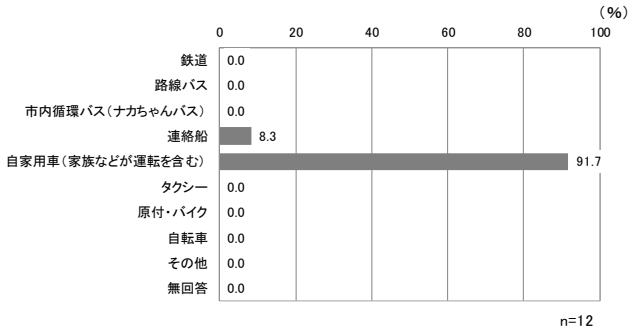
③ 欠かすことができない移動手段

○普段の生活で欠かすことができない移動手段について尋ねたところ、「自家用車（家族などが運転を含む）」が 93.1%で最も多く、次いで「自転車」で 21.4%となっています。



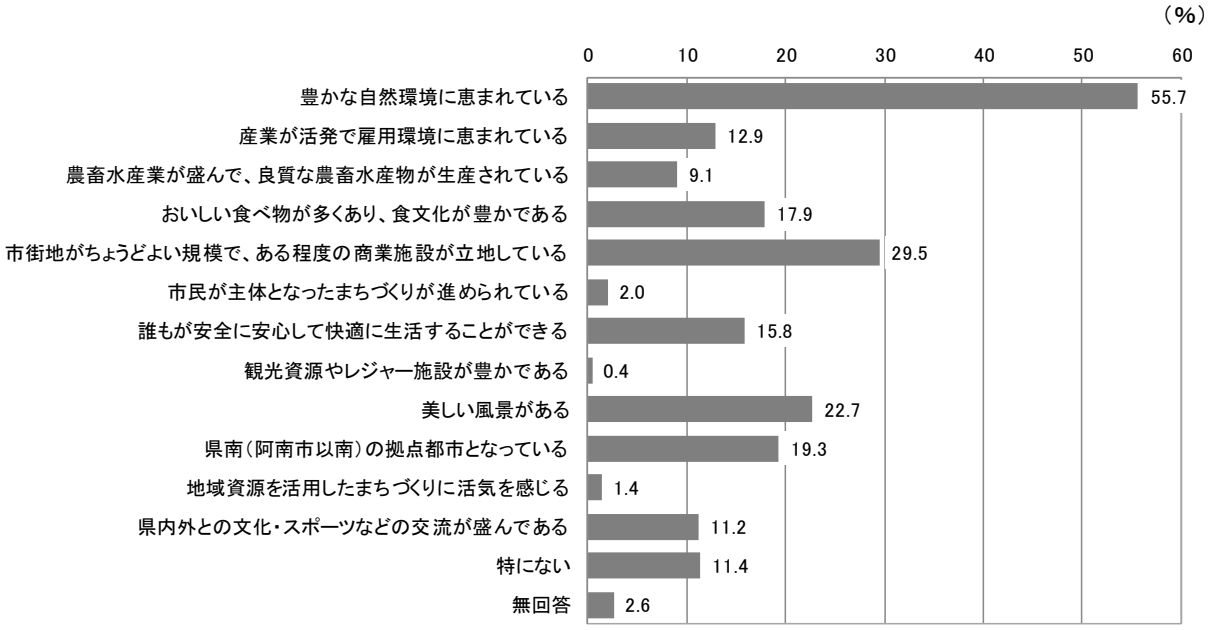
		合計	問7　欠かすことのできない移動手段									
			鉄道	路線バス	市内循環バス（ナカちゃんバス）	連絡船	自家用車（家族などが運転を含む）	タクシー	原付・バイク	自転車	その他	無回答
全体		1180	157	56	7	4	1098	21	70	253	9	20
		100.0	13.3	4.7	0.6	0.3	93.1	1.8	5.9	21.4	0.8	1.7
問2　年齢	10歳代	20	4	0	0	1	18	0	1	11	0	0
		100.0	20.0	0.0	0.0	5.0	90.0	0.0	5.0	55.0	0.0	0.0
	20歳代	79	17	3	0	0	70	1	2	18	2	0
		100.0	21.5	3.8	0.0	0.0	88.6	1.3	2.5	22.8	2.5	0.0
	30歳代	154	28	1	1	0	147	2	8	31	0	1
		100.0	18.2	0.6	0.6	0.0	95.5	1.3	5.2	20.1	0.0	0.6
	40歳代	198	26	8	1	2	188	1	10	60	0	5
		100.0	13.1	4.0	0.5	1.0	94.9	0.5	5.1	30.3	0.0	2.5
	50歳代	156	21	10	0	0	148	5	7	27	1	4
		100.0	13.5	6.4	0.0	0.0	94.9	3.2	4.5	17.3	0.6	2.6
	60歳代	280	23	15	1	0	269	4	17	47	0	1
		100.0	8.2	5.4	0.4	0.0	96.1	1.4	6.1	16.8	0.0	0.4
	70歳代	284	38	19	3	1	253	8	25	56	6	6
		100.0	13.4	6.7	1.1	0.4	89.1	2.8	8.8	19.7	2.1	2.1
	80歳代	4	0	0	1	0	3	0	0	3	0	0
		100.0	0.0	0.0	25.0	0.0	75.0	0.0	0.0	75.0	0.0	0.0
問5　住まいの地区	富岡	177	28	2	2	0	164	3	7	59	1	4
		100.0	15.8	1.1	1.1	0.0	92.7	1.7	4.0	33.3	0.6	2.3
	宝田	41	4	3	0	1	39	0	0	11	0	1
		100.0	9.8	7.3	0.0	2.4	95.1	0.0	0.0	26.8	0.0	2.4
	中野島	62	5	2	0	0	59	4	4	15	0	1
		100.0	8.1	3.2	0.0	0.0	95.2	6.5	6.5	24.2	0.0	1.6
	長生	40	1	5	0	0	33	1	3	11	1	1
		100.0	2.5	12.5	0.0	0.0	82.5	2.5	7.5	27.5	2.5	2.5
	大野	36	1	5	1	0	35	0	2	13	0	0
		100.0	2.8	13.9	2.8	0.0	97.2	0.0	5.6	36.1	0.0	0.0
	加茂谷	42	1	7	0	0	40	1	2	4	0	0
		100.0	2.4	16.7	0.0	0.0	95.2	2.4	4.8	9.5	0.0	0.0
	桑野	72	10	3	0	0	72	2	4	5	1	0
		100.0	13.9	4.2	0.0	0.0	100.0	2.8	5.6	6.9	1.4	0.0
	見能林	160	21	9	1	0	152	2	14	32	0	1
		100.0	13.1	5.6	0.6	0.0	95.0	1.3	8.8	20.0	0.0	0.6
	新野	53	8	2	0	0	51	0	0	6	1	0
		100.0	15.1	3.8	0.0	0.0	96.2	0.0	0.0	11.3	1.9	0.0
	福井	39	7	3	0	0	36	0	3	1	0	2
		100.0	17.9	7.7	0.0	0.0	92.3	0.0	7.7	2.6	0.0	5.1
	椿（伊島）	24	1	5	0	2	20	0	3	0	0	0
		100.0	4.2	20.8	0.0	8.3	83.3	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0
	橘	36	4	6	0	0	32	2	2	7	0	1
		100.0	11.1	16.7	0.0	0.0	88.9	5.6	5.6	19.4	0.0	2.8
	那賀川	175	24	0	3	0	164	3	16	32	1	2
		100.0	13.7	0.0	1.7	0.0	93.7	1.7	9.1	18.3	0.6	1.1
	羽ノ浦	188	37	4	0	0	172	2	10	49	3	4
		100.0	19.7	2.1	0.0	0.0	91.5	1.1	5.3	26.1	1.6	2.1

【参考】Web アンケート結果



④ 阿南市の魅力

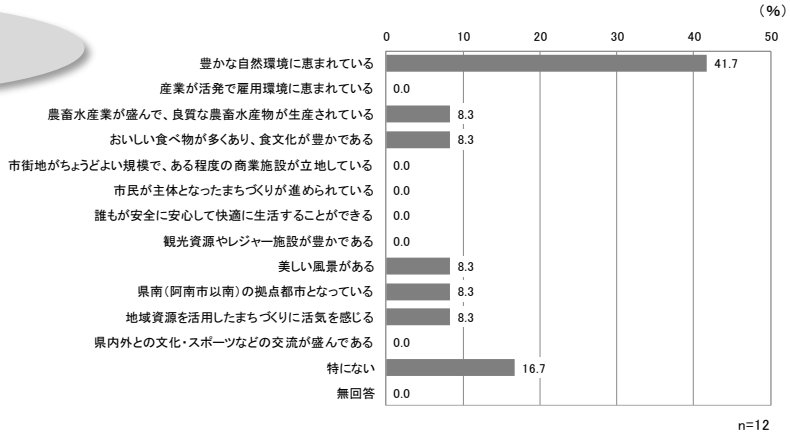
○阿南市の魅力について尋ねたところ、「豊かな自然環境に恵まれている」が 55.7%で最も多く、次いで「市街地がちょうどよい規模で、ある程度の商業施設が立地している」で 29.5%となっています。



n=1,180

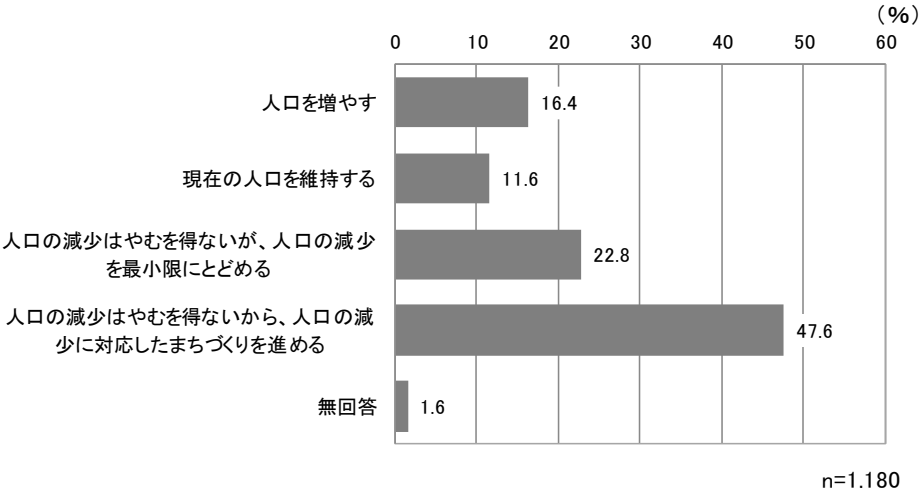
		合計	問8　阿南市の魅力													
			豊かな自然環境に恵まれている	産業が活発で雇用環境に恵まれている	農畜水産業が盛んで、良質な農畜水産物が生産されている	おいしい食べ物が多くあり、食文化が豊かである	市街地がちょうどよい規模で、ある程度の商業施設が立地している	市民が主体となったまちづくりが進められている	誰もが安全に安心して快適に生活することができる	観光資源やレジャー施設が豊かである	美しい風景がある	県南（阿南市以南）の拠点都市となっている	地域資源を活用したまちづくりに活気を感じる	県内外との文化・スポーツなどの交流が盛んである	特にない	無回答
全体		1180	657	152	107	211	348	24	187	5	268	228	17	132	134	31
		100.0	55.7	12.9	9.1	17.9	29.5	2.0	15.8	0.4	22.7	19.3	1.4	11.2	11.4	2.6
問2　年齢	10歳代	20	9	1	2	2	4	1	6	0	2	4	1	2	3	0
		100.0	45.0	5.0	10.0	10.0	20.0	5.0	30.0	0.0	10.0	20.0	5.0	10.0	15.0	0.0
	20歳代	79	35	11	7	11	20	1	16	3	16	10	1	6	13	2
		100.0	44.3	13.9	8.9	13.9	25.3	1.3	20.3	3.8	20.3	12.7	1.3	7.6	16.5	2.5
	30歳代	154	84	21	19	18	39	4	17	2	35	25	4	18	22	0
		100.0	54.5	13.6	12.3	11.7	25.3	2.6	11.0	1.3	22.7	16.2	2.6	11.7	14.3	0.0
	40歳代	198	103	31	19	27	57	2	21	0	47	37	4	25	25	5
		100.0	52.0	15.7	9.6	13.6	28.8	1.0	10.6	0.0	23.7	18.7	2.0	12.6	12.6	2.5
	50歳代	156	89	17	19	28	33	2	28	0	42	24	2	13	18	5
		100.0	57.1	10.9	12.2	17.9	21.2	1.3	17.9	0.0	26.9	15.4	1.3	8.3	11.5	3.2
	60歳代	280	158	34	17	49	89	9	45	0	62	60	1	35	33	8
		100.0	56.4	12.1	6.1	17.5	31.8	3.2	16.1	0.0	22.1	21.4	0.4	12.5	11.8	2.9
	70歳代	284	175	36	24	74	105	5	52	0	61	66	4	32	20	8
		100.0	61.6	12.7	8.5	26.1	37.0	1.8	18.3	0.0	21.5	23.2	1.4	11.3	7.0	2.8
	80歳代	4	3	1	0	2	1	0	1	0	2	1	0	1	0	0
		100.0	75.0	25.0	0.0	50.0	25.0	0.0	25.0	0.0	50.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0

【参考】Web アンケート結果



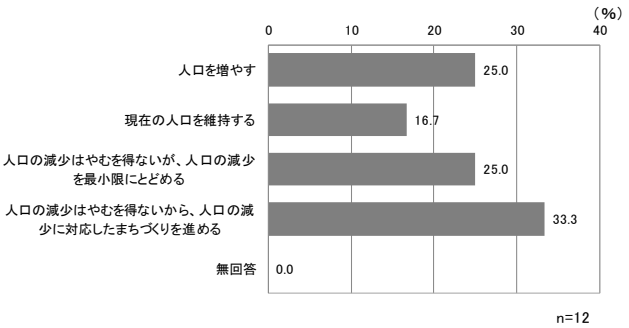
⑤ まちづくりの方向性

○人口減少社会を見据えた今後のまちづくりの方向性について尋ねたところ、「人口の減少はやむを得ないから、人口の減少に対応したまちづくりを進める」が 47.6%で最も多く、次いで「人口の減少はやむを得ないが、人口の減少を最小限にとどめる」で 22.8%となっています。



		合計	問9　人口減少社会を見据えた今後のまちづくりの方向性				
			人口を増やす	現在の人口を維持する	人口の減少はやむを得ないが、人口の減少を最小限にとどめる	人口の減少はやむを得ないから、人口の減少に対応したまちづくりを進める	無回答
全体		1180	193	137	269	562	19
		100.0	16.4	11.6	22.8	47.6	1.6
問2　年齢	10歳代	20	2	4	6	8	0
		100.0	10.0	20.0	30.0	40.0	0.0
	20歳代	79	17	11	19	31	1
		100.0	21.5	13.9	24.1	39.2	1.3
	30歳代	154	32	21	38	62	1
		100.0	20.8	13.6	24.7	40.3	0.6
	40歳代	198	38	23	48	88	1
		100.0	19.2	11.6	24.2	44.4	0.5
	50歳代	156	28	10	29	86	3
		100.0	17.9	6.4	18.6	55.1	1.9
	60歳代	280	31	39	60	144	6
		100.0	11.1	13.9	21.4	51.4	2.1
	70歳代	284	44	27	68	142	3
		100.0	15.5	9.5	23.9	50.0	1.1
	80歳代	4	0	2	1	0	1
		100.0	0.0	50.0	25.0	0.0	25.0

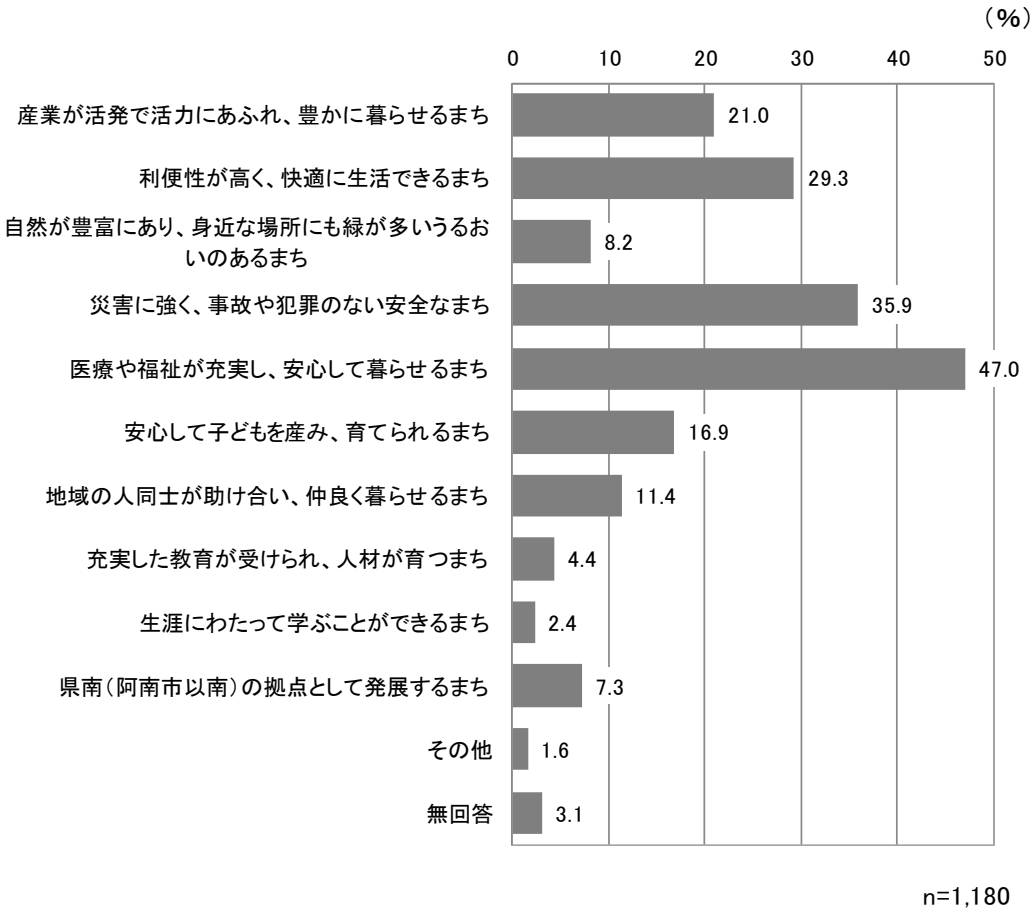
【参考】Web アンケート結果



⑥ 将来、どのようなまちになってほしいか

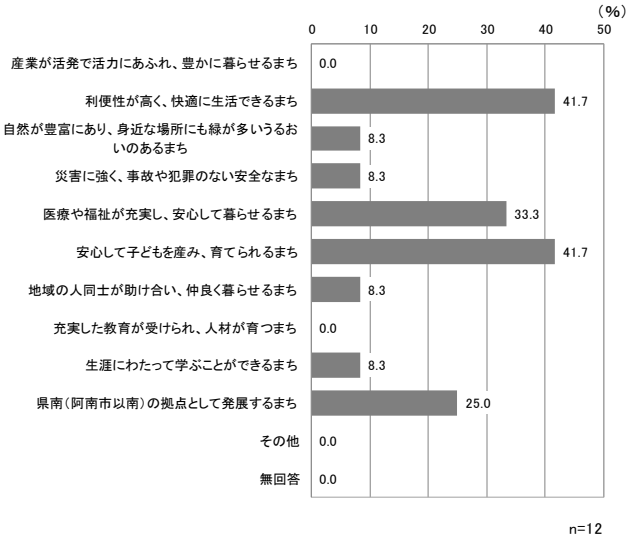
○将来、どのようなまちになってほしいかについて尋ねたところ、「医療や福祉が充実し、安心して暮らせるまち」が 47.0%で最も多く、次いで「災害に強く、事故や犯罪のない安全なまち」で 35.9%となっています。

○年齢別に見てみると、10 歳代、20 歳代は「災害に強く、事故や犯罪のない安全なまち」、30 歳代は「安心して子どもを産み、育てられるまち」が最も多くなっています。



		合計	問14　将来、どのようなまちになってほしいか											
			産業が活発で活力にあふれ、豊かに暮らせるまち	利便性が高く、快適に生活できるまち	自然が豊富にあり、身近な場所にも緑が多いうるおいのあるまち	災害に強く、事故や犯罪のない安全なまち	医療や福祉が充実し、安心して暮らせるまち	安心して子どもを産み、育てられるまち	地域の人同士が助け合い、仲良く暮らせるまち	充実した教育が受けられ、人材が育つまち	生涯にわたって学ぶことができるまち	県南（阿南市以南）の拠点として発展するまち	その他	無回答
全体		1180	248	346	97	424	555	199	134	52	28	86	19	37
		100.0	21.0	29.3	8.2	35.9	47.0	16.9	11.4	4.4	2.4	7.3	1.6	3.1
問2　年齢	10歳代	20	4	6	0	8	8	2	2	2	0	2	1	0
		100.0	20.0	30.0	0.0	40.0	40.0	10.0	10.0	10.0	0.0	10.0	5.0	0.0
	20歳代	79	11	31	6	34	21	26	7	6	1	2	3	2
		100.0	13.9	39.2	7.6	43.0	26.6	32.9	8.9	7.6	1.3	2.5	3.8	2.5
	30歳代	154	40	39	15	45	56	58	11	8	5	9	1	5
		100.0	26.0	25.3	9.7	29.2	36.4	37.7	7.1	5.2	3.2	5.8	0.6	3.2
	40歳代	198	50	68	18	71	85	31	15	18	5	9	8	3
		100.0	25.3	34.3	9.1	35.9	42.9	15.7	7.6	9.1	2.5	4.5	4.0	1.5
	50歳代	156	28	43	15	58	77	23	8	6	4	19	3	6
		100.0	17.9	27.6	9.6	37.2	49.4	14.7	5.1	3.8	2.6	12.2	1.9	3.8
	60歳代	280	54	87	21	96	146	37	40	5	6	17	2	11
		100.0	19.3	31.1	7.5	34.3	52.1	13.2	14.3	1.8	2.1	6.1	0.7	3.9
	70歳代	284	57	70	22	110	156	22	49	7	7	28	1	9
		100.0	20.1	24.6	7.7	38.7	54.9	7.7	17.3	2.5	2.5	9.9	0.4	3.2
	80歳代	4	1	0	0	2	3	0	2	0	0	0	0	0
		100.0	25.0	0.0	0.0	50.0	75.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

【参考】Web アンケート結果



⑦ 第５次阿南市総合計画の評価

○第5次阿南市総合計画の評価と、今後の施策の重要度について集計結果を点数化し、分析した結果は以下のとおりです。

＜点数化の手法＞

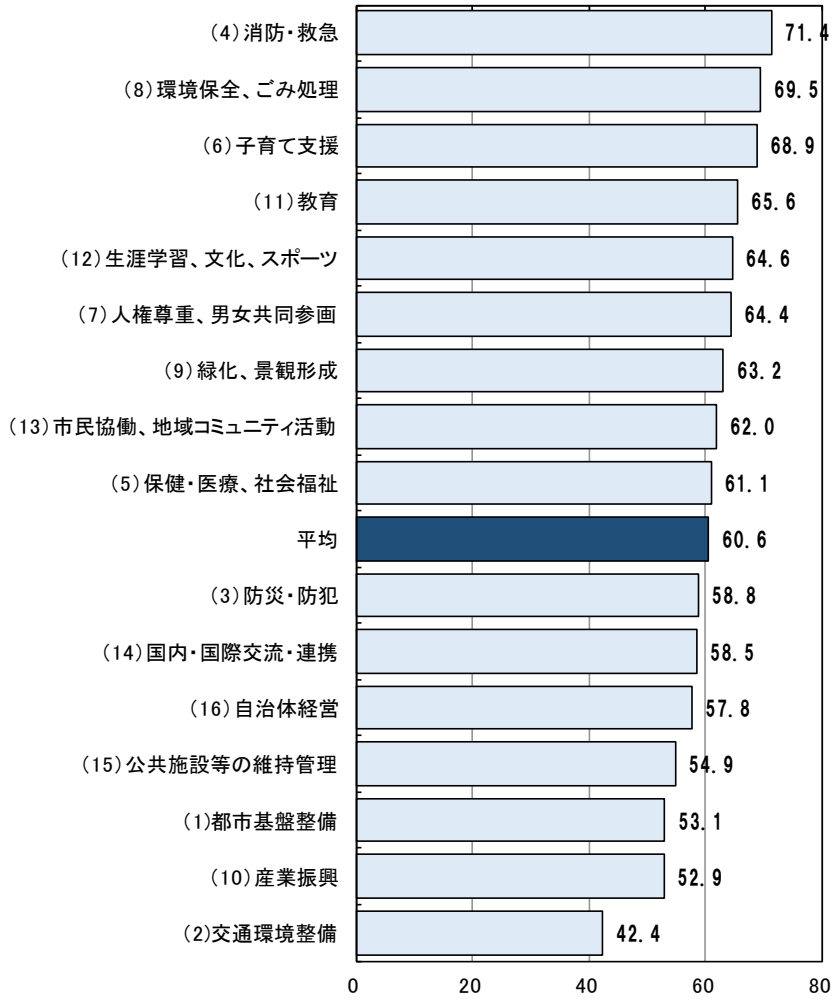
満足度	重要度	点 数	処 理
満足	重要	100 点	満足度、重要度それぞれ、合計点数を対象サンプル数で除して平均値を算出 ※無回答は除外
ある程度満足	やや重要	75 点	
やや不満	あまり重要ではない	25 点	
不満	重要ではない	0 点	
無回答	無回答	除外	

⑦-１　第５次阿南市総合計画に基づくまちづくりの評価

○評価の平均値は 60.6 点となっています。

○「(4)消防・救急」、「(8)環境保全、ごみ処理」「(6)子育て支援」に対する評価が高く、「(1)都市基盤整備)「(10)産業振興」「(2)交通環境整備)」に対する評価が低くなっています。

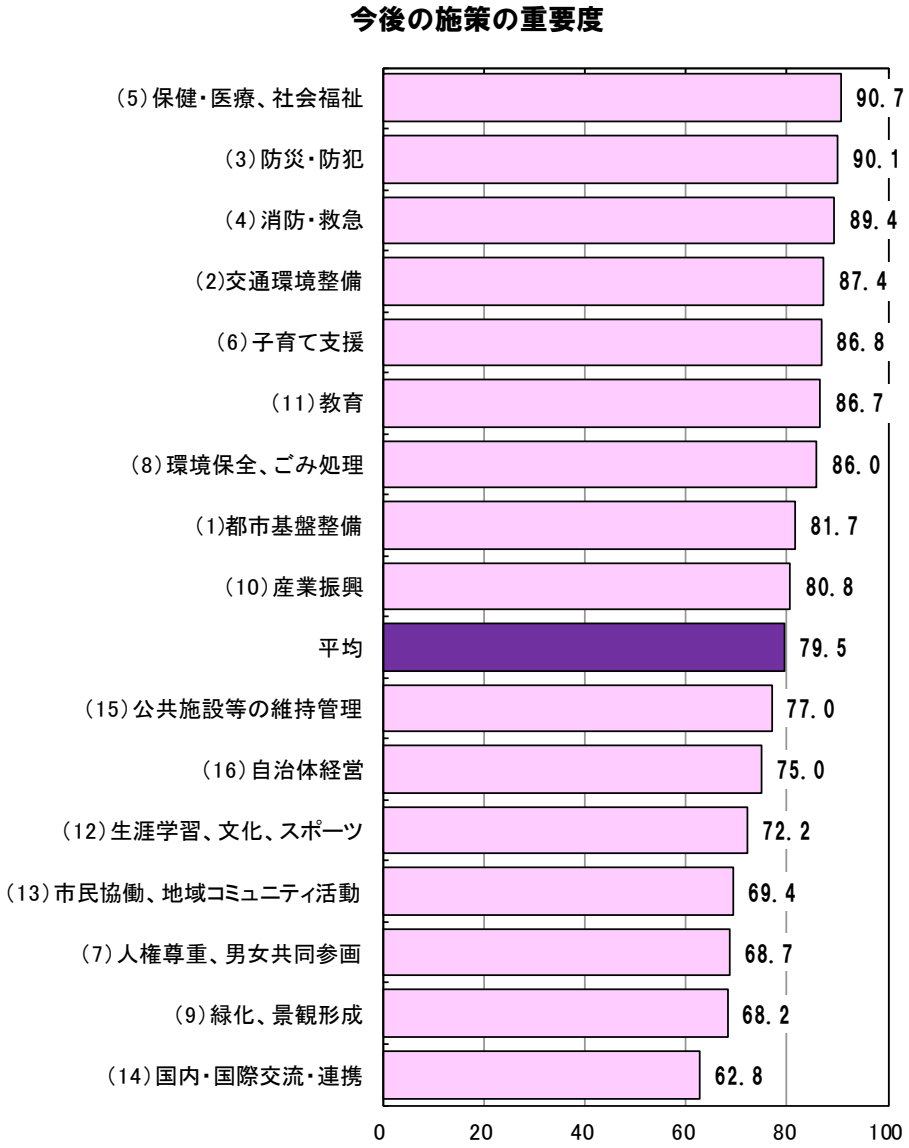
第５次阿南市総合計画のまちづくりの成果の評価



⑦-２　今後の施策の重要度

○重要度の平均値は 79.5 点となっています。

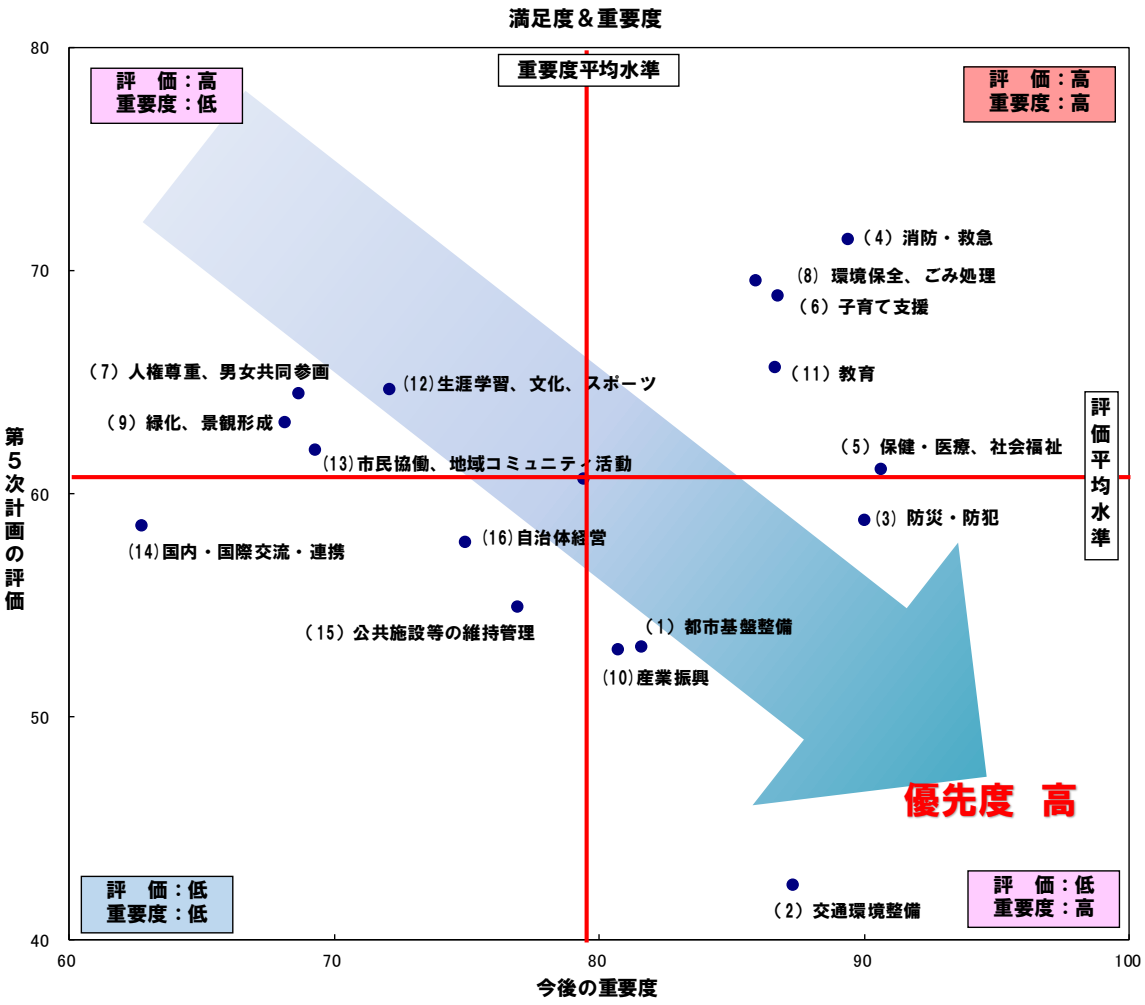
○「(5)保健・医療、社会福祉」「(3)防災・防犯」「(4)消防・救急」に対する重要度が高く、「(7)人権尊重、男女共同参画」「(9)緑化、景観形成」「(14)国内・国際交流・連携」に対する評価が低くなっております。



⑦-３　評価と重要度の関係性

○「評価：高、重要度：高」に該当する項目は、「(4)消防・救急」など、5項目となっています。

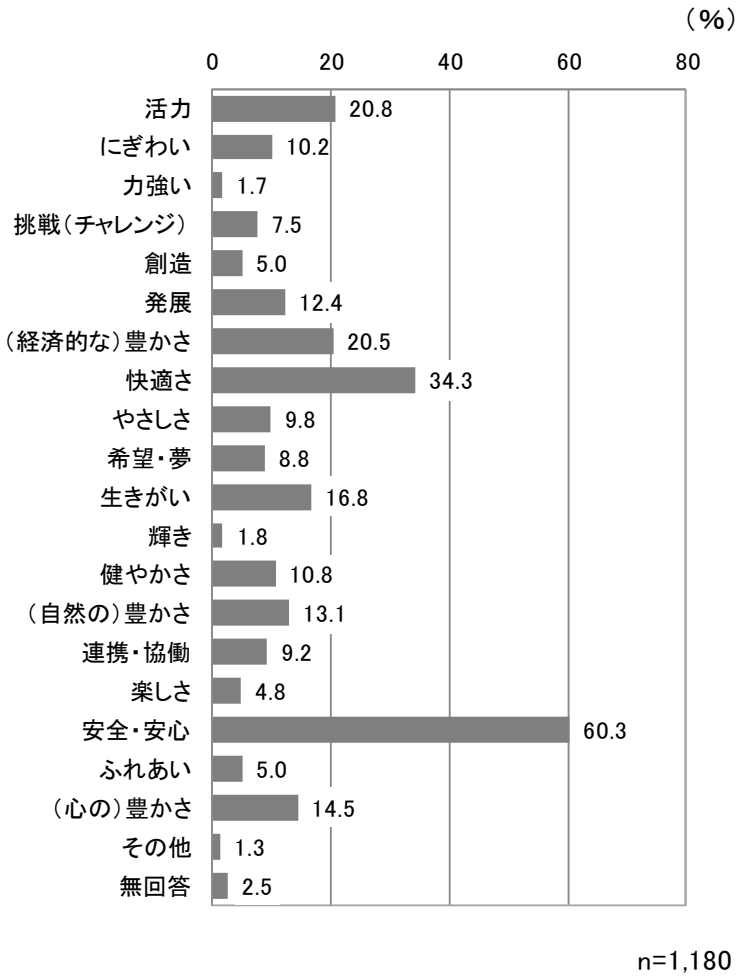
○「評価：低、重要度：高」に該当する項目は、「(2)交通環境整備」など、4項目となっています。



評価：高、重要度：高	評価：低、重要度：高
(4) 消防・救急	(1) 都市基盤整備
(5) 保健・医療、社会福祉	(2) 交通環境整備
(6) 子育て支援	(3) 防災・防犯
(8) 環境保全、ごみ処理	(10) 産業振興
(11) 教育	

⑧ 将来のまちづくりで重視すべきキーワード（言葉）

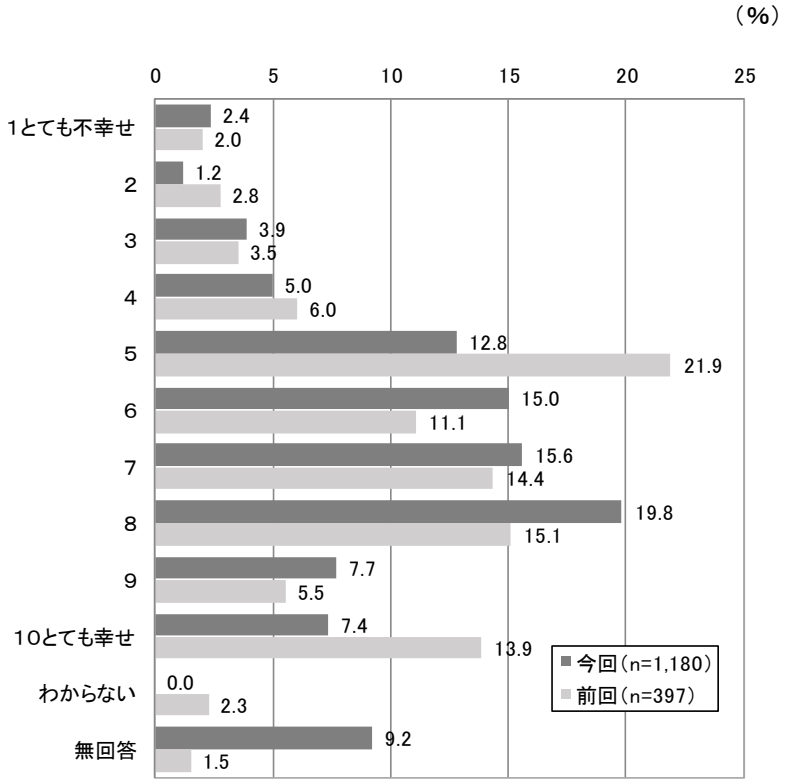
○将来のまちづくりで重視すべきキーワード（言葉）について尋ねたところ、「安心・安全」が60.3％で最も多く、次いで「快適さ」、「活力」、「経済的な豊かさ」の順となっています。（回答は複数可）



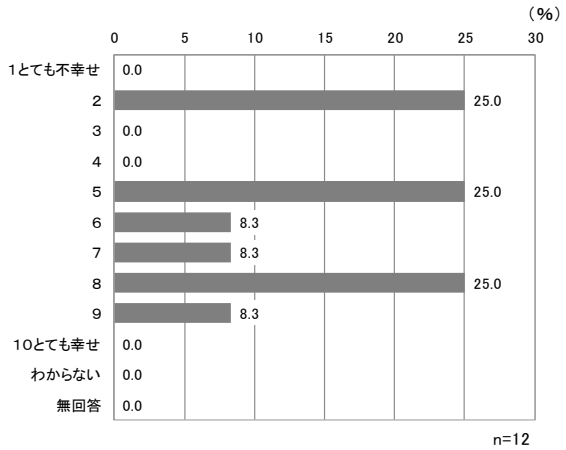
⑨ 現在の幸福度

○現在の幸福度について伺ったところ、「8」が 19.8%で最も多く、次いで「7」で 15.6%、平均は 6.63 となっています。

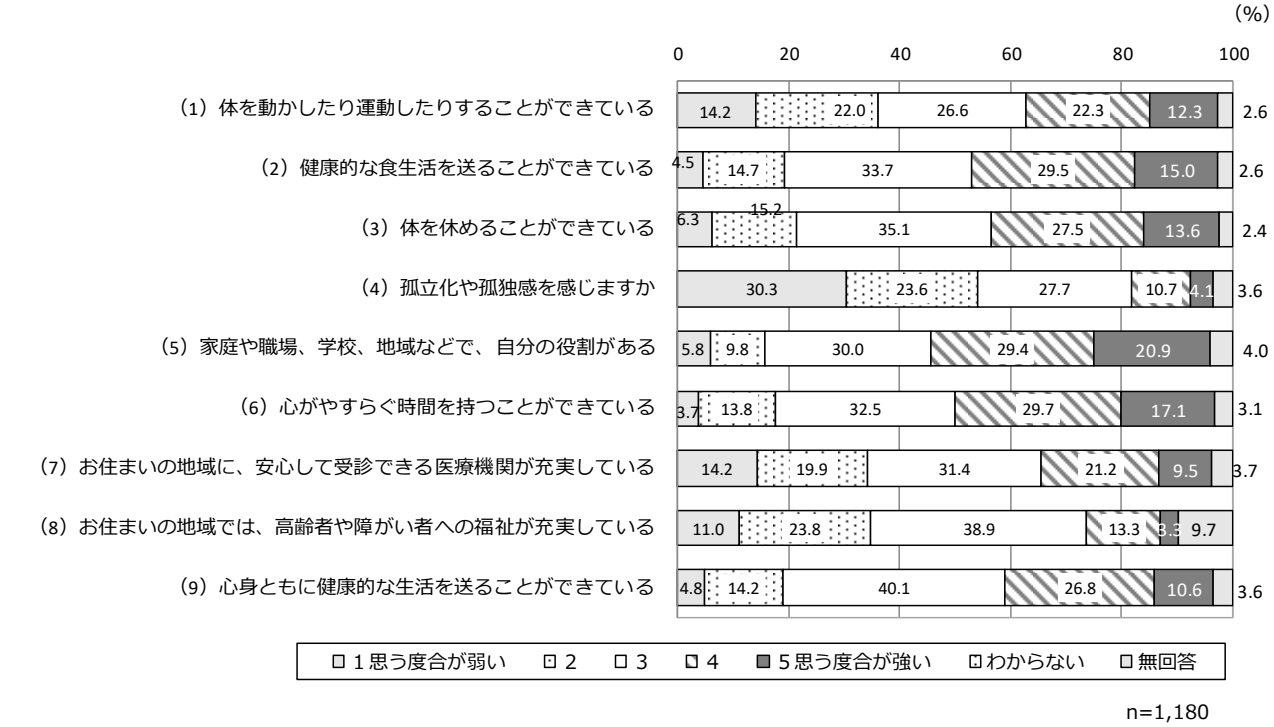
○前回平均 6.53 に比べ、0.1 ポイント高くなっています。



【参考】Web アンケート結果

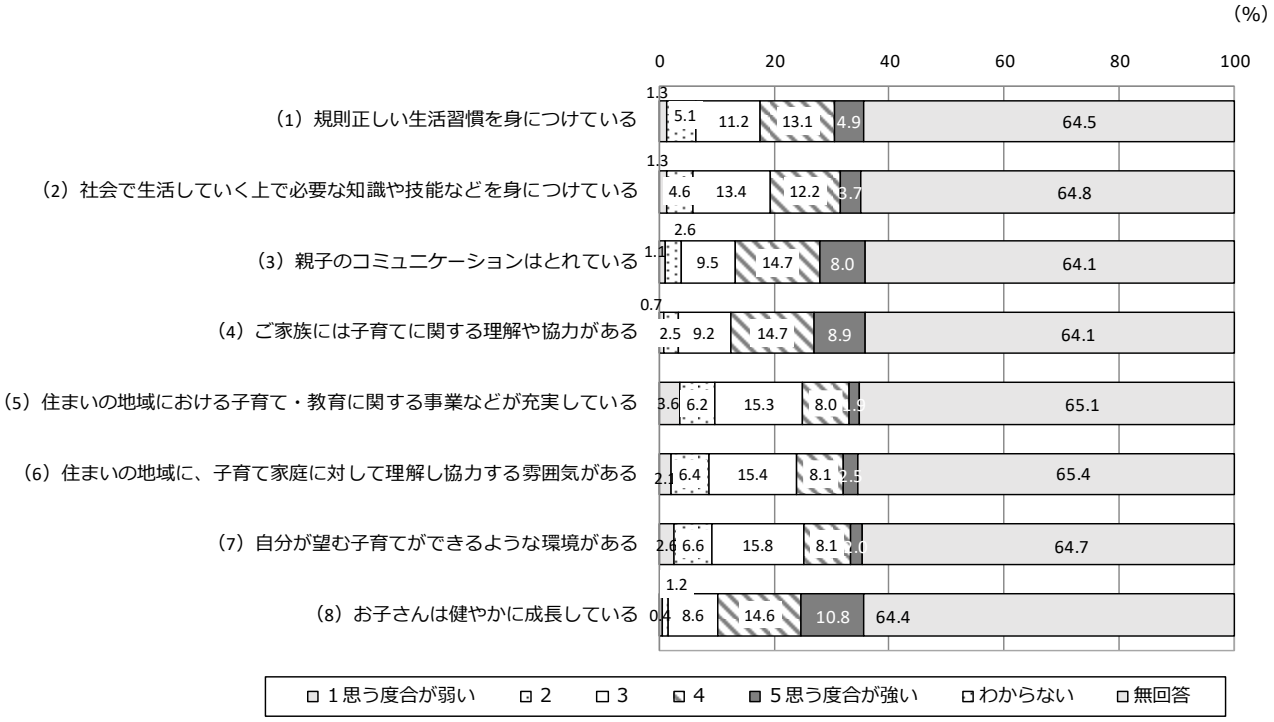


⑩ 健康・福祉に関する幸福度



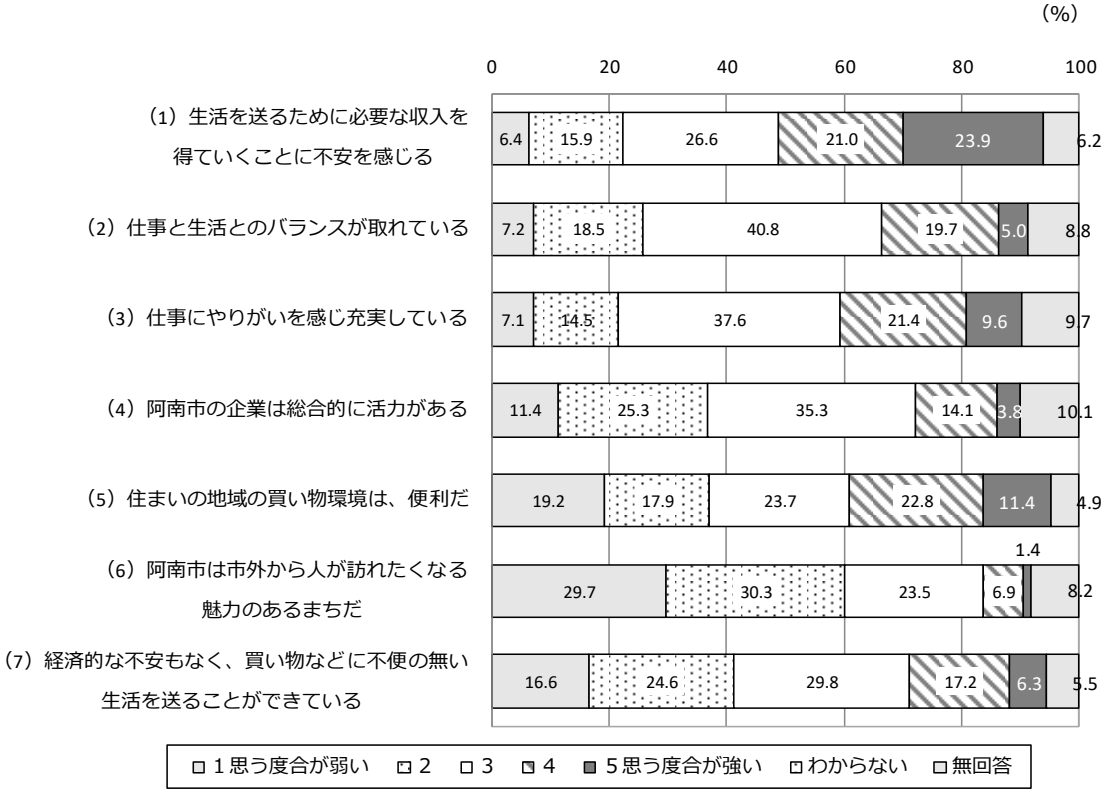
n=1,180

⑪ 子育て・教育に関する幸福度



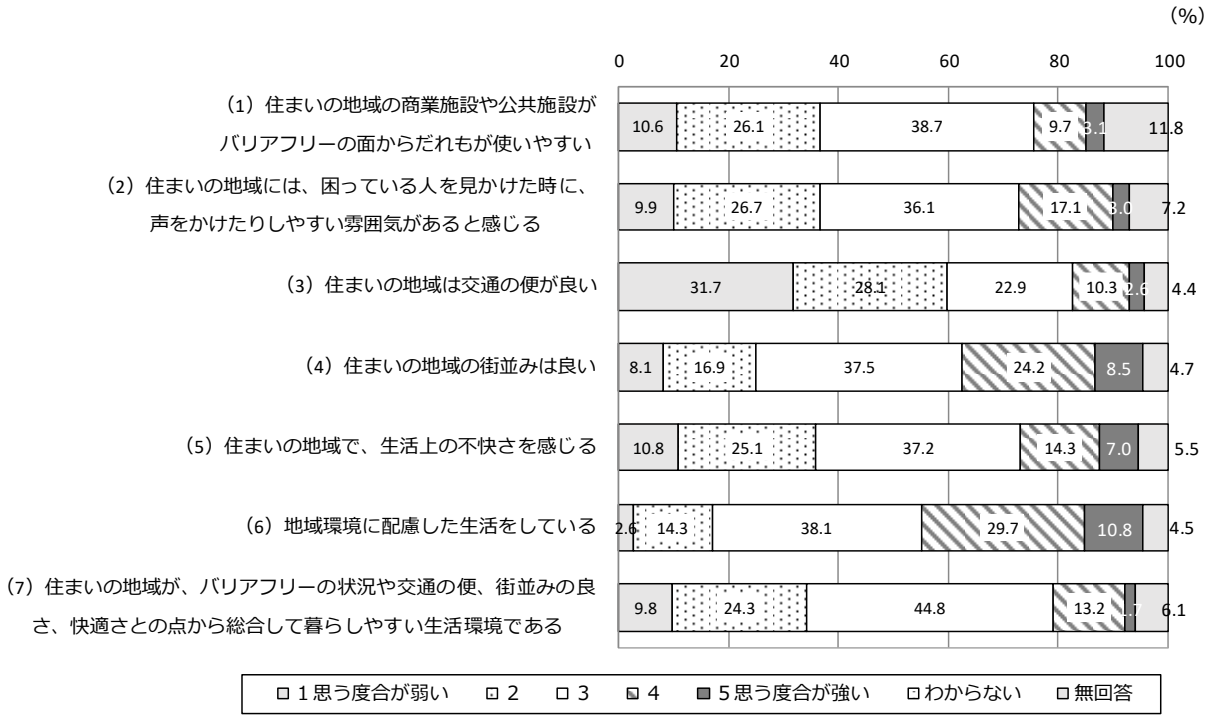
n=1,180

⑫ 生活・社会に対する幸福度



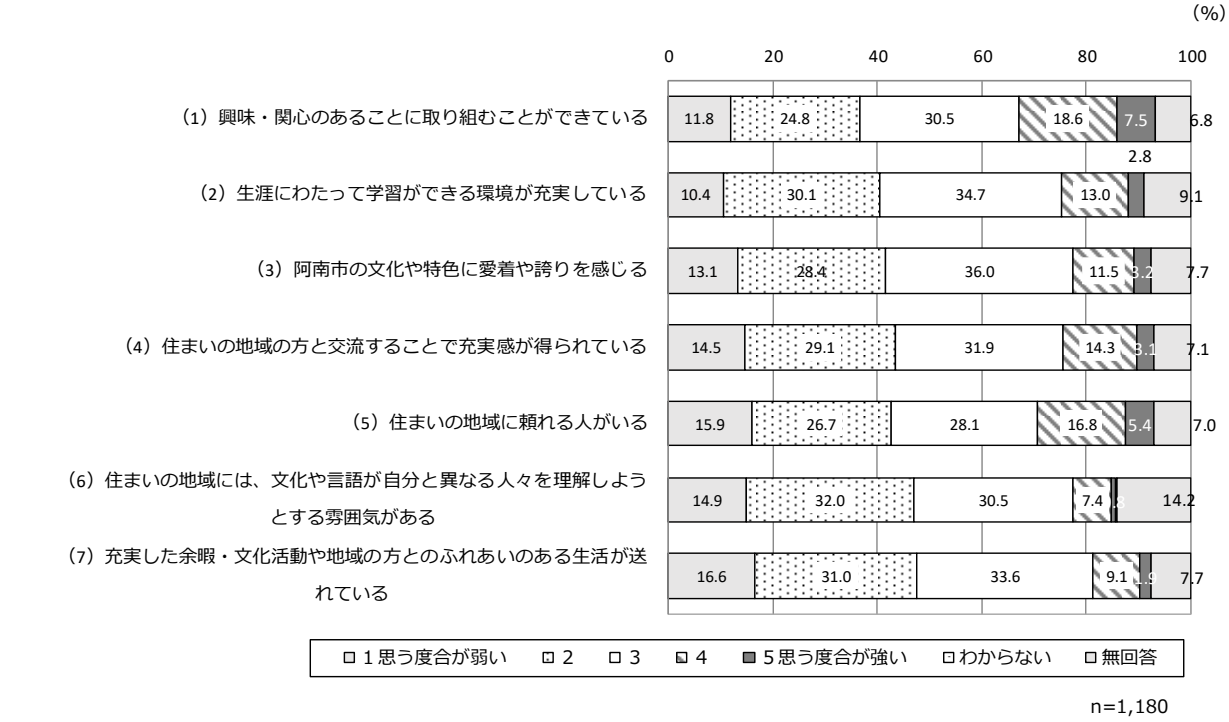
n=1,180

⑬ 環境に対する幸福度



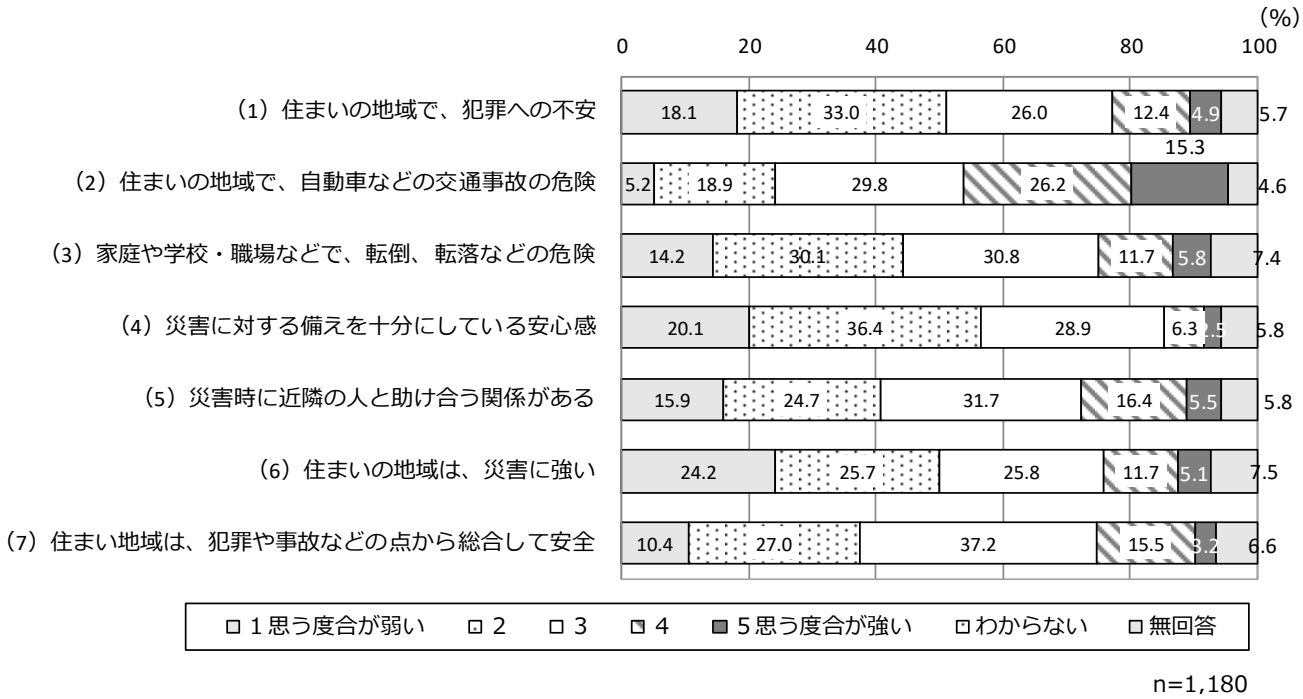
n=1,180

⑭ 文化に対する幸福度



n=1,180

⑮ 安心・安全に対する幸福度

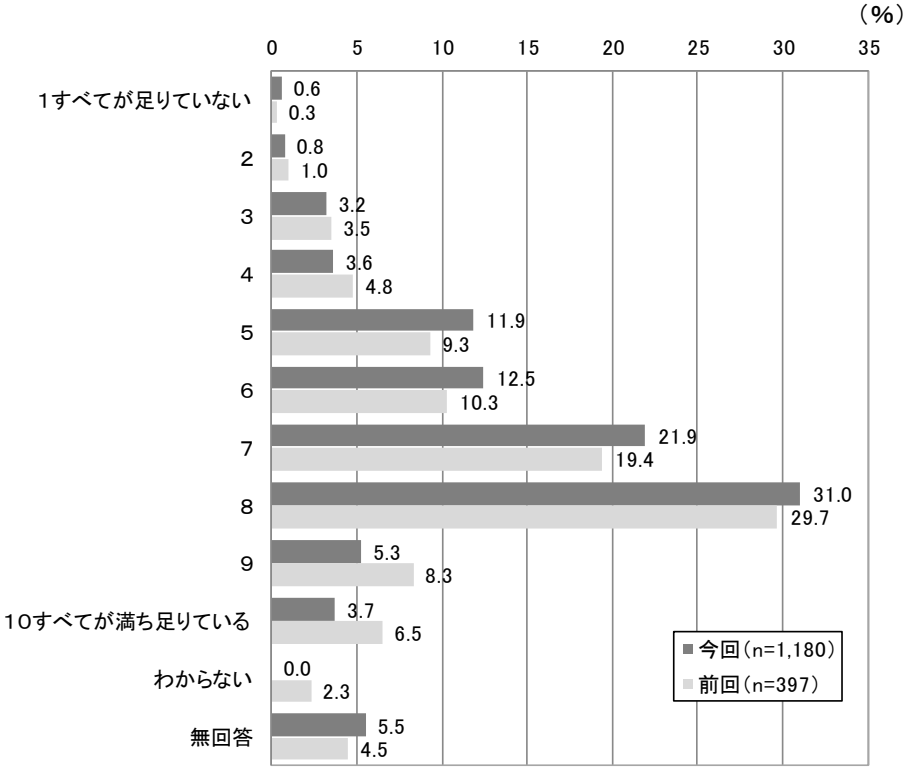


n=1,180

⑯ 理想の幸福度

○理想の幸福度について伺ったところ、「8」が 31.0%で最も多く、次いで「7」が 21.9%、平均は 6.84 となっています。

○前回平均 7.02 に比べ、0.18 ポイント低くなっています。



[現在の幸福度と理想とする幸福度の比較分析]　“幸福満足度は 96.8%”

＜幸福度の平均点の比較＞

○前述の「⑧現在の幸福度」における平均点は「6.63」となっていました。

○「理想の幸福度」の平均点は「6.84」であり、このことから、現在の市民の幸福満足度は「96.80%」とみることができます。（参考：前回の幸福満足度は 93.0%）

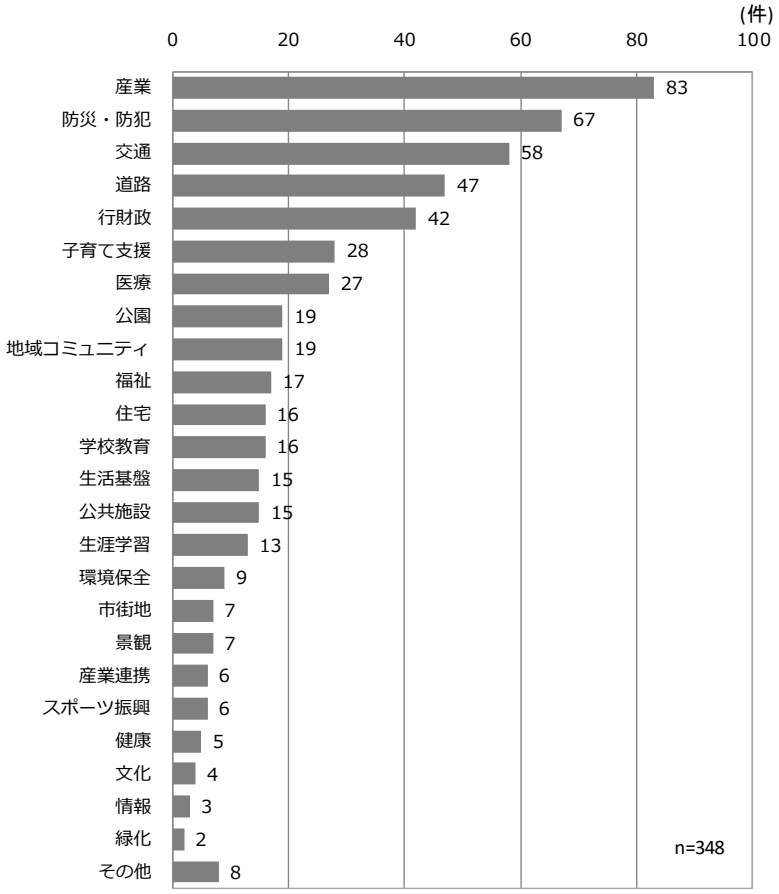
	1 とても不幸せ	2	3	4	5	6	7	8	9	10 幸せだけを感じる	合計人数
現在の幸福度	28	14	46	59	151	177	184	234	91	87	1,071
理想とする幸福度	7	9	38	43	140	147	259	366	62	44	1,115

※有効回答のみ

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	総幸福量	幸福度（平均）	幸福満足度
現在の幸福度	28	28	138	236	755	1,062	1,288	1,872	819	870	7,096	6.63	96.80%
理想とする幸福度	7	18	114	172	700	882	1,813	2,928	558	440	7,632	6.84	

⑰ 自由意見

348 人の方から 563 件のご意見をいただき、そのいくつかを分野別に要約して掲載します。



分野	件数
産業	83
・徳島市の大型ショッピングモールなど、若者が好きと思えるようなものがあまりないと思う。 ・阿南は LED が有名だから、(例)LED トンネルを造ってはどうか。 ・大企業、大型ショッピングセンター(イオン、イケア、コストコ、メガドンキ)等の誘致。→これらがこないと、市の発展はない。住みたいと思わない。都会化する必要がある。(地方創生) ・川、海を活かした町おこし(SUP、ラフティング、海辺のレジャー)、竹山を活かした町おこし(たけのこ堀りツアーなど)、観光を振興する雇用を生み出す事が大切だと思う。 ・阿南市に行ってみようと人々が思うような観光スポットを増やす。	
防災・防犯	67
・阿南東部、才見地区は海抜ゼロメートル地帯で、地震、津波時には水没の恐れがあり、高齢者、障がい者には避難が困難であり、早急に避難タワーが防災公園の整備をお願いしたい。 ・幸福の基本は、健康で安全・安心のできる災害の心配がない地域で生活できること。南海トラフ巨大地震や地球温暖化による大水害など、いかなる災害にも安心・安全なまちづくりに期待する。 ・街灯が少なく、夜間は周囲が見づらく危険と感じるため、街灯の設置や道路整備が必要である。 ・長生駐在所と桑野駐在所が統合したため、不安を感じる。	

交通	58

・通勤時間帯の交通渋滞により時間に余裕が持てず、子供の送りに支障をきたしている。
・車の運転をしなくても買い物や外出が安心してできるよう、コミュニティーバスや循環バスを充実させてほしい。
・汽車、バスを利用される方々のために本数を増やすべきだと思う。特に、高校生や中学生は困っていると思うので対応してほしい。
・朝の交通渋滞がひどい。とくに那賀川北岸地域からの渋滞がひどく、阿南に出勤することを嫌う人もいる。早く手を打たなければならない。
・高齢者の運転免許の返納について、テレビ等でよく取り上げられているが、田舎は不便で返納率が低いと思う。そこで電動三輪車等購入の補助制度を考えてほしい。

道路	47

・道路・交通環境の改善（歩道の設置、通勤ラッシュ時の渋滞緩和（大京原の橋の手前の信号）、羽ノ浦駅から 100 メートルほど行った所の四つ角の見通しが悪いため、カーブミラーを増設）
・県央から他県や関西圏へのアクセスのためにも、高速道路（自動車専用道）の整備を早く進めてほしい。
・道路の補修は、穴埋めするのではなく、きちんと道路を直してほしい。

行財政	42

・ないものねだりをせず、都市部にはない地方の良さを生かしたまちづくり。
・お金が出ないなら、アイデアを出そう。
・定住促進課に婚活応援係というめずらしい係ができたと聞くが、その成果があまり伝わってこない。若い人たちの出会いの場の活動をもっと見せてほしい。

子育て支援	28

・育児休業中に保育園に子どもを預けられないことが不満に思う。職場復帰を考えるにしても、仕事と育児を両立できるか不安で、核家族が進む現代において、母親にかかるプレッシャーは相当なもの。少しの間（半年？）くらいなので育休中もそのまま上の子を預けられるようにしてほしい。
・他県で子育て支援（出産祝い金、保育所無償化）などが多い地区にたくさんの人が移り住んでいるニュースを見た。阿南市でも子どもを育てやすい環境を整えると、移住促進につながり人口も増えるのではないか。

医療	27

・子どもの夜間、休日救急に重点をおいてほしい。救急で電話しても、小児科医が不在という理由で診療自体を断られる。徳島赤十字病院が小児科外来を 365 日 24 時間体制でなくなったため、早急に取り組むべきではないかと思う。
・阿南医長センターを 24 時間体制で診察してもらえる病院にしてほしい。

衛生	24

・河川の汚れが気になる。小さい用水はある程度掃除ができているが、3m～5m位の川は底にゴミやビニール、缶、ビン等が堆積して人力では排除できない。きれいな町づくりは、川から始めてほしい。
・ゴミの収集回数を増やしてほしい。プラ包装の月2回、ペットボトルの月1回収集では少ない。最低でもプラ包装は週1回、ペットボトルは月2回収集してほしい。

公園	19

・バイパス沿いは子供の遊ぶ場所が少ないため、国有地として余っている土地があれば公園をつくってほしい。
・四季が感じられる、木々をもっと植えたり、緑化ボランティアサークルをつくったりして、未来の子どもたちが「阿南が大好き」と言える、美しく緑豊かな公園づくりをしていったらいいな、と思う。
・公園の遊具の整備について、撤去するだけでなく新設（ブランコや滑り台、シーソーやジムなどの設置）することで、小さい子どもの集える場ができ、保育所に行かなくても友だちがつくれる。

地域コミュニティ	19

・さまざまな年代の人が参加できるイベントを取り入れてほしい。60～70 代の方が活躍できる場、自分の存在を認めてもらえる場があればいいと思う。近くで、文化的なもの芸術的なものが、鑑賞できたらうれしい。
・近所づきあいは重要と思う。いわゆる、よそ者をやさしく受け入れられる風土を醸成していく必要がある。

福祉	17

・介護予防、下肢筋力低下予防、転倒しない体づくり。病気の人が働きやすい社会。
・近年「発達障がい」という言葉をよく耳にする。大人だけでなく、子どもにも多く、早い段階で気づき、適切な療育を受けることがその後の成長にとても重要だそうだ。現在、阿南市には対応できる施設、医師がいない。保健センターや医療センターの中に「発達外来」専門の医師、療育を受けることのできる設備、そして相談することができる専門のスタッフなどがいれば心強いのではと思う。また、そういう子供をもつ母親同士が集まって、話ができる交流の場があればいいのではないか。弱者にも優しい、住み良い街であれば、ゆくゆくは人口増加にもつながっていくのでは。
・高齢化が進む中、もっと介護支援サービスを充実して欲しい。地域で助け合うなど、知識を増やしたい。特に認知症の方の接し方など、知っている人ならいいが、知らない人がよく不明になっている放送が流れていても、みんな他人事と思って、必死になって捜そうとしていない気がする。地域のコミュニケーションを図っていきたい。

住宅	16

・大手企業の大半が、市外から通勤していると思う。企業と自治体が協力して、阿南市内に定住してくれるよう工業団地や住宅地を確保し、そこに学校や病院を整備して、人口の取り込みを図ってはどうか。
・空き家が増えており、木や雑草が放置されていて安全性に欠ける。
・隣家が空き家で屋根が崩れてきている。毎日が不安。空き家問題への対策を早急に。

学校教育	16

・「教育」は重要だと思う。テストで高得点を採るということではなく、決して利己的になるということでもなく、さまざまな文化や知性に触れ、寛容な社会を作ることがこれから市政に重要なのではないかと思う。
・学校再編について、生徒数が減少したからといって、即、統合などという発想はしないでほしい。特に過疎地において、小中学校はその地域のシンボルであり、地域には欠かせない存在だから。
・その地域にしかないものを積極的に生み出すのも地域活性化の 1 つになると考える。義務教育の水準徳島一、日本一を目指せば、地域外からの人の流入を促進できるのではないか。例えば、「特進クラス」のようなものをつくり、より高度な教育を提供したり、少人数授業や課外授業を促進したりするのもよろしいかと考える。

生活基盤	15

・上下水道の100％整備。せっかくの一級河川やきれいな海を美しいまま未来に残したい。
・下水道整備、市内のごく一部で共有されているようだが、他地域も計画し、長期整備を目指さないと永久に整備できないのでは。打樋川の浄化にも力を入れてほしい。
・コンパクトな街づくり。できるだけ住宅地の集約化を図り、コンパクトな街づくりを。従来の住宅街には空き家が目立つ一方、校外には住宅地が開発されている。電気、水道等、インフラ設備が延びることは災害時のデメリットも多くなる。

公共施設	15

・市役所に比べ、阿南図書館やホール、体育館の老朽化が目立つ。文化、スポーツに力を入れてないようにみえる。
・市民会館の今後のあり方について、夢ホールやコスモホールがあることを勘案し、県内、全国の学識や経験、市民の要望を総結集して熟考・検討してほしい。

生涯学習	13

・図書館などの公共施設でなぜ学生が勉強してはいけないのか？老朽化が進んでいるようなので建替えてほしい。いろんな施設と複合してもう少し大きく建ててはどうか。
・人づくりにおいて社会教育は重要な役割を果たす。特に図書館は大きな意義を有している。阿南図書館は比較的近くにあり、他の図書館とも連携しているので、よく利用する。「阿南市公共施設等総合管理計画」には阿南図書館について、「統合や複合化等を検討」とあるが、現状より充実した図書館になることを願う。
・市民会館を早急に建替え、図書館も含めて文化面で充実した地域にしてほしい。

環境保全	9

・耕作放棄地（主に水田）が増えている。高齢化で米が作れなくなった農家や後継者がいない農家などから土地を預かり、市の方で（農協との連携も必要）水田を継続できるシステムが作れないものか。
・自然がいっぱいあるとはいっても田畑はなくなり、そこに住宅が立ち並び、いらないくらいのお店が次々と出来ている。もっと地球環境に配慮したまちづくりをしてほしい。

市街地	7

・JRを公共交通機関として利活用すべき。駅と商業施設の併設、駅と公共施設の併設等。
・市役所へ進入する道が狭い。駅前商店街を再開発する。
・2020 年夏に徳島駅前の変化が起こる時に、同じ駅前でも阿南市街に活性があったら県南拠点としてのインパクトや興味づけになると思う。例えば、「マチアソビ」のようなイベント、まちゼミの仕掛け。経済効果が生まれてほしい。

景観	7

・市民の目に触れることが多いせいか、箱物の建設が多すぎるように感じる。植樹ではなく、古くから残る自然を大切にしてほしい。人の手を加えて整備するのではなく、本来の姿を大切にしてほしい。
・バイパスの植木について、整備された当時はきれかったが、もっと手入れしてほしい。

産業連携	6

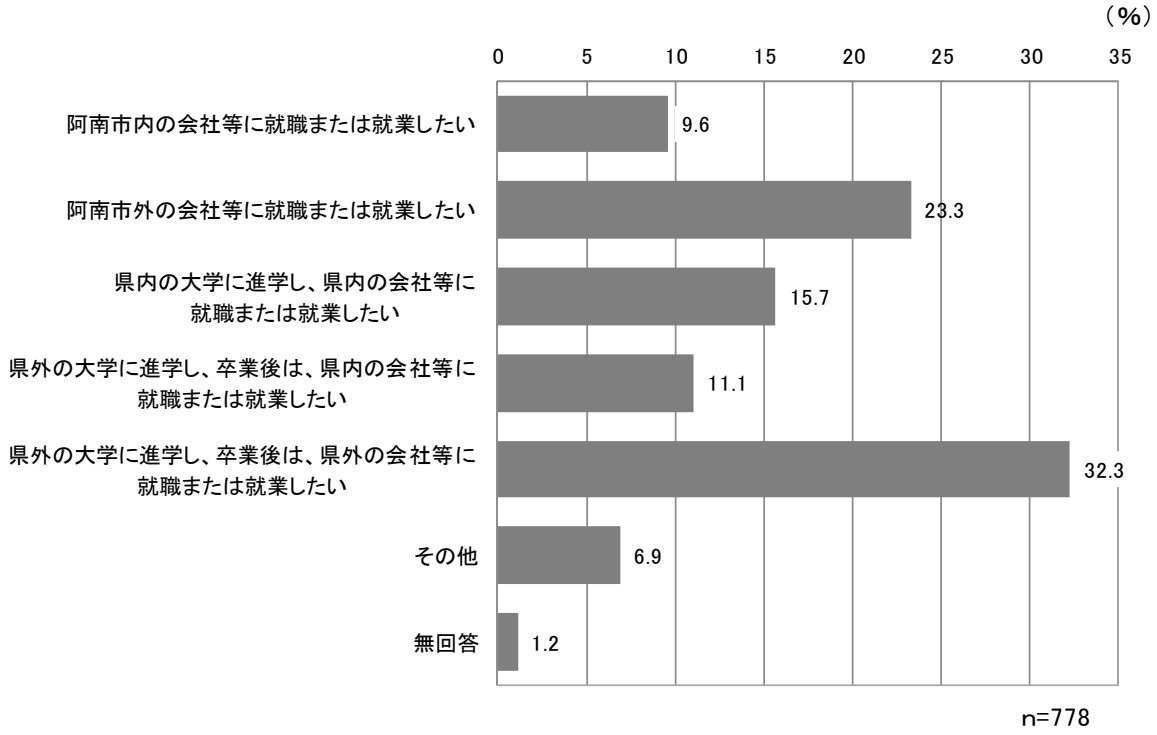
・市内の優良企業に農業生産課をつくってもらって、田畑で汗を流す会社員がいても良いと思う。
・地域に密着している団体と交流を持ってほしい。例えば各生協組合員。さまざまな世代の女性が地域の課題や問題点を共有し、解決策を共に探っていきたいと願っている。

スポーツ振興	6
・老いも若きもそれぞれが楽しめるスポーツの振興。室内スポーツやグラウンドゴルフなど、地域対抗で交流試合などを実施してはどうか。雨天でも楽しめるスポーツもたくさんある。 ・「野球のまち」のみでなく、身近な場所でスポーツが楽しめるまちづくりを。	
健康	5
・学校給食、アレルギー除去食対応（せめてカレーにうずらたまごはやめてほしい。） ・高齢者の健康維持対策（医療費削減）として、グランドゴルフ場を数か所整備してほしい。各施設の清掃管理などは高齢者力を活用しては。	
文化	4
・阿南市の歴史を通史的に学べる施設がないのが残念。子どもたちに阿南市の歴史、文化、自然などの特色を学べる環境を提供してほしい。近年では若杉山遺跡や遍路道など、阿南市の生い立ちを示す史跡の調査も進んでいるので、この流れをとめないでほしい。 ・災害時の避難場所に寺、神社は最適と思われるので、文化を守ることを加えて、寺、神社の再建推進を。	
情報	3
・ケーブルテレビや光回線での月々の支払が高いので、安く契約できるようにしてほしい。 ・阿南ふるさと大使の活動状況を市ホームページにアップして応援してほしい。	
緑化	2
・植樹ではなく、古くから残る自然を大切にしてほしい。	
その他	8
・阿南医療センターの駐車スペースが少なすぎる。	

5. 学生アンケート調査結果の概要

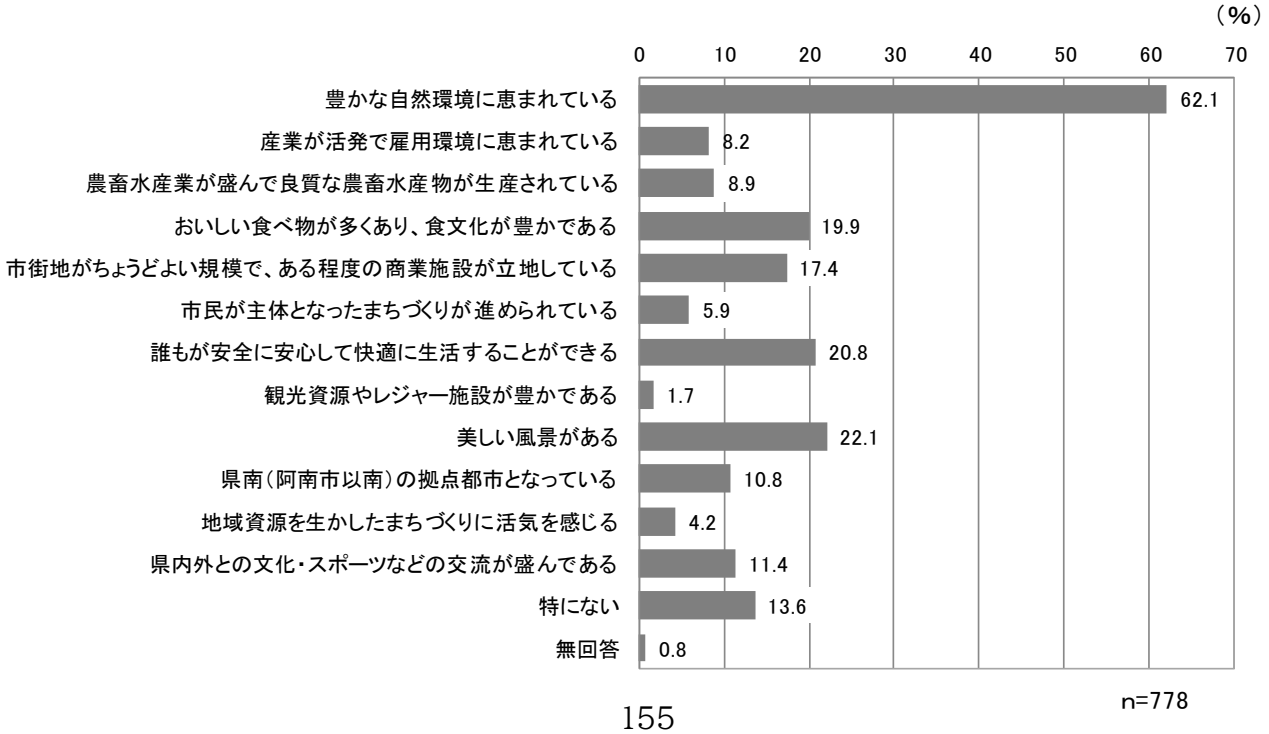
① 高校卒業後の将来計画

○高校卒業後の将来計画について伺ったところ、「県外の大学に進学し、卒業後は、県外の会社等に就職または就業したい」が 32.3%で最も多く、次いで「阿南市外の会社等に就職または就業したい」で 23.3%となっています。



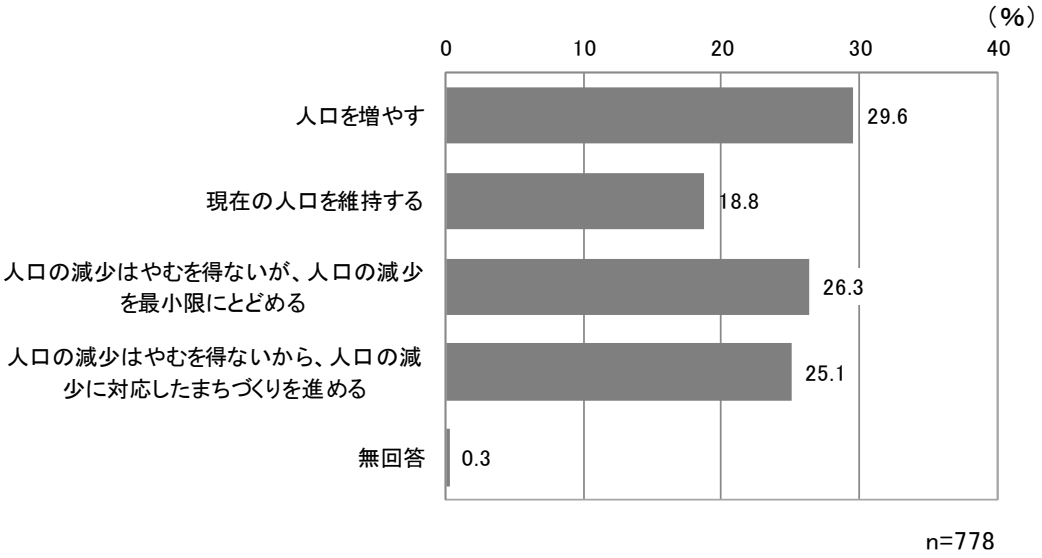
② 阿南市の魅力

○阿南市の魅力について伺ったところ、「豊かな自然環境に恵まれている」が 62.1%で最も多く、次いで「美しい風景がある」で 22.1%となっています。



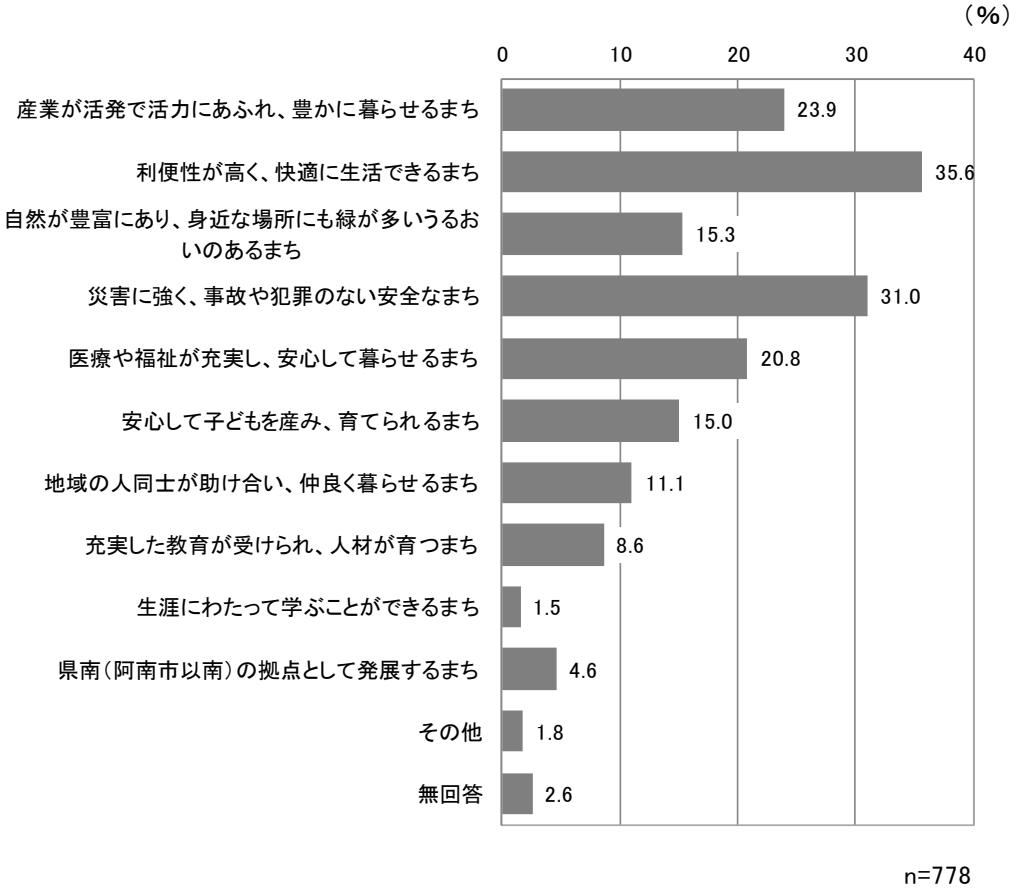
③ まちづくりの方向性

○人口減少社会を見据えた今後のまちづくりの方向性について尋ねたところ、「人口を増やす」が 29.6％で最も多く、次いで「人口の減少はやむを得ないが、人口の減少を最小限にとどめる」で 26.3％となっています。



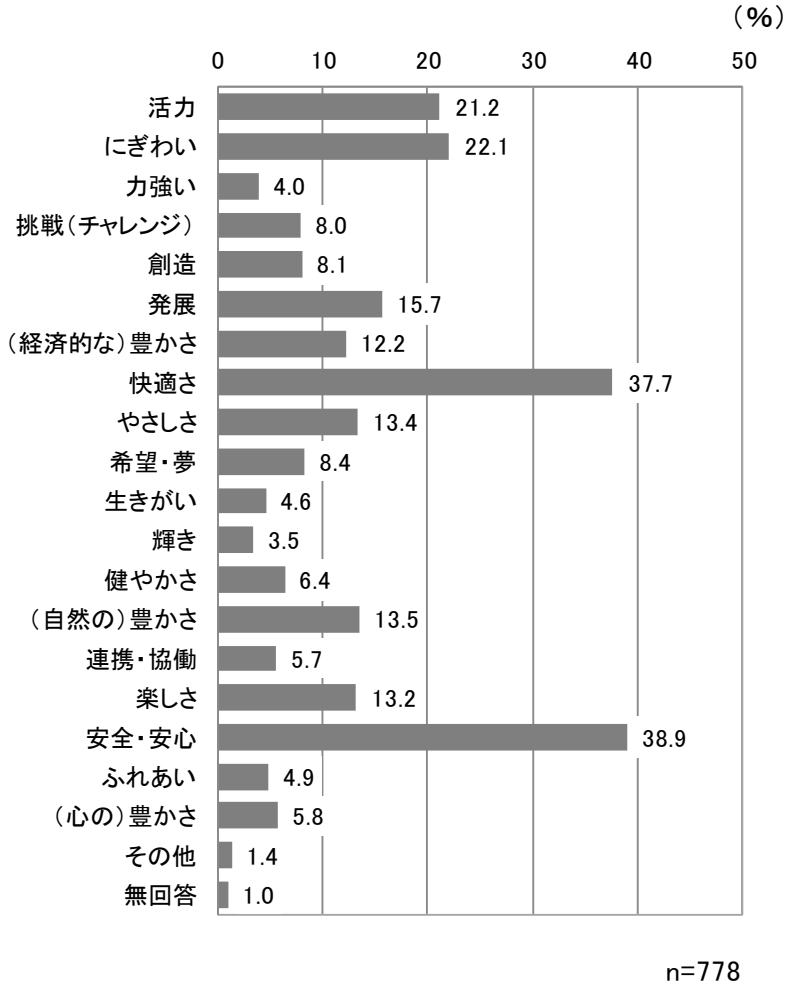
④ 将来、どのようなまちになってほしいか

○将来、どのようなまちになってほしいかについて伺ったところ、「利便性が高く、快適に生活できるまち」が 35.6％で最も多く、次いで「災害に強く、事故や犯罪のない安全なまち」で 31.0％となっています。



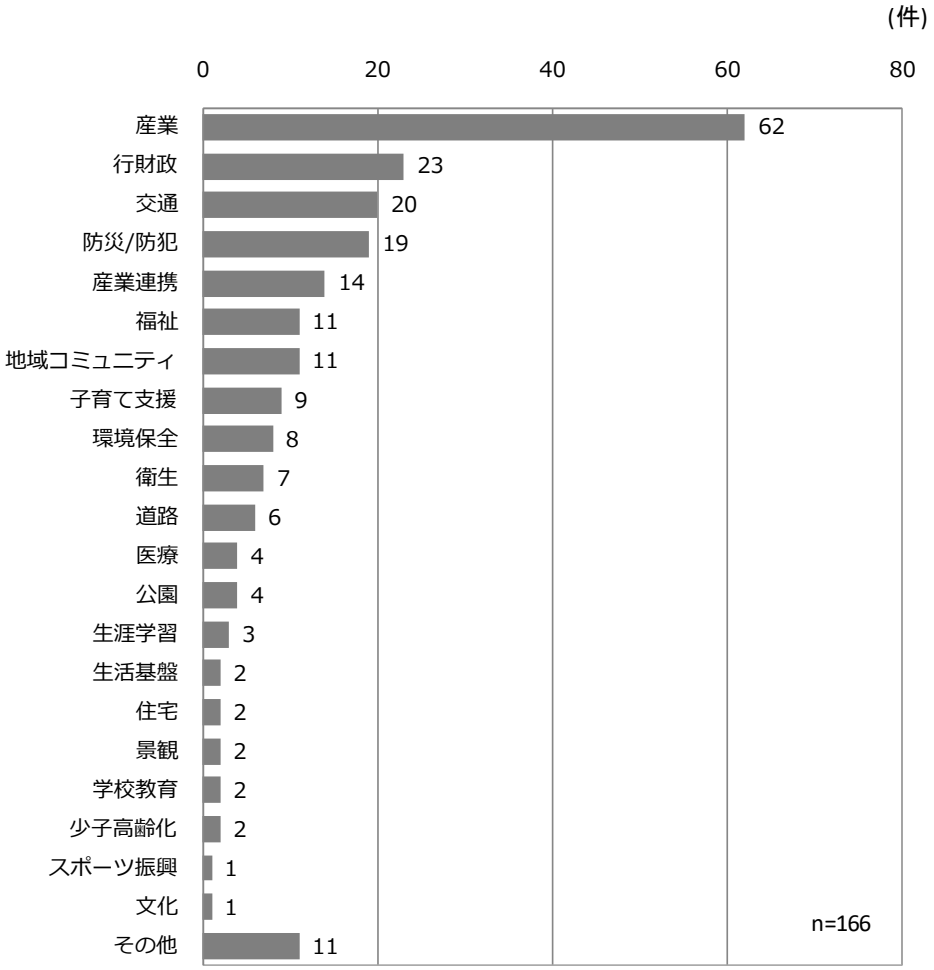
⑤ 将来のまちづくりで重視すべきキーワード（言葉）

○将来のまちづくりで重視すべきキーワード（言葉）について尋ねたところ、「安心・安全」が38.9%で最も多く、次いで「快適さ」、「にぎわい」、「活力」の順となっています。



⑥ 自由意見（高校生）

166 人の方から 225 件の意見をいただき、そのいくつかを分野ごとに要約して掲載します。



分野	件数
産業	62
・イオンモールやゆめタウンなどの大型ショッピングモールができれば、学生も楽しめる。 ・阿南市内に大型ショッピングモール（映画館有り）ができれば、もっと人が来てくれる。 ・他県に負けないよう観光地をアピールして活気づける。 ・県内にないようなお店がほしい。	
行財政	23
・他県がしているからと、慣れない事業に手を出すより、現時点での問題点、優先解決課題を割り出し、まずはそれに向けてのまちづくりを。 ・阿南市で大人になっても暮らしていけるように、今以上にサテライトオフィスなどを充実させればよいと思う。 ・市議会議員が多すぎるので減らすべき。老人のための政策ではなく、若者のための政策をすれば人口が多少は増えると思う。	

交通	20

・阿南駅より南に行く汽車の本数が減ったが、高校が少なくなったからといって、帰りの時間の汽車が無いのはとても困っている。部活をして帰るには 19:20 発～終電まで特急以外動いていないのは困る。
・交通機関の衰退は仕方がないとは思うが、不便な点が多いので、市でバス等をもっと借りたりして交通の便を良くした方がよいと思う。
・人口の減少が進む中、交通の便を良くすることは財政的に負担でしかないですが、増やしてほしいのが本音。

防災・防犯	19

・阿南市は南海トラフ大地震による被害が大きく出ると言われている。市内の建物で、耐震工事のされていない建物を重点的に改装すべきだと思う。
・「光のまち阿南」というなら、もっと光を増やしてほしい。暗い所があるので、もっと街灯を増やしてほしい。
・堤防の工事はしてくれていますが、その内側でまだ安全とはいえない古くなった田舎の家が点在しているので、そこの対処として何か災害対策の補強か何かした方がいいと思う。

産業連携	14

・大型ショッピングモールやテーマパークの開設は、阿南の活性化につながるはず。
・阿南市の有名な LED などの宣伝をし、いいものを他県の方に見せることで、この町に住みたいと思ってくれるような CM を流す。
・地域の料理や産物を作り、オリジナリティを重視する。

福祉	11

・自立を支援していくためにもグループホームを増やしてほしい。
・働く場所を増やしてほしい。
・自立して生活するためのグループホームやケアホームを増やしてほしい。
・技術を発展させることで将来、年配の方々を支えることのできる介護ロボットや家事を手伝うロボットなど、また建設面でも災害に強い建物を建てることができ、被害を最小限で抑えることができるようになると思う。

地域コミュニティ	11

・若者と高齢者の交流の場をもっとふやす！
・公共の場所を快適に使いやすいようにする。
・高齢者の方にも積極的にまちづくりに参加していただく。

子育て支援	9

・子どもの数が減っているので、子どもが遊べるところをつくる。
・放置竹林が多いので、遊具などに活用できるのではないか。
・18 歳までの医療負担には大変助けられた。このサービスを維持してほしいと思う。
・子どもが育てやすくて、働きやすいまちにする。

環境保全	8
・自然が豊かなはずなのに、川が汚すぎる。 ・自然の豊かさを大切にしながら、産業の発展に力を入れて、阿南市がより活気のあるまちになるようにしたらよいと思う。 ・もっと綺麗な町にしたい。	
衛生	7
・北の脇の衛生管理をしてほしい。野良ネコにえさをあげる人がいて、たまり場になっている。匂いも発生してしまっている。 ・ゴミ収集時間の見直しをしてほしい。	
道路	6
・高速道路を阿南市まで引っ張ってくる。 ・高規格道路を開通してほしい。 ・交通面の発展、那賀川の橋を増やす。	
医療	4
・医療関連のサービスは県内でも比較的充実しているため、市外にも広まってほしい。 ・阿南市の魅力は、医療サービスの充実だと思う。	
公園	4
・高校生でも気軽に行ける公園や、施設をつくってほしい。 ・南部健康運動公園の整備	
生涯学習	3
・図書館などに学生たちが快適に勉強できる自習室を設けてほしい。	
生活基盤	2
・地域の人々が不自由なく暮らせる生活基盤の整備。	
住宅	2
・空き家などの景観を崩すものを撤去する。	
景観	2
・自然環境の管理	
学校教育	2
・学区内や学区外をなくし、受験を受けやすくして、汽車の時刻表を下校時間に合わせる。 （例）16：00 学校終了、汽車 16：45 など。	

少子高齢化	2
・自然を生かして観光地として発展させ、経済を豊かにして、それを使い、少子高齢化を食い止める。	
スポーツ振興	1
・JA アグリあなんスタジアムに県外有名校を呼んで、野球のまち阿南を推進していければいいと思う。その周囲の宿泊施設をきれいにしてほしい。	
文化	1
・過疎地域の伝統継承。	
その他	11
・小松島市との合併。 ・とにかくまちを発展させる。 ・人が少ないから便利にしても意味がないのではなく、便利にしないと、人すら来ない。動物が来る。 ・サービスの水準を下げて安定してきてから上げたらいいと思う。サービスの種類を減らすなら、残りのサービスをより良いものにしてほしい。	

Ⅱ．市民ワークショップ

1．実施の目的

新たなまちづくりの指針となる（仮称）「第6次阿南市総合計画」の策定するに当たり、市民の皆様のご意見やお考えを計画に反映させることを目的として実施しました。

2．実施概要

各公民館から推薦された方と市内の各高等学校等から推薦された学生 30 人にご参加をいただき、「フューチャー・デザイン」の手法を用いて、これからの阿南市のまちづくりについてご意見等をいただきました。

実施日時　令和元年 10 月 5 日（土）13:30～16:30／6 日（日）10:00～15:30
実施場所　阿南市役所6階　603・604会議室
参 加 者　30人（一般の方 13 人、市内の在学の高校生 17 人）
協　　力　大阪大学大学院工学研究科

フューチャー・デザインとは

世代を超えた複雑な問題（例えば、環境問題や人口減少下でのまちづくり）に対し、現在の社会システムには将来世代の利益を反映する仕組みがありません。そこで、「現在世代」だけでなく「将来世代」の視点も取り入れようとする点がフューチャー・デザイン最大の特徴で、持続可能な社会を実現するための方策はじめ、さまざまな取組の意思決定に資する新たな枠組として、大阪大学で発案され、研究・開発が進められています。歴史は浅いのですが、いくつかの自治体や国の機関、企業等が実際の計画立案で採用しており、そうした実践を通じて従来の方法では得られない効果があることが実証されつつあります。

3．参加者からの意見（要約）

参加者からいただいたご意見等を、以下のとおり、分野別に要約して掲載しています。

現時点での課題			将来の課題	提言
産業・インフラ	産業	下水道の未普及 働く場所の少なさ 第一次産業の後継者不足	サテライトオフィスの誘致 農業漁業林業の活性化 空き家バンクによる空き家対策 地産地消の実施	サテライトオフィスに対する優遇 農業用ロボットの導入検討 ショッピングモールの誘致 ドローン物流など、最新技術の導入検討 チャレンジショップの支援 農産物のブランド化（のり、コメ） 最先端技術の活用 ネット販売活用による買い物格差の解消
	交通	交通アクセスの悪さ バス、電車の本数が少なさ 人手不足	公共交通空白地域の解消 幹線道路の整備 工業団地までの道路整備	自動運転の導入検討 デマンド交通の実現

現時点での課題			将来の課題	提言
教育	子育て・教育	小学校の廃校問題	教員減り、タブレットや通信教育 小学生からワークショップ等の経験をつませる 子育て施策の拡充 阿波おどり、伝統文化の継承	電子黒板 AI・先端技術の学習強化 ICT 教育の実現 外国語教育の実施 まちづくりファシリテーターの育成 阿波おどりの必修化 大学生による小学生を対象にしたまちづくり教育
	高等教育	学生の市外流出 大学がない	学習の場の確保	インターンシップの導入 大学、専門学校の誘致 サテライトキャンパスの設置
医療・福祉	医療・介護	医師数の減少 看護師・介護士の減少 医療機能の維持	医療格差の解消	医療の AI 化 問診の機械化 医療が必要な高齢者の把握
	高齢者・福祉	シルバー人材センターが活用されていない	高齢者向け施設の拡充	とくし丸の活用 高齢者の就業・起業支援
国際交流	観光プロモーション	科学のまちの認知不足 経済循環の不足	海をもっと PR していく必要がある 野球のまち推進 LED のまち 科学センターの活用	科学技術のまちとしての PR 活動 LED を活用したまちづくり 阿南市から牛岐城趾公園までの光ロード
	国際化・インバウンド	外国人労働者の増加 外国人向け観光スポットが乏しい	多文化共生社会の実現 阿南市 PR の強化	語学学習の拡充
暮らし	コミュニティ	人が集まる場所の不足 コミュニケーション希薄	暖かい人のつながりの維持 自治会機能の維持	花火大会の活性化
	移住促進	人口減少	移住者の確保	お試し移住の実施
	空き家問題	空き家の増加	空き家バンクによる空き家の活用	空き家を活用した学童保育 古民家を活用したホテル
防災		南海地震への対策 水害の危機感の少なさ	防災施設の設置 地区防災指針の作成 建物の耐震化	防災タワー・防災トイレの整備 災害弱者の把握 建物耐震化への補助金の拡充
景観形成		景観（眺望）の維持	電柱の地中化	電柱地中化への検討
伊島		伊島の機能維持	伊島の振興	資源を生かした水族館の設置 伊島のテーマパーク化
その他				キャッシュレス決済の導入 遊びの場の増加

4. グループ発表（要約）

ワークショップでは、参加者を6つのグループに編成して、これからのまちづくりについて意見交換を行い、グループごとに提案していただきました。

阿南らしい阿南をつくる

○阿南の魅力や強みを伸ばす観光、特産品ブランド化
○Iot 環境や制度の充実による交通環境の整備
○高度化する技術を使いこなす人材育成・教育環境
○遠隔医療困難分野の医療拠点の適正配置
○地区別防災計画、事前復興計画の策定
○双方向通信のホームページ、交流商業施設の誘致

高齢者と若年層がすみやすいまちづくり

○教育・医療の無償化、自然体験施設の整備
○長寿化に応じた高齢者支援と若者の就労支援
○高齢者向け IT 学習
○一次産業の専門学校設立・インターンシップ導入
○働く、遊ぶ場所を集約したコンパクトシティ
○避難場所の認知度向上、高齢者見守りで避難支援

みんなが元気な町

○来る場所、行く場所、集う場所を作ろう
○若者が活躍できる場所を作ろう
○予防医療で健康に暮らそう
○計画的にまちづくりを進めよう
○これらを進めるための「つながり推進課」を設置

誰もが住みやすい街

○授業料無償化、空き家を利用した学童保育
○働き方　在宅ワーク、企業誘致で雇用の場の確保
○魅　力　電力優遇制度、SNS を活用したイベント
○交　通　工業団地への道路整備
○高齢者向けマンションの整備や歩道整備
○高齢者と若者との交流

阿南の魅力を世界へ

○一次産業体験ツアー
○古民家を利用したホテル、民泊で地域の魅力体験
○AI 警官が常駐する未来交番
○人生 150 年を考えた体づくり
○阿南駅から牛岐城趾公園までを光ロードに
○生物多様性を生かした伊島水族館

One for all, all for one ANAN

○住みやすいまちづくりで企業・商業施設を誘致
○子育て環境の充実、LED 活用、移住者支援
○土地の有効活用で企業・商業施設を誘致
○空き家、未利用農地・山林バンクの創設・提供
○公共施設を企業・商業施設にコンバージョン
○公園・広場の整備

作　成　阿南市 企画部 企画政策課
電　話　0884-22-3429
ﾌｧｸｼﾐﾘ　0884-22-6772
e-mail　kikaku@anan.i-tokushima.jp